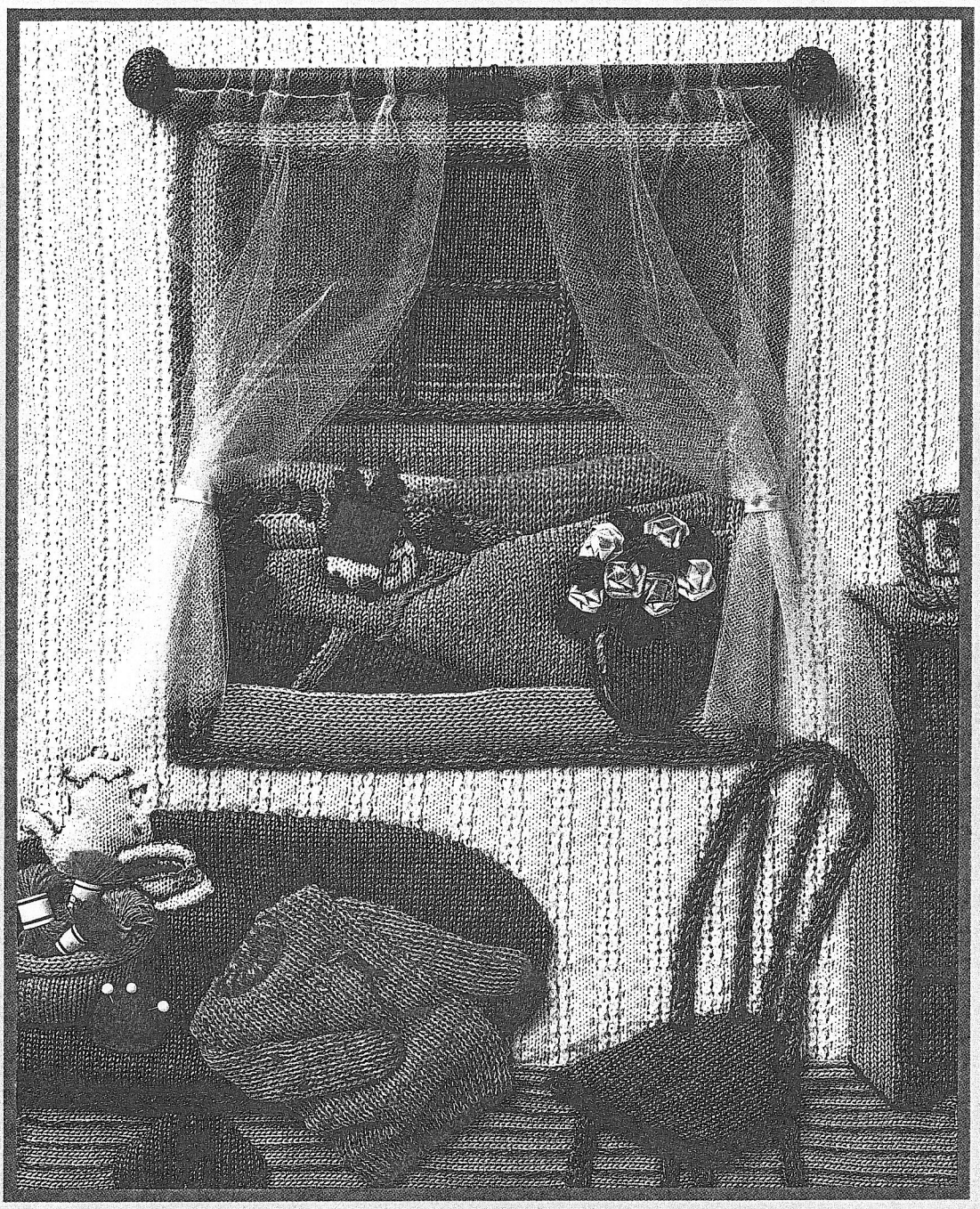
brother



palié S

取 扱 説 明 書

KH-894

〈本書を読んでから製品を使用して下さい。〉

本書は、なくさないように注意し、いつでも手にとって
見ることができるようにしてください。

安全にご使用いただくために

この編機を安全にご使用していただくために、以下のことがらを守ってください。

⚠注　意

◇取付金具で編機をテーブルに必ず固定し、使用してください。
◇お子様の玩具として使用しないでください。
　お子様が使用されるときや、お子様の近くで使用されるときは、安全に対し注意を払ってください。
◇クシバや編針については、頭・手・腕・衣服との接触に注意してください。
◇編機を運ぶときは、取っ手を持って行ってください。
※傷害の原因となります。

取扱説明書に従って正しい取扱いをしてください。

もくじ

模様集 …… 1
各部の名称とはたらき …… 10
編機の組み立て方 …… 14
編機のしまい方 …… 16
編む前の知識 …… 18
（引返しレバー・ボタンもどしレバー・カムボタン
スレッドレバー・選針切替ツマミ・編目ダイヤル
編出シ・編針の位置・指示マーク・段数計・Lキャリジ
カラーウェイト・端針選針機構・端針戻し機構）

編機の基本操作
平編 …… 24
1.編糸の通し方 …… 24
2.編み始め方 …… 25
3.編み方 …… 27
4.編地のはずし方 …… 28

模様の編み方
模様とパンチカード …… 29
パンチカードの見方と編針の関係 …… 30
パンチカードのセット方法 …… 31
模様編の基本ステップ …… 32
すべり目模様 …… 34
配色すべり目模様 …… 35
タック模様 …… 36
配色タック模様 …… 37
スレッド模様 …… 38
ポイント・スレッド模様 …… 40
同時編込模様 …… 41
ポイント・同時編込模様 …… 43
間欠送り模様 …… 47
編込レース模様 …… 48
ポイント・編込レース模様 …… 50
レース模様・タックレース模様 …… 53
レース・タックレース混合模様 …… 56
ポイント・レース模様 …… 57
添え糸編 …… 59
添え糸編(地糸と添え糸を入れ替えて編む場合) …61
添え糸タック模様 …… 62

こんなときは
平編がうまく編めない場合 …… 63
1.編針に編糸がかからないときには …… 63
2.Kキャリジの操作が非常に重いときには …63
3.編目が引き上がってしまうときには …63
4.編目がおちてしまったら(編目の拾い方) …64
編みまちがえたときの直し方 …… 65
（平編・添え糸編） …… 65
（模様編） …… 68
（レース模様・タックレース模様） …… 71
Kキャリジをカラ送りするには …… 73
正しく選針されているかどうか確認したいときは…73
編針がまちがって選針されていた場合 …73

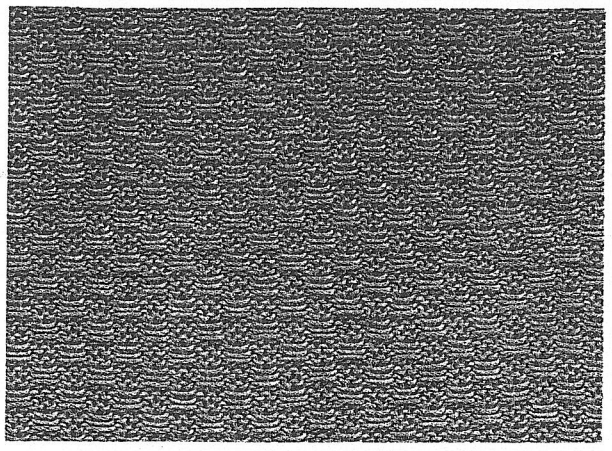
編物知識
ウツシの使い方(編目の移し方) …… 74
タッピの使い方(ゴム編) …… 74
編目の増し方(増し目) …… 76
編目の減らし方(減らし目) …… 78
引返しによる編目の増し方・減らし方(引返し編) …80
1.平編・添え糸編・模様編 …… 80
2.レース模様・タックレース模様 …… 82
なわ編(交差模様) …… 84
ひも編 …… 85

編針の取り替え方 …… 86
編機の手入れ …… 87

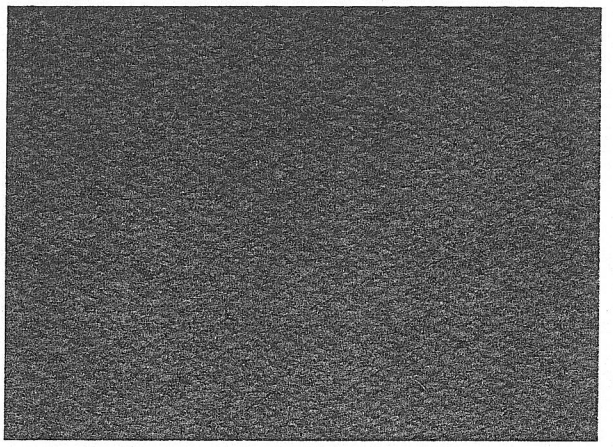
お買い上げまことにありがとうございます。この製品のすばらしい性能と、その正しい使い方をご理解いただくために、この《取扱説明書》を最後までよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書とともに、必ず保存してください。

模様集

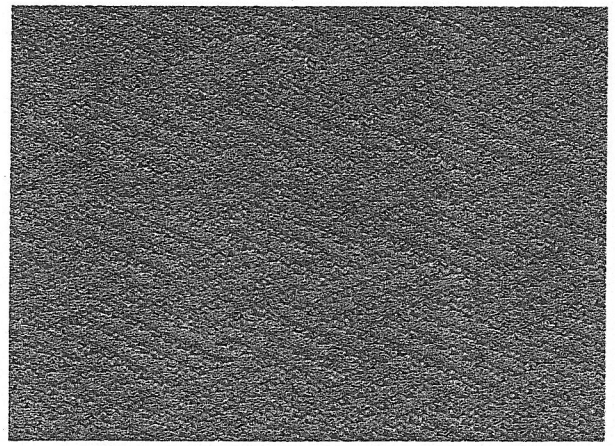
すべり目模様　利用できるカード　1・2・3・5・7・8・11　編み方 34ページ



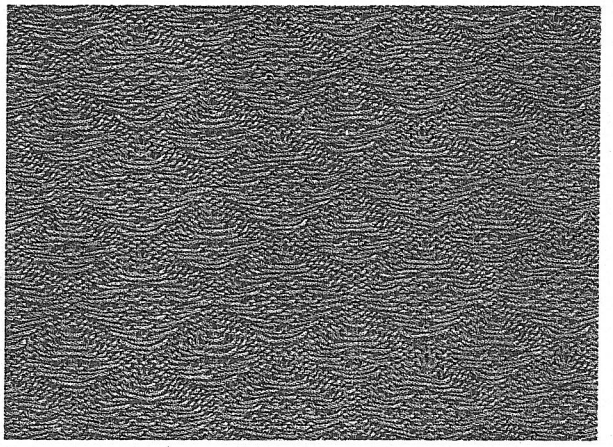
カードNo.2



カードNo.3

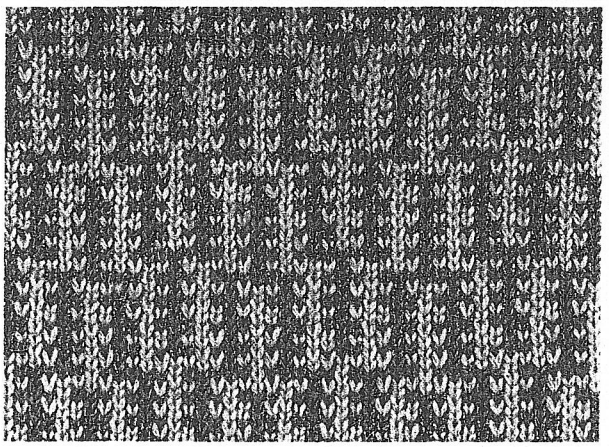


カードNo.5

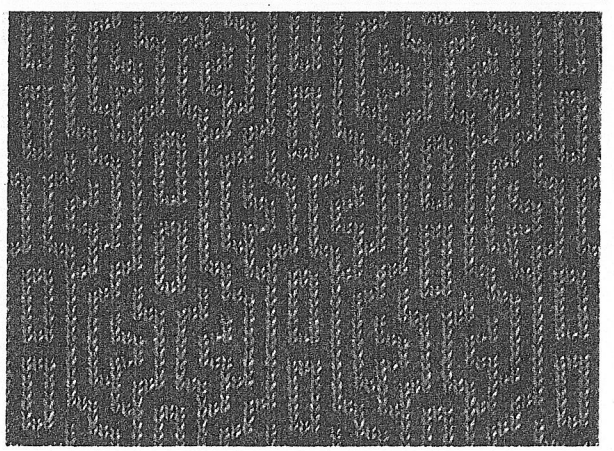


カードNo.11

配色すべり目模様　利用できるカードは、すべり目模様と同じです。　編み方 35ページ



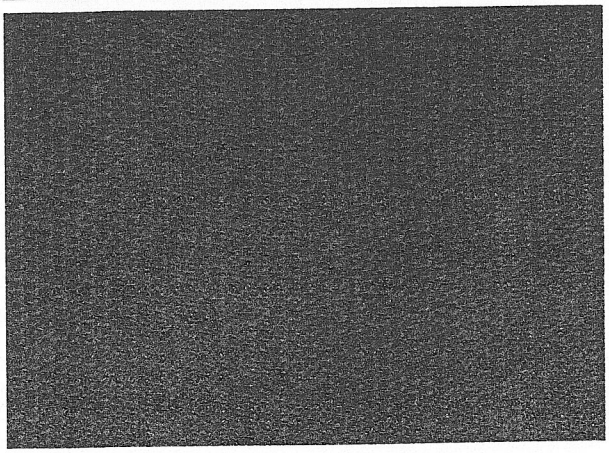
カードNo.5



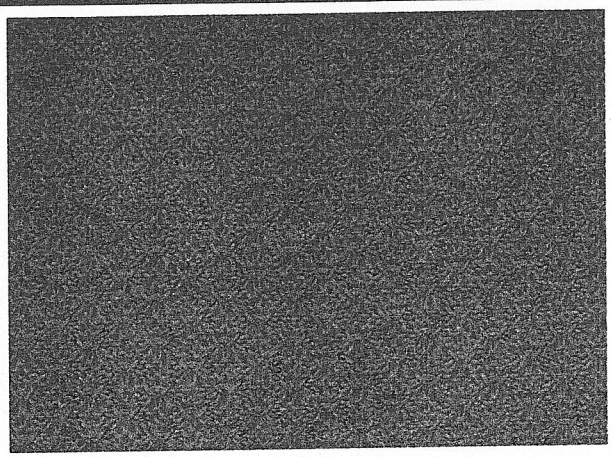
カードNo.7

タック模様　利用できるカード No. 1　2　3　7　8

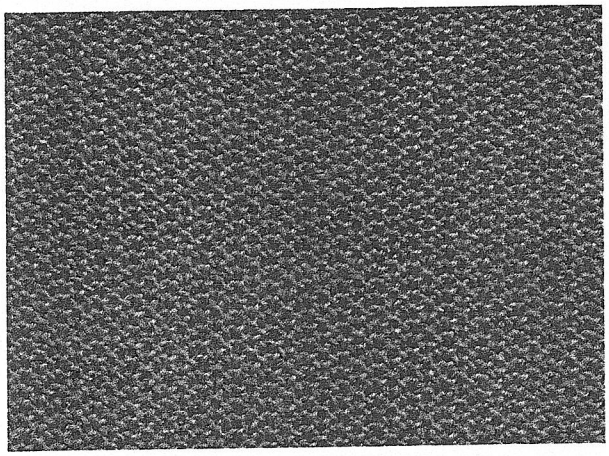
編み方・36ページ



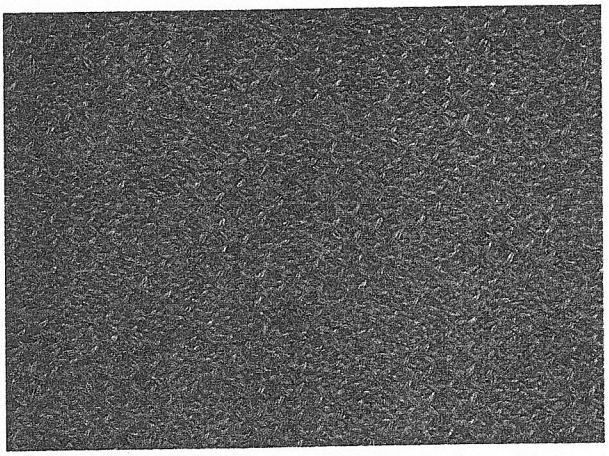
カードNo.1



カードNo.2



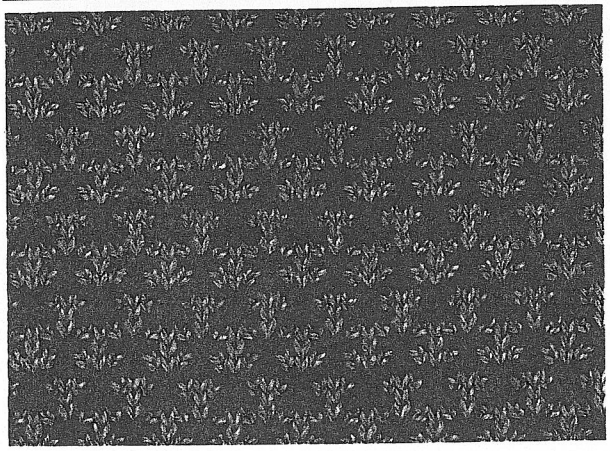
カードNo.3



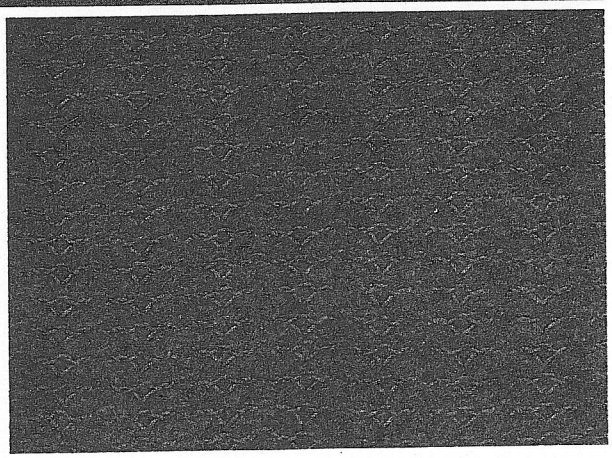
カードNo.7

配色タック模様　利用できるカードは、タック模様と同じです。

編み方・37ページ

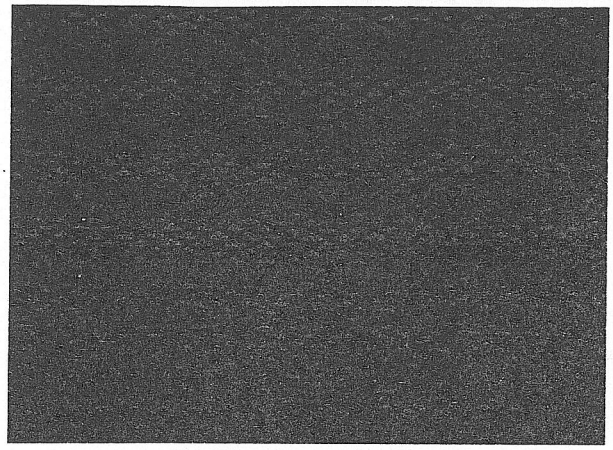


カードNo.2

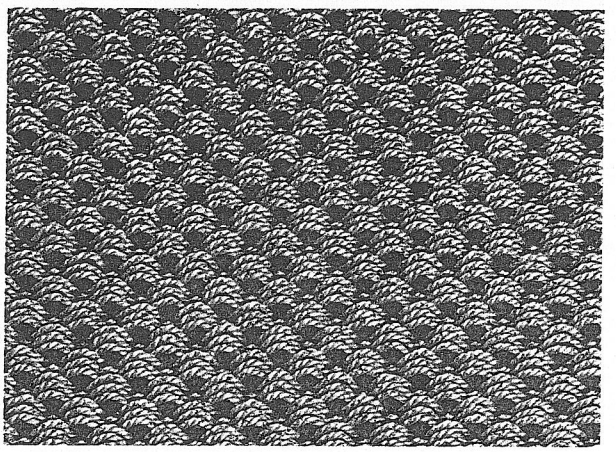


カードNo.3

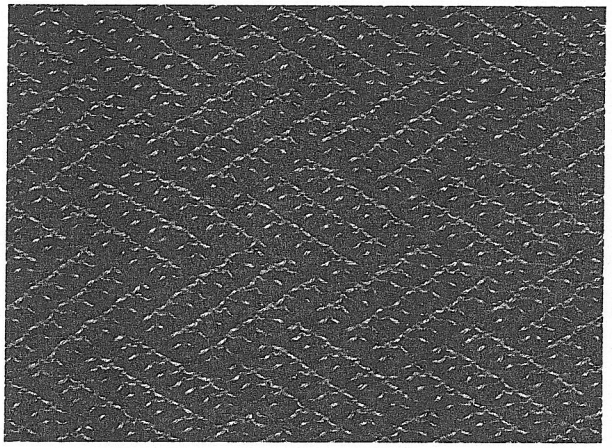
スレット模様　利用できるカード　1　2　3　5　7　8　11　　編み方　38ページ



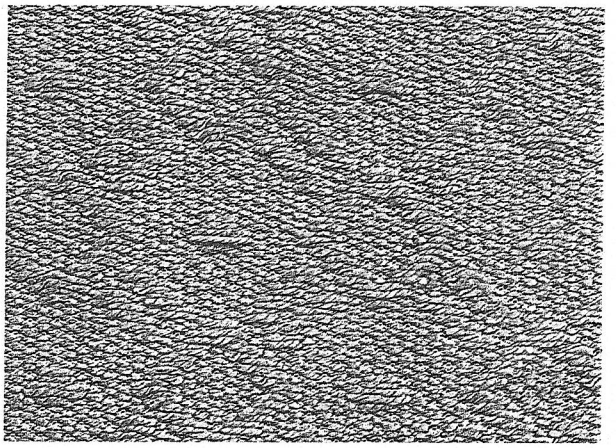
カードNo.1



カードNo.2

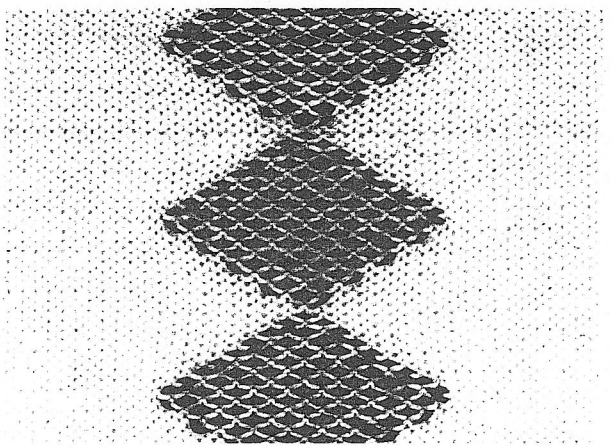


カードNo.5



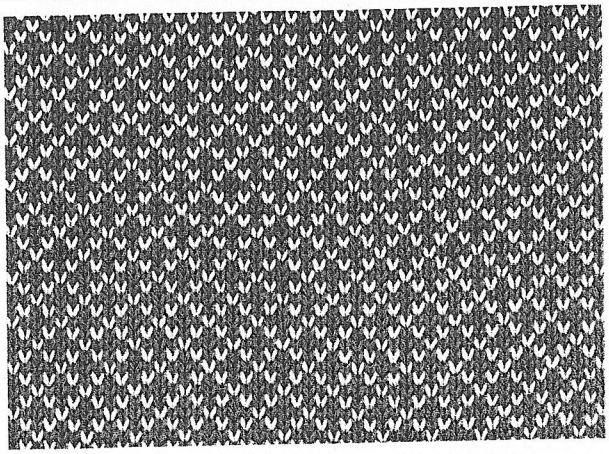
カードNo.7

ポイントスレット模様　利用できるカード　No.1　40ページ

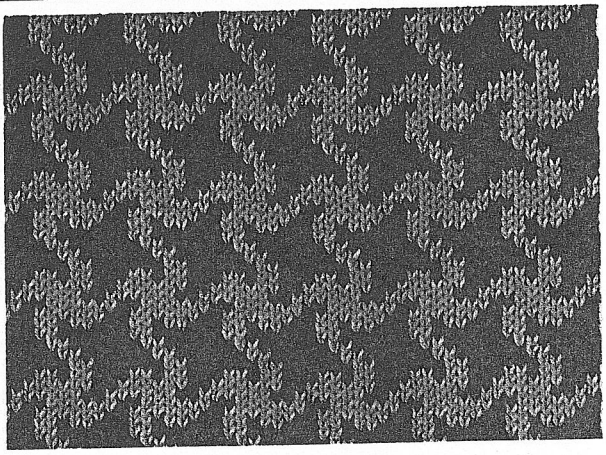


カードNo.1

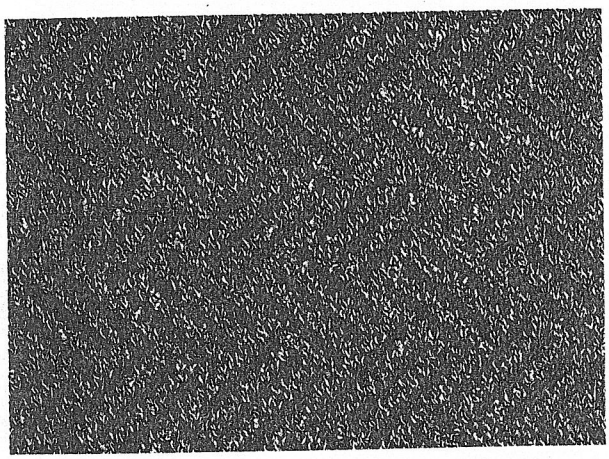
同じ糸2色使用 利用できるカード 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 編み方 41ページ



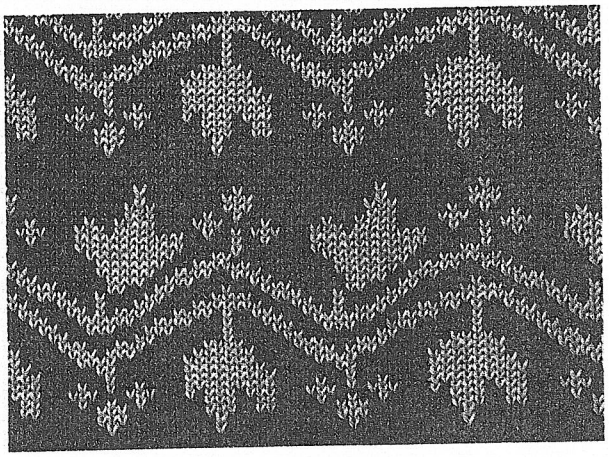
カードNo.3



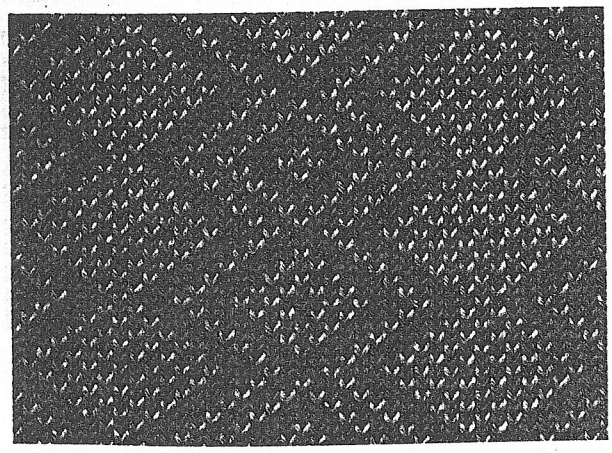
カードNo.4



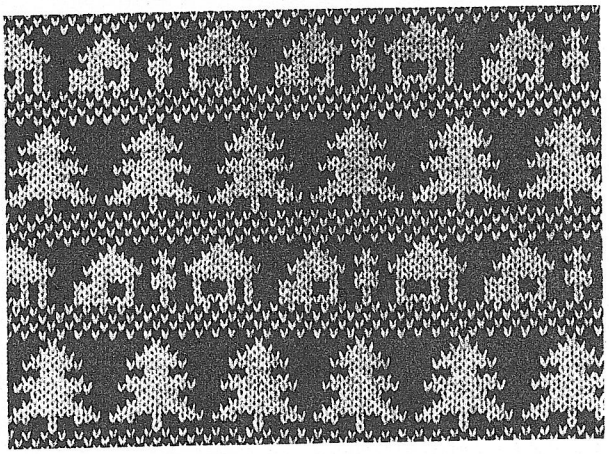
カードNo.5



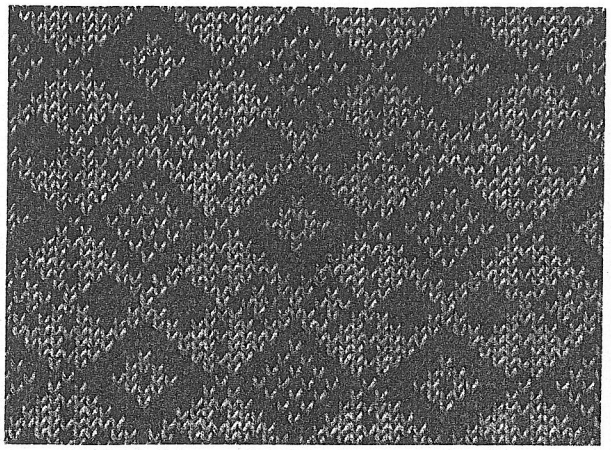
カードNo.6



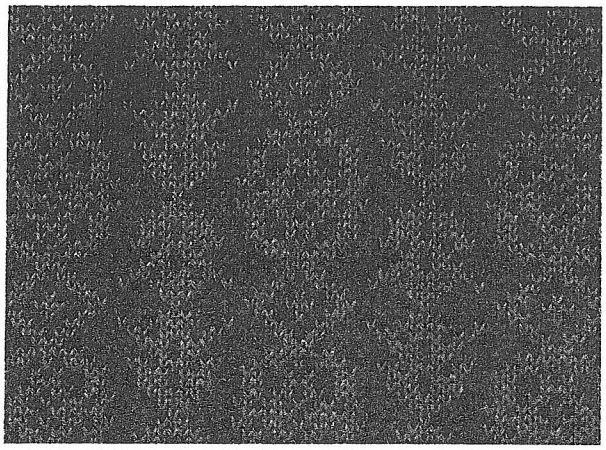
カードNo.8



カードNo.9

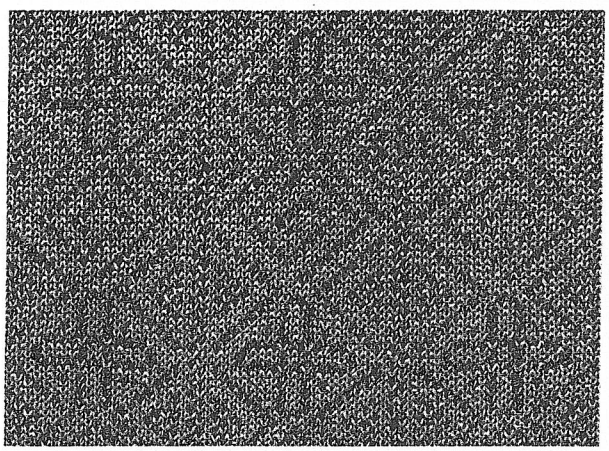


カードNo.10

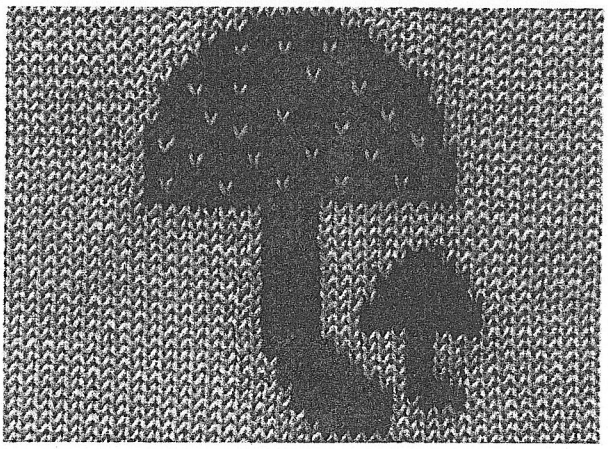


カードNo.12

ポイント：同時編込装置、利用できるカード：No.13、同時編込準備のカード、利用できます。編み方→43ページ

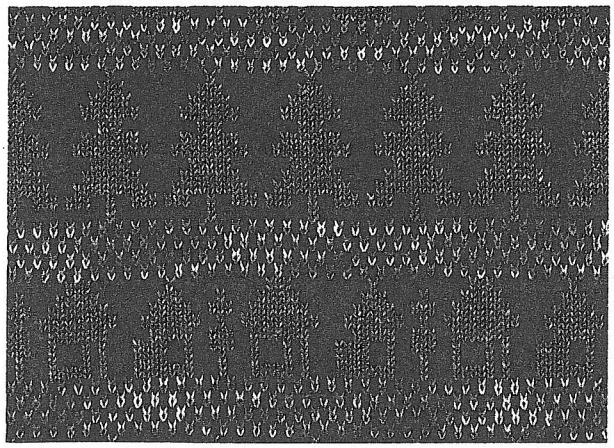


カードNo.14

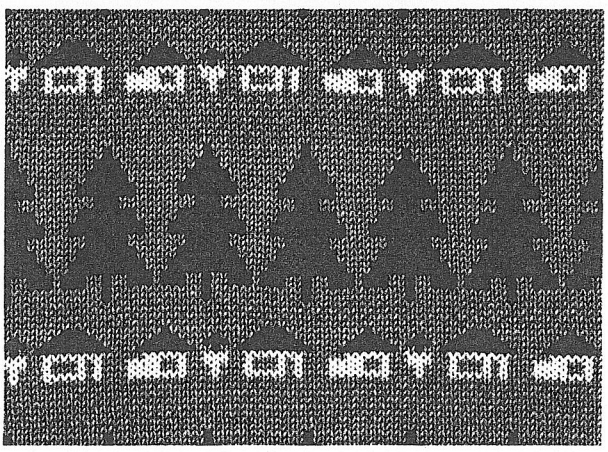


カードNo.13

間欠送り装置、利用できるカード：同時編込準備と同じです。　編み方→47ページ

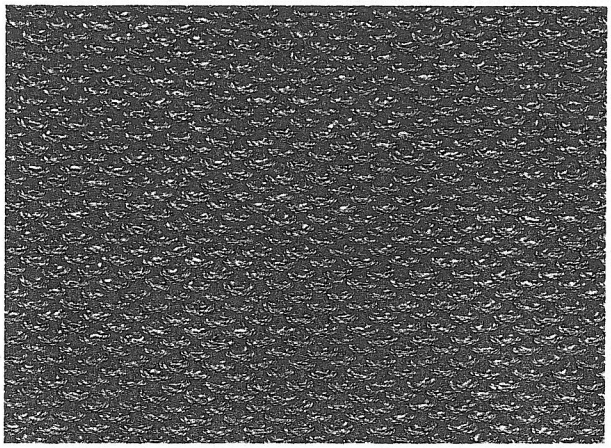


カードNo.9
〈間欠送り使用〉

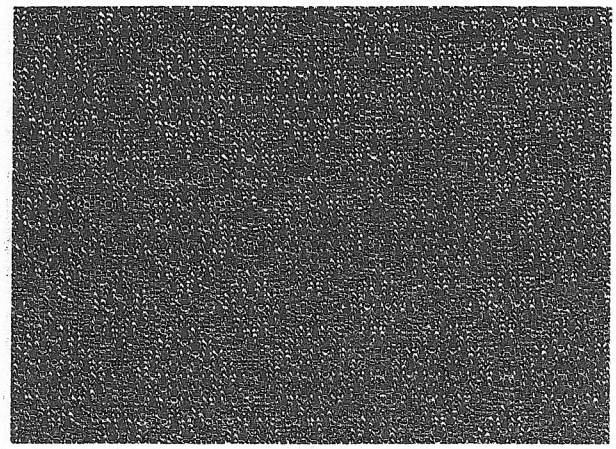


カードNo.9
〈間欠送りを部分的に使用〉

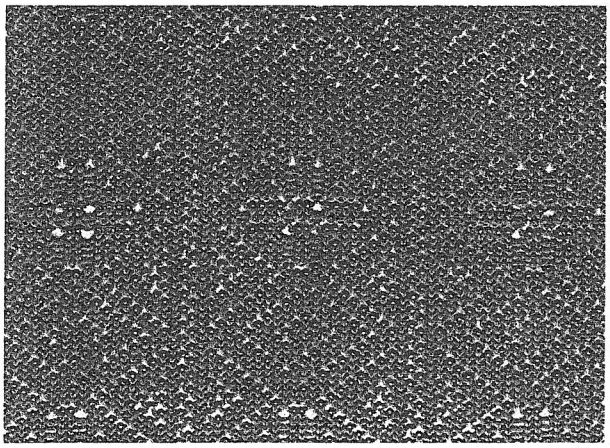
編込レース模様　利用できるカード　1・11・14・15・16　　編み方　48ページ



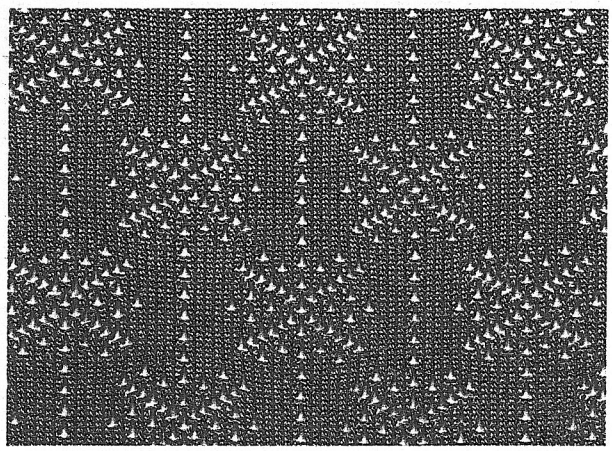
カードNo.1



カードNo.11



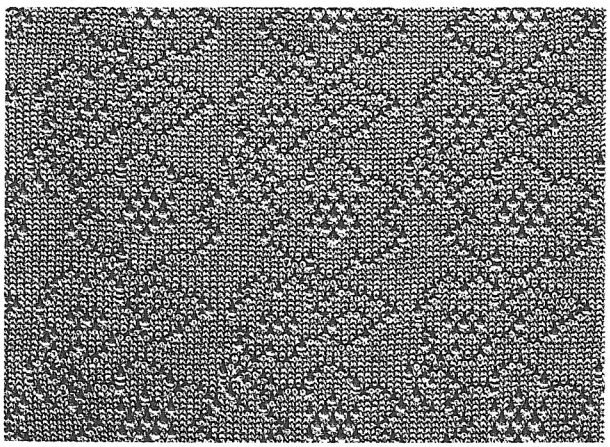
カードNo.14



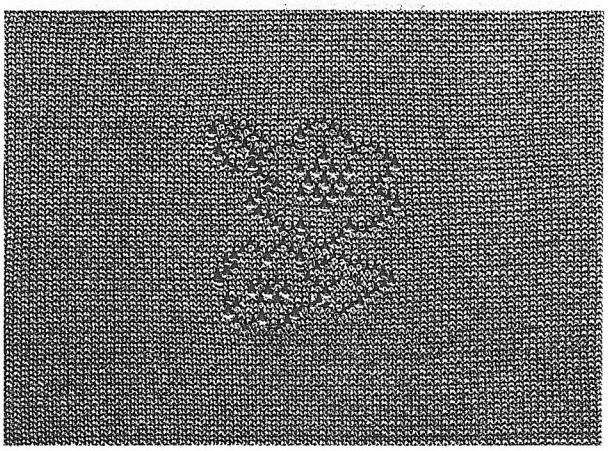
カードNo.15

ポイント・編込レース模様

編込レースのカードが利用できます。　編み方　50ページ



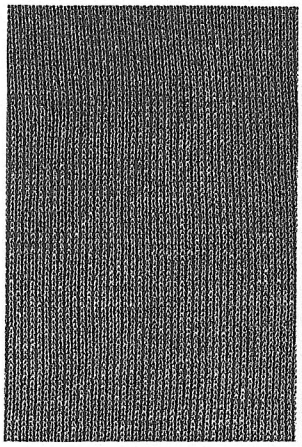
カードNo.16



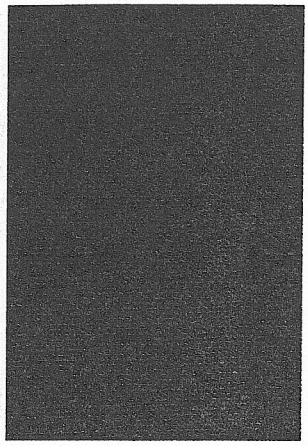
カードNo.16

添え糸編

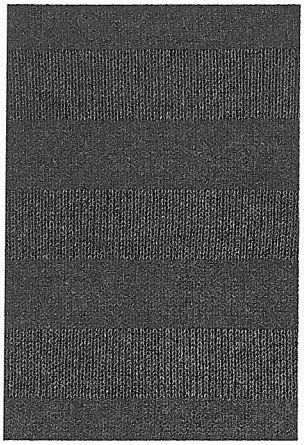
編み方：59、61ページ



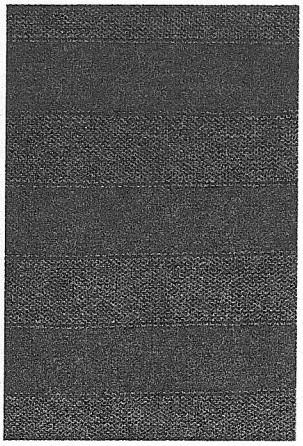
表



裏



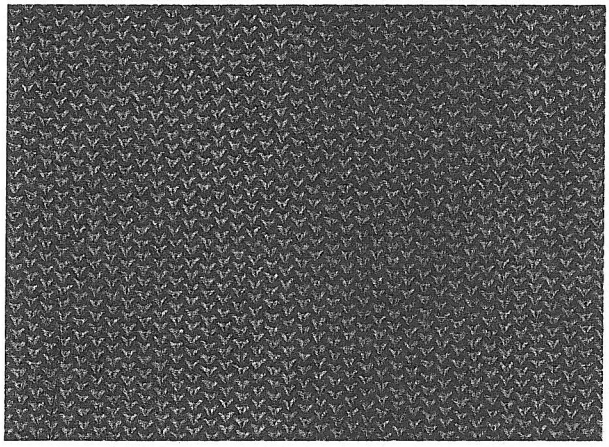
表



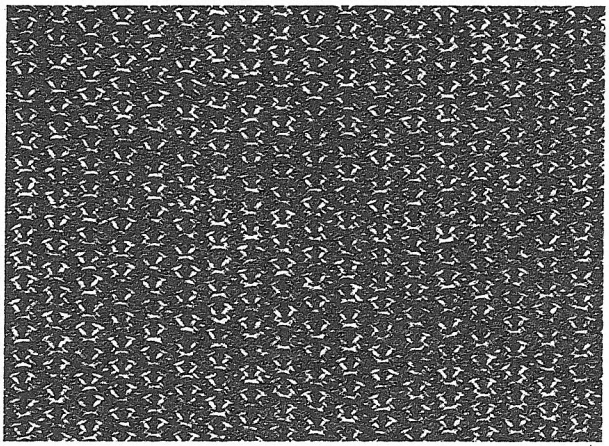
裏

添え糸タック模様　利用できるカード：1、3、8

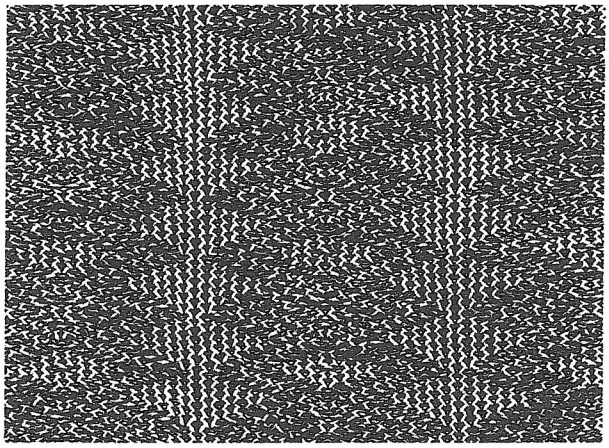
編み方：62ページ



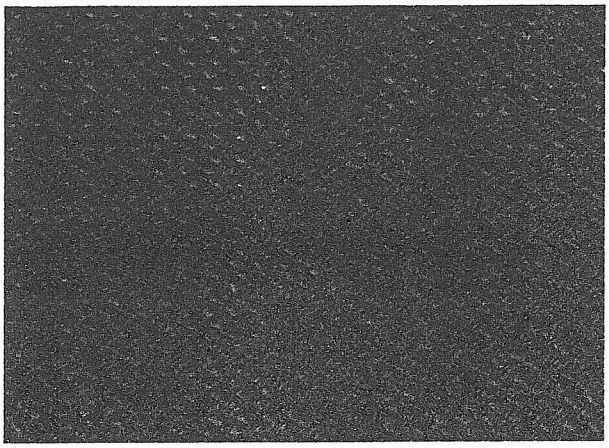
カードNo.1
裏



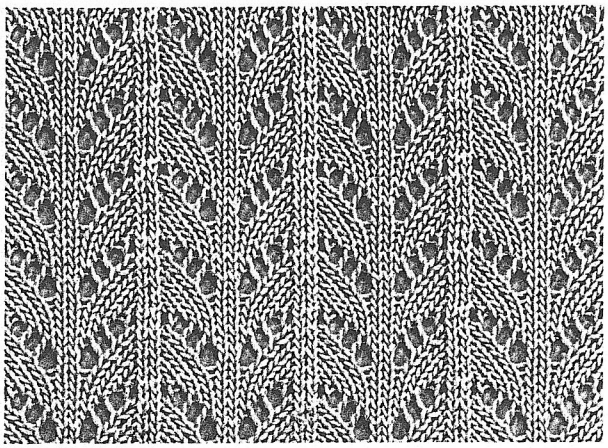
カードNo.3
裏



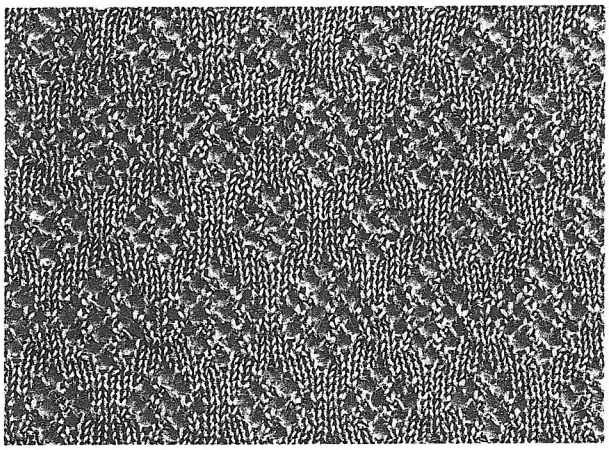
カードNo.8
裏



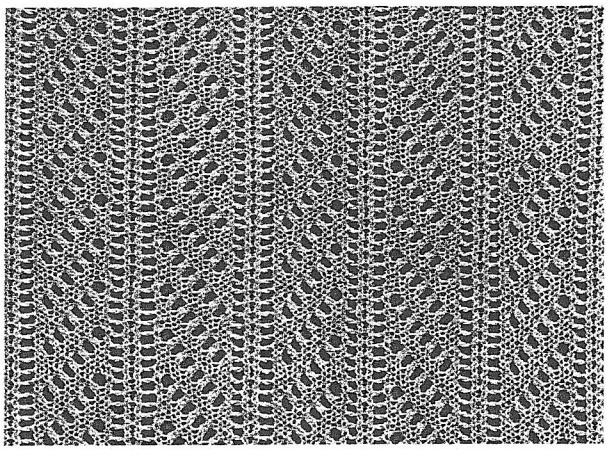
カードNo.17



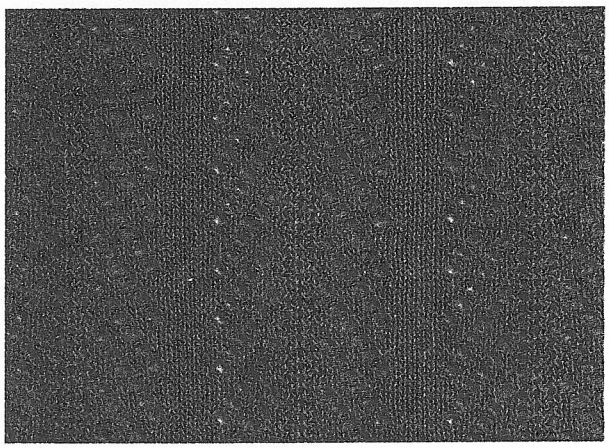
カードNo.18



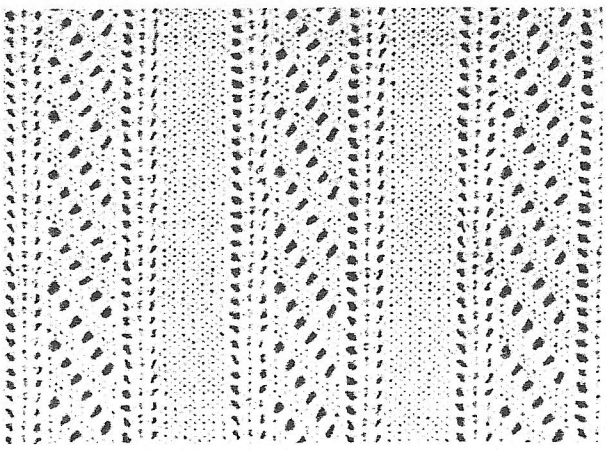
カードNo.19



カードNo.20



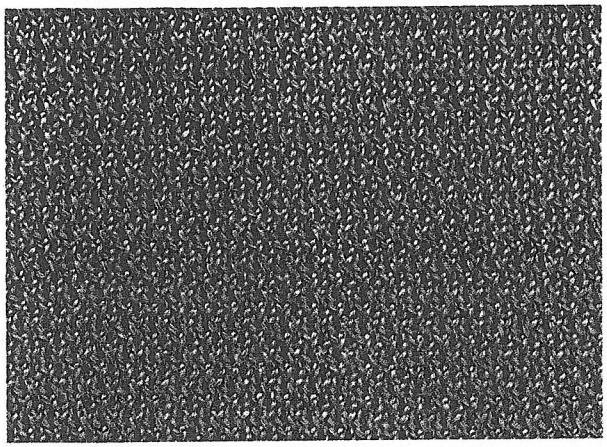
カードNo.20
〈Lポイントカム4使用〉



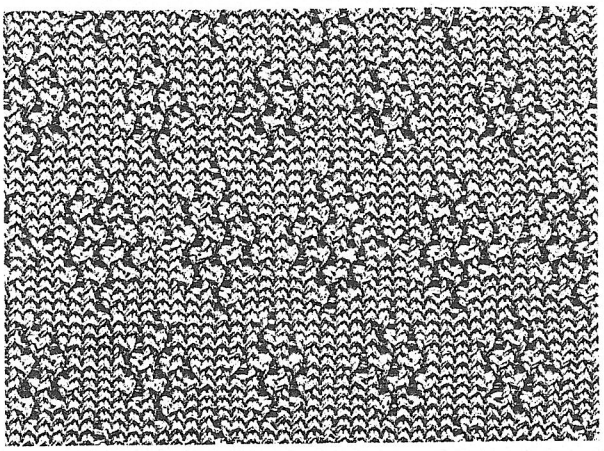
カードNo.20
〈Lポイントカム8使用〉

タックレース編み　利用できるカード　No.19、20

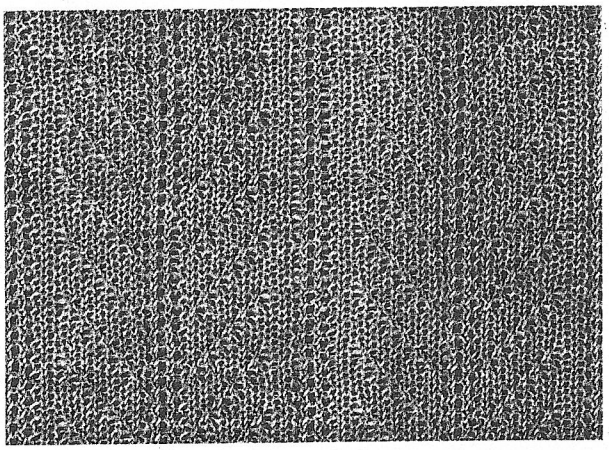
編み方…56ページ



カードNo.17



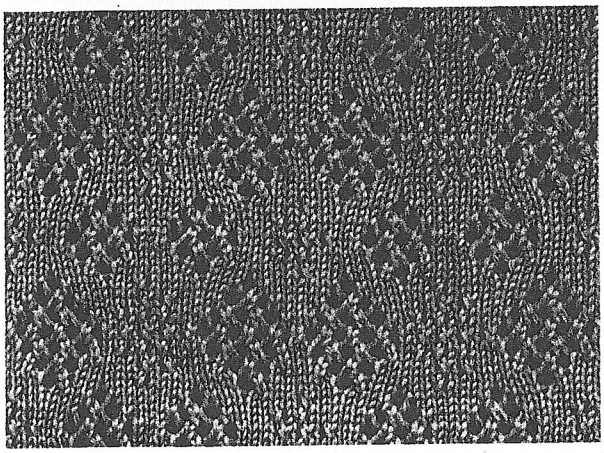
カードNo.19



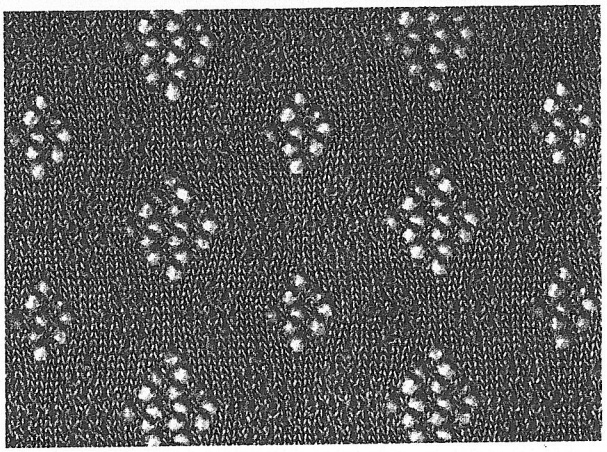
カードNo.20

レース、タックレース混合模様　利用できるカード　No.19

編み方…56ページ



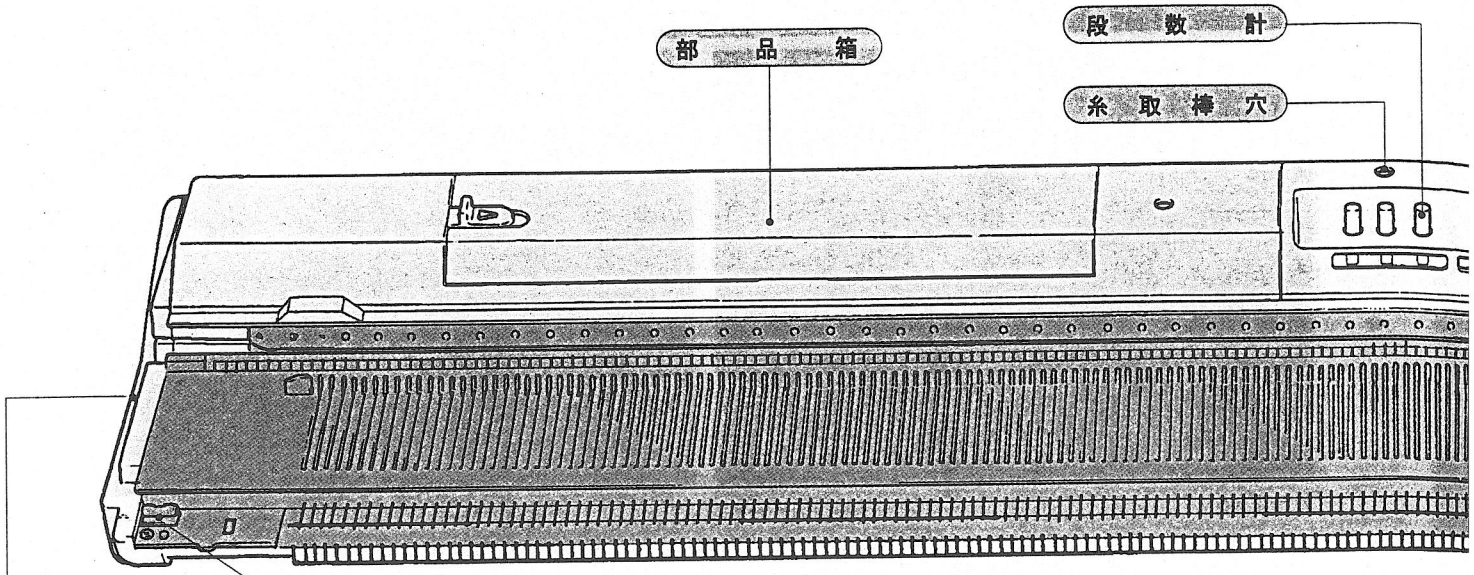
カードNo.19
〈レースから編み始めた場合〉



カードNo.19
〈タックレースから編み始めた場合〉

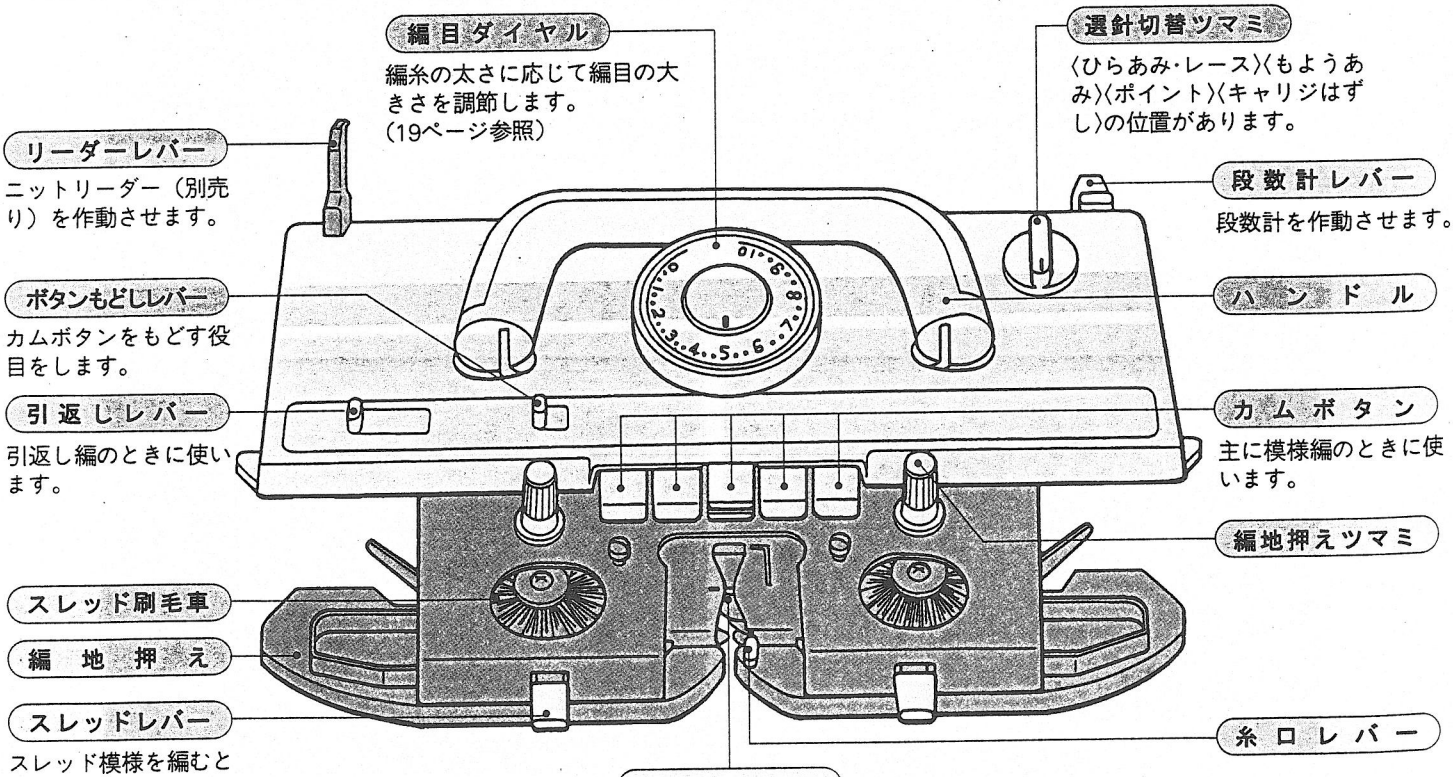
各部の名称とはたらき

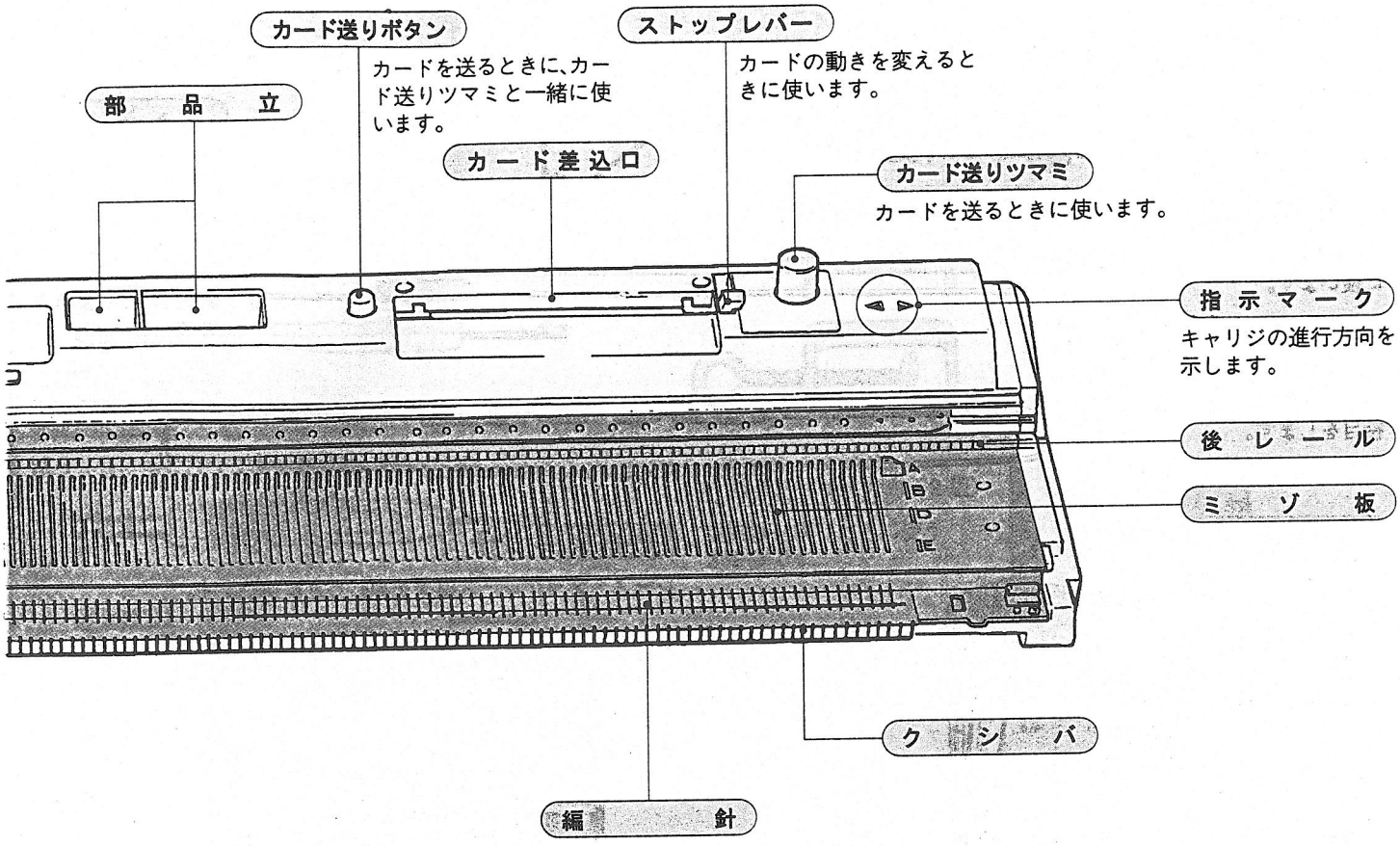
●本　体



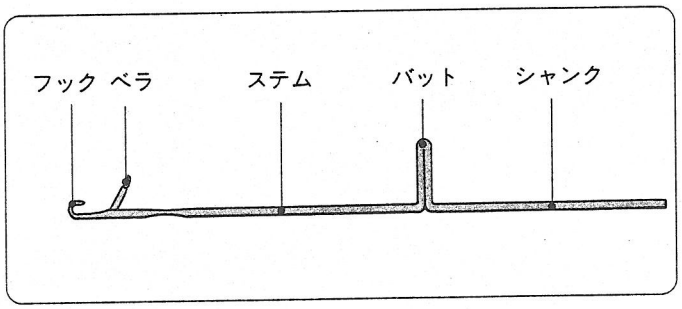
補助レールを取り付ける場所です。

●Kキャリジ

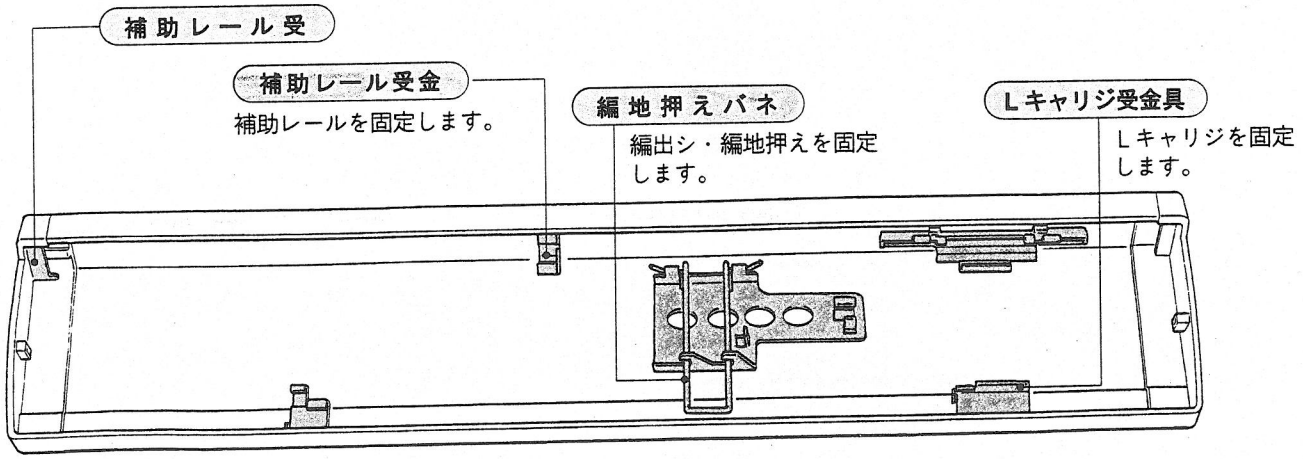



カード送りボタン
カードを送るときに、カード送りツマミと一緒に使います。
ストップレバー
カードの動きを変えるときに使います。
部品立
カード差込口
カード送りツマミ
カードを送るときに使います。
指示マーク
キャリジの進行方向を示します。
後レール
ミゾ板
クシバ
編針

●編　針


フック
ベラ
ステム
バット
シャンク

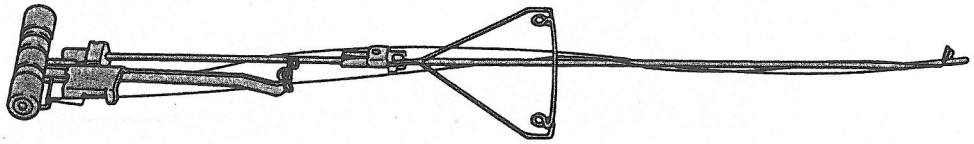
●ケース


補助レール受
補助レール受金
補助レールを固定します。
編地押えバネ
編出シ・編地押えを固定します。
Lキャリジ受金具
Lキャリジを固定します。

● 付属品

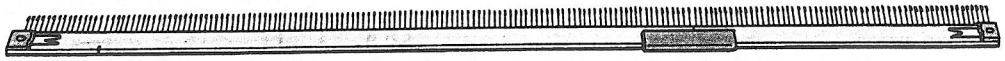
糸取装置

編糸の供給を自動的に調節します。



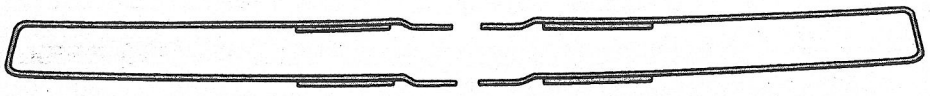
編出シ

編み始めを行うときに使います。

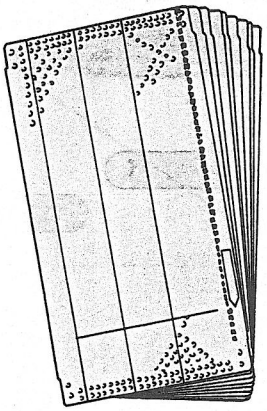


補助レール

キャリジ落下防止の役目をします。

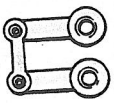


パンチカード（20枚）



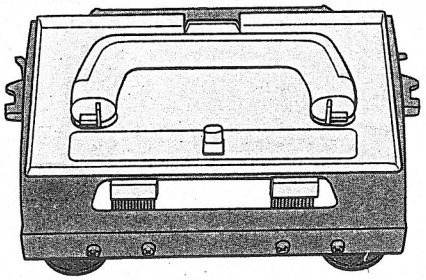
カードスナップ（４個）

パンチカードをつなぎ合わせるときに使います。



Ｌキャリジ

レース・タックレース模様を編むときに使います。



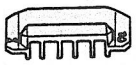
Ｌポイントカム

Ｌキャリジで、ポイントレース模様を編むときに使います。

４針用（６個）



８針用（６個）



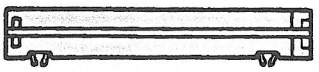
ワンポイントカム24

ワンポイント模様を編むときに使います。

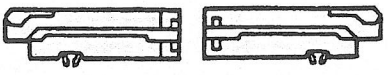


連続ポイントカム

接続して使います。



（２本）



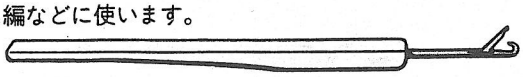
Ｌ（１本）　Ｒ（１本）

カ　ギ　針



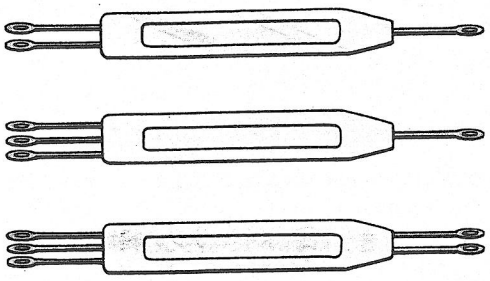
タ　ッ　ピ

ゴム編などに使います。



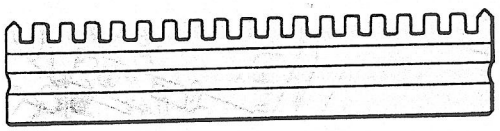
ウツシ(1×2、1×3、2×3)

減らし目、増し目などをするときに使います。



模様板(0×1/1)

おもに編針を出すときに使います。



抜　き　糸

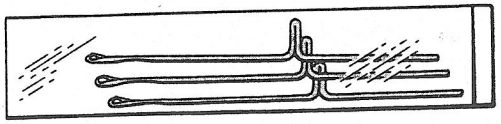
捨て編をするときなどに使います。



ト　ジ　針（編針といっしょに入っています。）

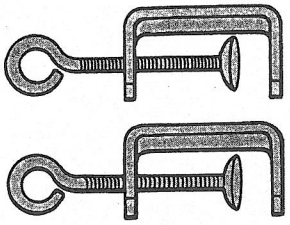
編地をとじたり、はいだりするときなどに使います。

編　針（予備）（３本）



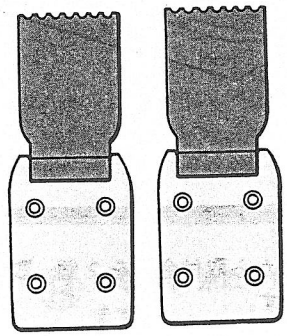
取　付　金　具（２個）

編機をテーブルに固定するときに使います。

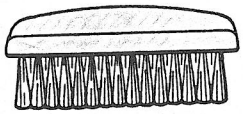


カラーウエイト（２個）

模様編を編むときに使う
オモリです。

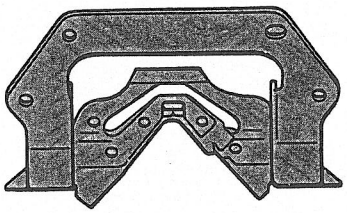


手　バ　ケ

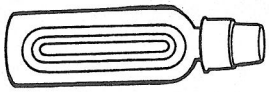


添え糸用糸口

添え糸編のときに使
います。



手　入　れ　油



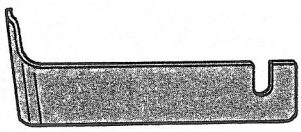
パ　ラ　フ　ィ　ン（ケース付）

編糸のすべりをよくします。



キャリジ止め金

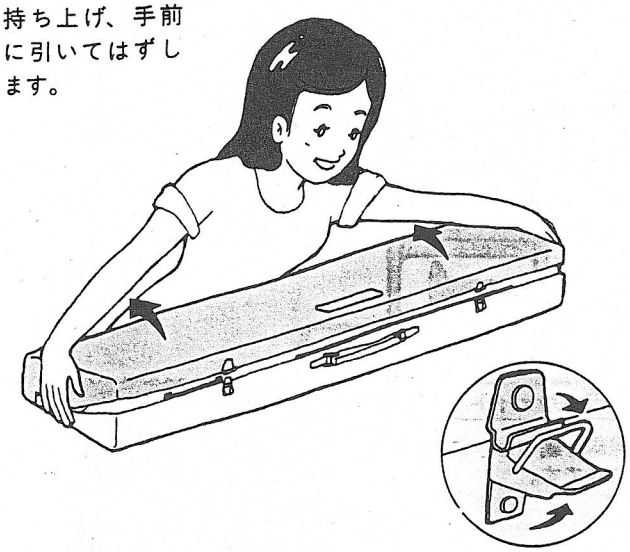
Kキャリジを本体に固定するために使います。



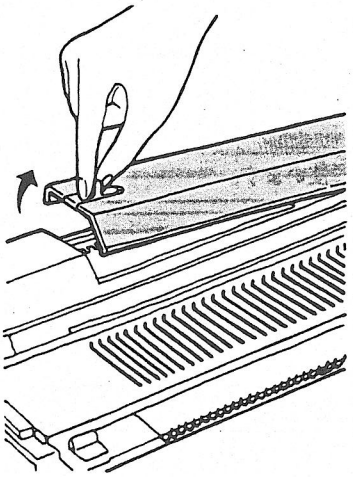
編機の組み立て方

① 取っ手を向こう側にして置き、錠前をはずします。

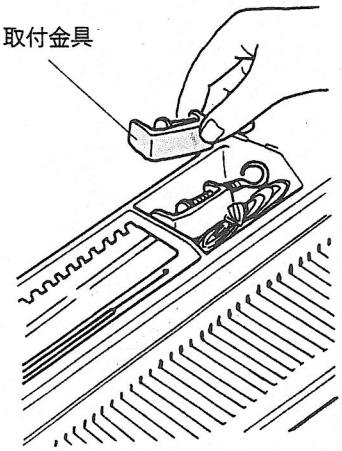
ケースの両端を持ち上げ、手前に引いてはずします。



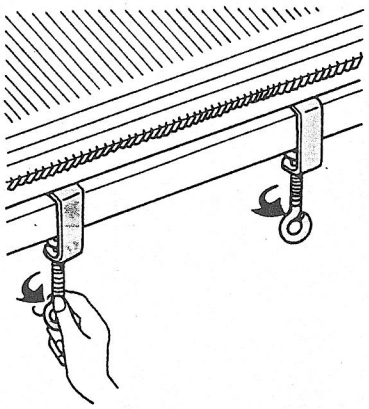
② 部品箱のふたを開きます。



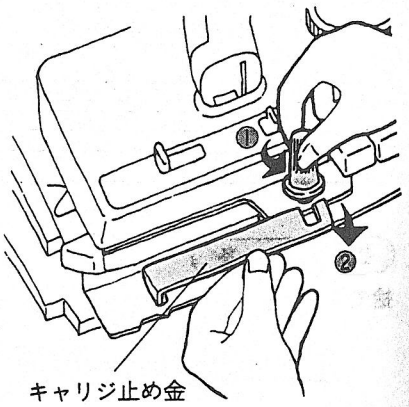
③ 部品箱から取付金具を２個、取り出します。



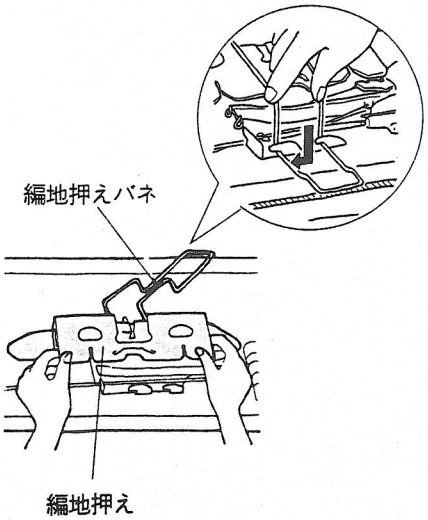
④ 取付金具で、編機をテーブルに固定します。



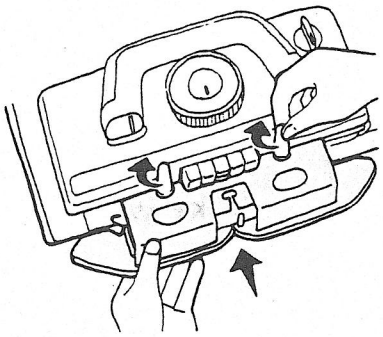
⑤ Kキャリジの編地押えツマミをゆるめ、キャリジ止め金をはずします。



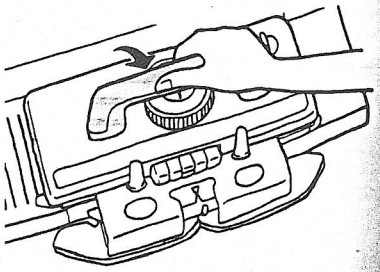
⑥ ケース内側の編地押えバネを開き、編地押えを取り出します。



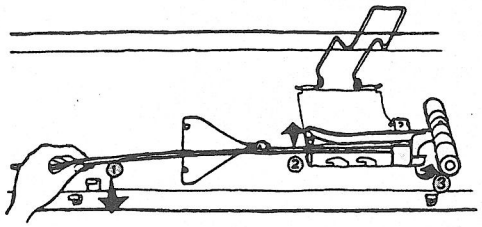
⑦ 左右のツマミをゆるめ、編地押えをいっぱいに差し込み締め付けます。



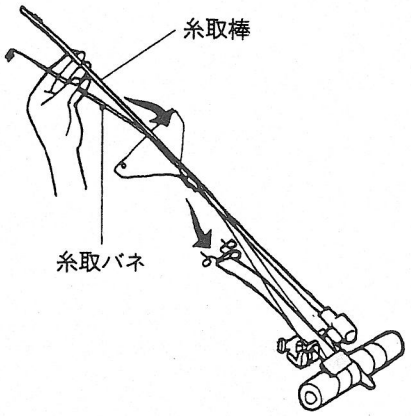
⑧ ハンドルを起こします。



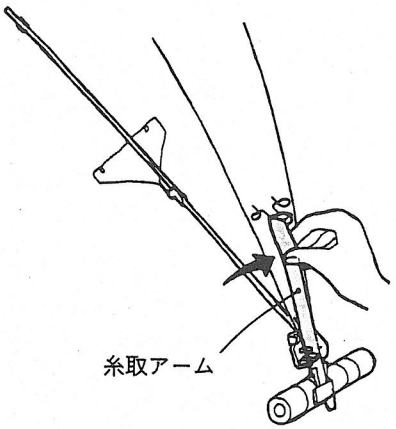
⑨ ❶・❷・❸の順に、糸取装置をはずします。



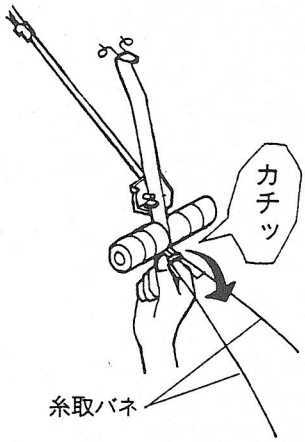
⑩ 糸取棒から、糸取バネをはずします。



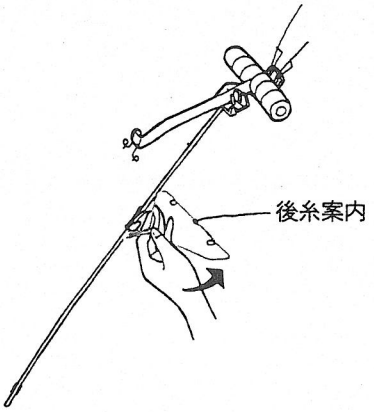
⑪ 糸取アームを止まるまで上げます。



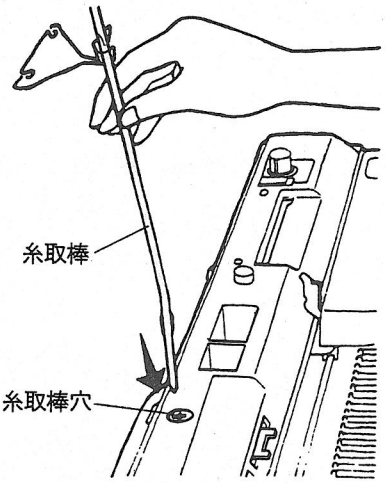
⑫ 糸取バネの根元を持ち、カチッと音がするまで持ち上げます。



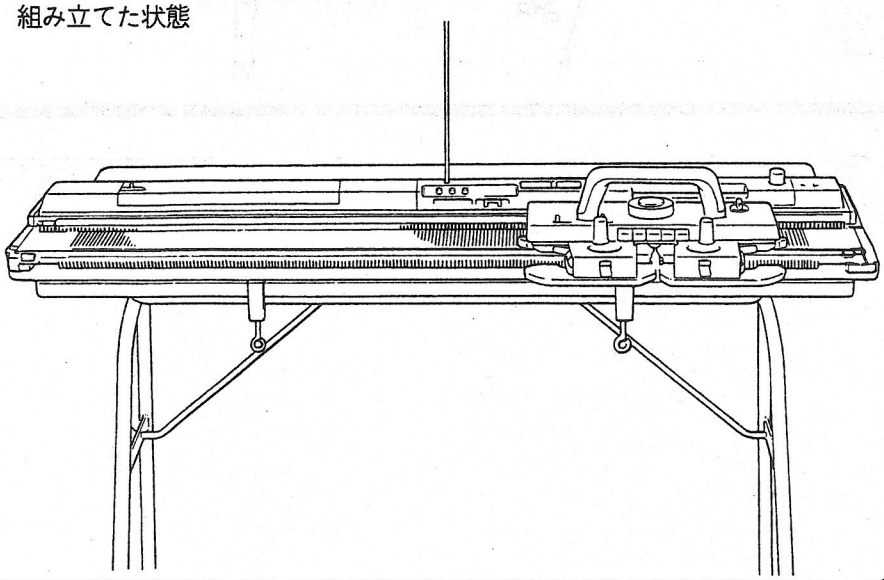
⑬ 後糸案内を持ち上げます。



⑭ 糸取棒を、糸取棒穴に差し込みます。

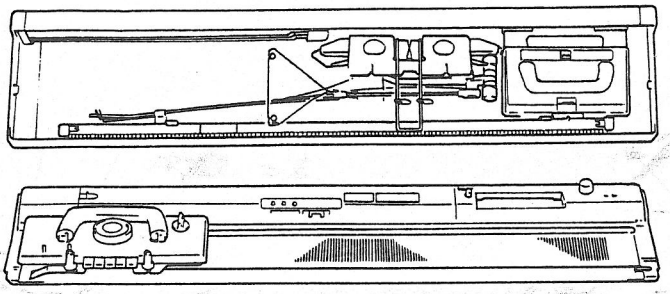


組み立てた状態

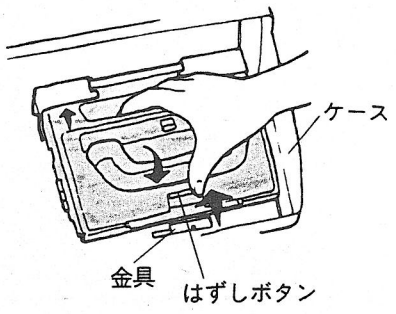


編機のしまい方

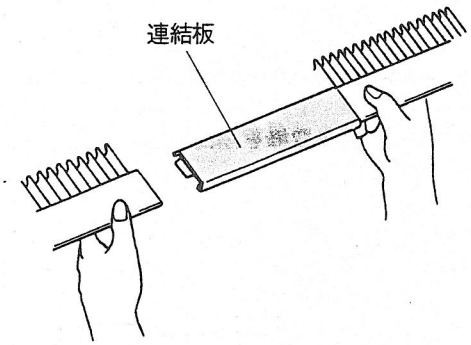
収納状態　ケース内側に表示してある番号順に収めます。



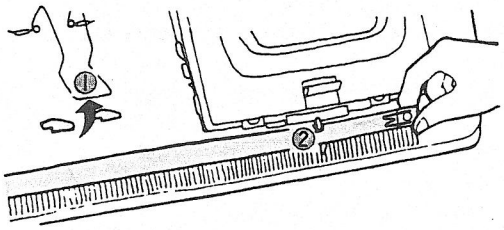
① Lキャリジのハンドルをたおして絵の上に正しくのせ、はずしボタンを押して金具にかけます。



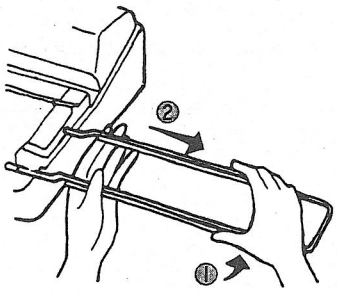
② 編出シを連結します。



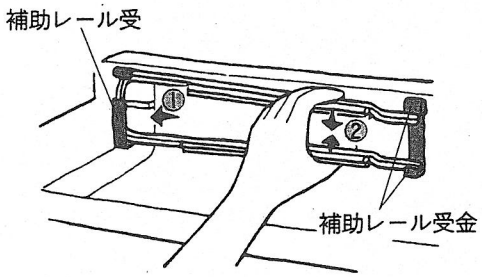
③ 編地押えバネを開き、編出シの糸カケを上にして切り欠き部を金具にはめ、正しく置きます。(左の金具にもはめます。)



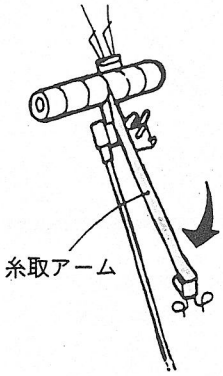
④ 補助レールは端を少し持ち上げてはずします。



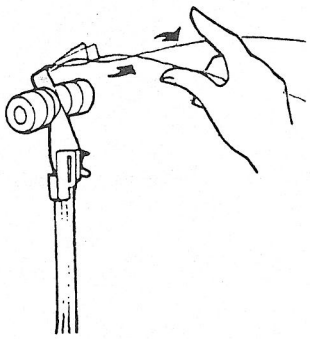
⑤ 輪の方を補助レール受にはめ、先端をせばめて補助レール受金にかけます。



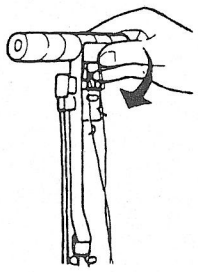
⑥ 糸取装置を編機からはずし、糸取アームを止まるまで押し下げます。



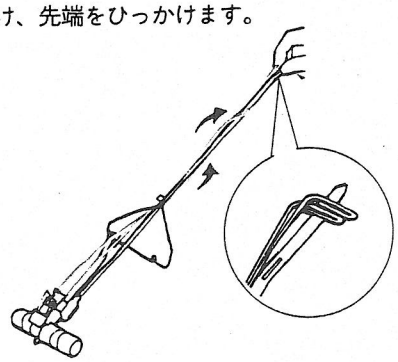
⑦ 糸取バネを２～３回ねじり合わせます。



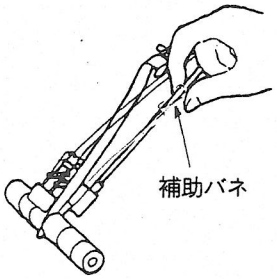
⑧ 糸取バネの根元を持ち、止まるまで押し下げます。



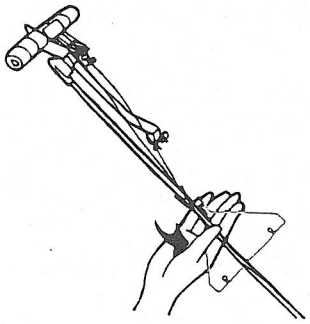
⑨ 糸取バネを糸取棒に２～３回巻き付け、先端をひっかけます。



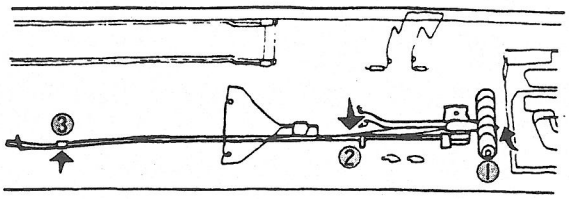
⑩ 補助バネを糸取棒にはめます。



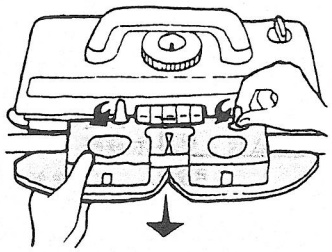
⑪ 後糸案内を、つかえるまで押し下げます。



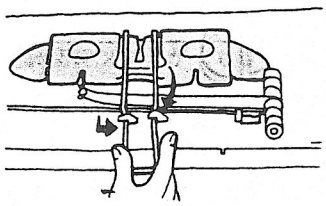
⑫ 糸取装置を①·②·③の順にケース金具にはめます。



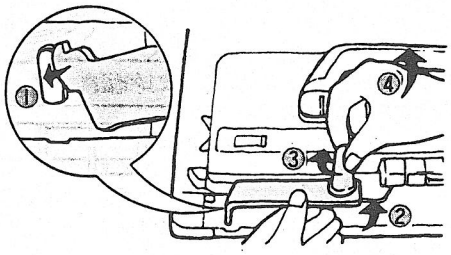
⑬ Kキャリジの左右の編地押えツマミをゆるめ、編地押えをはずします。



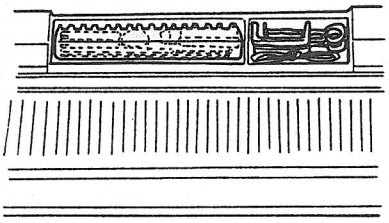
⑭ 編地押えをケースの中に正しく置き、編地押えバネを押しつけ、金具にかけます。



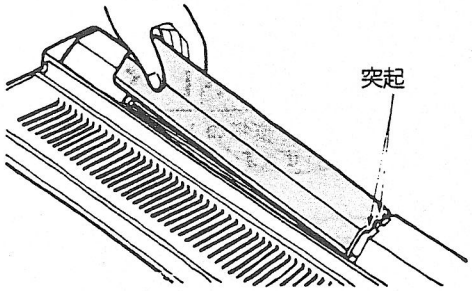
⑮ キャリジ止め金を取り付け、ハンドルをたおします。



⑯ 取付金具をテーブルからはずし、他の部品とともに部品箱に収めます。



⑰ 部品箱のふたの突起２箇所を、部品箱の右側の穴に差し込み、ふたを閉じます。



⑱ ケースをななめにしてそのまま押しつけ、錠前をかけます。

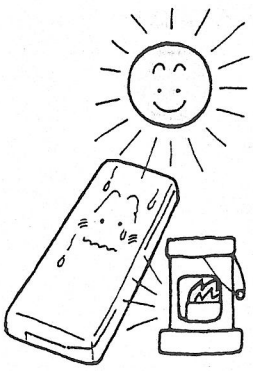


錠前をかけます。

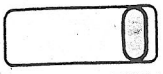
編機を次の状態で保管しないでください。

- 直射日光の当たるところ
- ヒーターの横のような高温なところ
- 湿度の高いところ

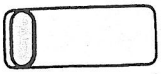




● 引返しレバー



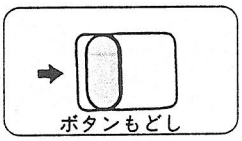
引返し編のときに〈引返し〉に合わせます。

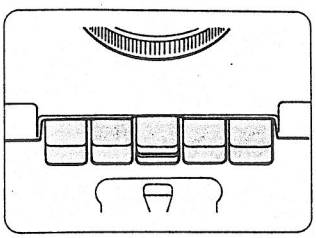


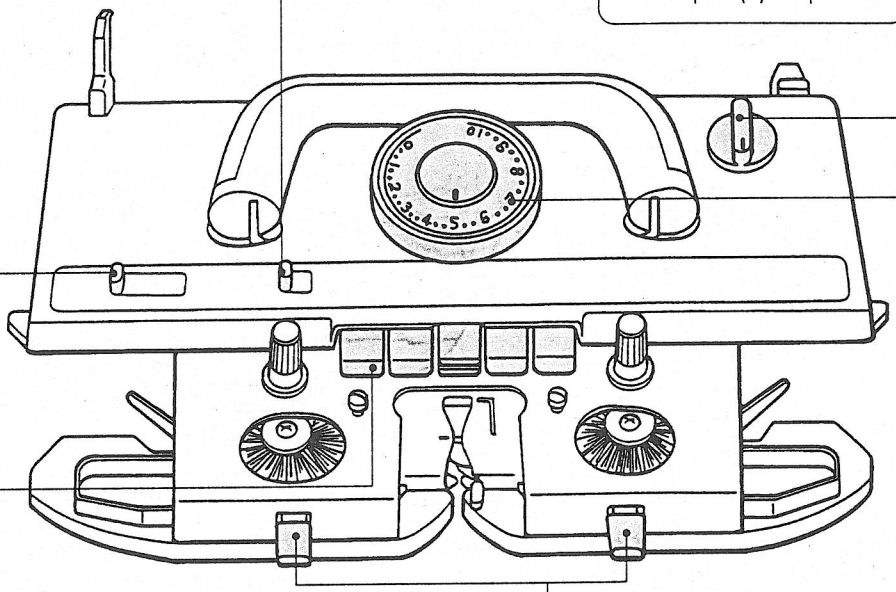
引返し編以外のときに〈ひらあみ〉に合わせます。

● ボタンもどしレバー

右方向へ押すと、セットされたカムボタンがもどります。



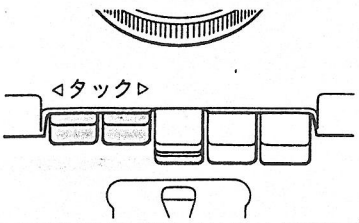




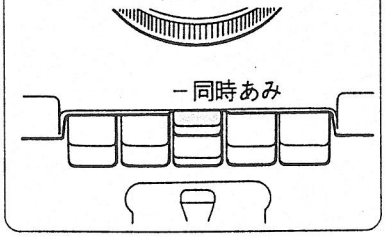
● カムボタン

模様編のときに使うボタンでいっぱいに押すと押された位置でロック(止まる)します。2つのボタンを押すときには同時に押してください。

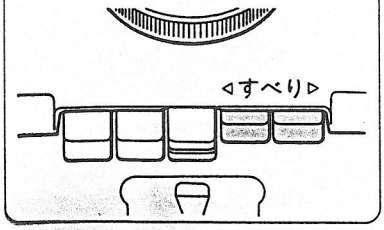
〈タック模様〉
ボタンを2つ同時に押します。



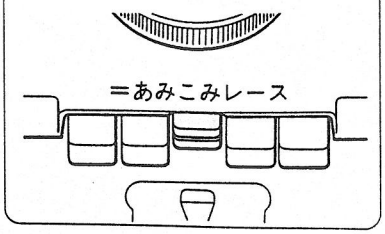
〈同時編込模様〉
上のボタンだけを押します。



〈すべり目模様〉
ボタンを2つ同時に押します。

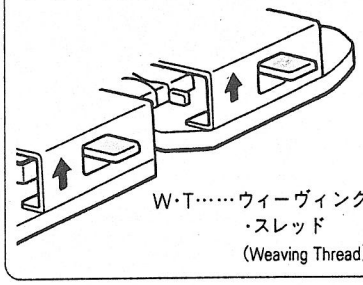


〈編込レース模様〉
上下のボタン2つを同時に押します。

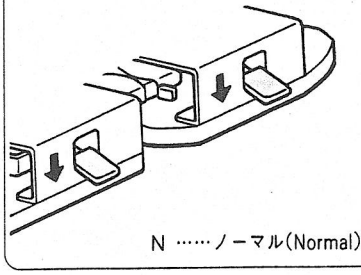


● スレッドレバー

スレッド模様のときに〈W・T〉に合わせます。



スレッド模様以外のときは〈N〉に合わせます。

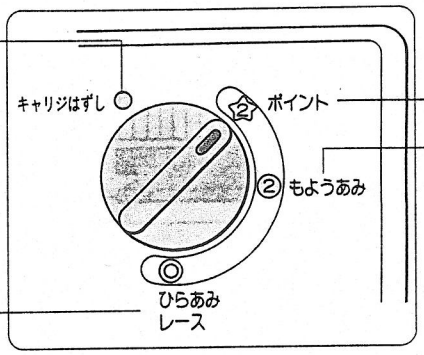


♣カムボタンの〈あみこみレース〉と他のカムボタンを同時に押さないでください。

● 選針切替ツマミ

キャリジはずし

編地の途中でキャリジをはずすときに合わせます。



ひらあみ・レース

平編またはレース模様を編むときに合わせます。

ポイント

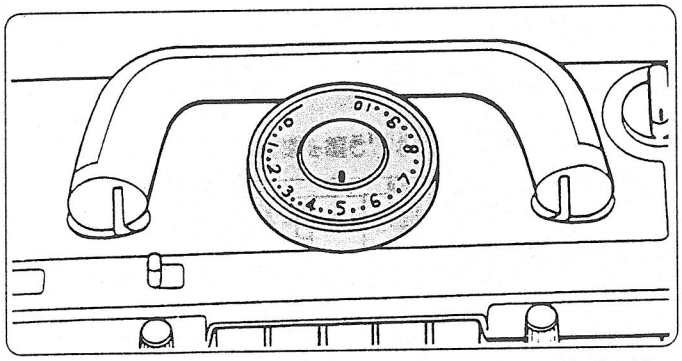
ワンポイントカム24、連続ポイントカムを用いて編むときに合わせます。

②もようあみ

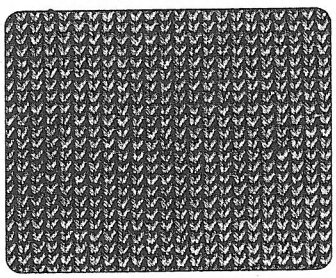
タック模様、すべり目模様、スレッド模様、同時編込模様、編込レース模様などを編むときに合わせます。

♣選針切替ツマミが〈もようあみ②〉か〈ポイント〉になっているときは、選針切替ツマミを〈ひらあみ･レース〉にセットするだけで押されているカムボタンは、自動的にもどります。

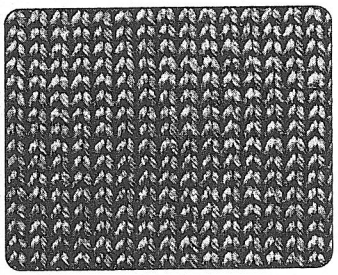
● 編目ダイヤル



編糸に応じて、編目の大きさを調節する役目をします。数字が大きくなるほど、編まれる編目は大きく(あらく)なります。編糸に応じて、ダイヤルの数字または・印をダイヤル中央部のキャップについている▮印に合わせます。



●ダイヤルの数字を小さく合わせたとき



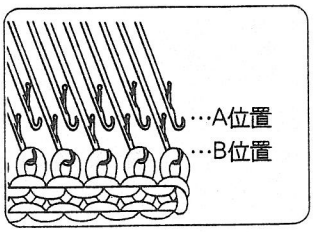
●ダイヤルの数字を大きく合わせたとき

平編のときの標準編目ダイヤル

編糸タイプ	編目ダイヤル
極　細	0～3
合　細	3～5
中　細	4～6
合　太	7～10
並　太(1目針抜き)	4～6

♣1目針抜きとは

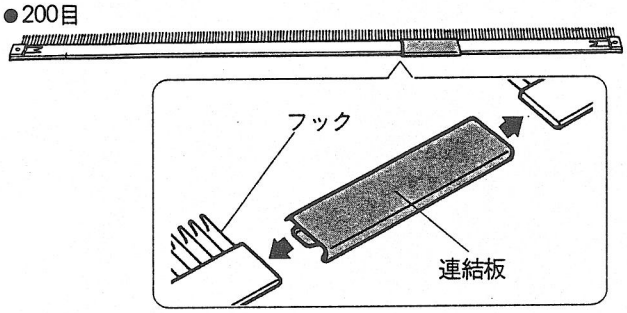
右図のように編針を1本おきに、A位置に下げた状態で編むことをいいます。
並太タイプなどを編む場合に、風合いよく編むことができます。



●編出シ

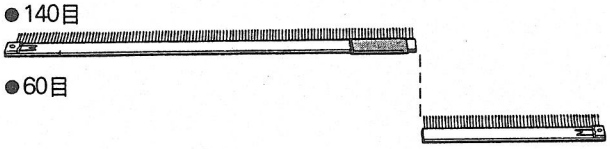
連結板をはずして140目、60目の長さにも使い分けることができます。

●200目



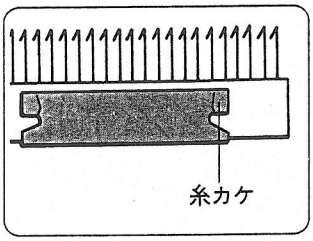
●140目

●60目



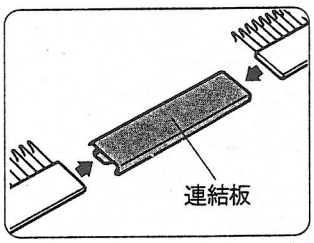
連結板の使い方

編出シを分けて使うとき



連結板を糸カケとして使用しますので、糸カケを手前にして編出シからはみ出さないように付けます。

編出シを連結して使うとき

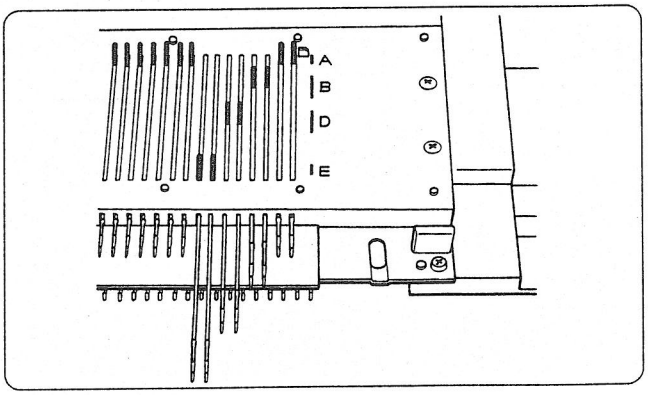


連結板で図のように糸カケをむこうにして連結します。

●編針の位置

編機は、編針の位置によっていろいろな編み方ができます。
その編針の位置をミゾ板の左右の端に、A・B・D・Eの文字で示してあります。

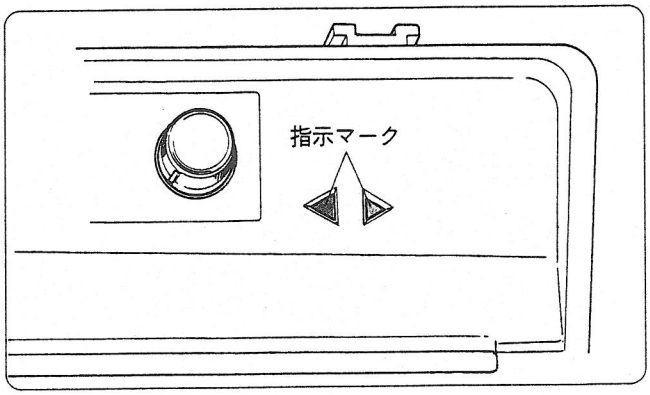
A. あまない位置……キャリジを操作しても編めません。
B. あ む 位 置……普通はこの位置で編みます。
D. もよう位置……模様編の場合の選針位置です。
E. 引返し位置……引返し編に使う位置です。



●指示マーク

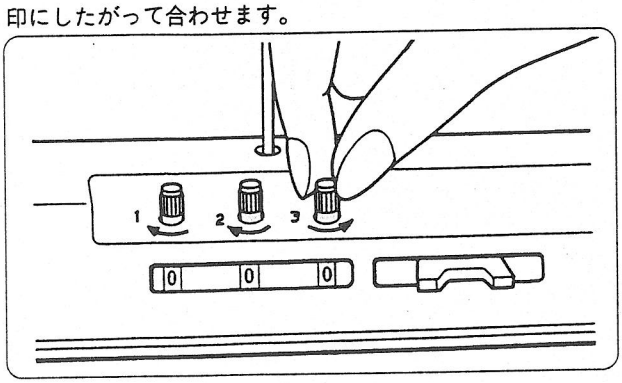
模様編のときに指示マークが作動し、キャリジの進行方向を示す◀▶(ピンク色)のサインが出ます。

◀▶ ……K(L)キャリジが右へ進んでいるとき
◁▶ ……K(L)キャリジが左へ進んでいるとき



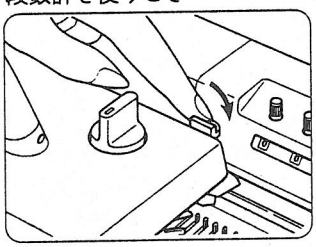
● 段数計

Kキャリジの操作によって編まれる段数を数字で知ることができる装置です。
数字をセットするには、ツマミを回して行います。
000 にセットするときは、左側のツマミから順に段数計の矢印にしたがって合わせます。

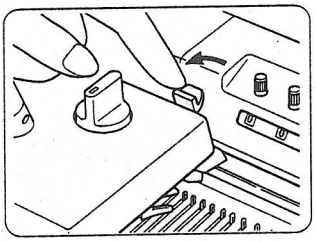


●段数計を使うときは、Kキャリジ右側後方の段数計レバーを下げておきます。必要のないときは上げておいてください。

段数計を使うとき



段数計を使わないとき



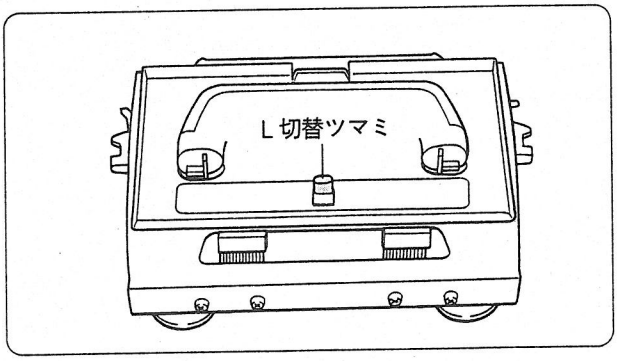
● Lキャリジ

Lキャリジは、自動的に選針し、目移しを行いレース目・タックレース目を作ります。

L切替ツマミ

レース模様を編むときに〈レース〉に合わせます。

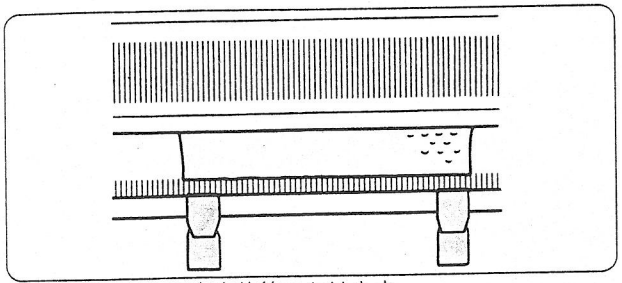
タックレース模様を編むときに〈タックレース〉に合わせます。



● カラーウェイト

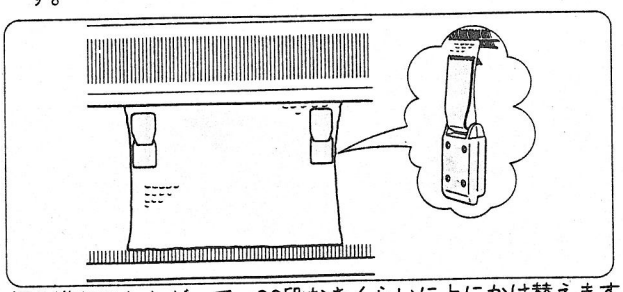
カラーウェイトは、編地の下がりをよくするために使用します。

●通常、編出シにかけて使用します。



編地の幅に対して左右均等にかけます。

●編地の両端の下がりが悪い場合、直接編地にかけて使用します。



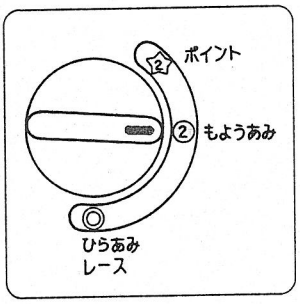
編み進むにしたがって、20段おきくらいに上にかけ替えます。

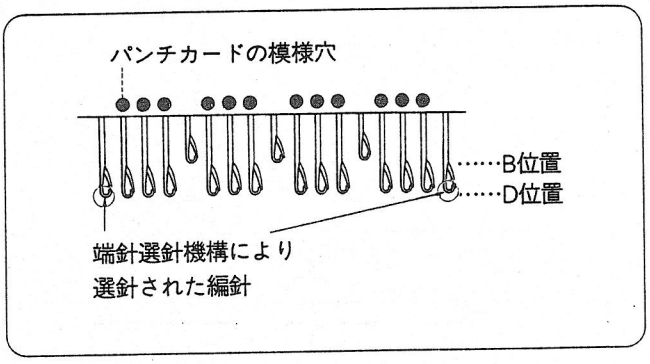
● Kキャリジの端針選針機構

端針選針機構について

●パンチカードの模様穴に関係なく、編地の両端の編針が自動的にD位置に選針されるので、端目が美しく編みあがります。

●端針選針機構は、選針切替ツマミが〈もようあみ〉のときにはたらきます。



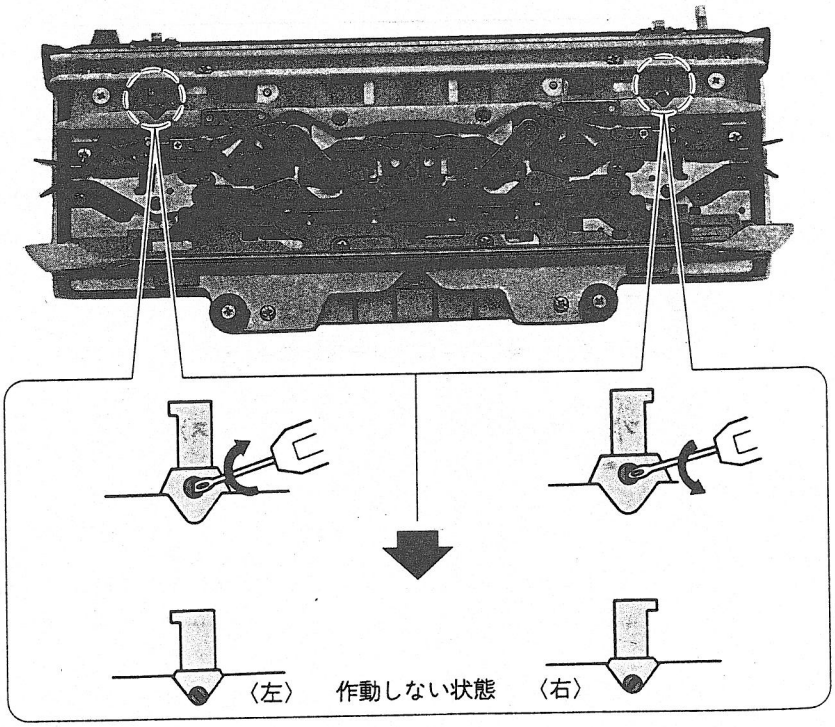


編込レース模様または針抜きで模様を編む場合

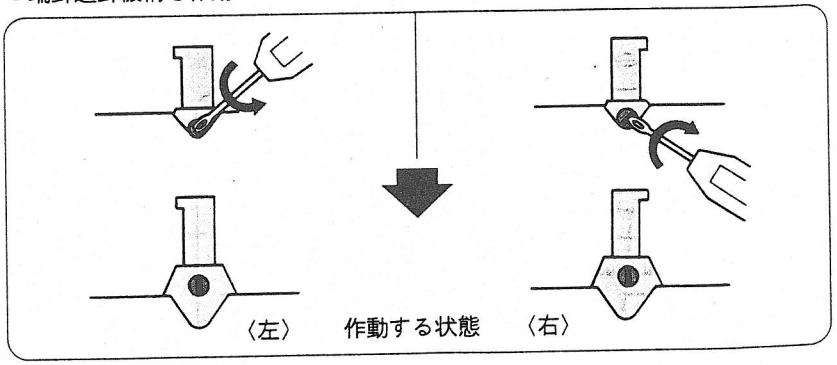
●下記のように端針選針機構を作動しないようにします。

①選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。
②Kキャリジを本体からはずし、裏返します。
③Kキャリジの端針選針機構を左右とも作動しないようにします。（右図参照）
④Kキャリジを本体にもどして編み進みます。

♣模様を編み終えたあとは、必ず端針選針機構を左右とも、作動するようにしておきます。



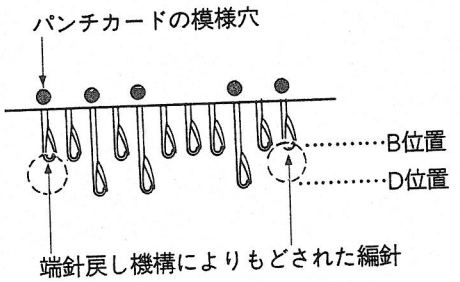
●端針選針機構を作動させるには……



●Lキャリジの端針戻し機構

端針戻し機構について

編地の端目を保つため、両端の編針はパンチカードの模様穴に関係なく、自動的にB位置にもどされます。



Lキャリジ とKキャリジの混合模様を針抜きで編む場合

●下記のようにLキャリジの端針戻し機構と、Kキャリジの端針選針機構を作動しないようにします。

①LキャリジとKキャリジを本体からはずし、両方とも裏返します。

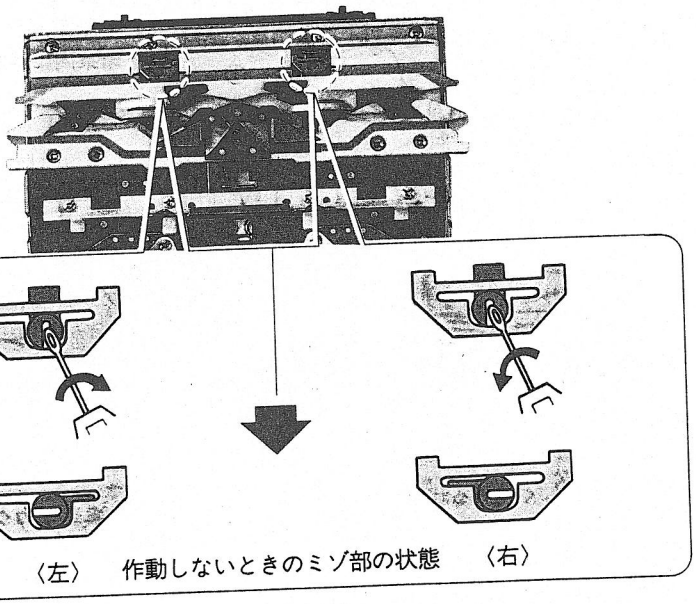
②Lキャリジの端針戻し機構を左右とも作動しないようにします。（右図参照）

③Kキャリジの端針選針機構を左右とも作動しないようにします。（22ページ参照）

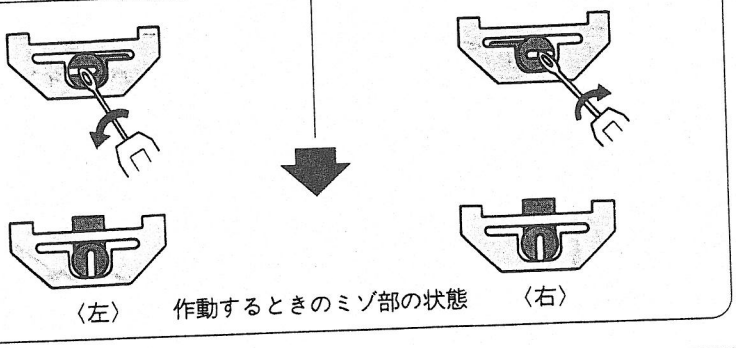
④それぞれの機構を作動しないようにしたら、LキャリジとKキャリジを本体にもどし、カードの指示に従って編み進みます。

♣編み終えたあとは、必ず両キャリジの機構を左右とも、作動するようにしておきます。

●Lキャリジの端針戻し機構が作動しているときのみLポイントカムによる部分消しができます。



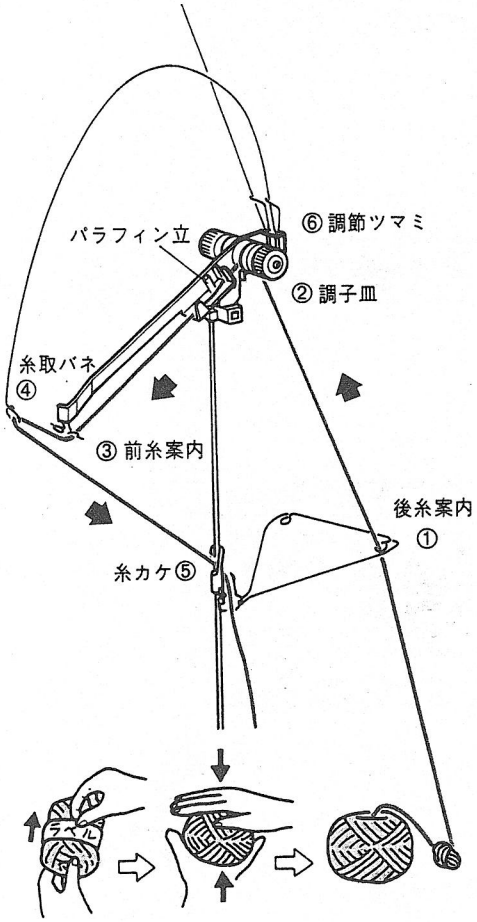
●Lキャリジの端針戻し機構を作動させるには……



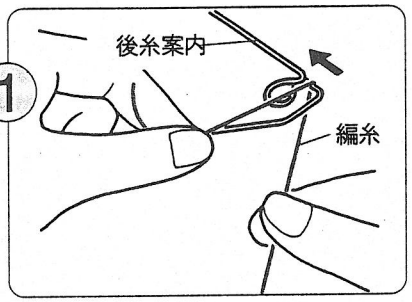
編機の基本操作

平編　平編を編む場合の操作は、編機を扱うときの基本操作となりますので、よく覚えてください。

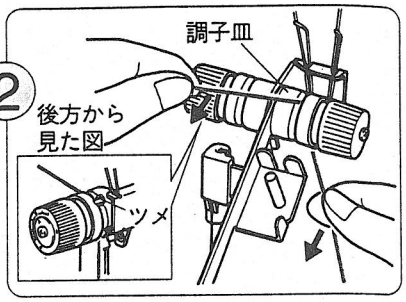
1. 編糸の通し方



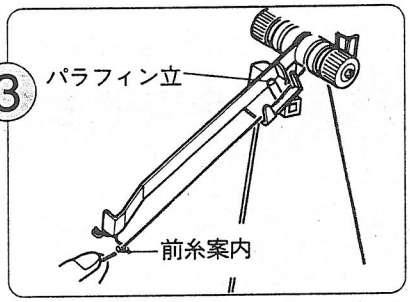
♣ ラベルが正しく読める状態で、中から編糸を引き出します。
♣ 編糸がスムーズに出ない場合は、糸玉の中に指を入れ、中心部分をさらに引き出します。



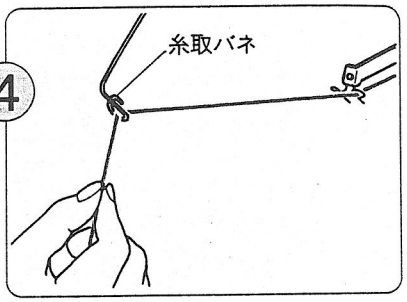
後糸案内の右側の穴に外側から編糸を通します。



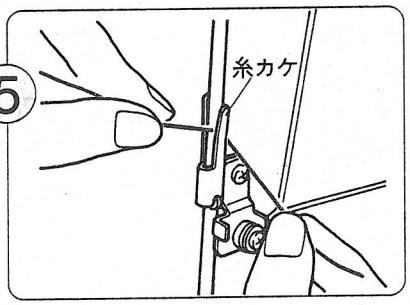
後方から、編糸をツメの内側に通し、調子皿にはさみます。
（上図のように糸を持ち、手前へ引けばツメの内側に糸が入ります。）



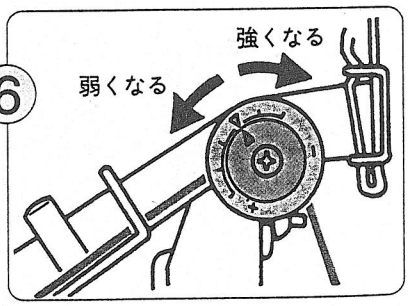
編糸をパラフィン立の上から引き、前糸案内に通します。



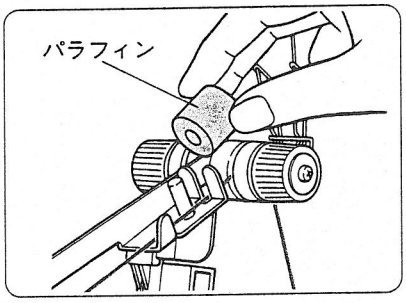
糸取バネに通します。



糸端を糸カケにはさみ込んで止めます。



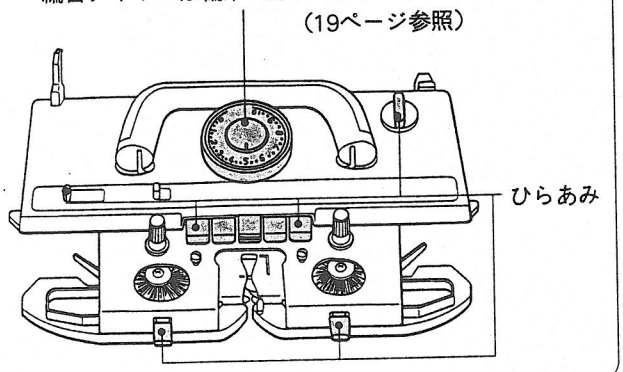
調節ツマミを、編糸に応じて調節します。＋側に合わせると編糸の引きが強くなり、－側に合わせると弱くなります。
♣中細毛糸は▽印に合わせ、太糸は－側、細めの糸は＋側にします。



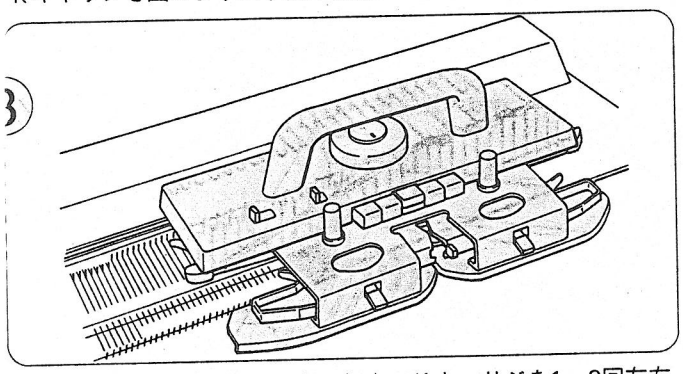
♣編糸のすべりが悪いときは、部品箱から、パラフィンを取り出して、パラフィン立に立ててください。

編み始め方

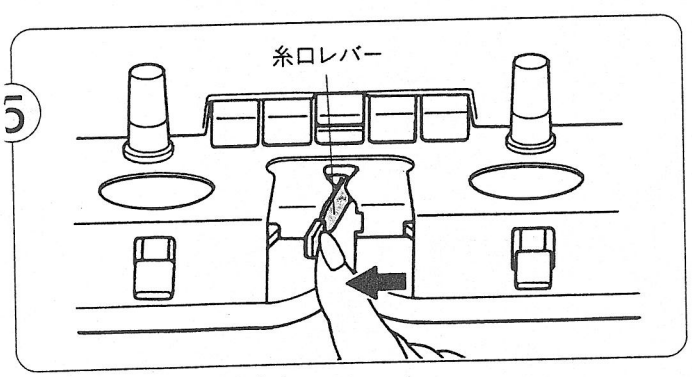
編目ダイヤルは編糸に応じて合わせます。
（19ページ参照）



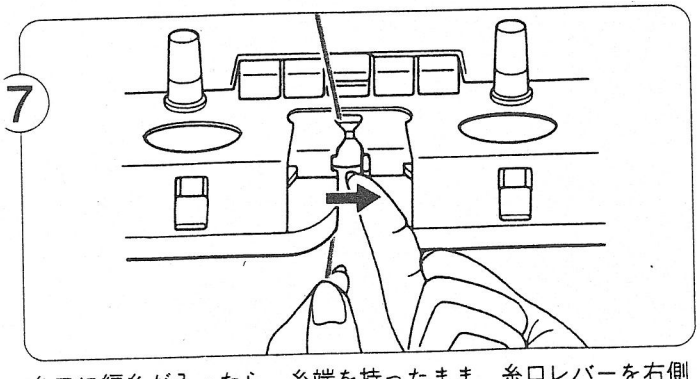
Kキャリジを図のように平編の状態にセットします。



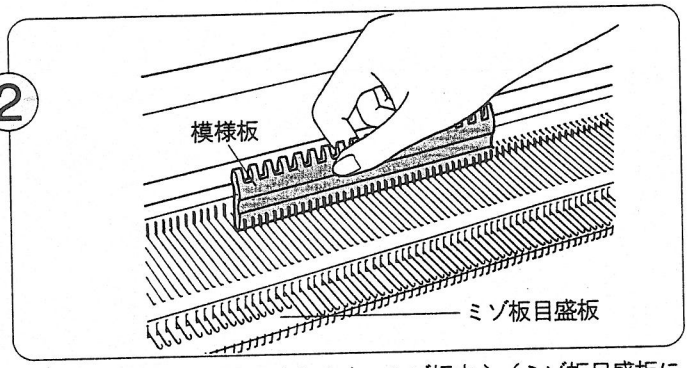
B位置に出した編針をそろえるため、Kキャリジを1～2回左右に動かし、ミゾ板の右側に置きます。



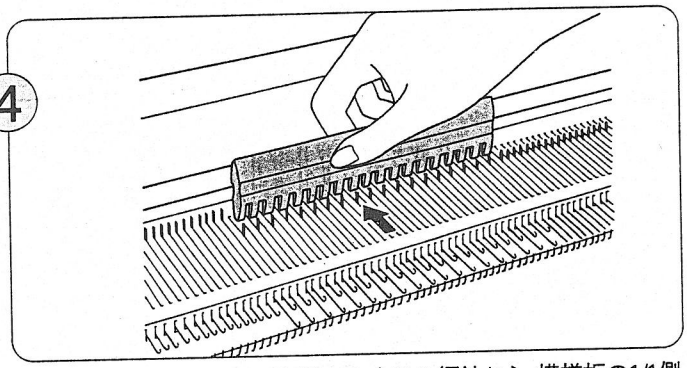
糸口レバーを左に開きます。



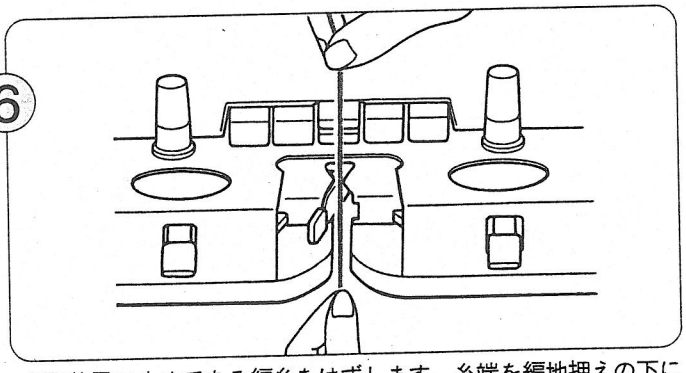
糸口に編糸が入ったら、糸端を持ったまま、糸口レバーを右側（もとの位置）にもどします。



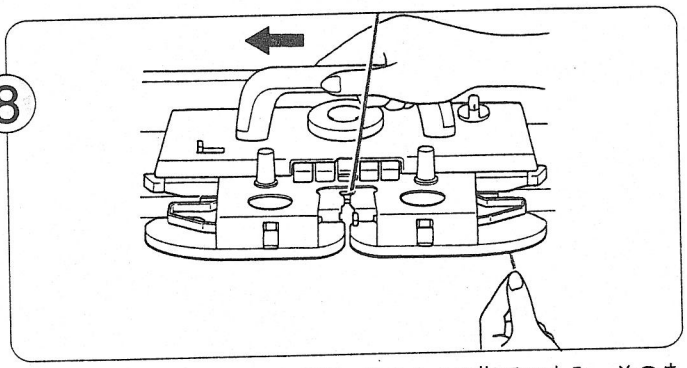
部品箱から模様板を取り出します。ミゾ板中心（ミゾ板目盛板についている目盛りの０の位置）から左右同数の編針を、模様板を使ってB位置（あむ位置）まで出します。



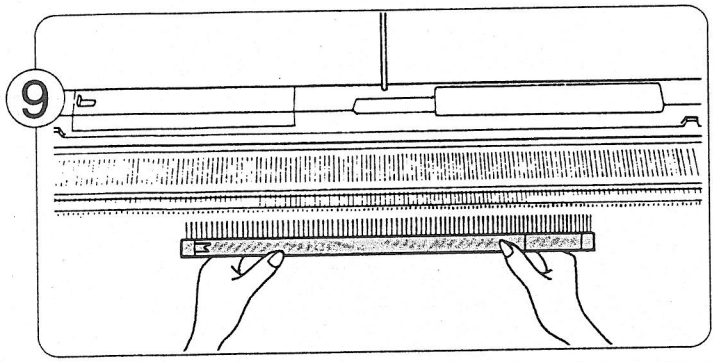
B位置に出した編針より左端の２本目の編針から、模様板の1/1側を使って１本おきにA位置に下げます。



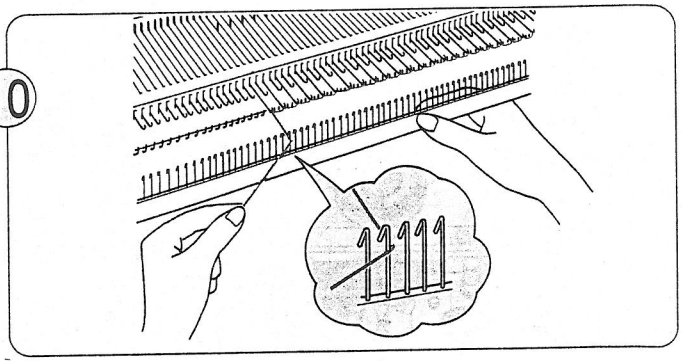
糸取装置に止めてある編糸をはずします。糸端を編地押えの下にして持ち、糸口Aの奥に入れます。



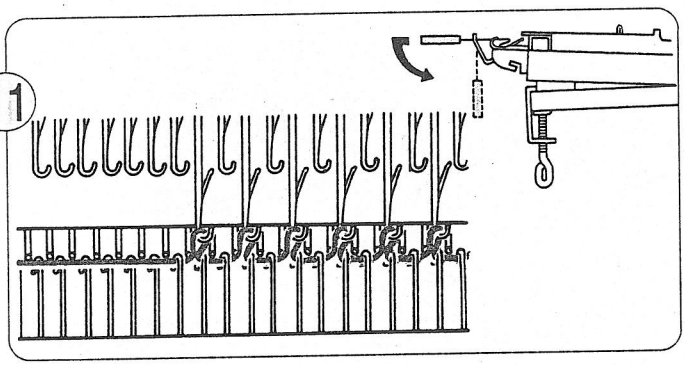
糸口に通した糸端をかるく真下に引くように指でつまみ、そのままの状態でKキャリジをゆっくり左側に動かします。編糸が編針にかかったことを確認してから糸端を離し、左端まで動かします。



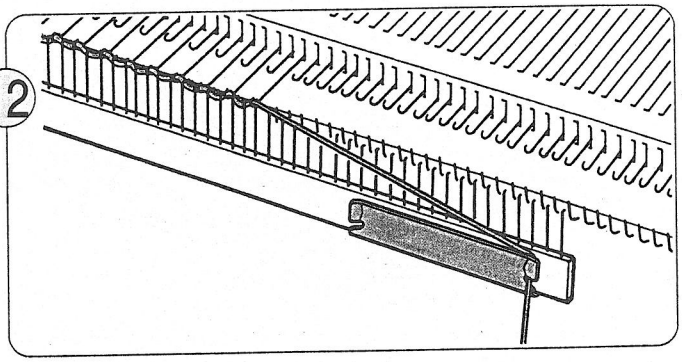
①ケースから編出シを取り出し、編地の幅に応じて編出シを選びます。(20ページ参照)
②編出シのフック部先端を編機側にし、編地の幅に対して左右均等な位置に持ちます。



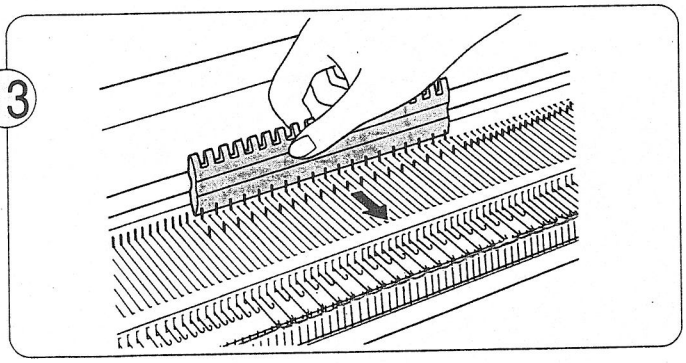
編まれていない編糸をつまんで手前に引き、編出シを下から入れます。



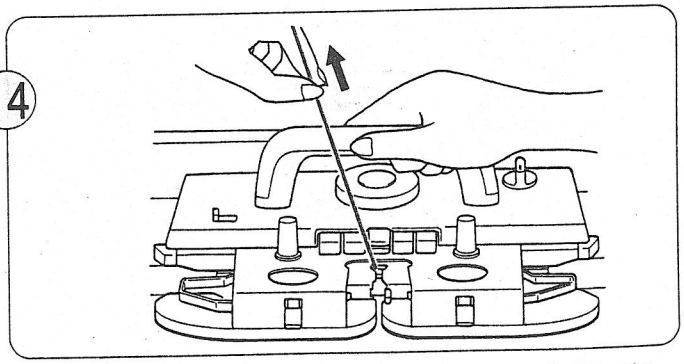
編出シを編機と水平にし、編まれた編糸に編出シのフックをかけ、下へ引きます。



右端の糸端は、編出シの糸カケにかけます。

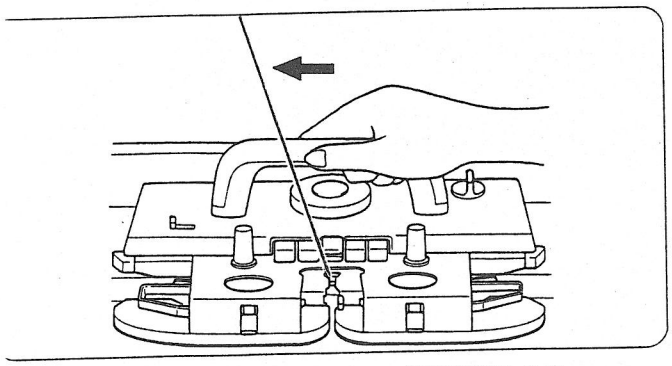


A位置にもどされている編針は、模様板を使ってB位置にそろえます。



編糸を指でつまみ、かるく上に引き、編糸のたるみを取りながら、Kキャリジを右にゆっくり動かして1段編みます。
編糸のたるみがなくなったら左手を放してください。

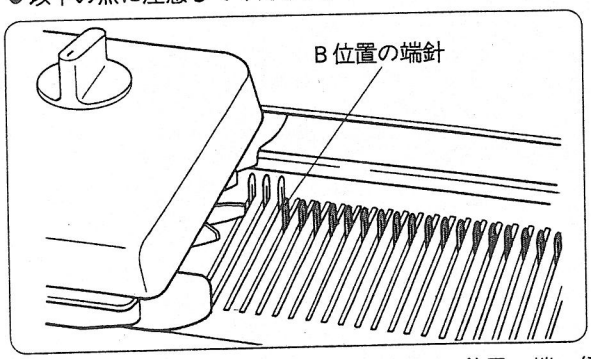
. 編み方



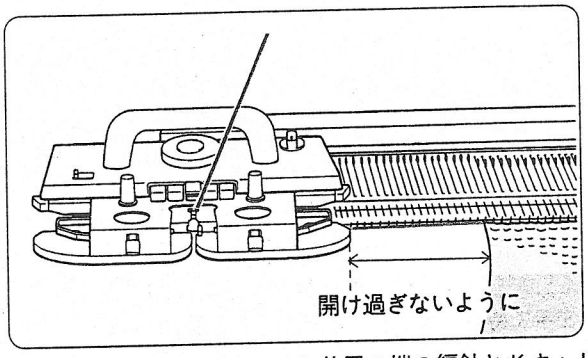
くキャリジをそのまま左右に動かすと、平編が編めます。

Kキャリジを動かす前に

●以下の点に注意してください。



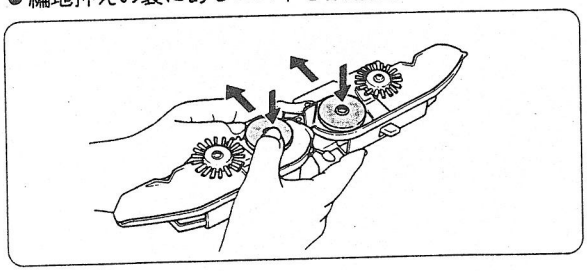
Kキャリジの折り返しは、進行方向側のB位置の端の編針がKキャリジの端から完全に抜けた位置から折り返します。



Kキャリジの折り返しは、B位置の端の編針とKキャリジの端との間を開け過ぎないようにしてください。編糸がたるむ原因になります。

綿・化繊レース糸などで編む場合には

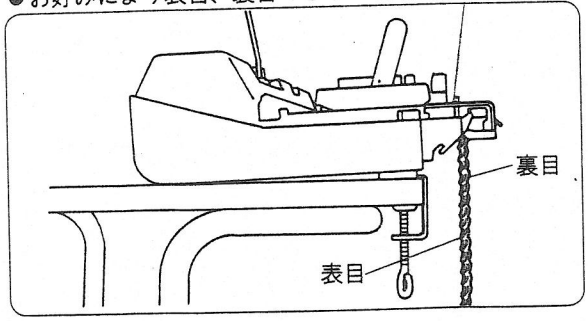
●編地押えの裏にあるゴム車を作動位置に出してください。

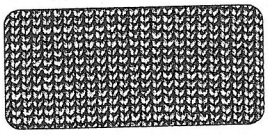


(1) 編地押えをKキャリジからはずし、裏返します。
(2) 左右のゴム車を、押さえながら矢印の方向に出します。
♣ もどす場合には、出したときと反対方向に押しもどしてください。

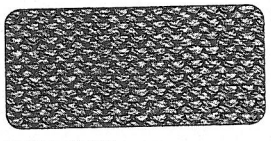
編地の表と裏

●編地が編針にかかっているとき、手前に見える面を裏目、反対側の面を表目といいます。
●お好みにより表目、裏目のどちらも作品として使うことができます。





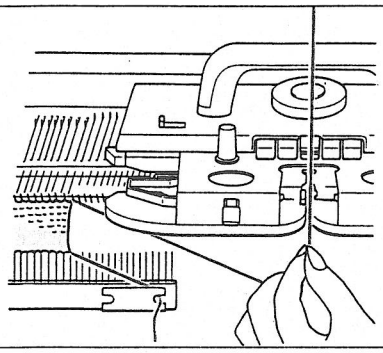
平編の表目



平編の裏目

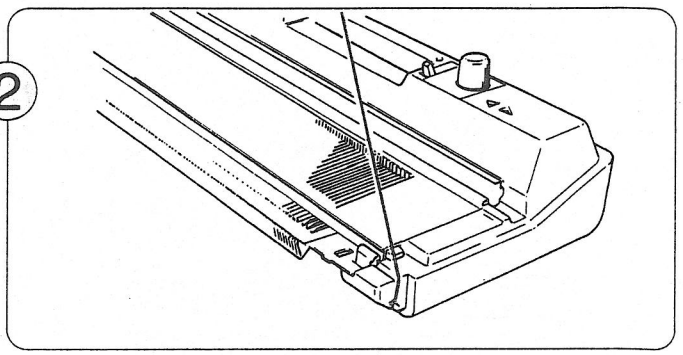
4. 編地のはずし方

①



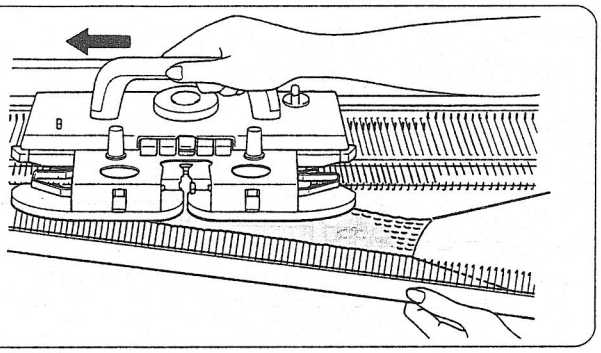
編糸を糸口からはずします。

②



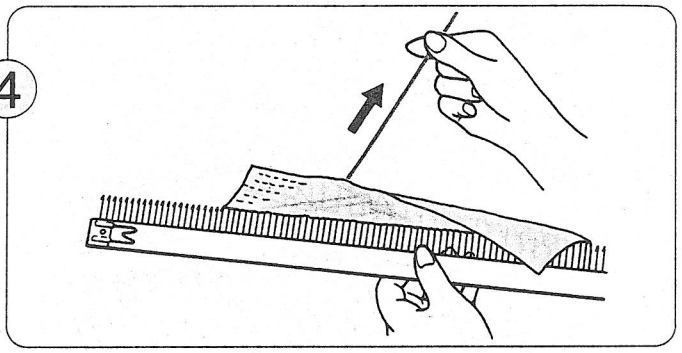
編糸を糸カケに休めます。

③



編地を左手で持ちながら、Ｋキャリジを１段動かします。

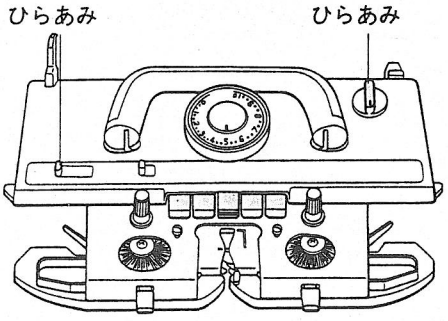
④



編糸を引っぱれば、かんたんにほどけます。

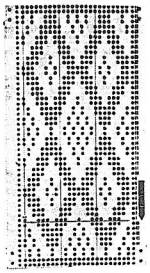
模様を編んでいる途中で、編地をはずすとき

●選針切替ツマミと引返しレバーを〈ひらあみ〉に合わせ、Ｋキャリジを平編の状態にします。その後、上記①～④を行います。



模様とパンチカード

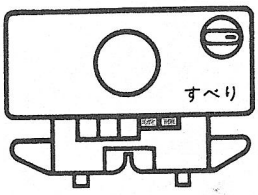
カードNo.11

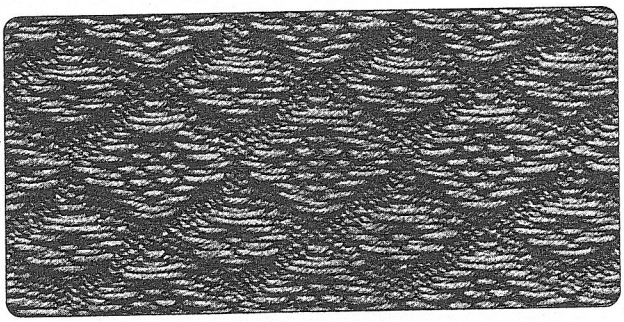


- 編機にパンチカードをセットすると、キャリジを左右に動かすだけでいろいろな模様を編むことができます。
- 編機には、20枚のパンチカードが付属されております。
- １枚のパンチカードを使い、模様に合わせてカムボタンなどをセットすれば、いろいろ変化に富んだ模様を編むことができます。

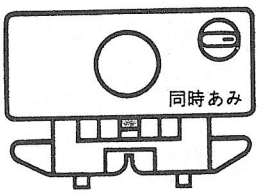
〈例〉カードNo.11を使って、次のような模様がお楽しみいただけます。

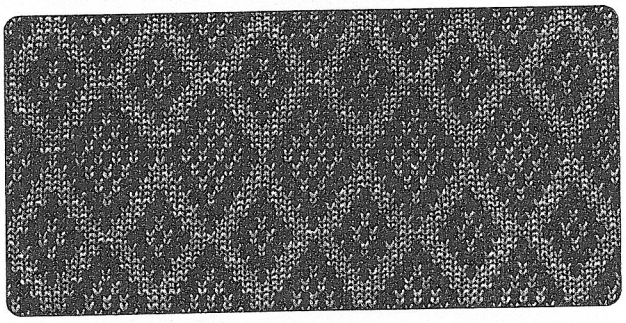
すべり目模様



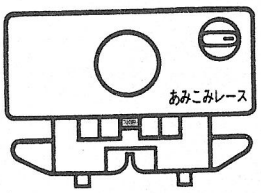


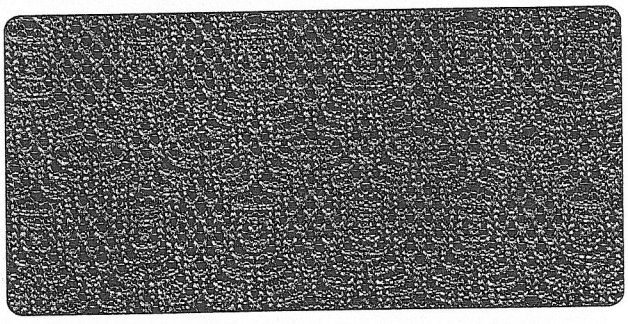
同時編込模様



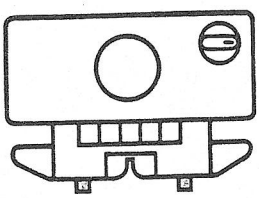


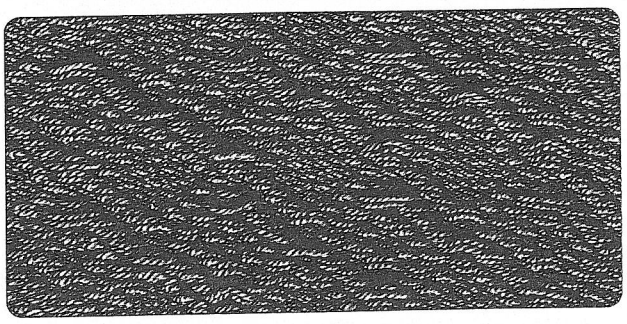
編込レース模様





スレッド模様



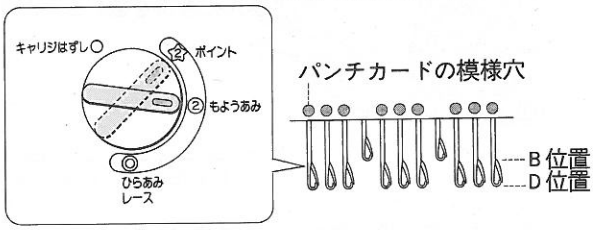


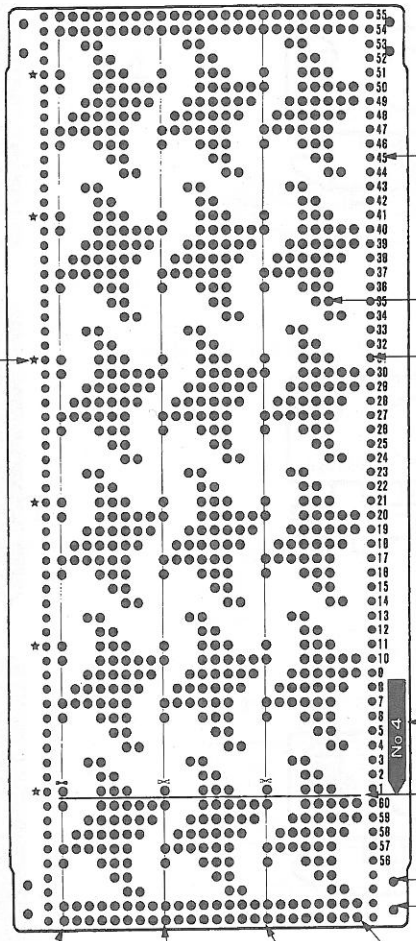
パンチカードの見方と編針の関係

●パンチカードの１模様は24目(24針)です。
● １模様は編機の中心(左12から右12の編針)に編め、その左右に繰り返して連続模様が編めます。
●ミゾ板目盛板の選針マーク(ピンクの帯または線の部分)は１模様(24針)が編まれる位置を示しています。
●パンチカードの穴のあいている部分(模様穴)に対応する編針がＤ位置に選針されます。

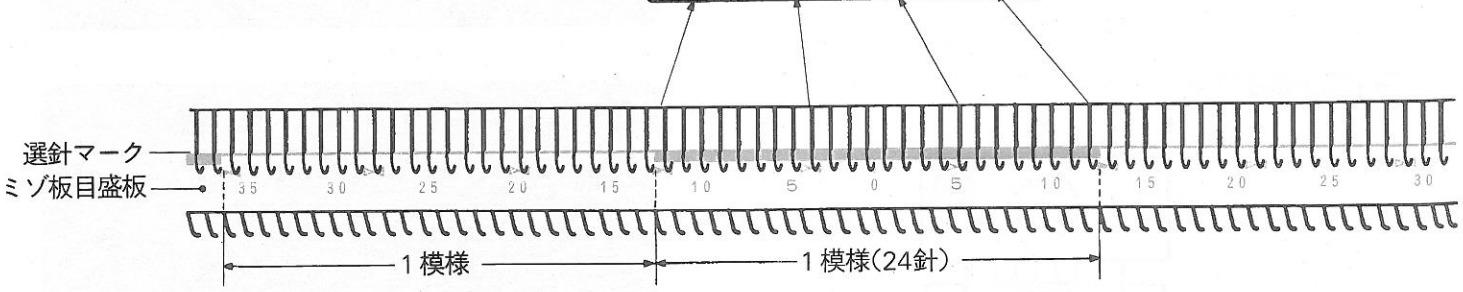
選針とは……

パンチカードの模様穴にしたがって、次の段に編む模様に応じて編針がＢ位置とＤ位置に分かれることです。
♣選針切替ツマミが〈もようあみ〉または〈ポイント〉にセットされているときに、編針が選針します。



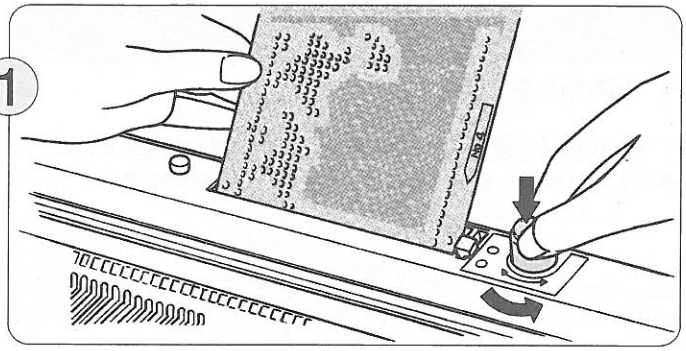


切替マーク
配色糸および間欠送りの切替位置を示しています。

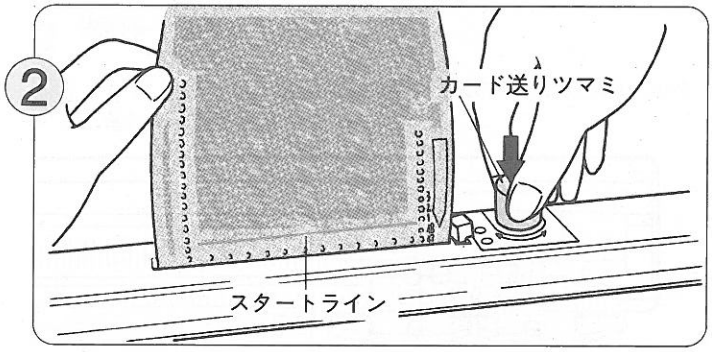


♣パンチカードは折りたたんだり折り目をつけないようにしてください。

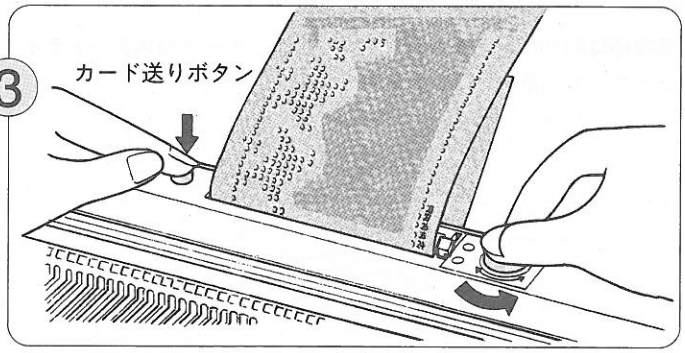
パンチカードのセット方法



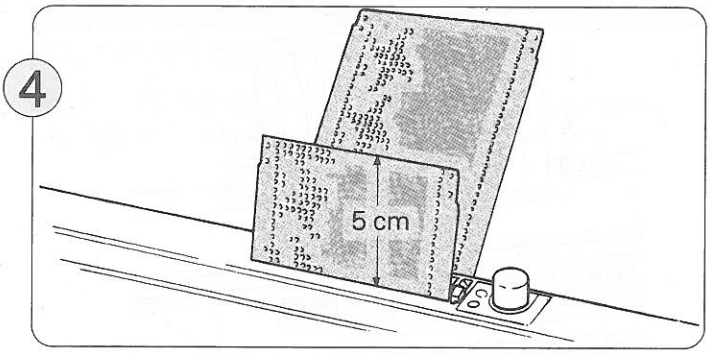
パンチカードのカードNo.を右下にし、カード送りツマミを押したまま〈おくる〉方向へ回して、カード差込口へまっすぐに差し込みます。



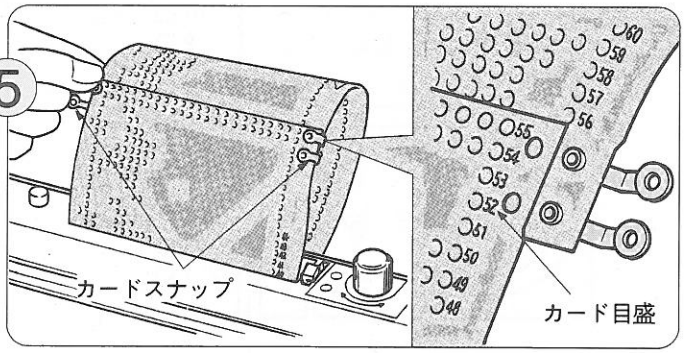
パンチカードのスタートラインとカード差込口が平行になっていることを確認します。



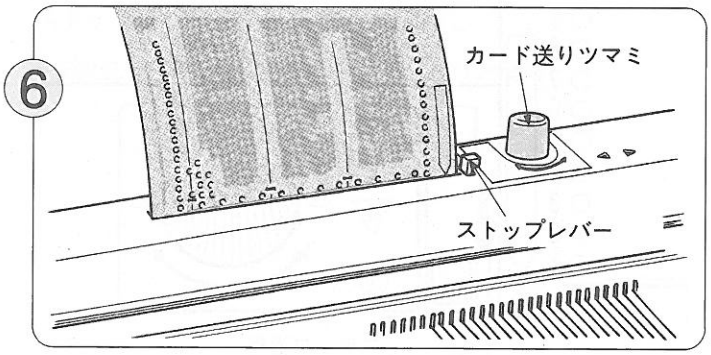
さらにパンチカードを送ります。カード送りボタンをいっぱいに押したまま、カード送りツマミを回すと、楽にパンチカードを送ることができます。



パンチカードを、カード差込口から約5 cmの位置まで送ります。



カード差込口から出ているカードの端を上にして、付属のカードスナップでカードの両端をつなぎます。
（カードをつないだ時、カード目盛の番号がつながります。）



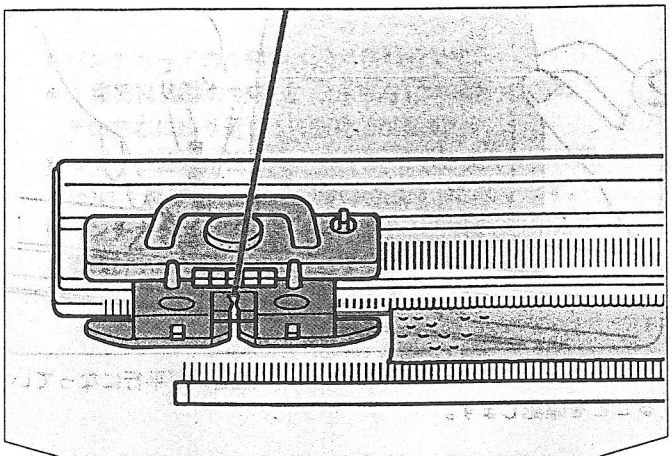
パンチカードのスタートラインをカード差込口に合わせ、ストップレバーを〈とまる〉に合わせます。

◀知識メモ▶

- カード送りツマミは、模様編の途中で編針が正しく選針されているかどうかを確認したいときにも使います。（73ページ参照）
- カード差込口に見えているカード目盛から7段もどった位置の模様穴が、選針されている編針と対応します。

模様編の基本ステップ

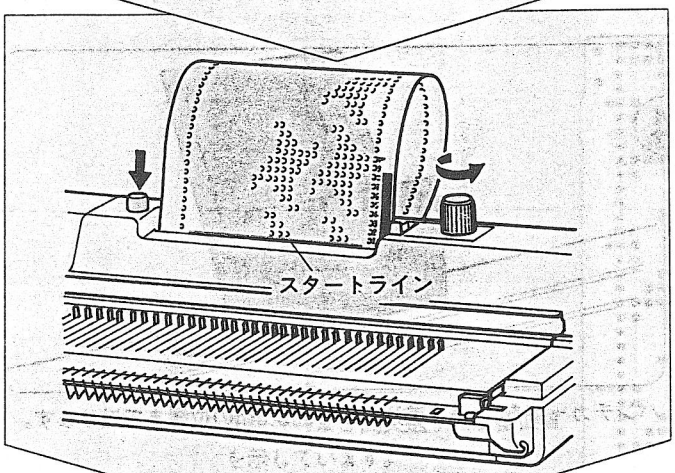
模様編は、それぞれの模様により操作のしかたが異なりますが、基本的な順序として下記のようなステップに分けることができます。編機には“ステップ番号”が表示されており、操作の手順がわかりやすくしてあります。模様ごとの詳しい操作については、それぞれの項目で説明します。



ステップ 1

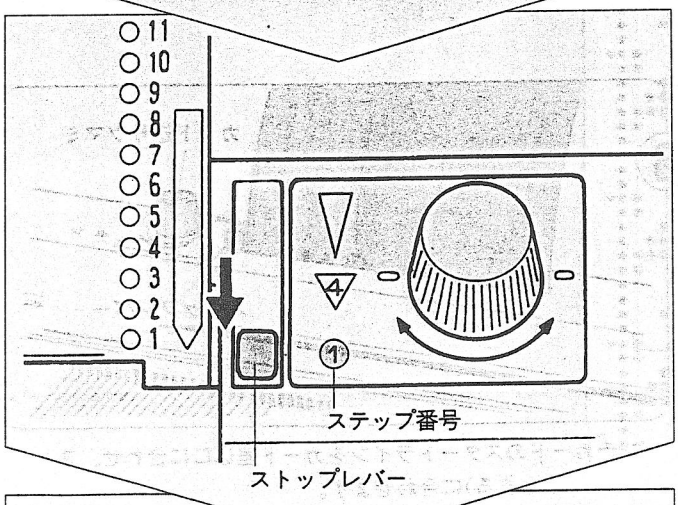
1 編み始めを行います。

平編を10段ほど編んでから、Kキャリジを左側に置きます。
♣間欠送り模様を編む場合には、Kキャリジを右側に置きます。



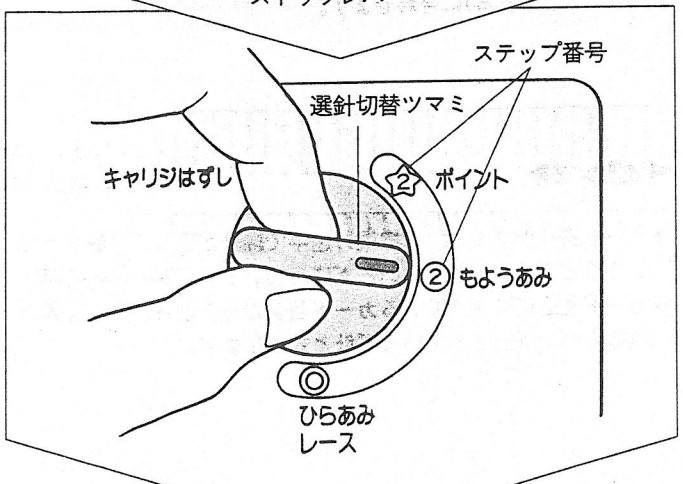
2 パンチカードをセットします。

各模様に応じたパンチカードをセットし、カードのスタートラインをカード差込口に合わせます。



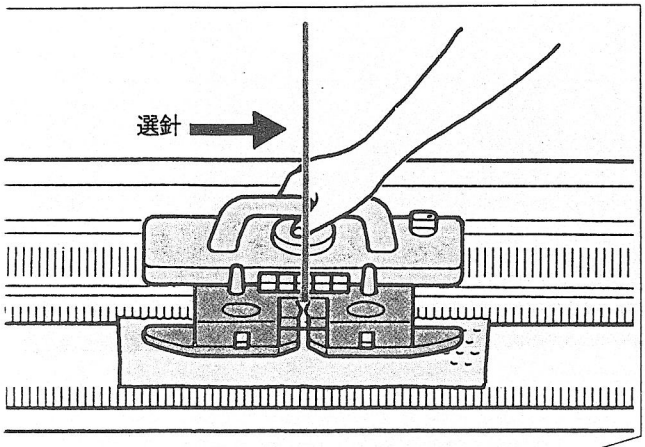
3 ストップレバーを①に合わせます。

ステップ 2



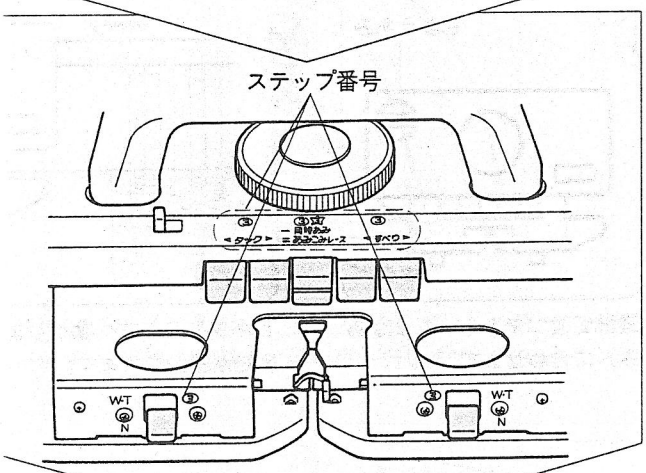
1 選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。

♣ポイント模様を編む場合には〈ポイント〉に合わせます。



2 選針をします。

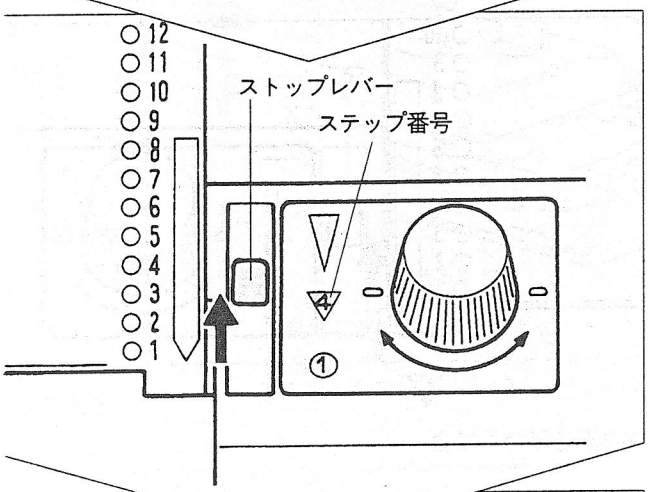
Kキャリジをゆっくり右側(間欠送り模様のときは左側)へ操作すると編針が選針されます。



ステップ 3

カムボタンまたはスレッドレバーをセットします。

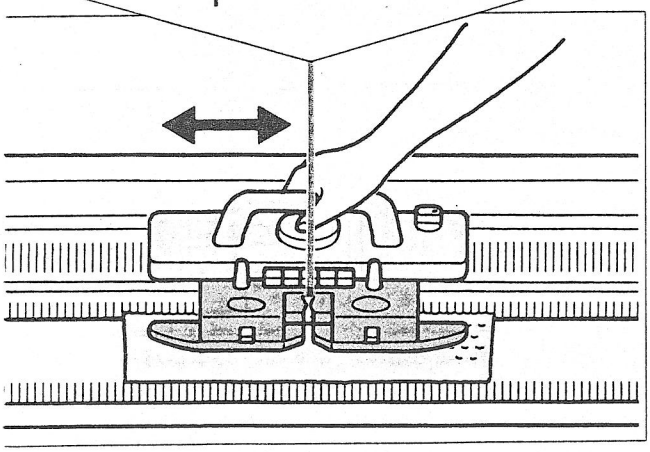
♣ステップ2で②印に合わせたときは③印のいずれかのボタンを、(2)印に合わせたときは(3)印のボタンを押します。



ステップ 4

ストップレバーを〈(4)〉に合わせます。

♣間欠送り模様を編む場合には〈▽〉に合わせます。

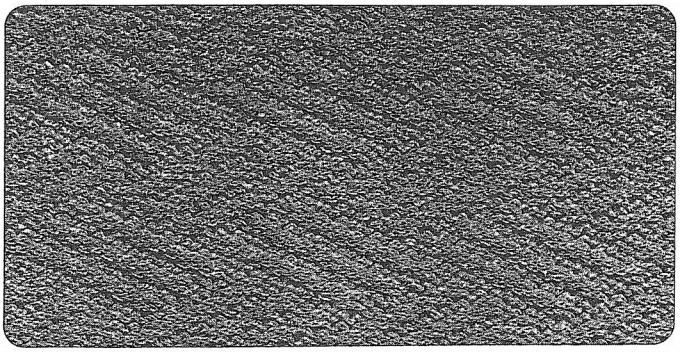


Kキャリジを動かし編み進みます。

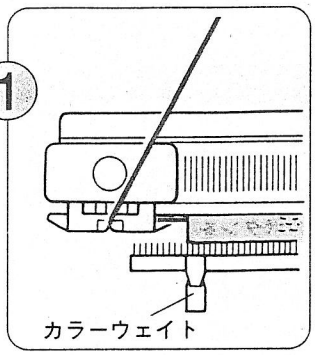
♣配色糸を使用する模様の場合は、色糸口に入れてからKキャリジを動かします。

すべり目模様　利用できるカード：No.1・2・3・5・7・8・11

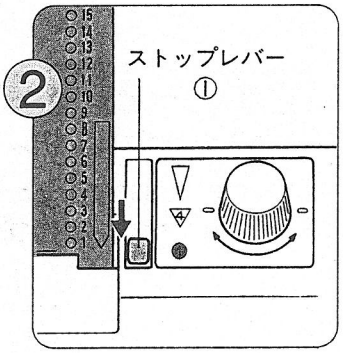
カードNo.5



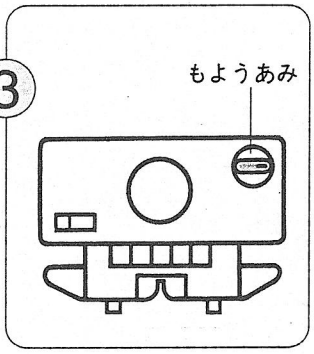
●模様の編み方



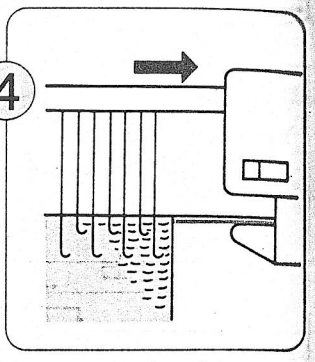
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。



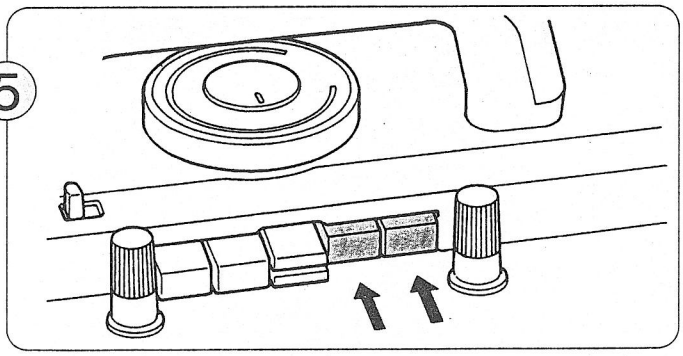
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。



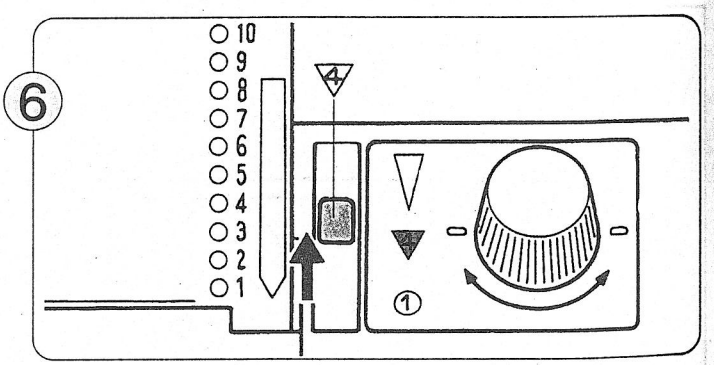
選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。



Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。

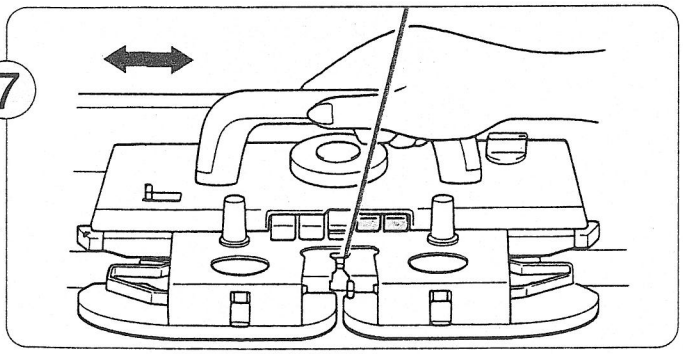


カムボタンの〈すべり〉左右を押します。

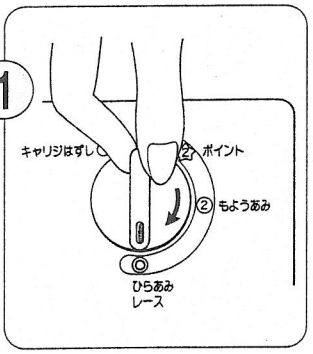


ストップレバーを〈▼〉に合わせます。

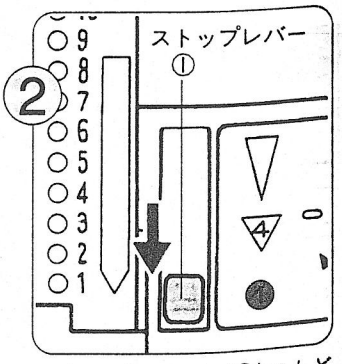
●模様を終わる場合



Kキャリジを左右に動かすと、すべり目模様が編めます。



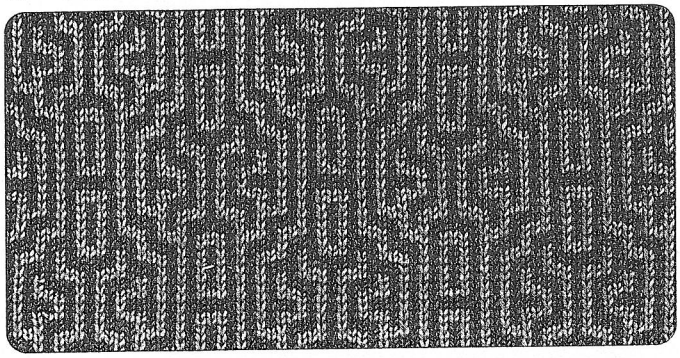
選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。カムボタンは、自動的にもどります。



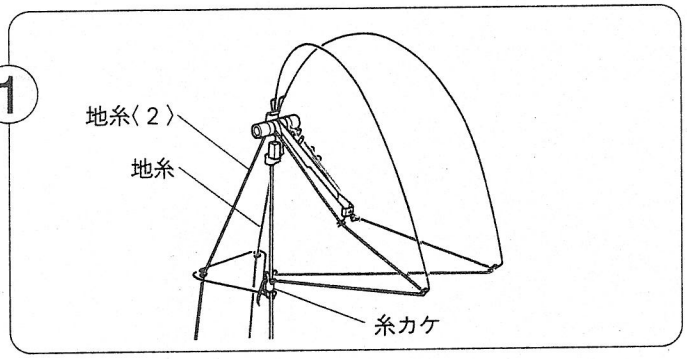
ストップレバーを〈●〉にもどします。

配色すべり目模様　利用できるカード：すべり目模様と同じです。

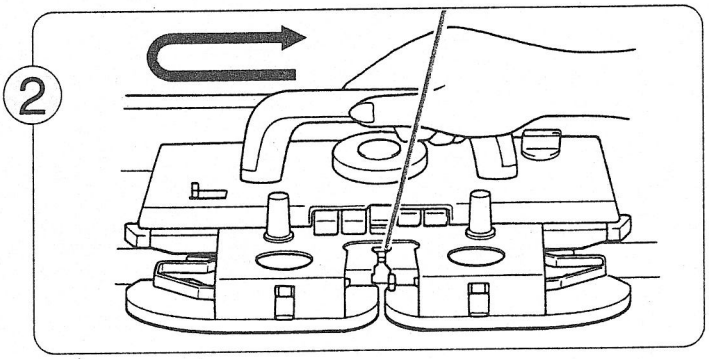
カードNo.7



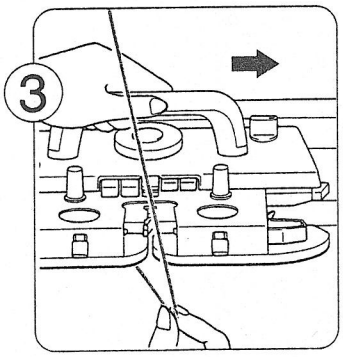
●すべり目模様と同じ操作で編みますが、２色の編糸を２段ごとに入れ替えながら編みます。

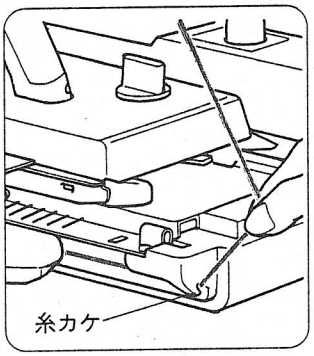


糸取装置の右側に地糸を、左側に地糸〈２〉を通し、糸カケに止めます。すべり目模様の①～⑥を行います。（34ページ参照）

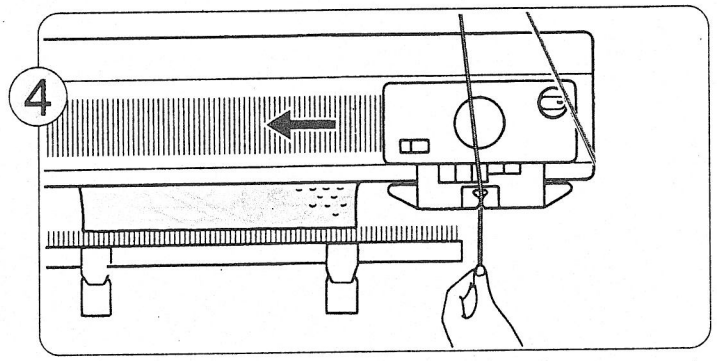


Kキャリジを動かし、２段編みます。

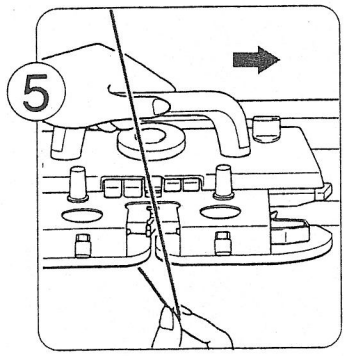


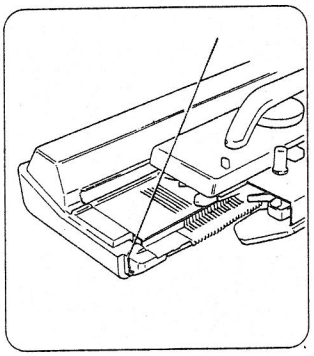


地糸を糸口Aからはずし、編機右端の糸カケに休めます。
〔Kキャリジを少し右（外側）へずらせば、編糸がうまくはずれます。〕

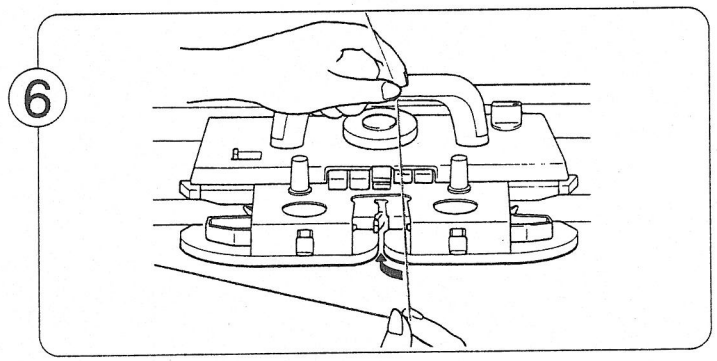


糸取装置に止めてある地糸〈２〉を糸口Aに入れ、２段編みます。





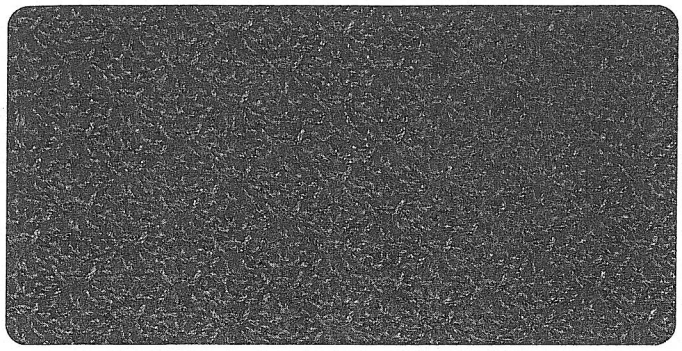
地糸〈２〉を糸口Aからはずし、編機左端の糸カケに休めます。
♣糸取装置の右側の編糸（地糸）は編機右端の糸カケに、左側の編糸（地糸〈２〉）は編機左端の糸カケに休めます。



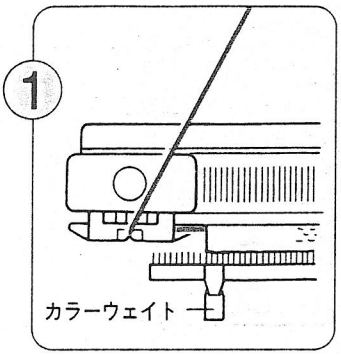
編機右側の糸カケに休めてある地糸を、糸口Aに入れ２段編みます。糸口Aの編糸を、２段ごとに入れ替えながら編みます。

タック模様 利用できるカード：No.1・2・3・7・8

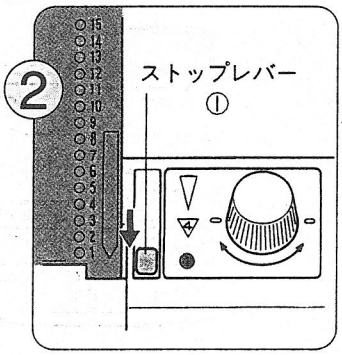
カードNo.2



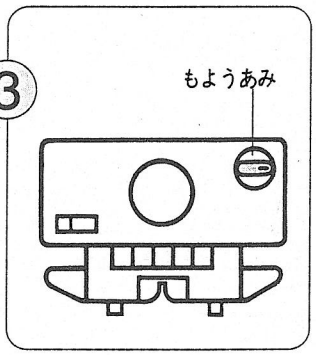
●模様の編み方



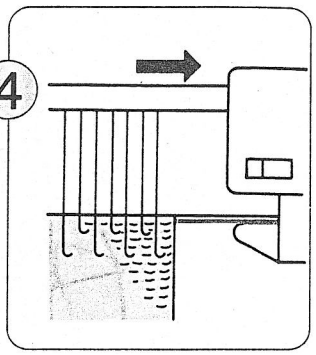
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。



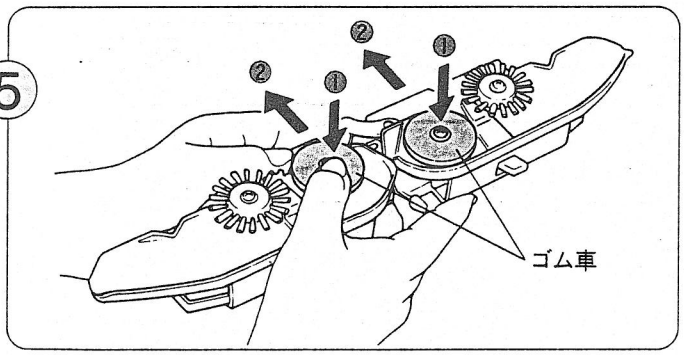
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。



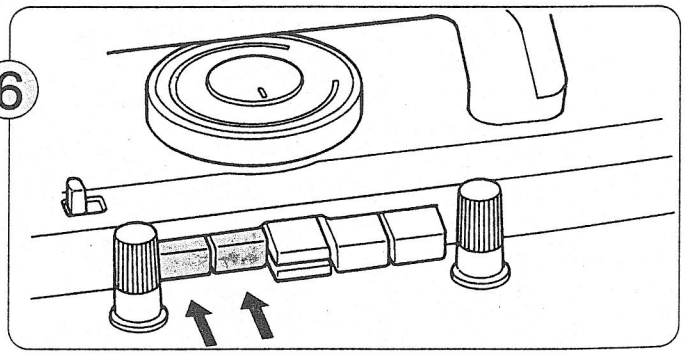
選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。



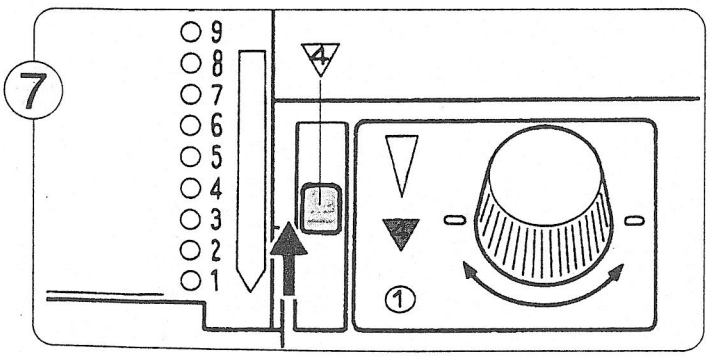
Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



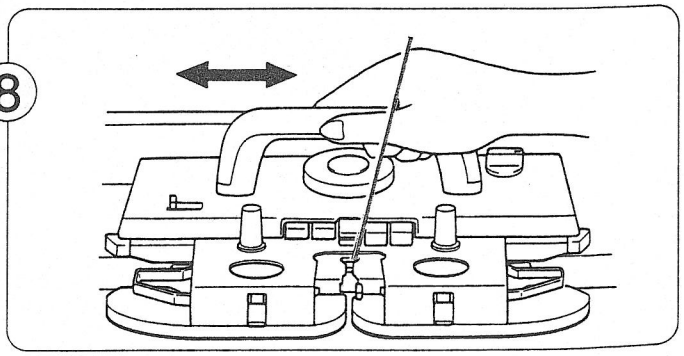
編地押えをKキャリジからはずして❶ゴム車のネジ頭を押し❷そのまま矢印方向へ“パチッ”と音がするまで押し出します。編地押えをKキャリジに取り付けます。



カムボタンの〈タック〉を左右同時に押します。

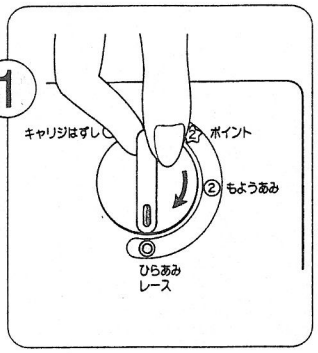


ストップレバーを〈▼〉に合わせます。

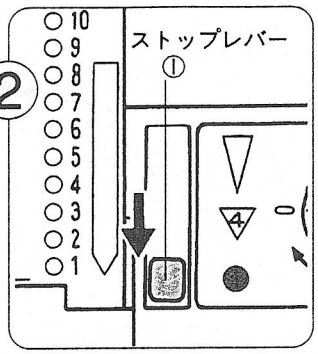


Kキャリジを左右に動かすと、タック模様が編めます。

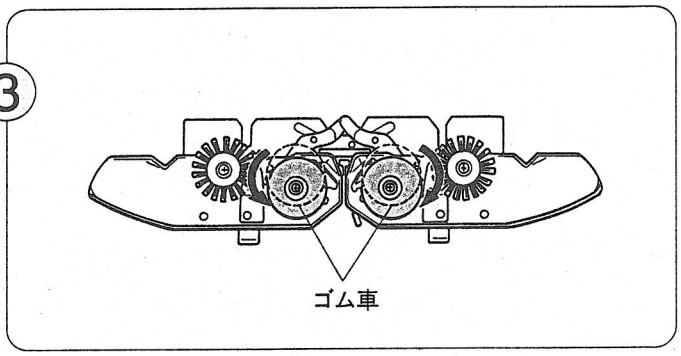
●模様を終わる場合



選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。カムボタンは自動的にもどります。



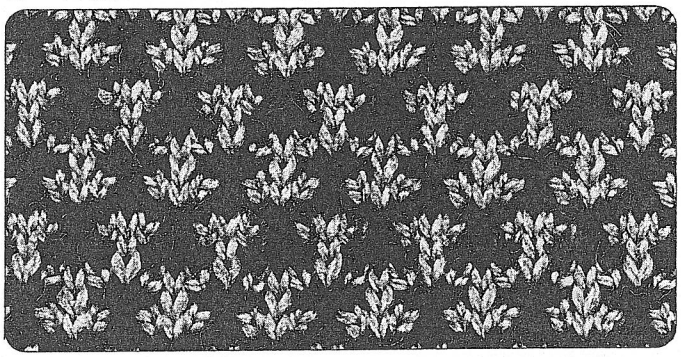
ストップレバーを〈●〉にもどします。



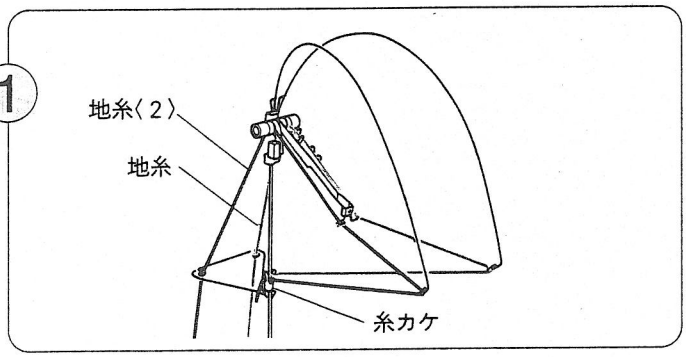
ゴム車をもどします。

配色タック模様　利用できるカード：タック模様と同じです。

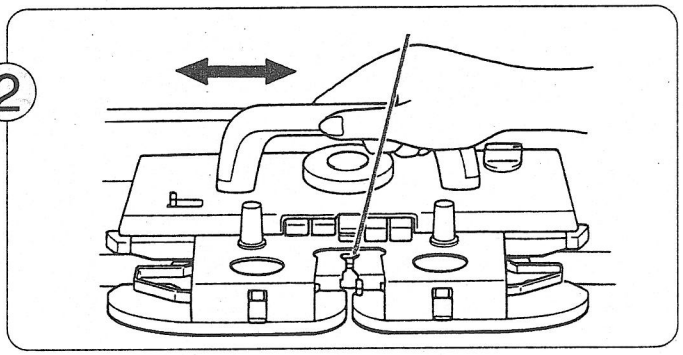
カードNo2



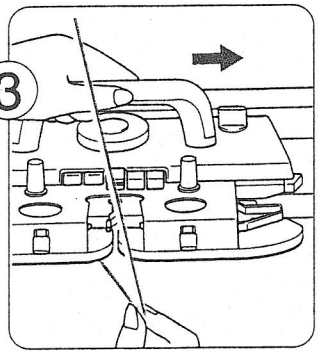
●タック模様と同じ操作で編みますが、2色の編糸を2段ごとに入れ替えながら編みます。

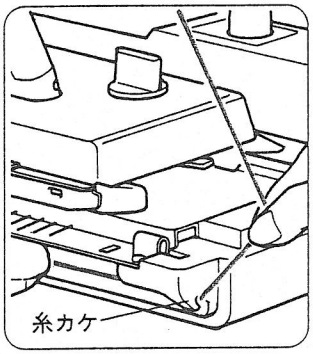


糸取装置の右側に地糸を、左側に地糸〈2〉を通し、糸カケに止めます。タック模様の①～⑦を行います。（36ページ参照）



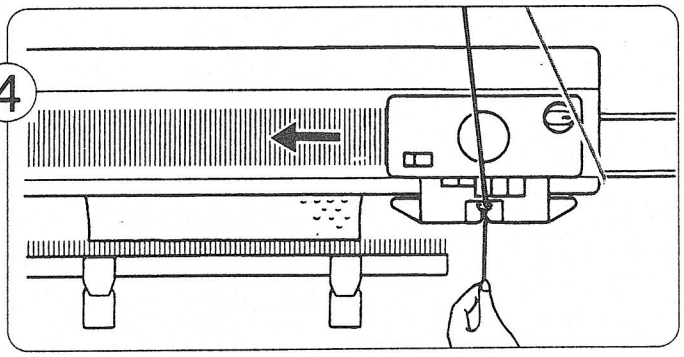
Kキャリジを動かし、2段編みます。





編糸を糸口Aからはずし、編機右端の糸カケに休めます。（35ページ③と⑤参照）

〔Kキャリジを少し右(外側)へずらせば、編糸がうまくはずれます。〕

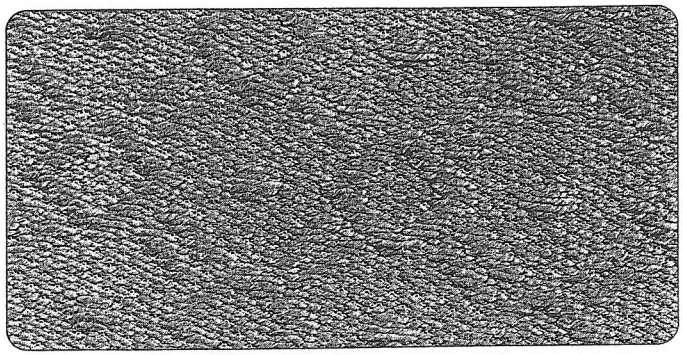


糸取装置に止めてある地糸〈2〉を糸口Aに入れ、2段編みます。糸口Aの編糸を、2段ごとに入れ替えながら編みます。

〔編糸を入れ替えるとき、前の編糸と交差しないように注意してください。〕

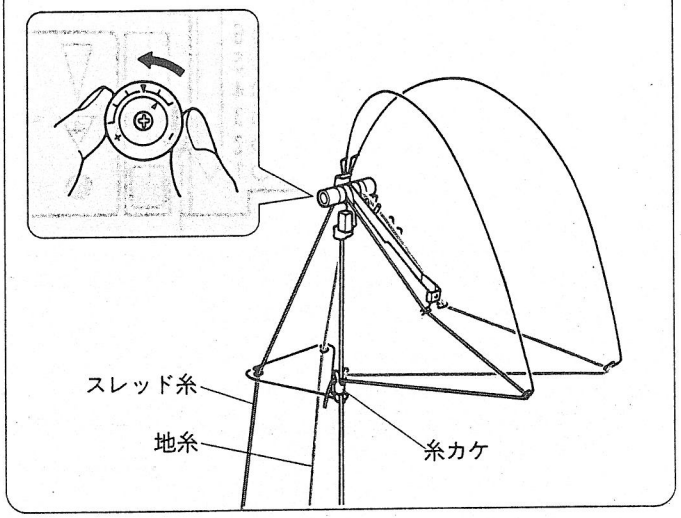
スレッド模様 利用できるカード：No.1・2・3・5・7・8・11

カードNo.7



●２色の編糸（地糸用・スレッド糸用）を使用します。
●スレッド糸には、地糸より少し太めの編糸を使うと効果的です。

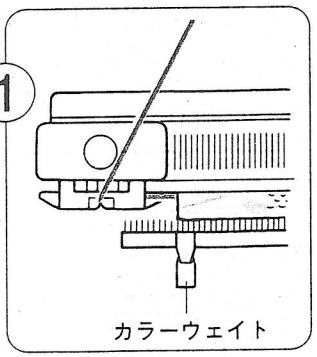
●編糸の通し方



糸取装置の右側へ地糸を、左側へスレッド糸を通します。
♣スレッド糸が太いものや、すべりが悪いときにはツマミを〈一側〉にし、Kキャリジの編目ダイヤルを大きめに合わせます。

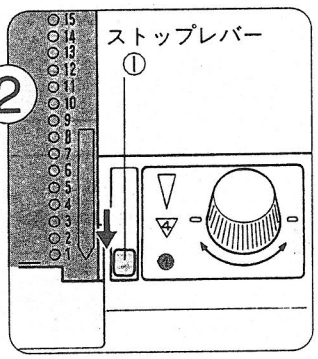
●模様の編み方

1



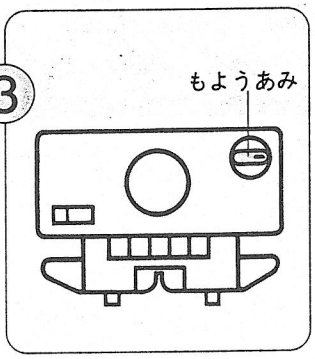
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。

2



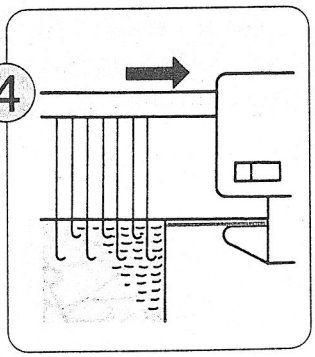
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。

3



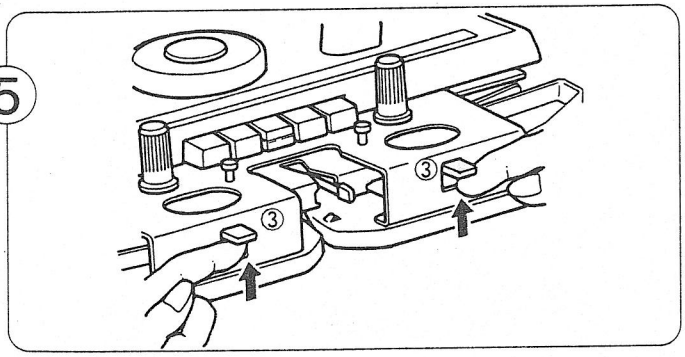
選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。

4



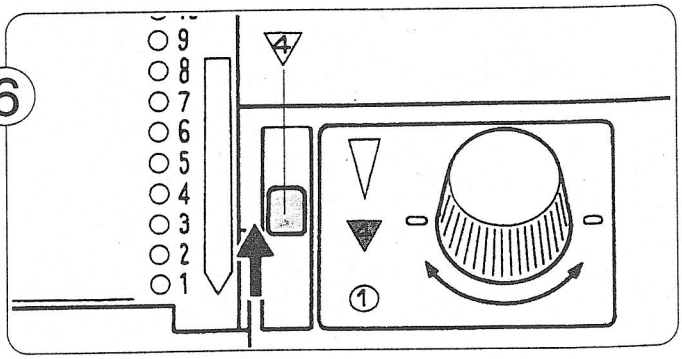
Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。

5

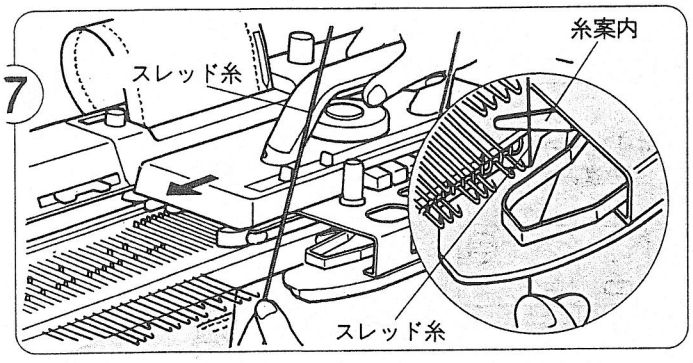


左右のスレッドレバーを〈W･T〉に合わせます。

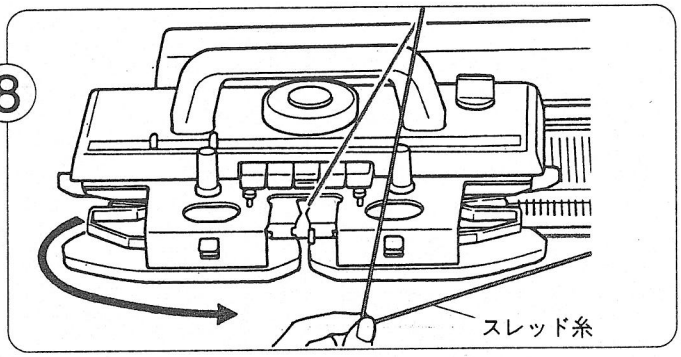
6



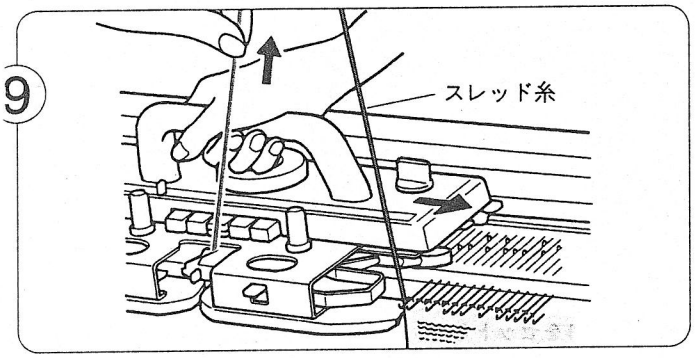
ストップレバーを〈▼〉に合わせます。



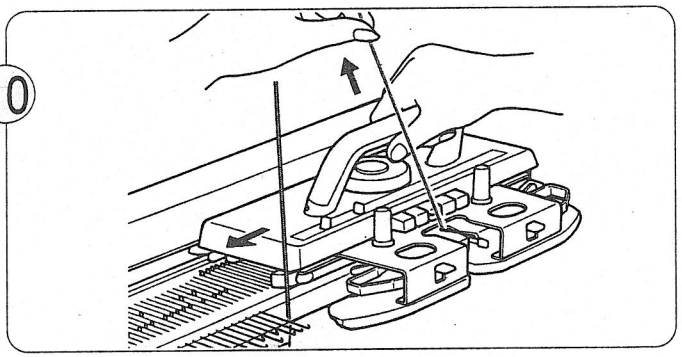
糸取装置に止めてあるスレッド糸を、Kキャリジ左の糸案内に入るように持ち、Kキャリジを左へ１段動かします。
♣スレッド糸の糸端は、１段編んで離します。



スレッド糸を左の糸案内から引き離し、編地押えの下をくぐらせ、Kキャリジの右で離します。（Kキャリジを少し左〈外側〉へずらせばうまくはずれます。）

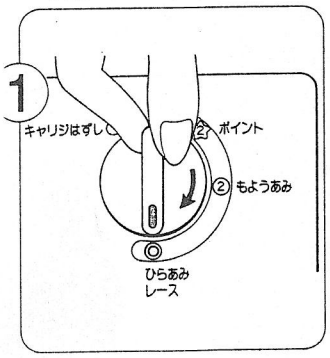


Kキャリジを右へ移動させ、スレッド糸が右の糸案内に入るのを確かめて、地糸を軽く上に引きながら１段編みます。

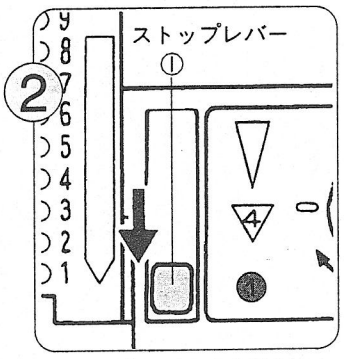


毎段スレッド糸を左右の糸案内に入れて、地糸を軽く上に引きながら編みます。

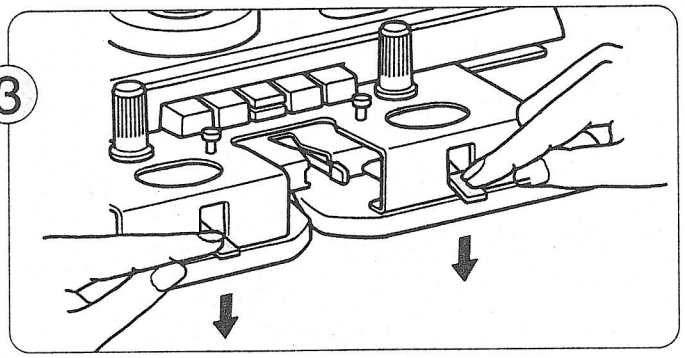
●模様を終わる場合



選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。



ストップレバーを〈●〉にもどします。



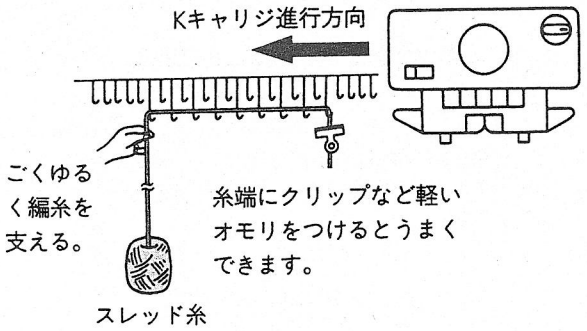
スレッドレバーを〈N〉にもどします。

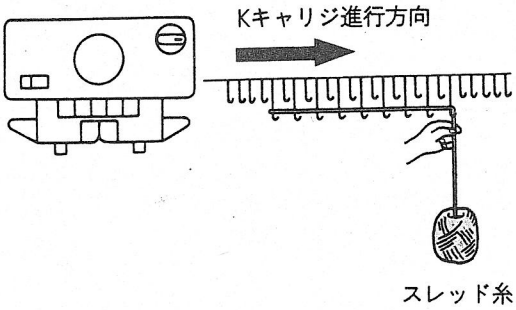
スレッド糸から色以上の1台

スレッド糸を替えるのには、糸取装置のスレッド糸を替える方法と、他のスレッド糸を手で編針の上に渡す方法があります。

● スレッド糸を手で渡す方法

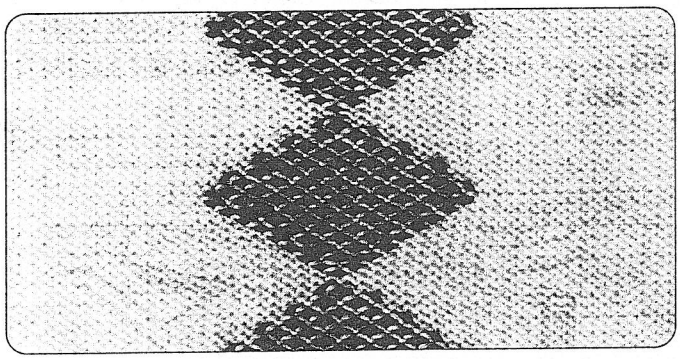
スレッド糸を必ずKキャリジのある側からクシバに近寄らせて、選針されている編針の上に渡してから、Kキャリジを１段操作します。毎段スレッド糸を渡しながら、Kキャリジを操作して、編み進みます。





ポイント・スレッド模様　利用できるカード：No.1

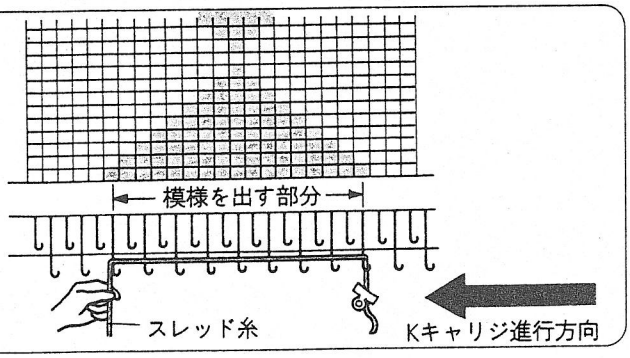
カードNo.1



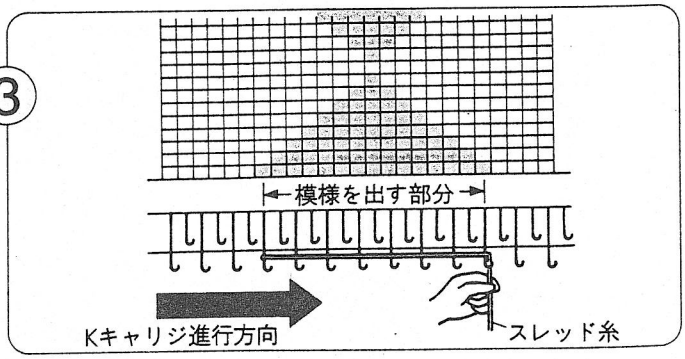
●カードNo.1をセットして、１×１目の選針を行い、模様を出したい部分だけにスレッド糸を渡して編みます。

●図案は、グラフ状に描いたり、ニットリーダーのシートに描きます。

① 糸取装置の右側に地糸を通します。スレッド糸は糸取装置に通さないで足もとに置きます。
スレッド模様の①～⑥を行います。（38ページ参照）

② 

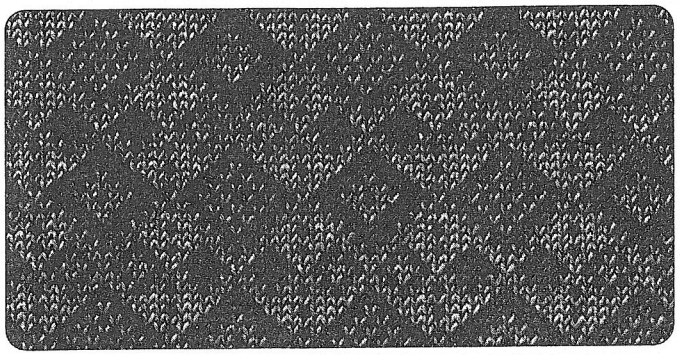
スレッド糸を必ずKキャリジのある側からクシバに近寄らせて、模様を出す部分の選針されている編針の上に渡してから、Kキャリジを１段操作します。

③ 

毎段スレッド糸を模様部分に渡しながらKキャリジを操作して、編み進みます。

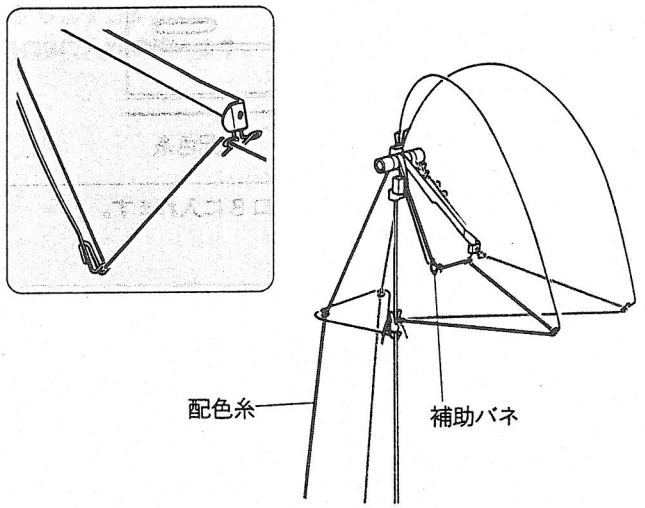
同時編込模様　利用できるカード：No.1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14

カードNo.10



● 2色の編糸(地糸用・配色糸用)を使用します。

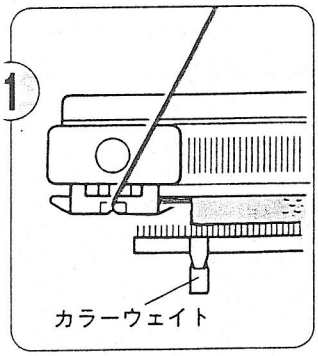
● 編糸の通し方



糸取装置の右側へ地糸を、左側へ配色糸を通します。そのあと、配色糸を補助バネに通します。

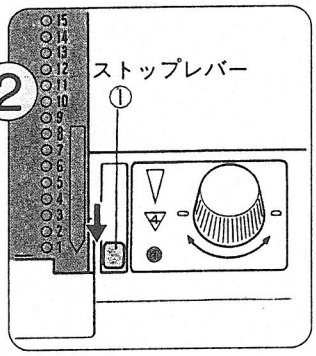
● 模様の編み方

1



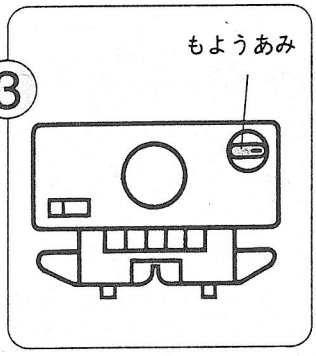
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。

2



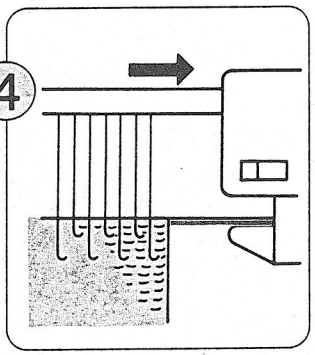
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。

3



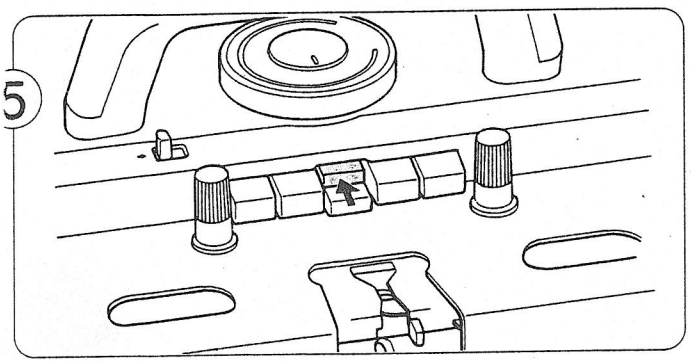
選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。

4



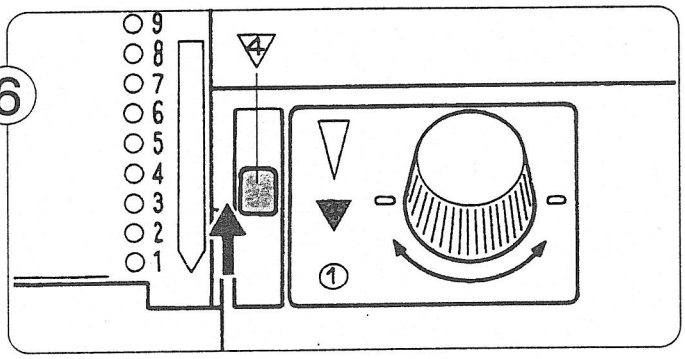
Kキャリジを右へ動かします。編糸が選針されます。

5



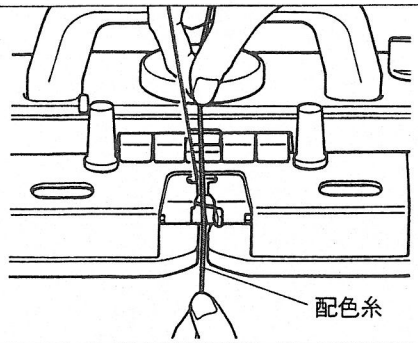
カムボタンの〈同時あみ〉〈上のボタンだけ〉を押します。

6



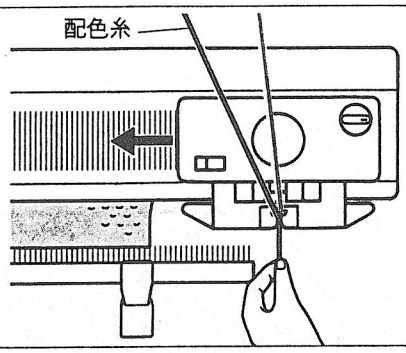
ストップレバーを〈▼〉に合わせます。

7



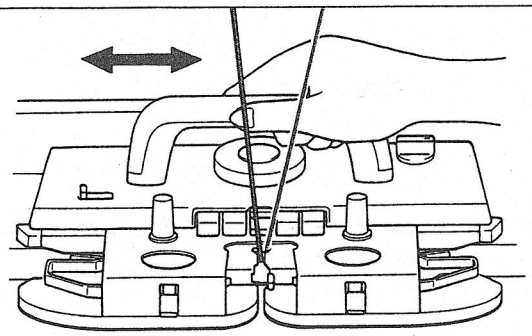
糸口レバーは閉じたままで配色糸を糸口Bに入れます。

8



配色糸の糸端を指でつまみ、軽く真下に引くようにしながらKキャリジを左へ動かします。

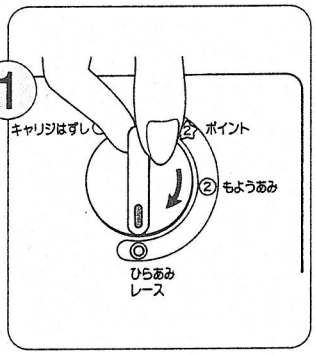
9



Kキャリジを左右に動かすと、同時編込模様が編めます。

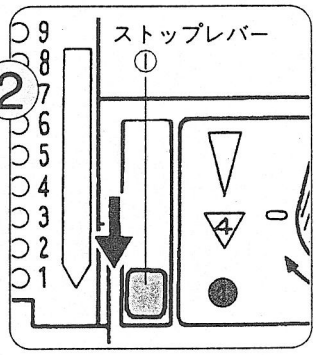
●模様を終わる場合

1



選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。カムボタンは自動的にもどります。

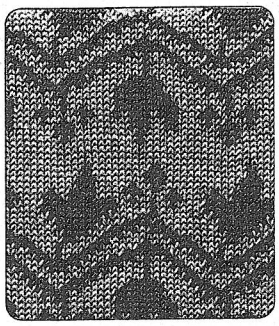
2



ストップレバーを〈❶〉にもどし、配色糸をはずします。

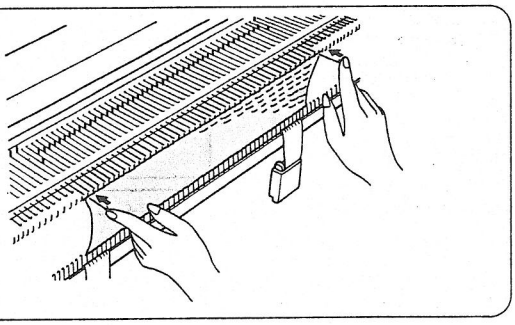
模様の中に地糸だけで編む段があるとき

カードNo.6



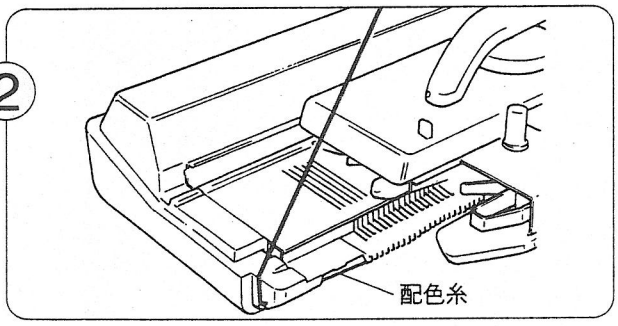
カードNo.6を編んでいる途中で両端針だけが選針されることがあります。そのような場合には、次のようにしてください。

1



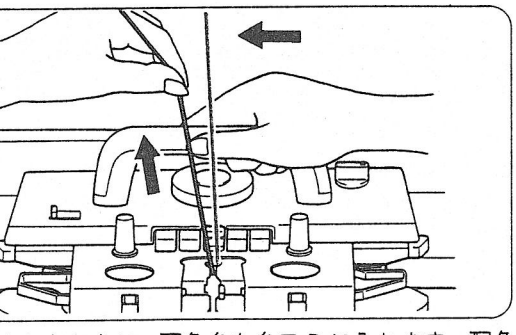
その両端針を指でB位置にもどします。

2



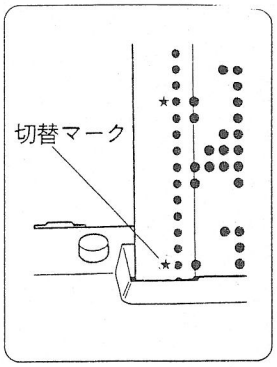
配色糸を糸口Bからはずして糸カケにかけ、そのまま、Kキャリジを動かします。

3



再び選針されたときに、配色糸を糸口Bに入れます。配色糸を軽く上に引きながら、次の段を編みます。

パンチカードに切替マークがあるとき



● 2色以上の配色糸を切り替えて編む場合、パンチカードの左側の切替マークが、カード差込口にきたときに配色糸を切り替えます。

①糸口Bの配色糸を取り出し、糸取装置からはずします。
②次に編む配色糸を糸取装置に通し、糸口Bに入れて編みます。

ポイント・同時編込模様

利用できるカード：No.13、同時編込模様のカードも利用できます。

● ポイント模様は、ポイントカムを使うことにより、編幅に関係なく、ポイントカムが置かれている部分にだけ模様が編める編み方です。

● ポイントカム

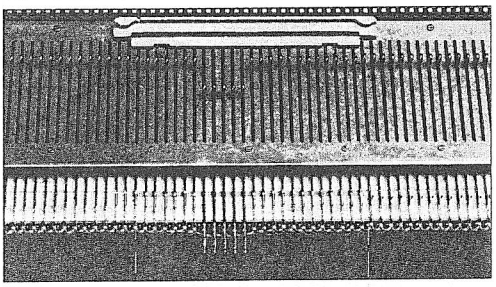

ワンポイントカム24


連続ポイントカムM


連続ポイントカムL

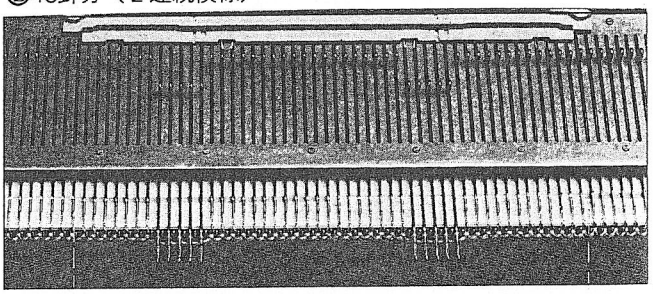

連続ポイントカムR

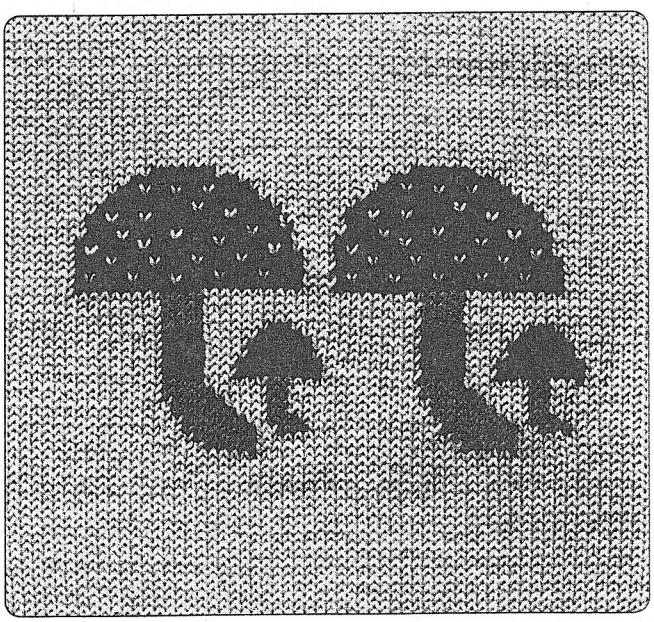
Ⓐ24針分（ワンポイント模様）





Ⓑ48針分（２連続模様）





●ポイントカムの組み合わせと接続方法

ワンポイントカム24は単独で使用します。連続ポイントカムは組み合わせにより、模様幅を24針、48針、72針の３段階に増大させることができます。

・連続ポイントカムL、M、Rはそれぞれ単独で使うことはできません。
・連続ポイントカムを接続する場合は、LとRが必ず両端になる組み合わせで接続します。

●24針分(ワンポイント模様)



または



●48針分(２連続模様)



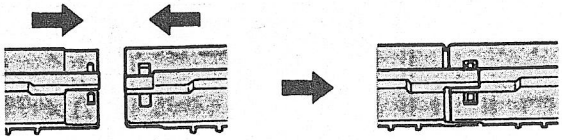
●72針分(３連続模様)



接続の方法

図のように、それぞれの先端Ⓐ部とⒷ部を合わせて“パチッ”と音がするまではめ込みます。

♣接続をはずすときは、引き抜けばはずれます。



●模様の編み方

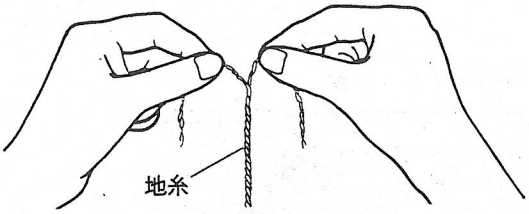
ここでは、ワンポイントカム24を使用し、Ⓐの編地を例にしますが、連続ポイントカムを使用するときも操作は同じです。

用意するもの

●パンチカードNo.13
●地糸・配色糸（数色…パンチカードを見てどの部分を何色で編むか決めます。）
●別糸(右図参照)－地糸と同じ色で地糸より細い編糸かナイロン糸（約80cm）

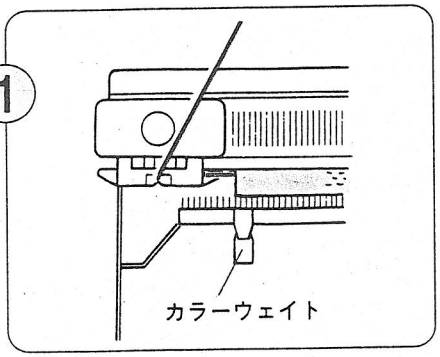
ワンポイントテクニック

地糸を２本に割って別糸を作ります。

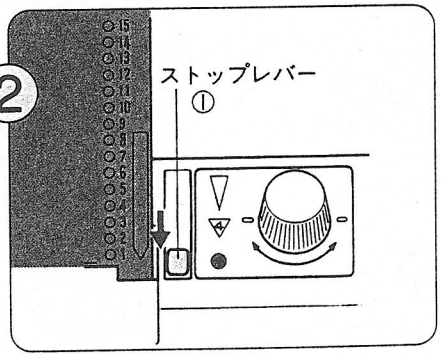


部分的に模様を編み込んだ場合、配色糸が一部分の編地だけに編み込まれますので、そのままでは、模様の両側に穴があいた状態になってしまいます。
模様を美しく編むために、毎段キャリジのある側に別糸(または透明糸)をかけて編みます。

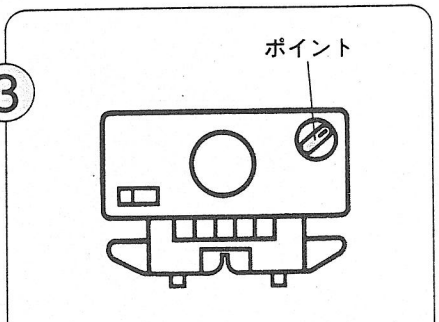
●糸取装置の編糸の通し方は、同時編込模様と同じです。（41ページ参照）

① 

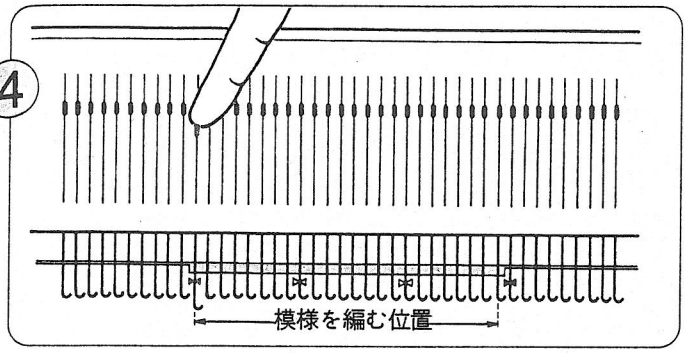
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。

② 

パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。

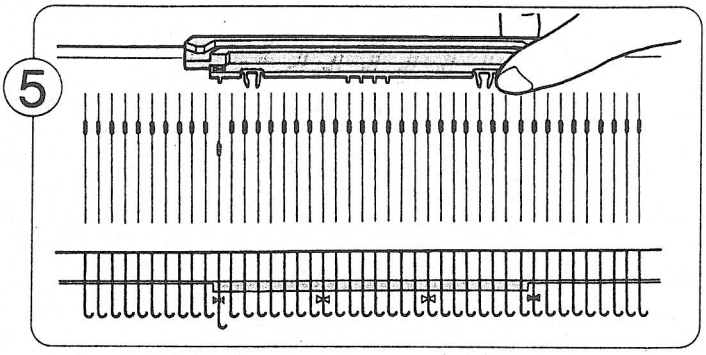
③ 

選針切替ツマミを〈ポイント〉に合わせます。

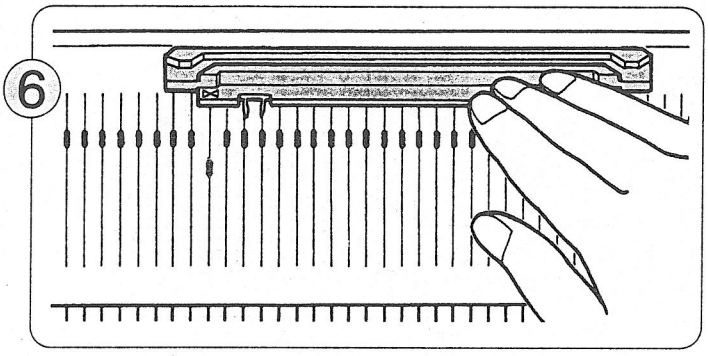


ミゾ板目盛板の選針マークを参考にして、カムのセット位置を決めます。

♣模様を編む位置の選針マーク左端の ⋈ マークの編針を少し出すとポイントカムを置く位置がわかりやすくなります。

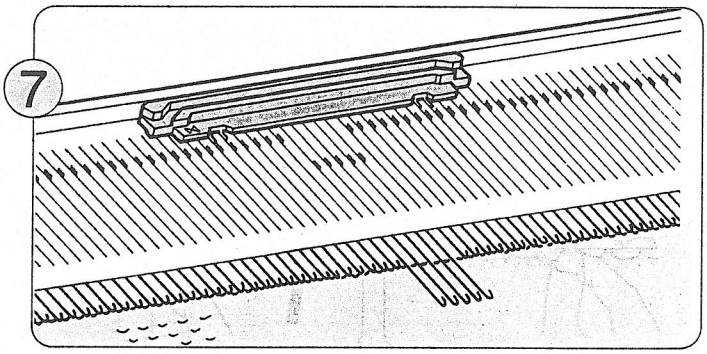


ワンポイントカム24の ⋈ マークを左側にして持ち、ポイントカムの ⋈ マークを出しておいた編針の位置に合わせてセットする位置を決めます。



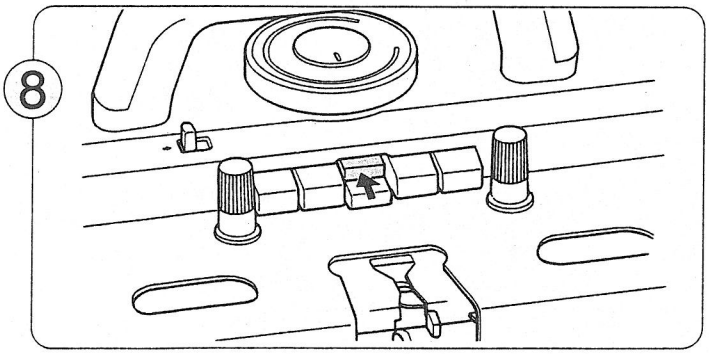
ポイントカム裏面のツメをミゾ板のミゾにはめ、ポイントカムの後側を少し浮かせながら、後レール側（後レールのピンがかくれるまで）へ平行に押しつけて固定します。

♣正確にはまっていないと、ポイントカムがとびだしたり、ポイントカムを痛めることにもなります。

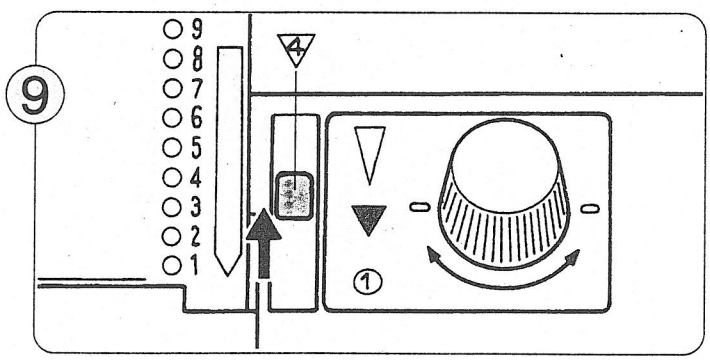


Kキャリジを右側へゆっくり操作し選針をします。

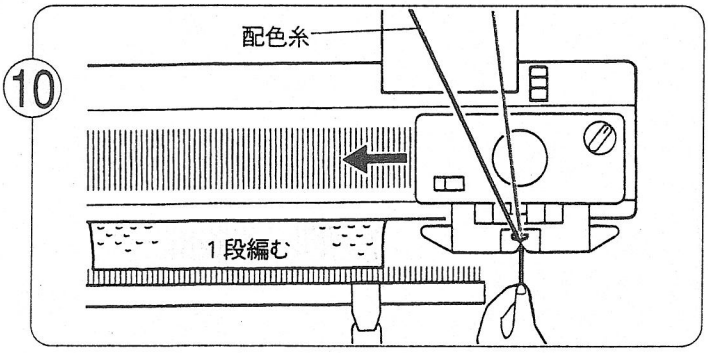
♣ポイントカムをセットした部分だけが選針されます。



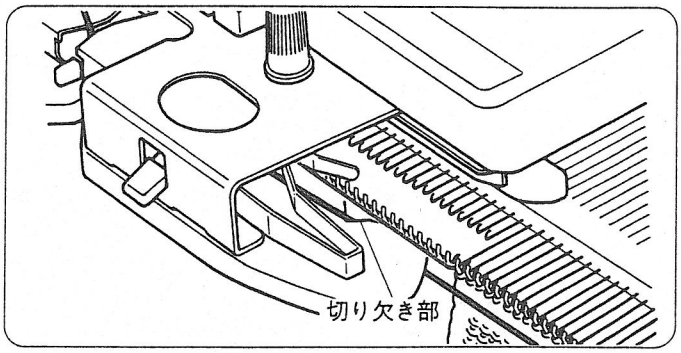
カムボタンの〈同時あみ〉(上のボタンだけ)を押します。



ストップレバーを〈▼〉に合わせます。

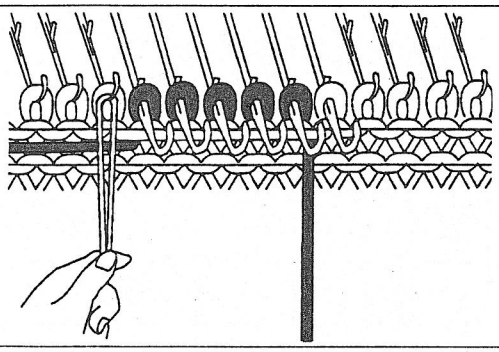


糸口レバーは閉じたままで配色糸を糸口Bに入れ、糸端を軽くつまみ軽く真下に引くようにしてKキャリジを左へ動かします。



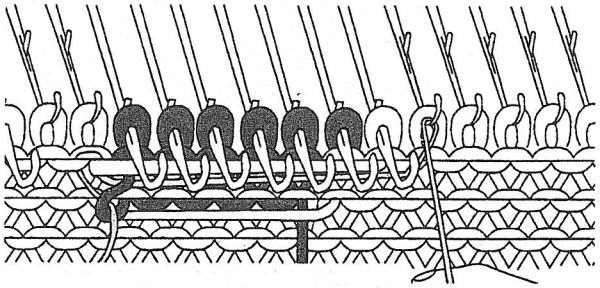
♣次の段からは配色糸が編地押えの切り欠き部から下側に通るのを確かめ、編糸の糸たるみをなくしてから編んでください。もしはずれたときは下側に通し直します。

11



左側(Ｋキャリジのある側)で、Ｄ位置に選針されている端針のすぐ左隣のＢ位置の編針に用意した別糸を半分に折ってかけ、指で軽く下に引きます。
Ｋキャリジを右へ動かします。

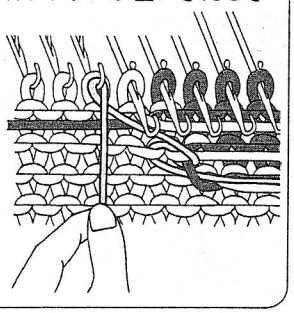
12



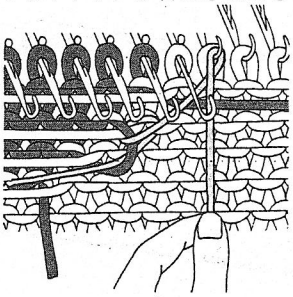
右側(Ｋキャリジのある側)でＤ位置に選針されている端針のすぐ右隣の編針に、左側でかけた別糸の片側を外側から内側にかけます。
Ｋキャリジを左へ１段動かします。

13

●Kキャリジが左にきたとき

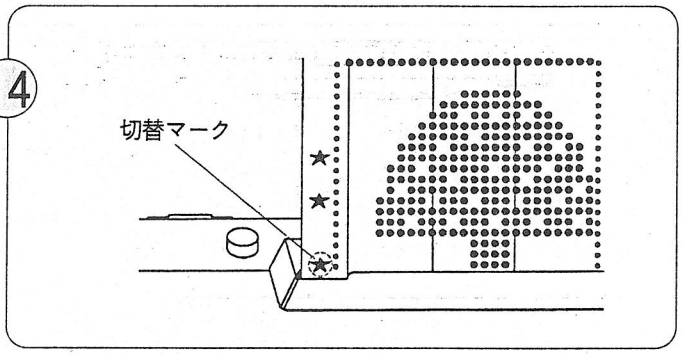


●Kキャリジが右にきたとき



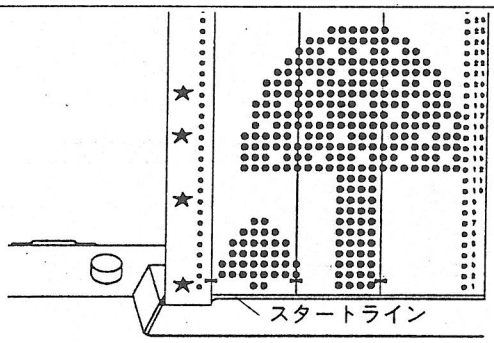
１段編むごとに、Ｋキャリジのある側で、別糸をかけながら、編み進みます。
別糸は、Ｄ位置に選針されている端針のすぐ隣(外側)のＢ位置の編針に外側から内側にかけます。

14



カード差込口に、切替マークがきたら、いま編んできた配色糸を糸取装置・糸口Ｂからはずし、これから編む配色糸と入れ替えて編みます。

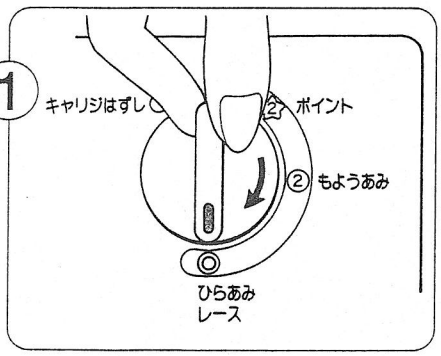
15



パンチカードのスタートラインがカード差込口にきたら、１模様が編み終わります。

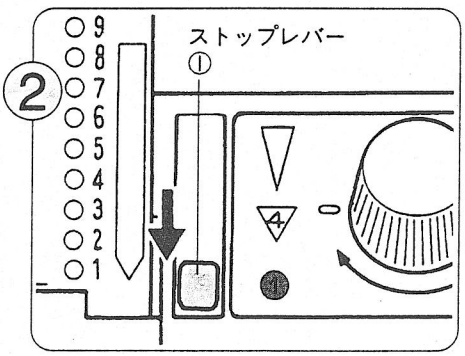
●模様を終わる場合

1



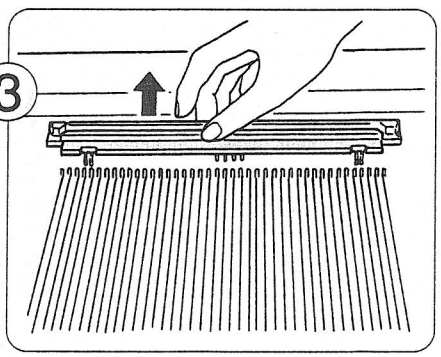
選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。カムボタンは自動的にもどります。

2



ストップレバーを〈●〉にもどし、配色糸をはずします。

3

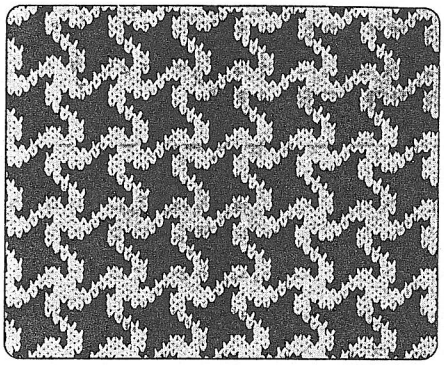


ポイントカムをはずします。

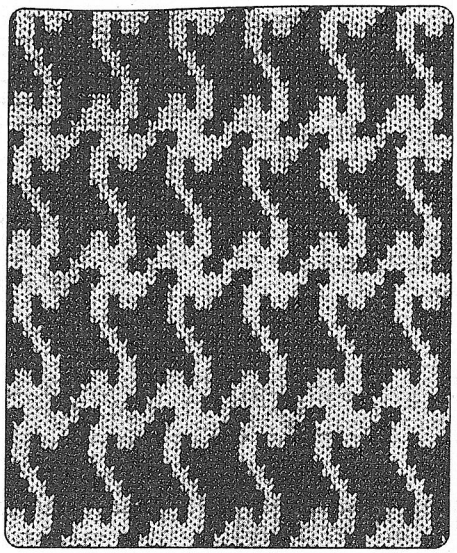
間欠送り模様 利用できるカード：同時編込模様と同じです。

●ストップレバーを〈 ▼ 〉に合わせれば、縦に２倍の模様を編むことができます。

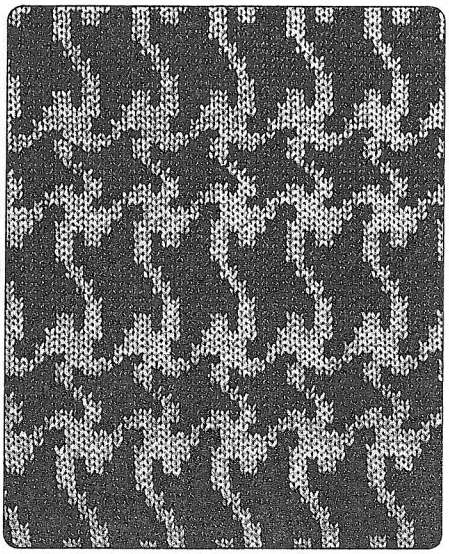
・ストップレバーを〈 ▼ 〉に合わせると、Ｋキャリジが右から左へ動いたときのみパンチカードは送ります。
・間欠送り模様はすべり目模様・スレッド模様･編込レース模様にも応用できます。



カードNo.4
〈普通の同時編込模様〉



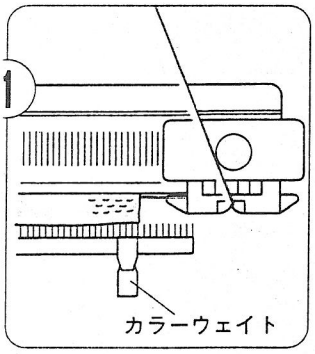
カードNo.4
〈間欠送り使用〉



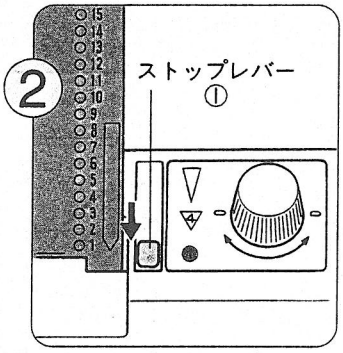
カードNo.4
〈間欠送りを部分的に使用〉

●模様の編み方

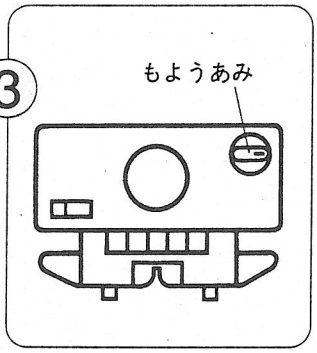
●編糸の通し方は同時編込模様と同じです。（41ページ参照）



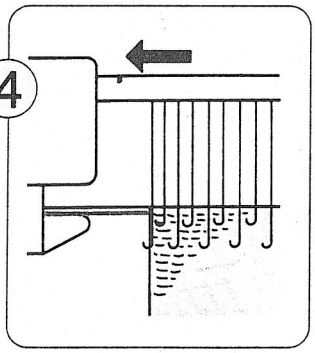
地糸で平編を数段編み、Ｋキャリジを右側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。



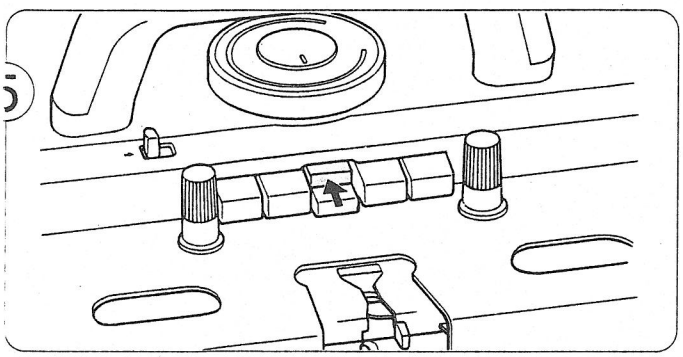
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。



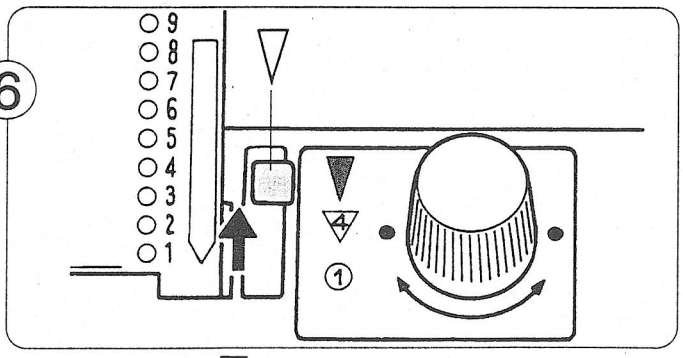
選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。



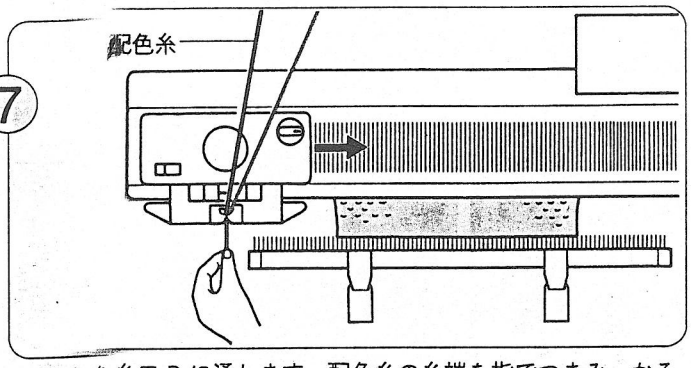
Ｋキャリジを左へ動かします。編針が選針されます。



カムボタンの〈同時あみ〉〈上のボタンだけ〉を押します。

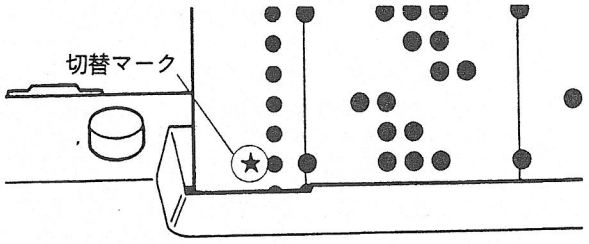


ストップレバーを〈 ▼ 〉に合わせます。



配色糸を糸口Bに通します。配色糸の糸端を指でつまみ、かるく真下に引くようにしながらKキャリジを操作します。

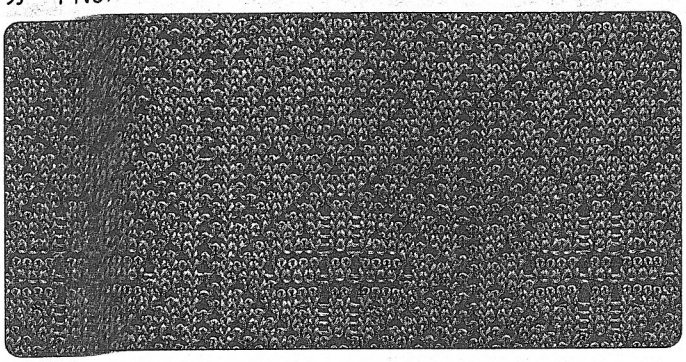
柄糸替りを部分的に使う場合



パンチカード左側の切替マークがカード差込口にきたとき（Kキャリジが左側にあるとき）にストップレバーを〈▼〉⇄〈▼〉に交互に切り替えて編みます。

編込レース模様　利用できるカード：No.1・11・14・15・16

カードNo.14

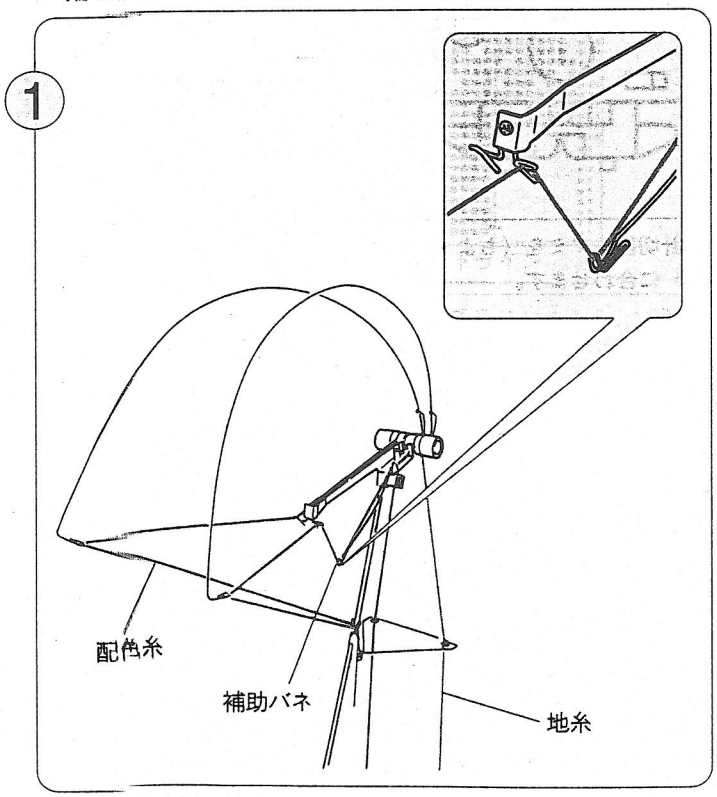


- 編込レース模様は、太い編糸と細い編糸の組み合わせによる効果を利用して編みます。
- 地糸には中細または合細タイプの編糸を、配色糸には地糸に似た色の極細タイプを使用して編みます。

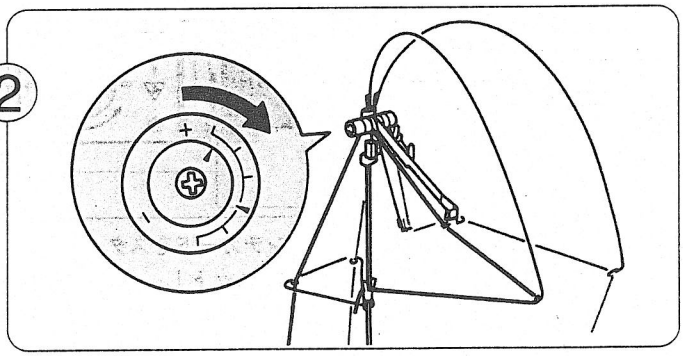
編糸の組み合わせによる編目ダイヤル

編糸タイプ	編目ダイヤル
合細と超極細	4～6
合細と極細	5～7
中細と超極細	6～8
中細と極細	7～9

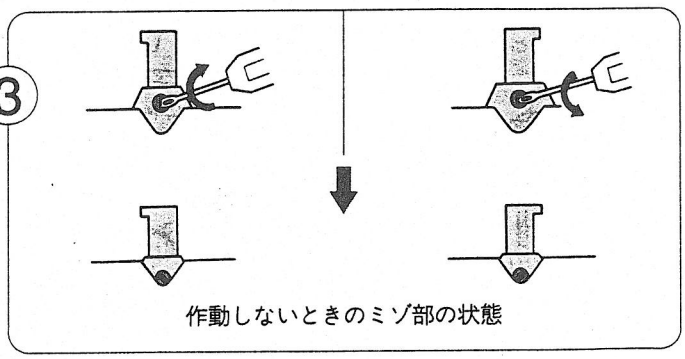
●編む前の準備



糸取装置の右側に地糸を、左側に配色糸を通します。そのあと、地糸を補助バネに通します。

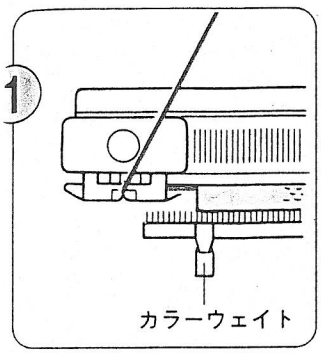


左右の調節ツマミを〈＋側〉にします。

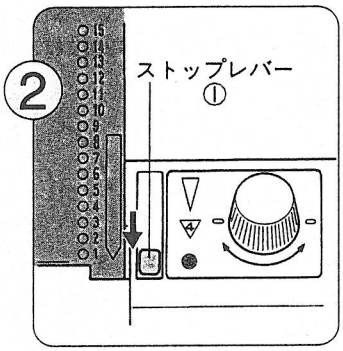


Kキャリジの端針選針機構を、左右とも作動しないようにします。（22ページ参照）

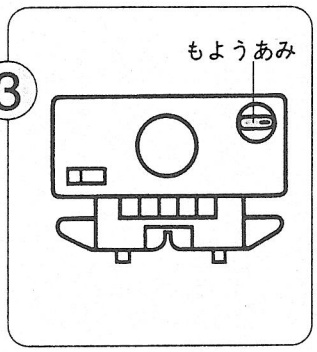
●模様の編み方



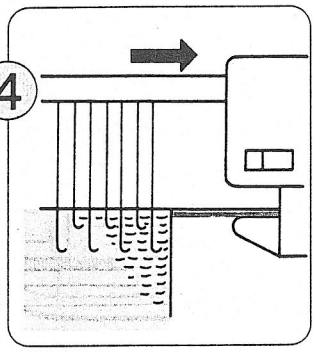
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。



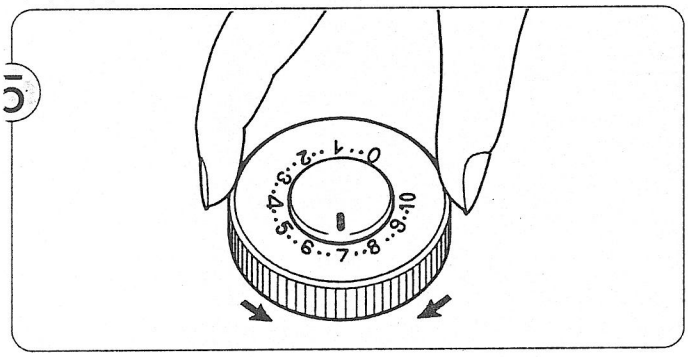
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。



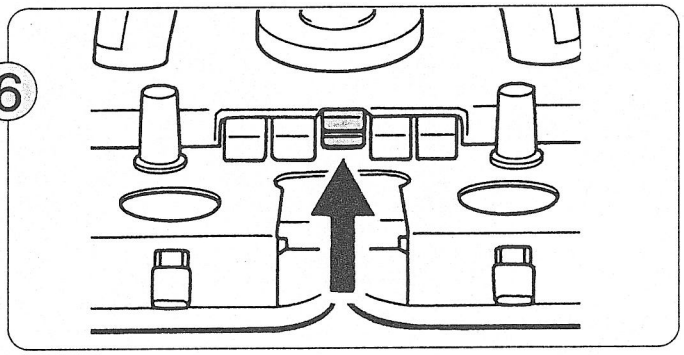
選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。



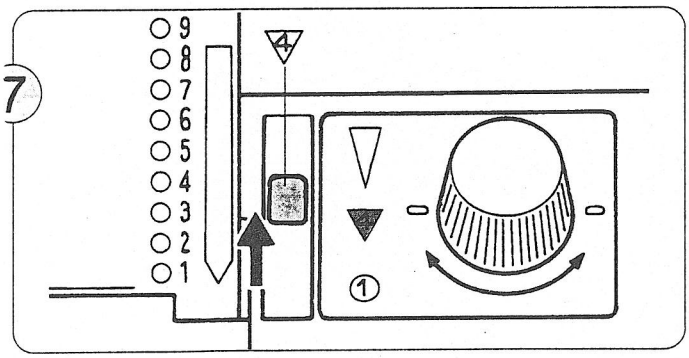
Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



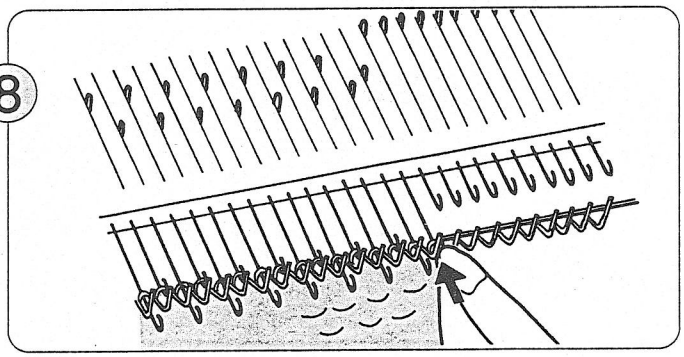
編目ダイヤルを、使用する編糸の組み合わせに応じて合わせます。



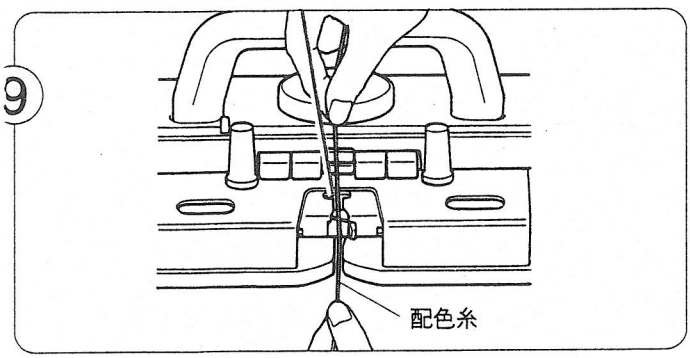
カムボタンの〈あみこみレース〉を上下同時に押します。



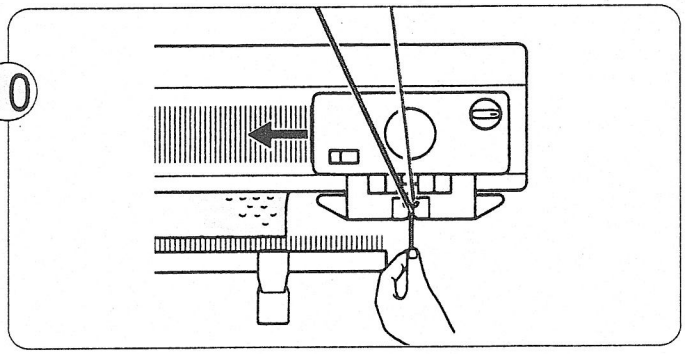
ストップレバーを〈▼〉に合わせます。



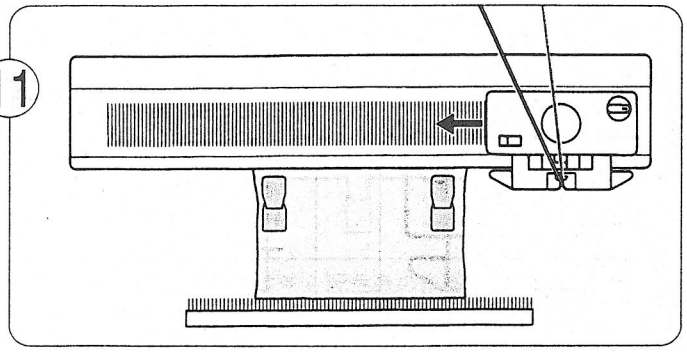
編地の両端の編針がD位置に出たら、B位置にもどします。



糸口レバーは閉じたままで、配色糸(細い糸)を糸口Bへ入れます。

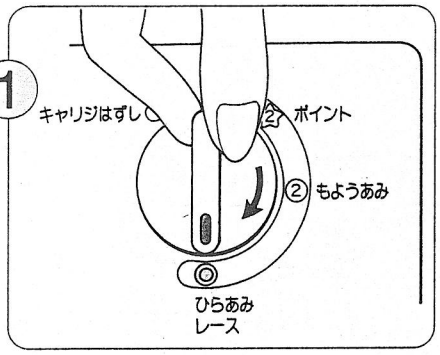


配色糸（細い糸）の糸端を指でつまみ、軽く真下に引くようにしながら、Kキャリジを左へ動かします。

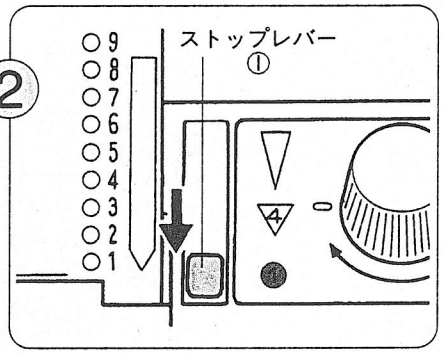


⑧のように両端の編針をB位置にもどしながら編み進みます。
♣Kキャリジはゆっくり操作してください。
♣カラーウェイトは20段おきぐらいに、編地の両端にかけ替えてください。

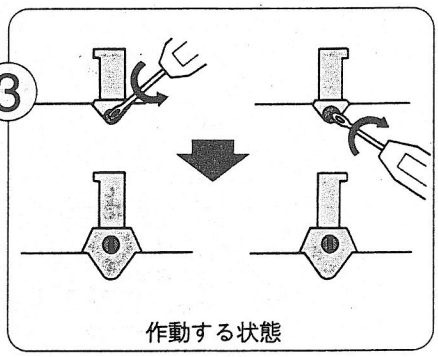
●模様を終わる場合



選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。カムボタンは自動的にもどります。



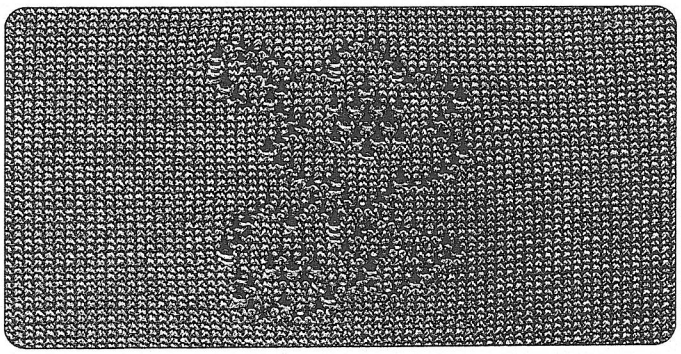
ストップレバーを〈●〉にもどし、配色糸をはずします。



端針選針機構を作動位置にもどします。

ポイント・編込レース模様 利用できるカード:No.16、編込レース模様のカードも利用できます。

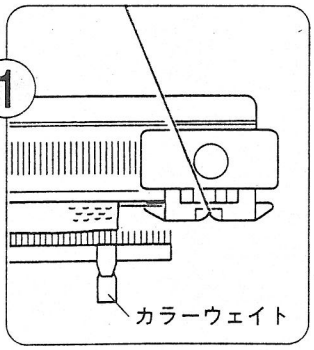
カードNo.16



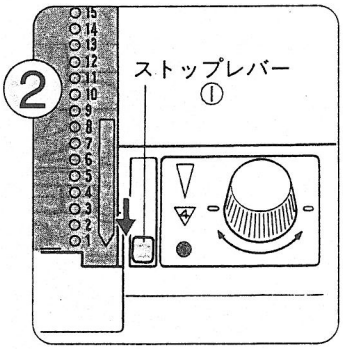
●ポイント・編込レース模様は、編幅に関係なく、ポイントカムが置かれている部分だけ模様が編める編み方です。

●模様の編み方

●例題のように模様を部分的に編む場合、模様の上下を平編で編むと、模様の左右の部分とは編地の風合いが変わってしまいます。そこで、編み方をそろえるために、次のように編みます。
●編糸の通し方は編込レース模様の場合と同じです。
(48ページ参照)
●Kキャリジの端針選針機構を解除する必要はありません。

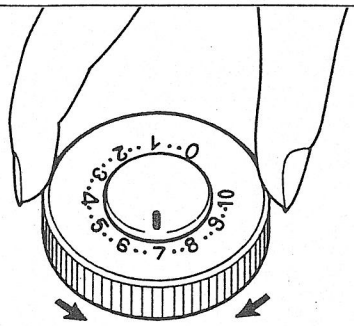


地糸で平編を数段編み、カラーウェイトを左右均等にかけます。



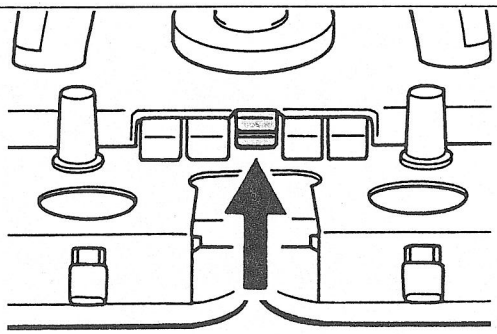
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。

3



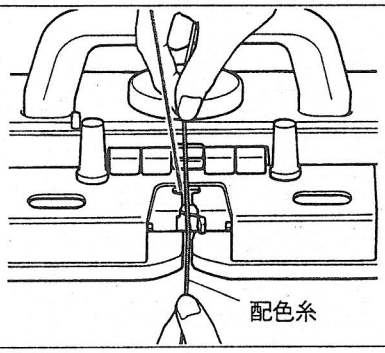
編目ダイヤルを、使用する編糸の組み合わせに応じて合わせます。（48ページ参照）

4



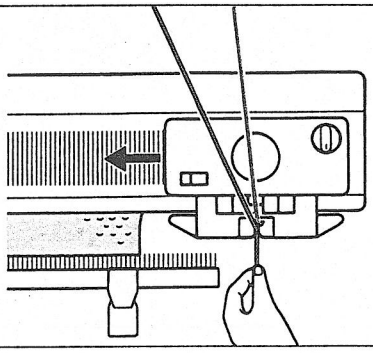
カムボタンの〈あみこみレース〉を上下同時に押します。

5



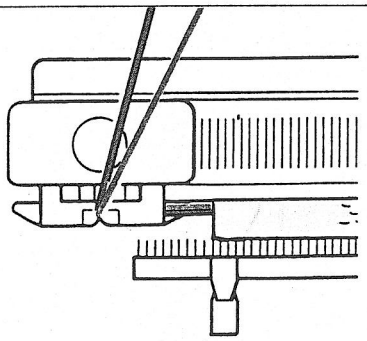
糸口レバーは閉じたままで、配色糸（細い糸）を糸口Bへ入れます。

6



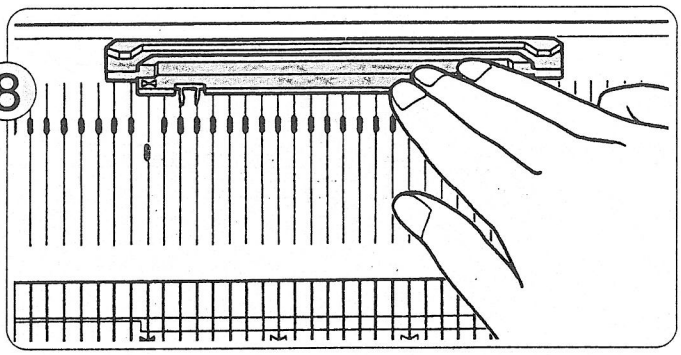
配色糸（細い糸）の糸端を指でつまみ、かるく真下に引くようにしながら、Kキャリジを動かします。

7



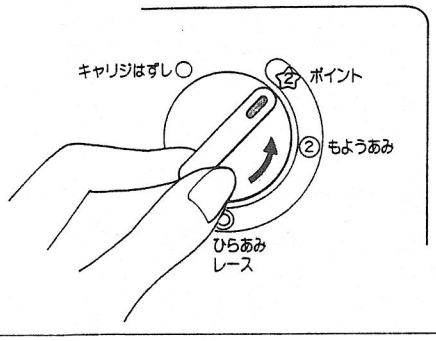
Kキャリジを左右に動かして、模様を編む位置まで編み、Kキャリジを左側に置きます。

8



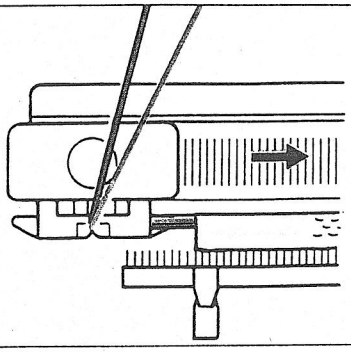
模様を編む位置にポイントカムをセットします。（45ページ参照）

9



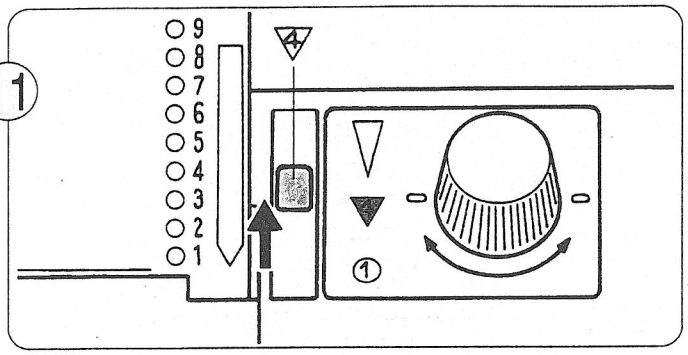
選針切替ツマミを〈ポイント 12 〉に合わせます。

10



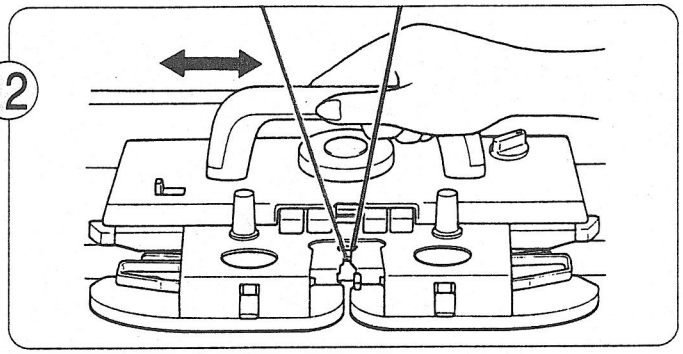
Kキャリジをゆっくり右へ動かします。編針が選針されます。

11



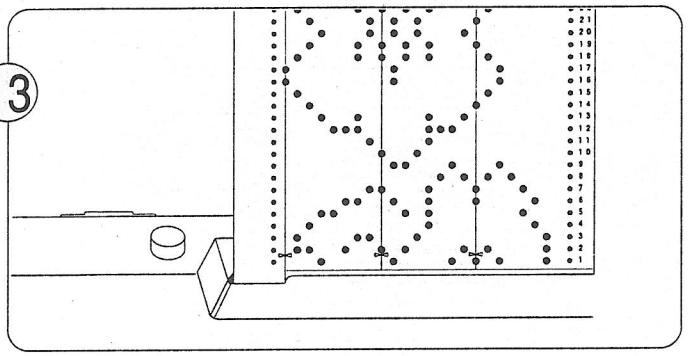
ストップレバーを〈▼〉に合わせます。

12



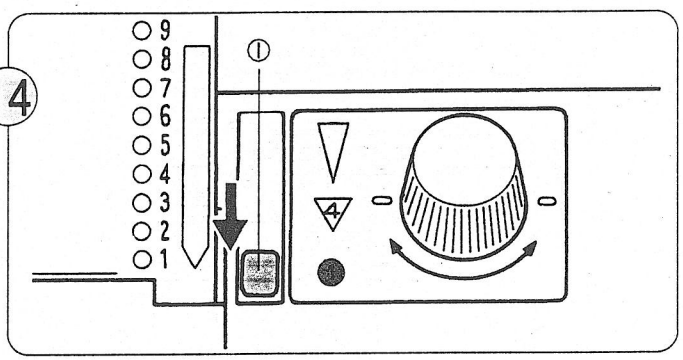
Kキャリジを左右に動かすと、編込レース模様が編めます。

13



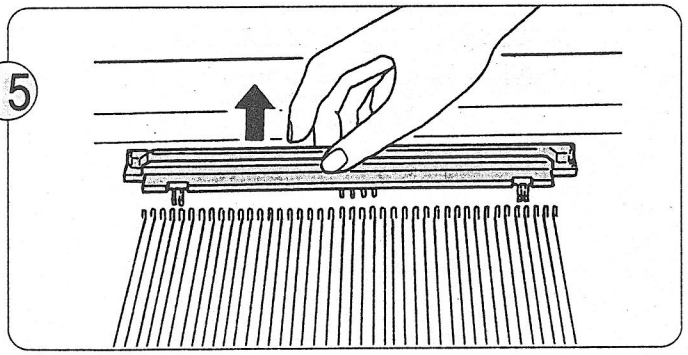
パンチカードのスタートラインが、カード差込口にきたら、1模様が編み終わります。

14



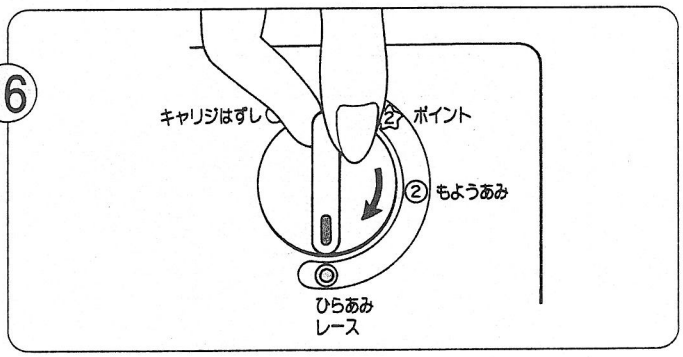
ストップレバーを〈●〉にもどします。

15



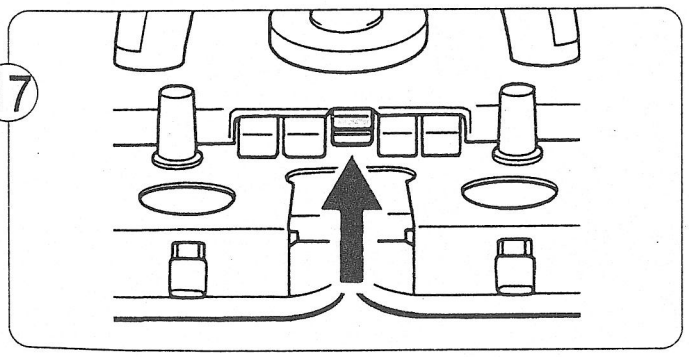
ポイントカムをはずします。

16



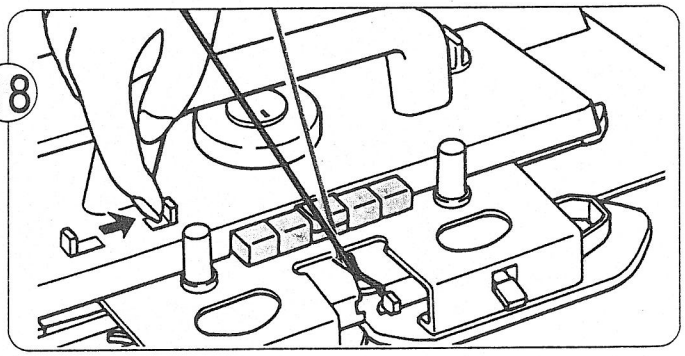
選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。
カムボタンは自動的にもどります。
D位置に選針されている編針をB位置にもどします。

17



再び、カムボタンの〈あみこみレース〉を上下同時に押します。
そのまま、Kキャリジを動かし、必要な段数を編みます。

18

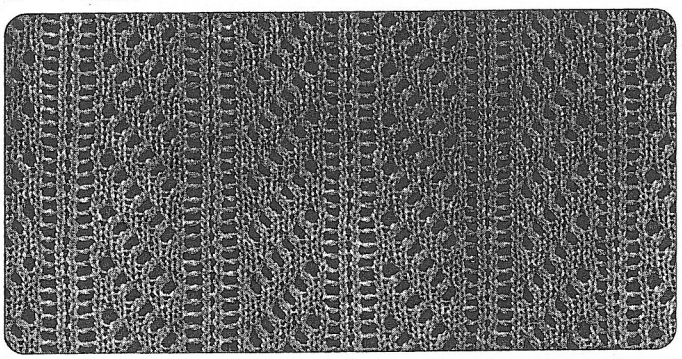


ボタンもどしレバーを右に押します。
カムボタンはもどります。

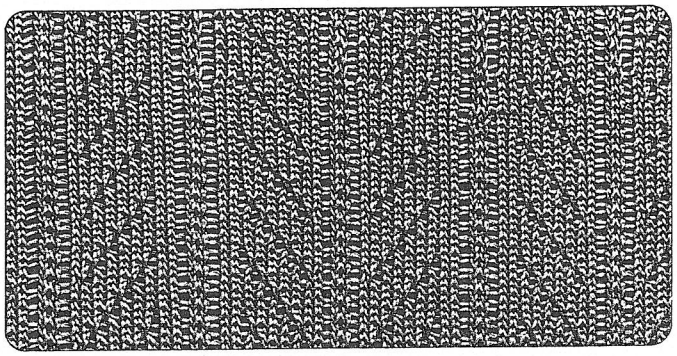
レース模様・タックレース模様

利用できるカード：レース模様：No.17・18・19・20
タックレース模様：No.17・19・20

レース模様 カードNo.20

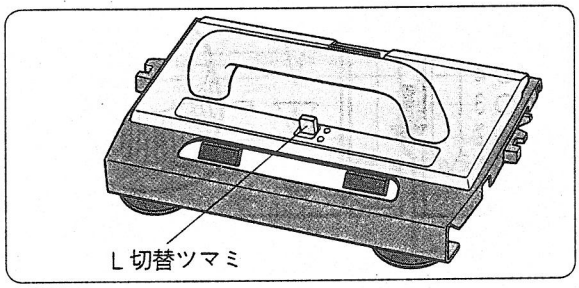


タックレース模様 カードNo.20



Lキャリジを使います

レース模様・タックレース模様の編み方は、L切替ツマミを模様に合わせて切り替える以外、同じ方法で編みます。

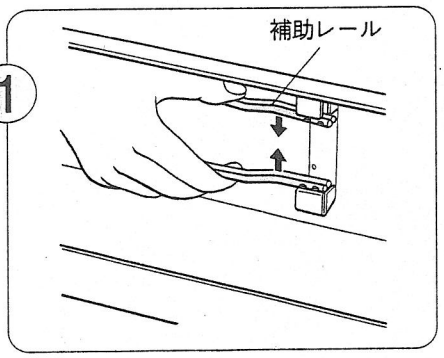


編目ダイヤル表

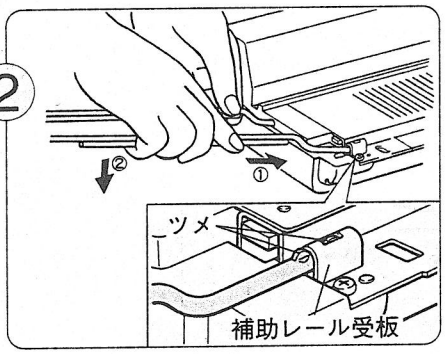
編糸タイプ	編目ダイヤル
極細	3～4
合細	4～5
中細	5～6

〈注意〉綿・麻・化繊の編糸を使用する場合、編目ダイヤルを〈4〉以上に合わせてください。

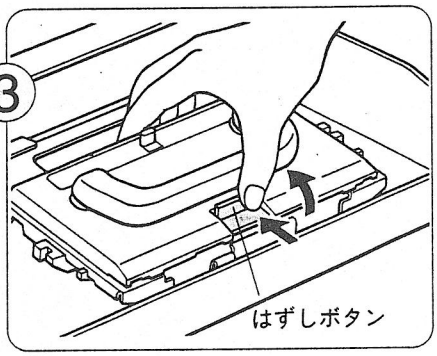
●Lキャリジのセット方法



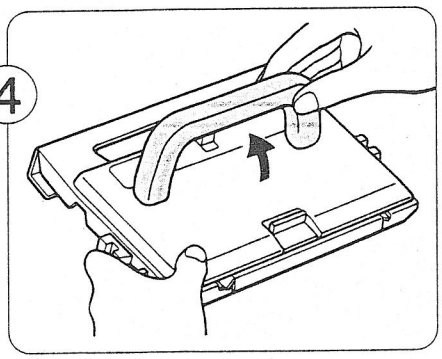
補助レール2本をケースから取り出します。



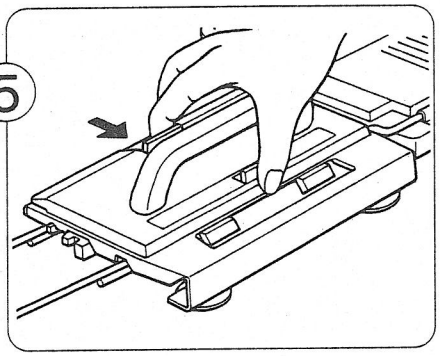
補助レールのツメを上にして、本体両端の補助レール差込口と補助レール受板に、斜め上から差し込み、水平に降ろします。



ケースに収めてあるLキャリジのはずしボタンを矢印の方向に押して取り出します。



ハンドルを矢印の方向に引き上げておこします。

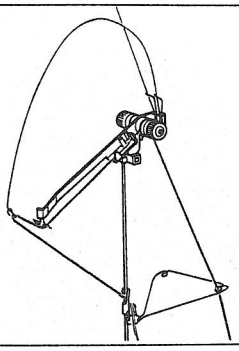


はずしボタンを手前に引き、左側の補助レールの上に正しくのせます。

♣正しくのっていないとミゾ板に滑り込ませることができません。

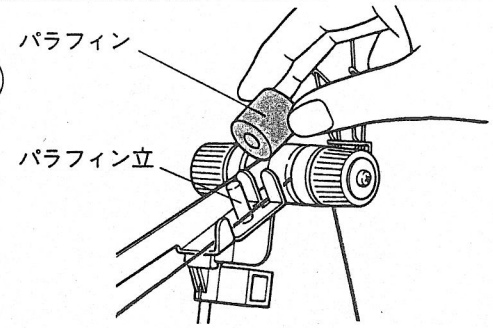
●模様の編み方

①



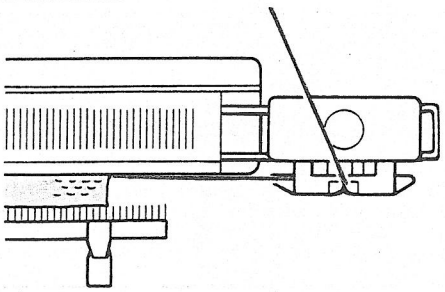
糸取装置の右に地糸を通します。

②



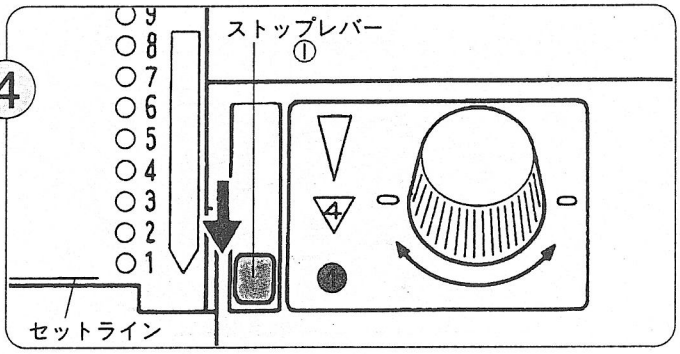
パラフィンケースからパラフィンを取り出し、編糸の上になるように糸取装置のパラフィン立にはめます。
♣レース模様・タックレース模様のときは、編糸のすべりをよくするため、必ず使用します。

③



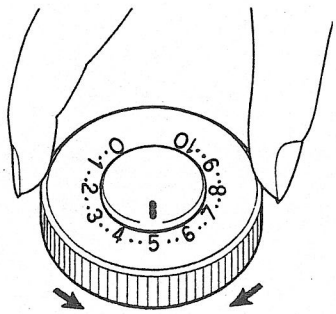
平編を数段編み、Kキャリジを右の補助レールの上に置きます。
カラーウェイトを左右均等にかけます。

④



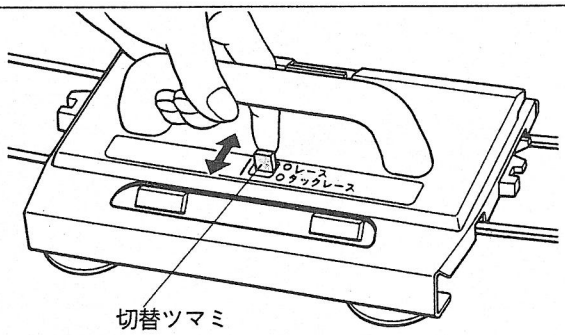
パンチカードをセットラインにセットし、ストップレバーを〈●〉にセットします。

⑤



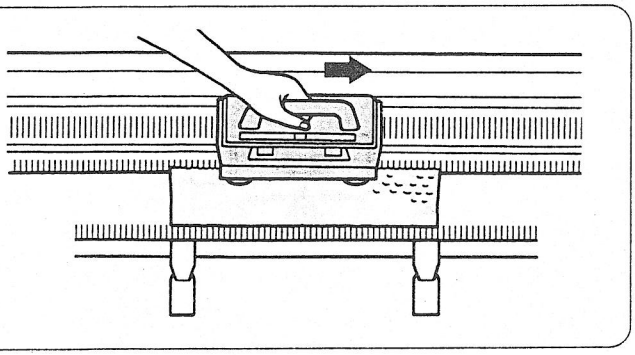
編目ダイヤルを、使用する編糸のタイプに応じて合わせます。

⑥



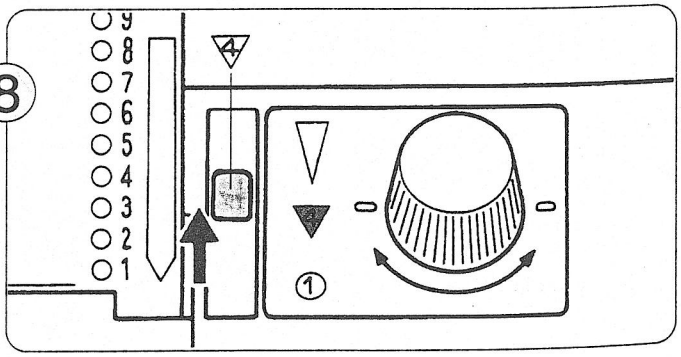
Lキャリジの L 切替ツマミを、レース模様のときは〈レース〉に、タックレース模様のときは〈タックレース〉に合わせます。

⑦



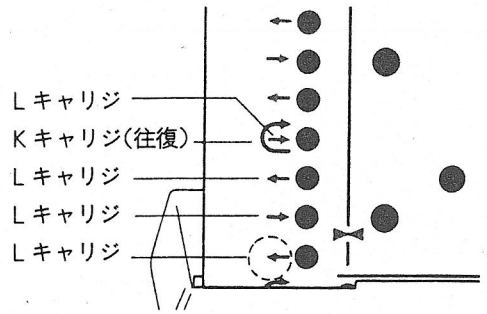
Lキャリジを補助レールからミゾ板に滑り込ませ、そのまま右へゆっくりと動かして選針します。

⑧



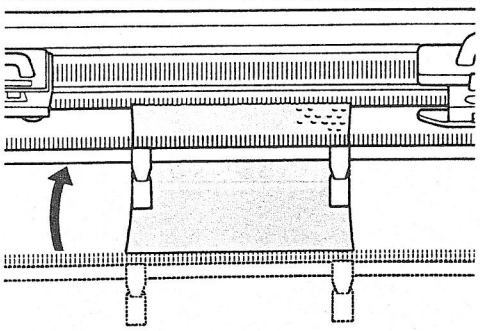
ストップレバーを〈▼〉に合わせます。

⑨



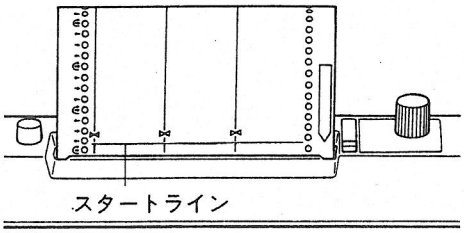
…Kキャリジで2段編んでからLキャリジを左から右へ操作します。
…Lキャリジを左から右へ操作します。
…Lキャリジを右から左へ操作します。

パンチカードの矢印に従って、Lキャリジ・Kキャリジを動かします。



♣編み進んで編地が長くなったら、編出シとカラーウェイトをかけ直します。

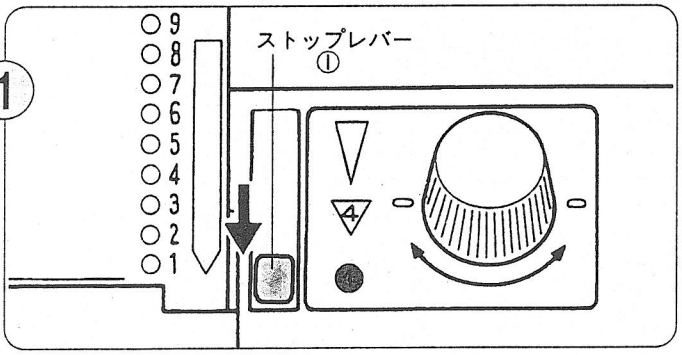
⑩



スタートラインのすぐ下の 印がカード差込口にきたとき、パンチカードが1周したことを示します。

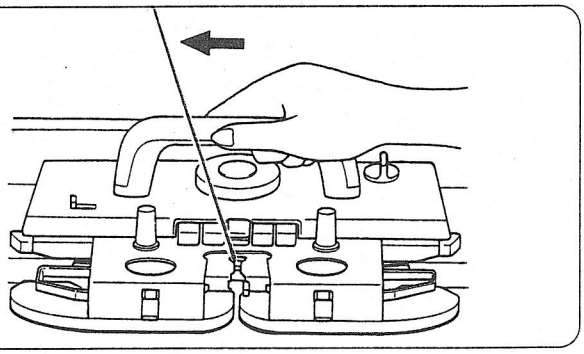
●模様を終わる場合

①



ストップレバーを〈●〉にします。

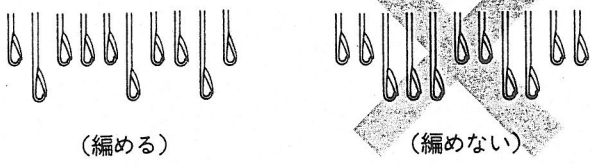
②



Kキャリジで平編を数段編みます。

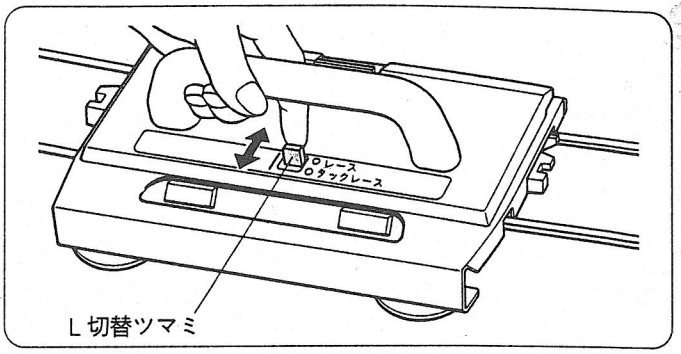
◀知識メモ▶

●レース模様・タックレース模様の場合は、編針が2本以上ならんで選針されると編めません。



レース・タックレース混合模様 利用できるカード：No.19

●レース模様・タックレース模様と同じ編み方ですが、パンチカードの矢印に従って段ごとにＬ切替ツマミを〈レース〉・〈タックレース〉に切り替えながら編みます。
●〈レース〉から編み始めるか、〈タックレース〉から編み始めるかで、編み上がる模様が異なります。



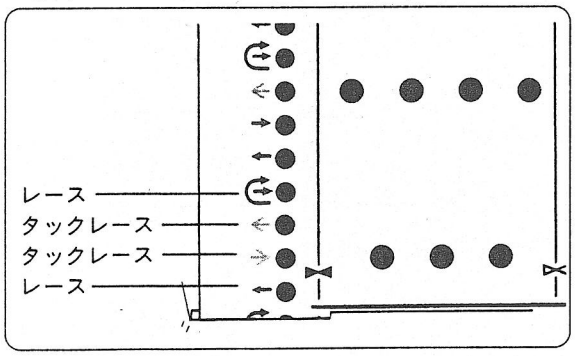
●模様の編み方

① レース模様・タックレース模様の①～⑤を行います。（54ページ参照）

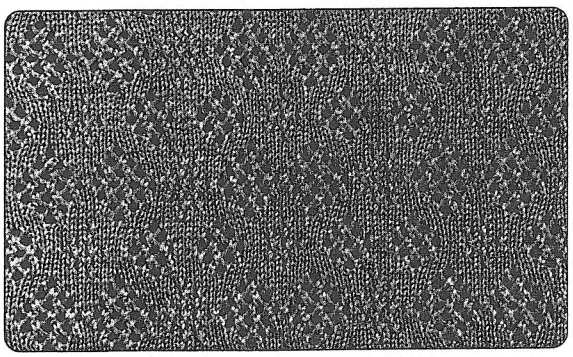
② パンチカードの赤い矢印によるＬ切替ツマミの切り替え方を決めます。
〔➡をレース、→をタックレース〕
〔➡をタックレース、→をレース〕
のどちらかに決めます。

③ Ｌ切替ツマミをカードの矢印に従い〈レース〉・〈タックレース〉に切り替えながら編みます。
（54ページ⑥～⑩参照）

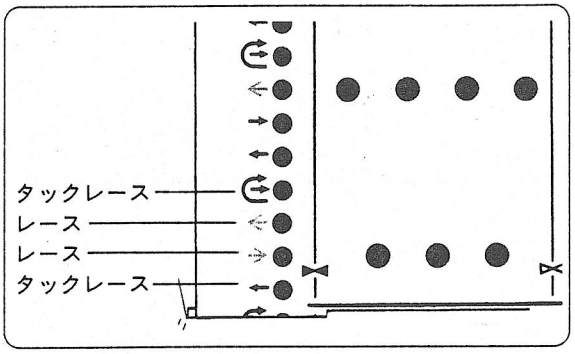
●〈レース〉から編み始める場合
〔➡：レース、→：タックレース〕



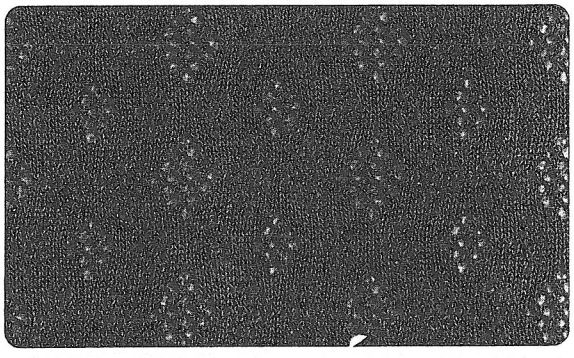
カードNo.19



●〈タックレース〉から編み始める場合
〔➡：タックレース、→：レース〕



カードNo.19



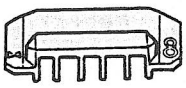
ポイント・レース模様 利用できるカード：レース模様・タックレース模様と同じです。

● Ｌポイントカムが置かれている部分の模様が消え、レース模様と平編とをミックスした模様を編むことができます。

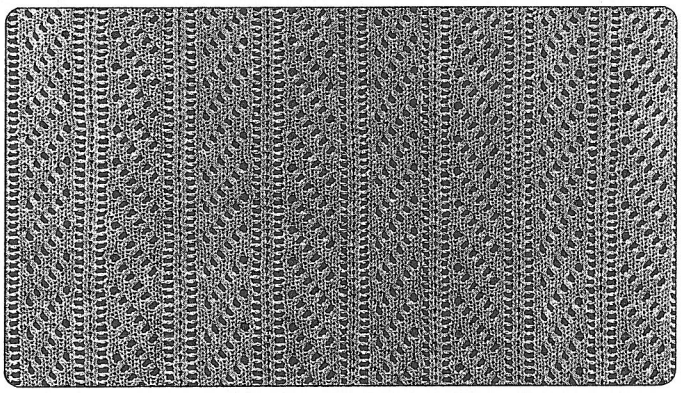
Ｌポイントカム
４針用

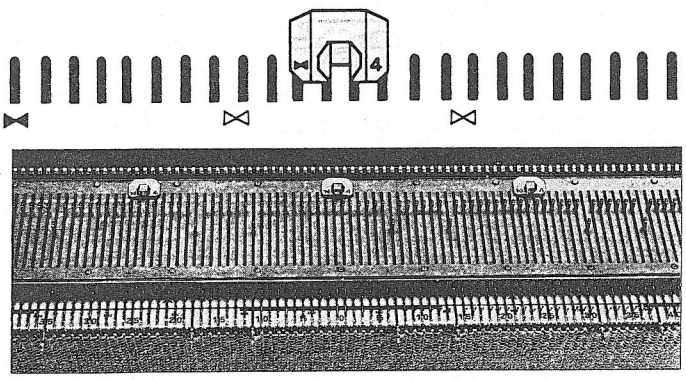


８針用

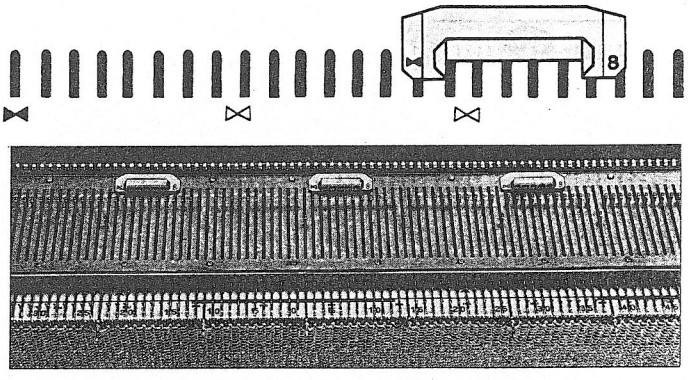


〈Ｌポイントカムを使用しない場合〉 カードNo.20





(A)

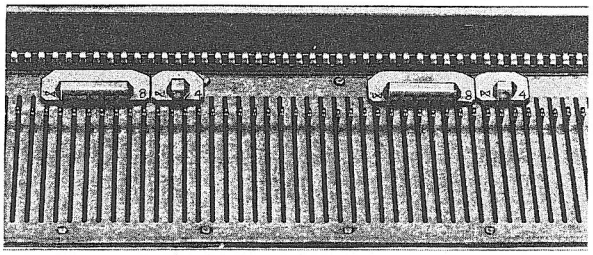


(B)

Ｌポイントカムのセット

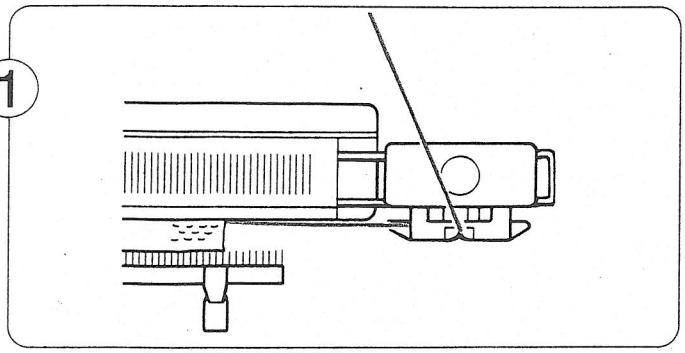
● Ｌポイントカムは、消したい部分の幅に応じて、４針用・８針用を自由にセットすることができます。

● Ｌポイントカムは、４針用・８針用を組み合わせたり、好みの数だけ連続してセットすることができます。

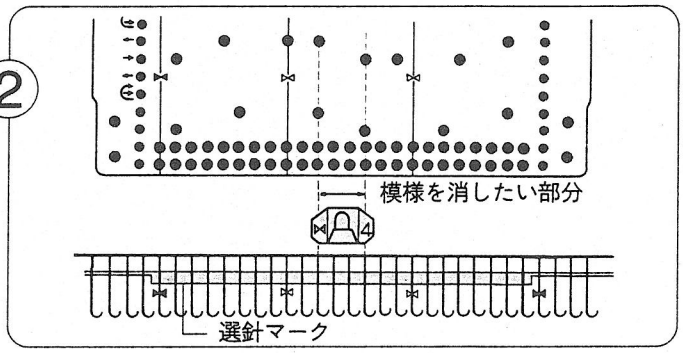


♣Ｌポイントカムは、Ｋキャリジを使ったワンポイント模様などには使用することができません。編み終わった後は、必ずはずしてください。

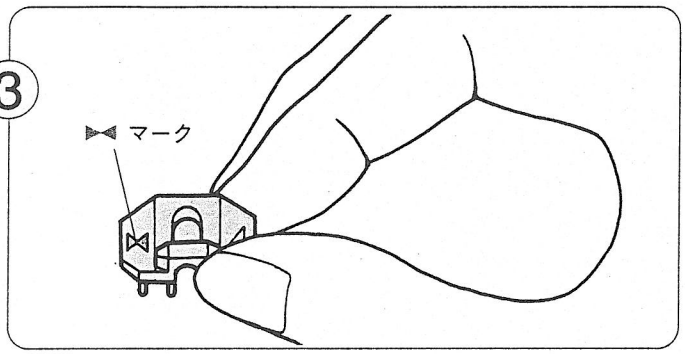
●**模様の編み方**……ここでは４針用のＬポイントカムを使用し、57ページの〈例Ａ〉を編んでみましょう。



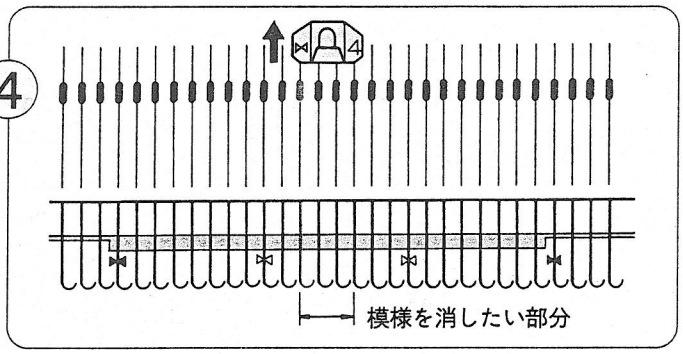
レース模様・タックレース模様の①～③を行います。
（54ページ参照）



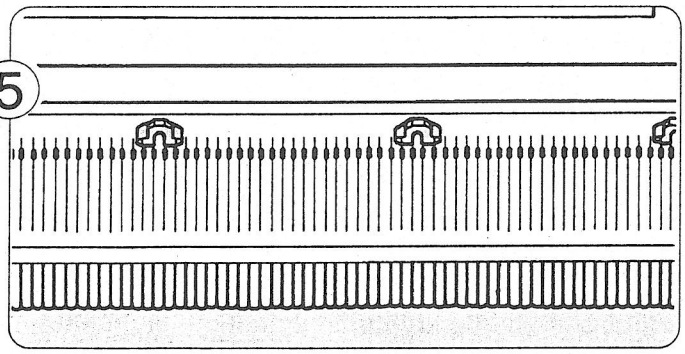
パンチカードと、ミゾ板目盛板の選針マークを対比させ、模様を消したい部分の位置を決めます。



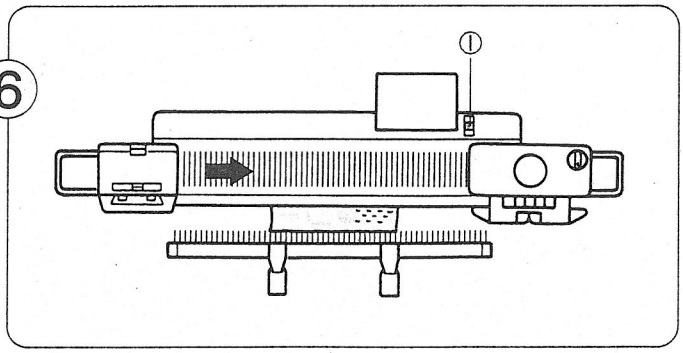
Ｌポイントカムのツメを下にして⋈マークが左側になるように持ちます。



Ｌポイントカムの⋈マークと、模様を消したい部分の左端の編針を合わせ、そのままＬポイントカムのツメをＢ位置の編針の後ろのミゾにはめ込み、後レール側いっぱいに押しつけます。



編幅すべての選針マークに対して、模様を消したい部分にＬポイントカム４をセットします。

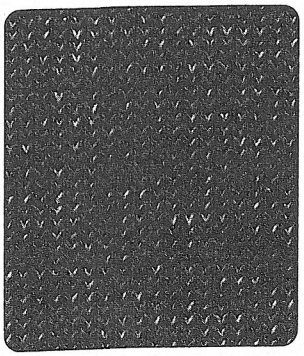


レース模様・タックレース模様の④～⑩を行います。
（54ページ参照）

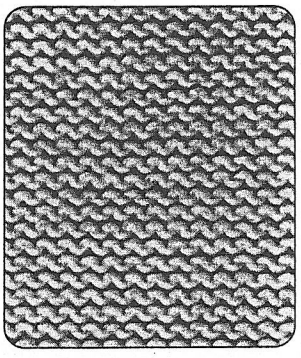
ご注意

Ｌポイントカムを使ってレース模様・タックレース模様を編むときは、Ｌキャリジをゆっくり操作してください。

添え糸編



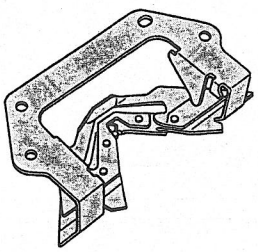
編地の表



編地の裏

● 2本の編糸を同時に表裏に編み分ける編み方です。地糸口の編糸が表目側に、添え糸口の編糸が裏目側にあらわれます。

添え糸用糸口を使用します。

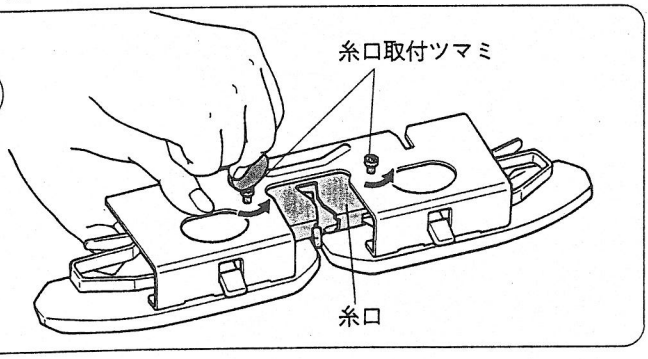


地糸と添え糸の組み合わせと編目ダイヤル

編糸タイプ	編目ダイヤル
極細と極細	4～5
合細と極細	6～7
合細と合細	8～9

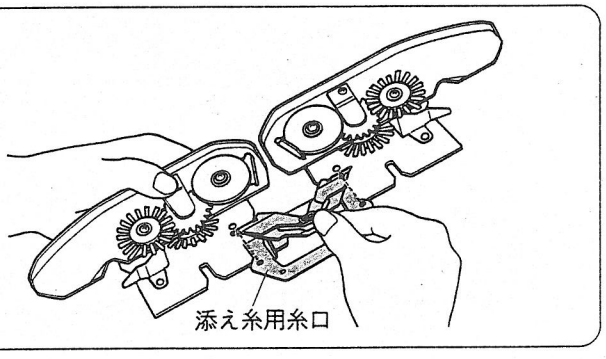
●**編み方**……Kキャリジは〈ひらあみ〉の状態で編みます。合細程度の編糸を2色用意してください。

1



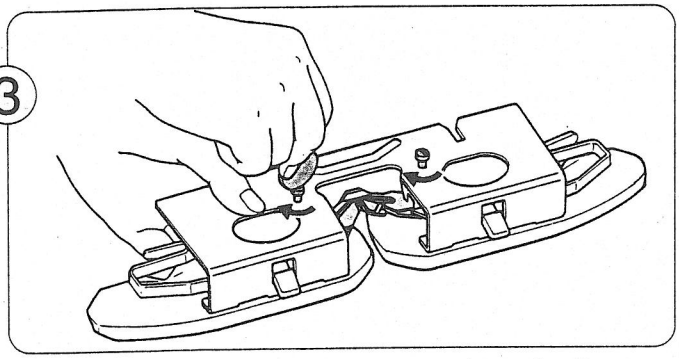
編地押えをKキャリジからはずし、編地押え上面の糸口取付ツマミを⊖ドライバーかコインでゆるめ、糸口をはずします。
♣糸口取付ツマミは、なくさないように注意してください。

2



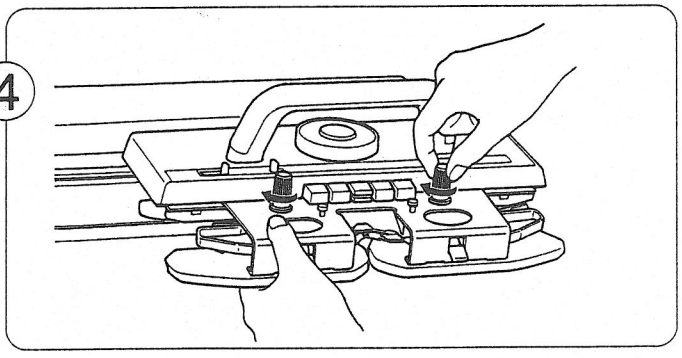
部品箱から添え糸用糸口を取り出して、図のように合わせます。

3



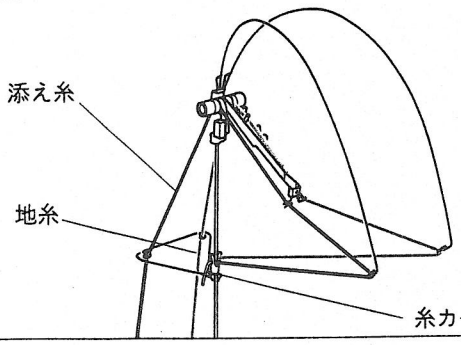
2本の糸口取付ツマミを編地押えの上面の穴から差し込み、そのまま締め付けます。

4



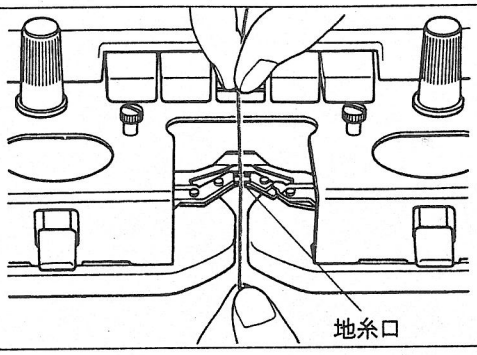
糸口の取り替えがすんだら、編地押えをKキャリジに取り付けます。

5



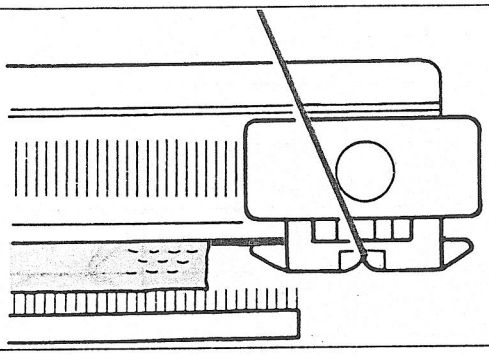
糸取装置の右側へ地糸を、左側へ添え糸を通します。

6



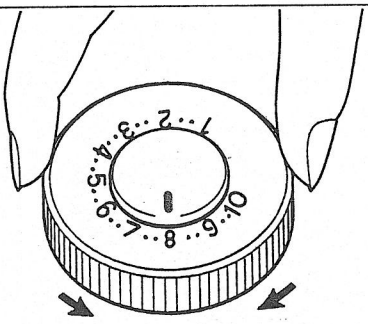
地糸を、地糸口に入れます。

7



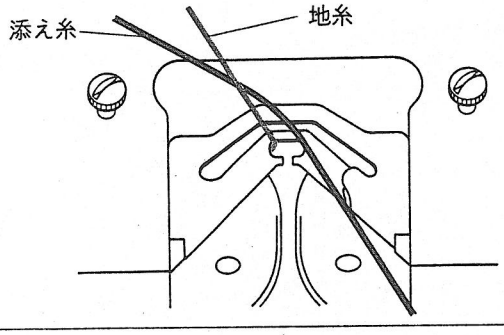
平編を数段編み、Kキャリジを右に置きます。

8



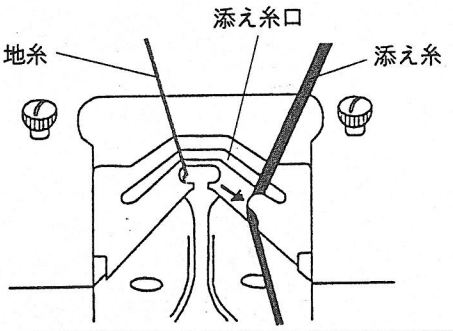
編目ダイヤルを、使用する編糸の組み合わせに応じて合わせます。(59ページ参照)

9

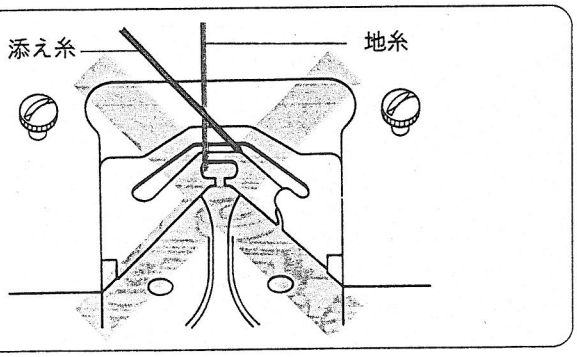


添え糸を地糸の後ろ側になるように通します。

10

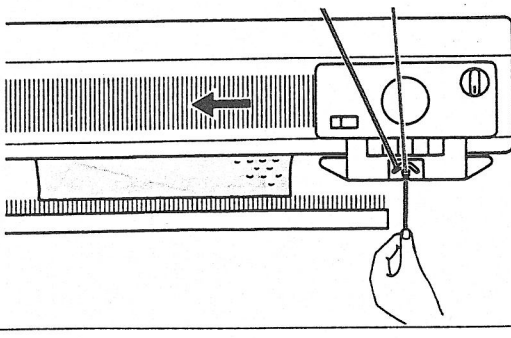


糸端を添え糸口に入れます。



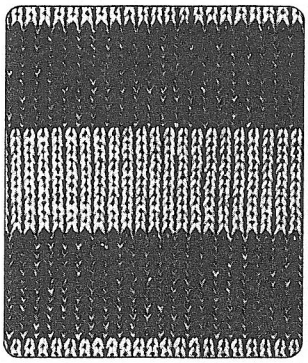
♣添え糸を添え糸口に入れるときは、地糸と添え糸を交差させないようにしてください。

11

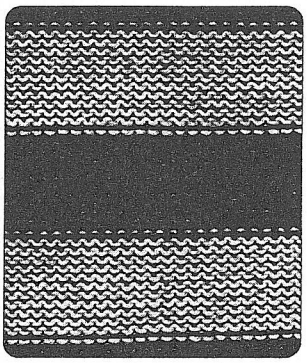


添え糸の糸端を指でつまみ、軽く真下に引くようにしながら、Kキャリジを動かします。

添え糸編（地糸と添え糸を入れ替えて編む場合）



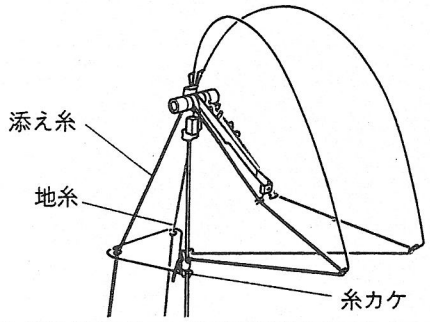
編地の表



編地の裏

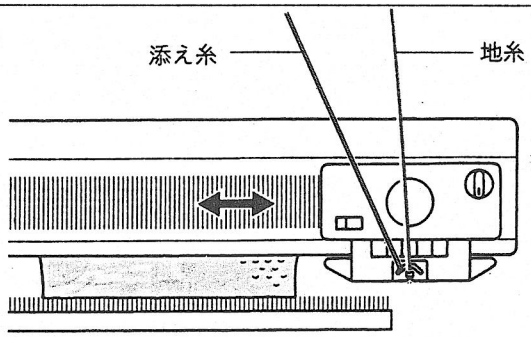
●添え糸編と同じ操作ですが、地糸と添え糸の糸口を切り替えて編みます。

1



糸取装置の右側に地糸を、左側に添え糸を通します。

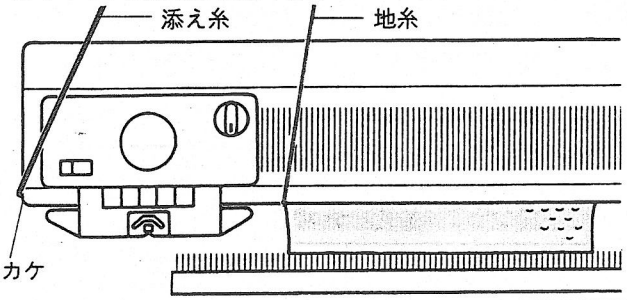
2



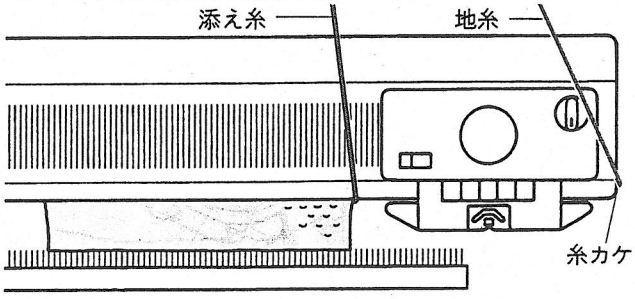
添え糸編で編糸を入れ替えるところまで編みます。
（59～60ページ参照）

3

● Kキャリジが編地の左側のとき

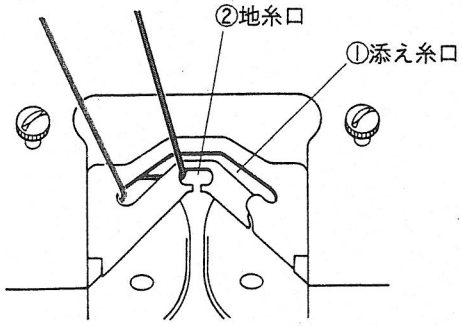


● Kキャリジが編地の右側のとき



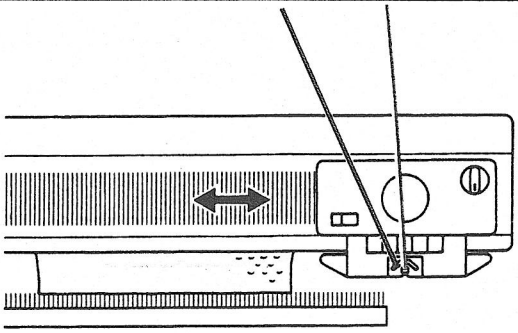
地糸と添え糸を糸口からはずします。
①地糸口の編糸をはずし休めます。
②添え糸口の編糸をはずし休めます。
糸取装置の右側に通した編糸――糸口より右側で休めます。
糸取装置の左側に通した編糸――糸口より左側で休めます。

4



①添え糸口、②地糸口の順に編糸を入れ替えて通します。

5



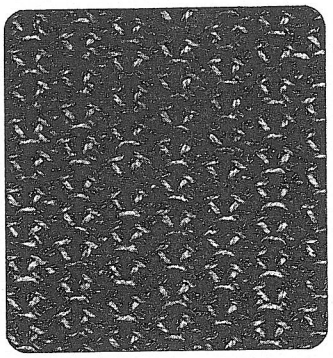
編糸を入れ替えながら編み進みます。

添え糸タック模様 利用できるカード：No. 1・3・8

カードNo.3



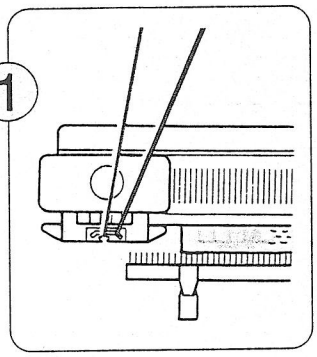
編地の表



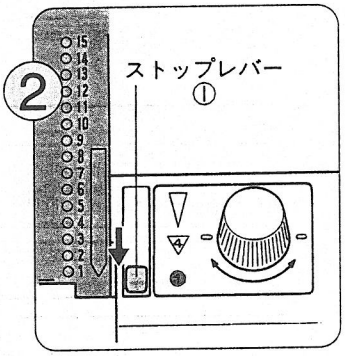
編地の裏

●添え糸タック模様は添え糸用糸口を使用し、タック模様と同じ手順で編みます。

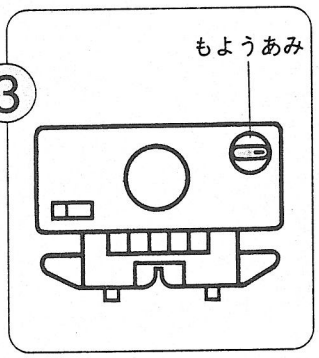
●模様の編み方



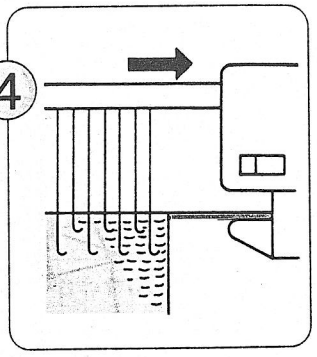
添え糸編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。



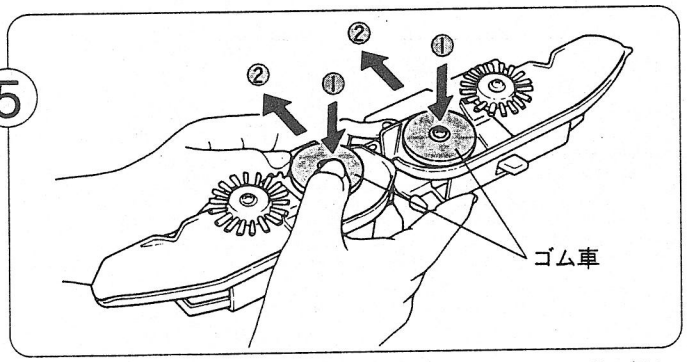
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈●〉に合わせます。



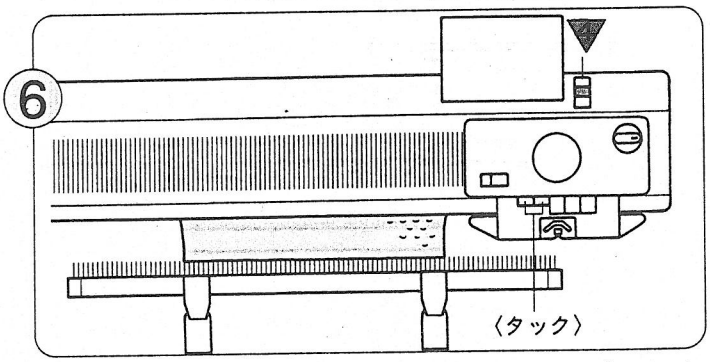
選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。



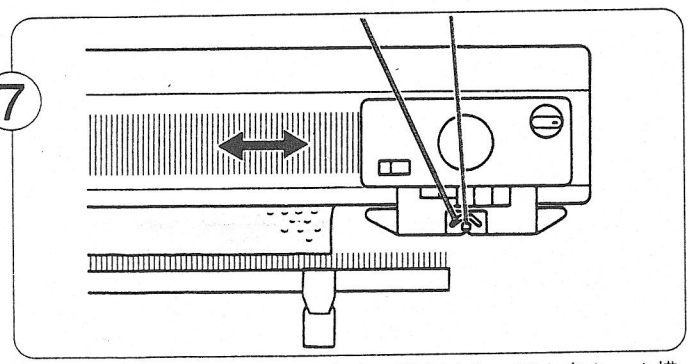
Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



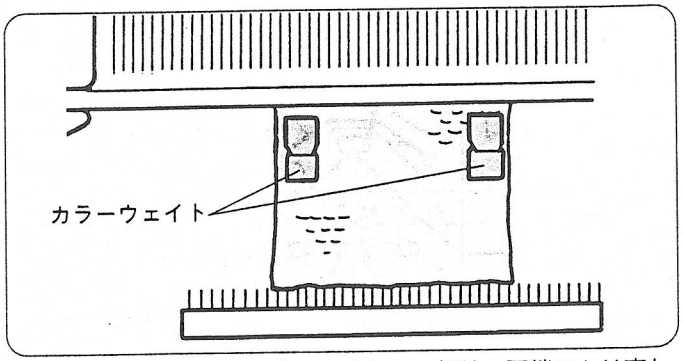
編地押えをKキャリジからはずして、①ゴム車のネジ頭を押し②そのまま矢印方向へ“パチッ”と音がするまで押し出します。編地押えをKキャリジに取り付けます。



カムボタンの〈タック〉左右を同時に押します。ストップレバーを〈▼〉に合わせます。



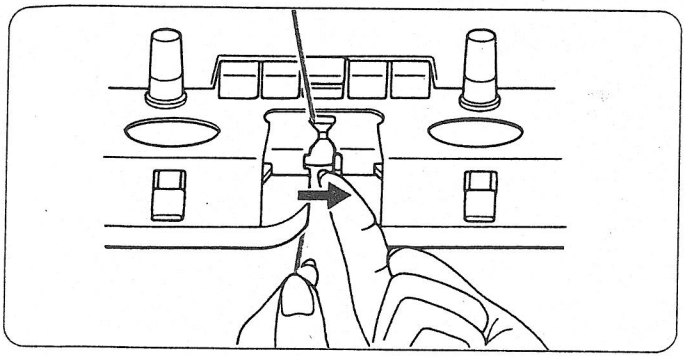
編糸を確かめ、Kキャリジを左右に動かすと、添え糸タック模様が編めます。



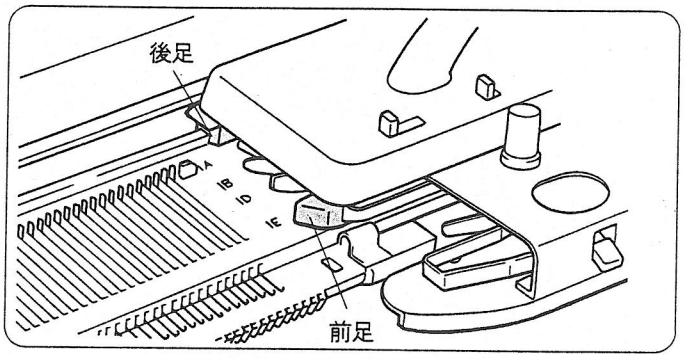
♣カラーウェイトは、20段ごとぐらいに編地の両端にかけ直します。

平編がうまく編めない場合

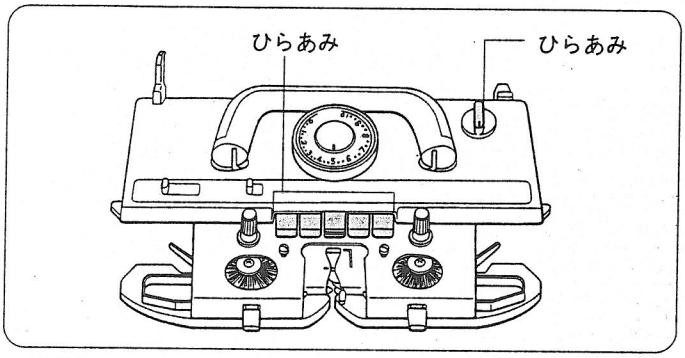
1. 編針に編糸がかからないときには



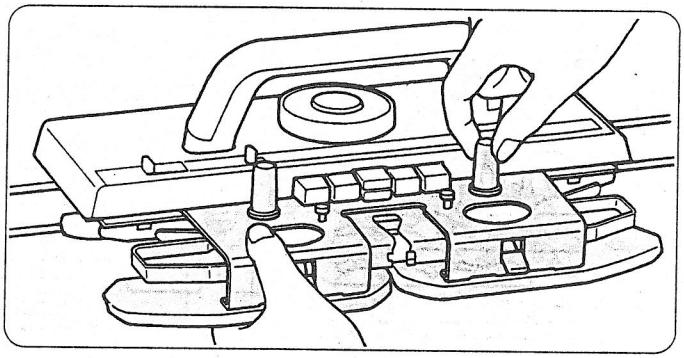
●編糸が糸口Ａに正しく入っていますか。
●糸口レバーは閉じていますか。



●Ｋキャリジの後足と前足は、ミゾ板に正しくセットされていますか。



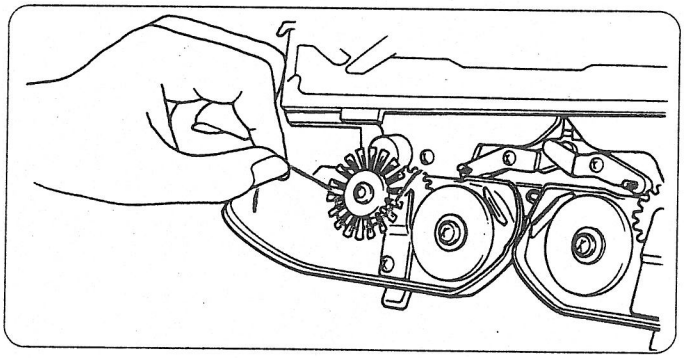
●選針切替ツマミは〈ひらあみ〉位置にセットされていますか。
●カムボタンは平編の状態(ボタンは押されていない)になっていますか。



●編地押えが浮いていないよう、正しくＫキャリジにセットされていますか。

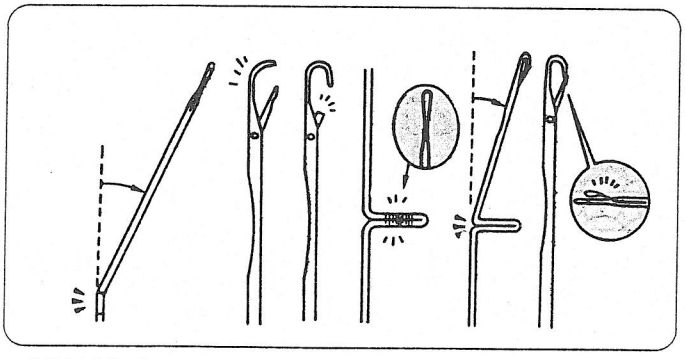
2. Ｋキャリジの操作が非常に重いときには

●編目ダイヤルと糸調子が編糸に応じて正しくセットされているか確認してください。
(編目ダイヤル…19ページ参照、糸調子…24ページ参照)
●編機が糸くずなどでよごれていませんか。Ｋキャリジの裏側も調べてください。
●油が切れていませんか。切れていたら注油してください。
(87ページ参照)
●糸取装置に編糸が正しくセットされていますか。
(24ページ参照)
●編糸が糸玉からスムーズに出ていますか。



●編地押え裏のハケ車・ゴム車がかるく回りますか。編糸が巻き付いて回らないことがあります。そのような場合には、編糸の巻き付きを取り除いてください。

3. 編目が引き上がってしまうときには

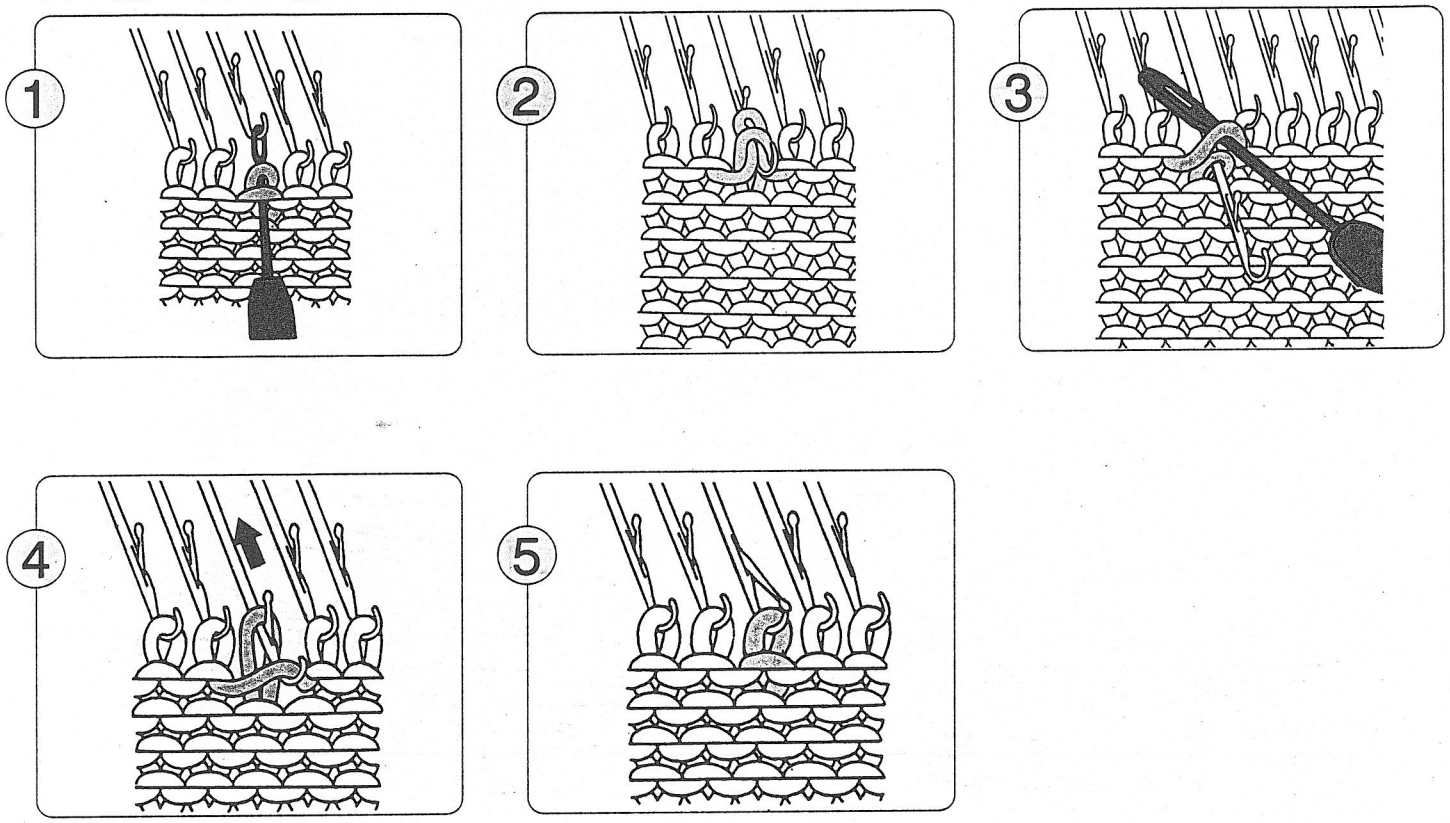


●編針が曲がっていませんか。曲がっていたら、取り替えてください。(86ページ参照)
●ゴム車を出してください。(27ページ参照)

4. 編目がおちてしまったら(編目の拾い方)

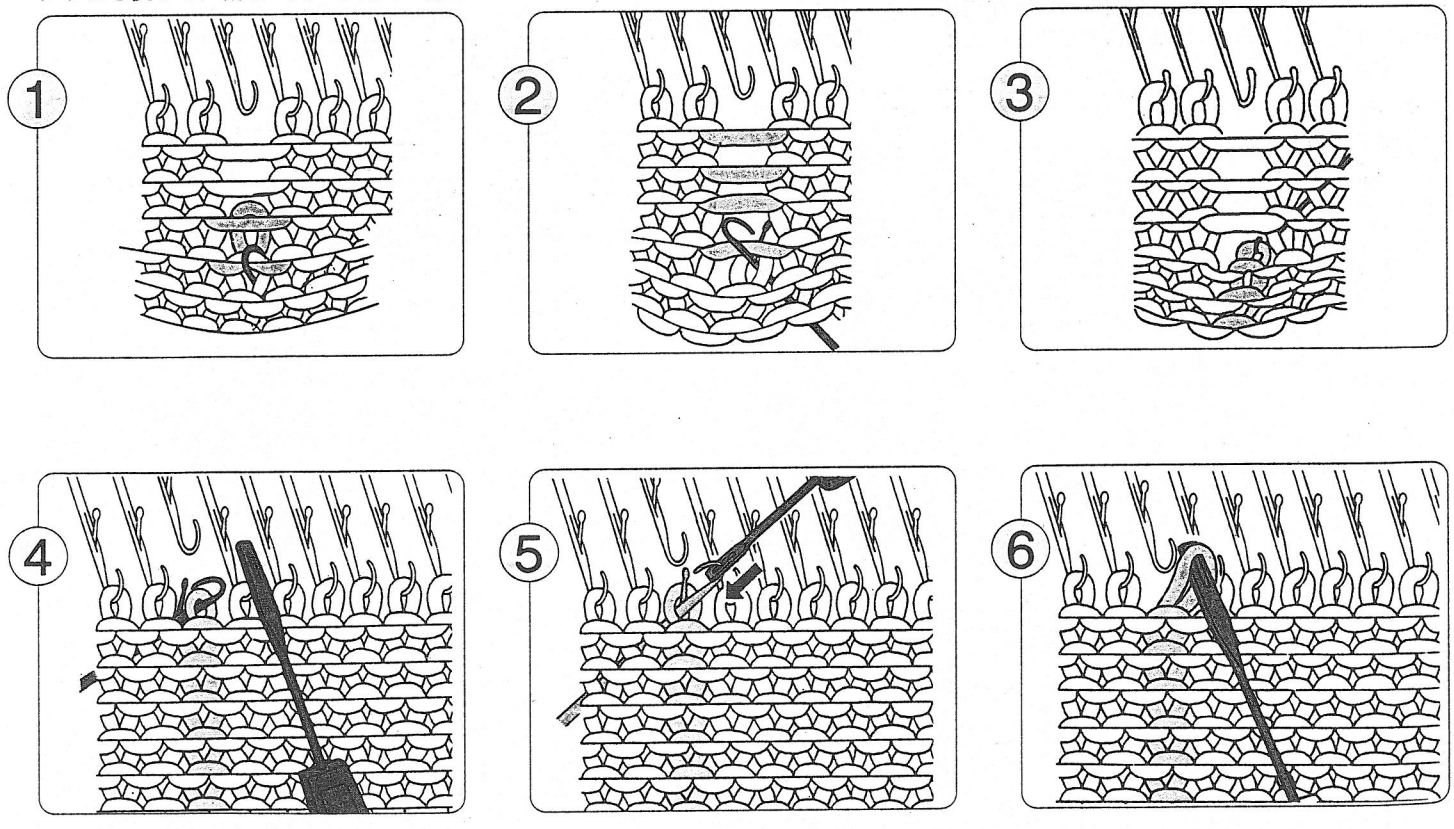
● 1段おちた場合

ウツシを使って、おちた編目の1段下の編目を拾い上げ、編針にかけて編目を作り直します。



●数段おちた場合

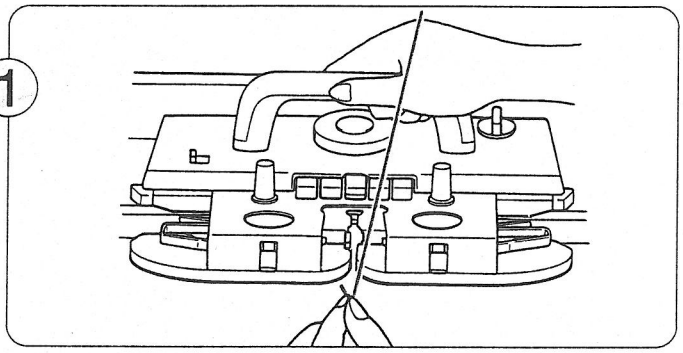
タッピを使って、編地の向こう側から編目を作り直して編針にかけます。



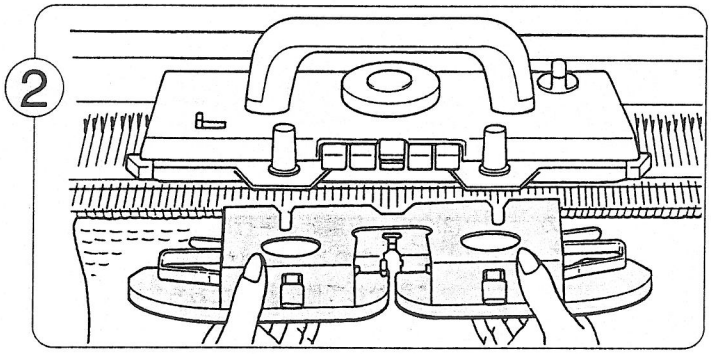
編みまちがえたときの直し方（平編・添え糸編）

編んでいる途中でKキャリジが動かなくなったら

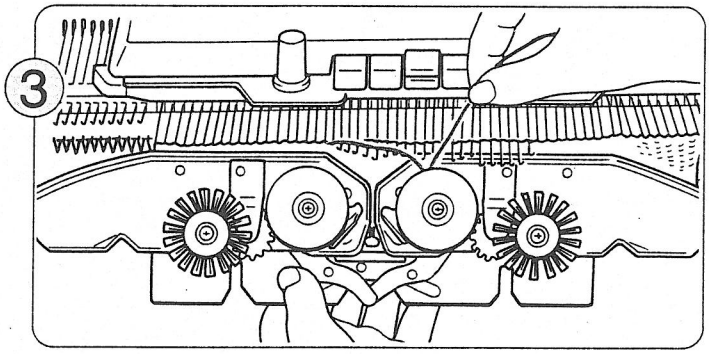
●このような場合には、無理にKキャリジを動かさないでください。Kキャリジをミゾ板からはずしてその段の始めから編み始めます。



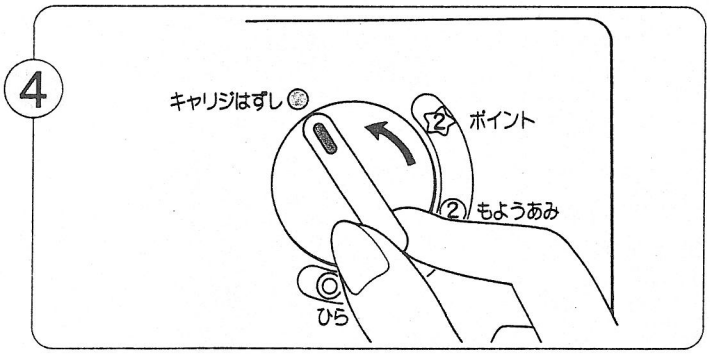
糸口Aから編糸をはずします。



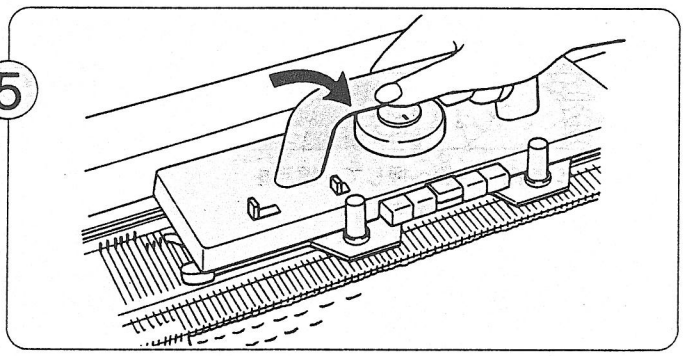
Kキャリジ左右の編地押えツマミをゆるめ、編地押えをKキャリジからはずします。



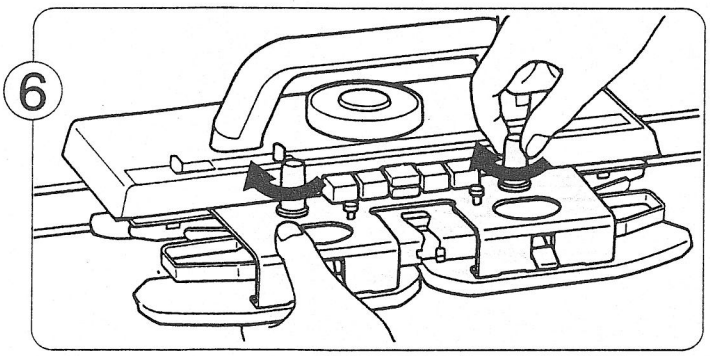
編地押えを裏返してみます。編糸がハケ車・ゴム車にからんでいたらはずします。



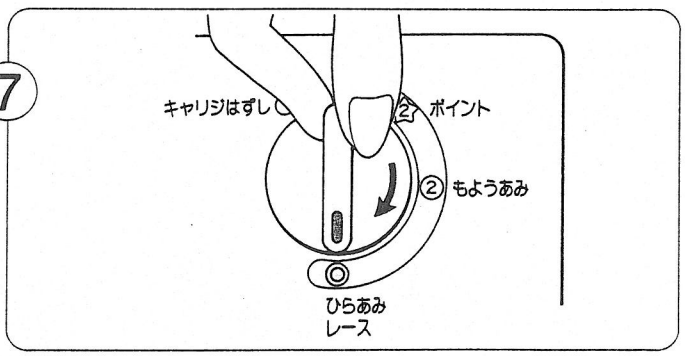
選針切替ツマミを〈キャリジはずし〉にセットします。



Kキャリジを手前へ持ち上げ、ミゾ板からはずします。

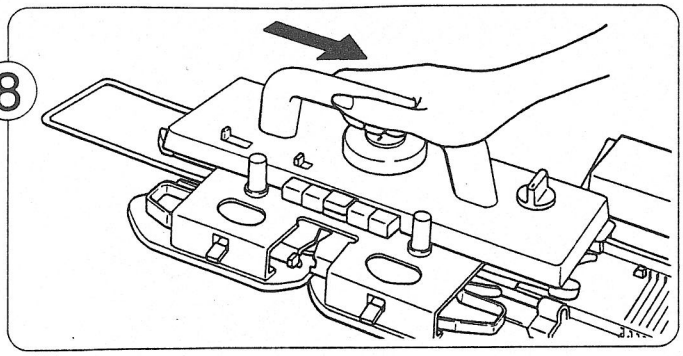


Kキャリジを左右どちらかの補助レールの上に置き、編地押えを取り付けます。



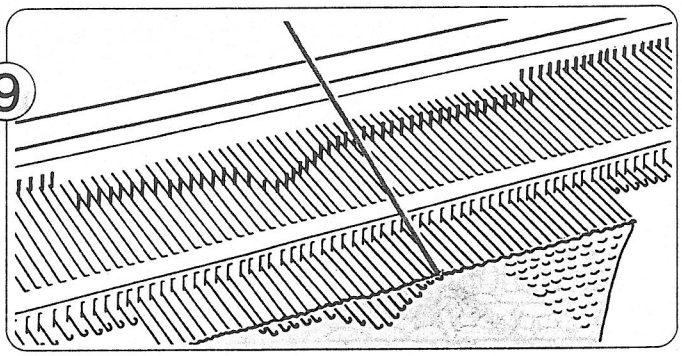
選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。

8

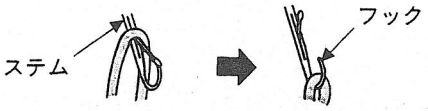


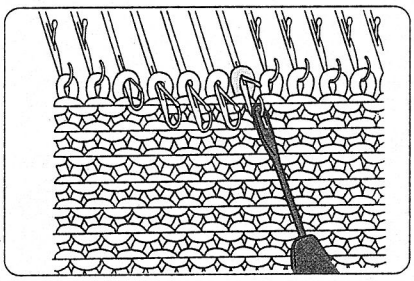
Kキャリジをミゾ板の上に正しく置きます。

9

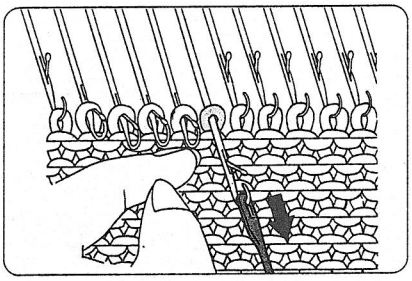


Kキャリジをはずしたあとの乱れている編針を直します。編目がおちないように、編針のステムの上にある編目を次の(1)～(5)の手順でフックにもどします。

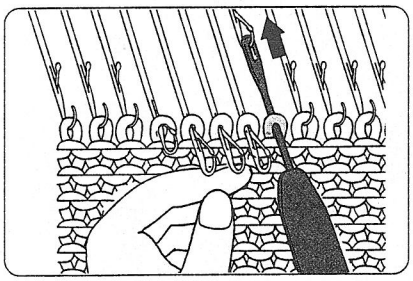




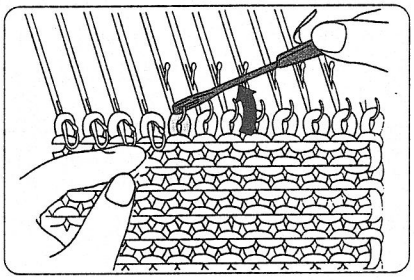
(1)ウツシの穴に、目直しする編針のフックを入れます。



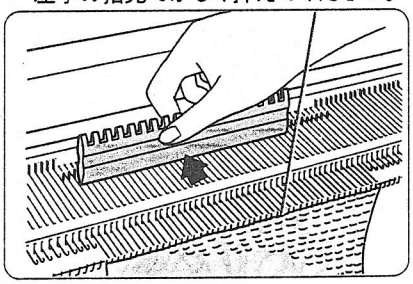
(2)ウツシを編針と平行に、手前に引きます。このとき編地がいっしょに前に引かれて他の編目がおちないよう左手の指先でかるく押えてください。



(3)ウツシを向こう側へ押して、編目をウツシの上に移します。

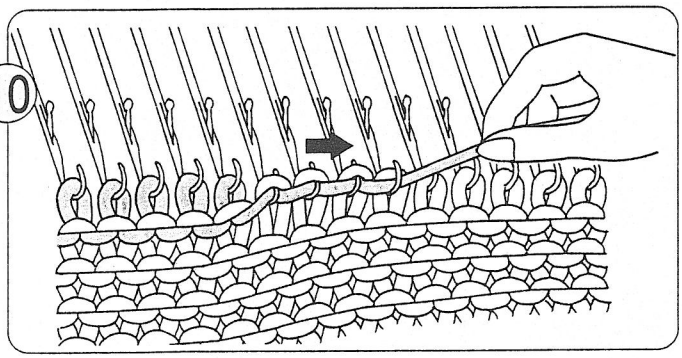


(4)再び、手前にウツシを引きもどして、ウツシの穴を編針のフックに入れたまま、少しななめに持ち上げて編目をフックに移します。



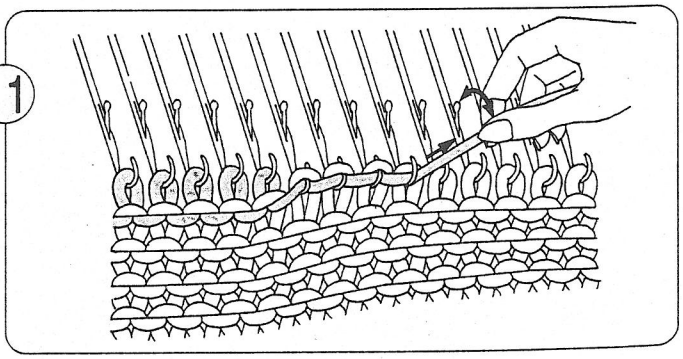
(5)(1)～(4)を繰り返して、全てのステムにある編目をフックにもどします。その後模様板を使ってすべての編針をB位置にそろえます。

10



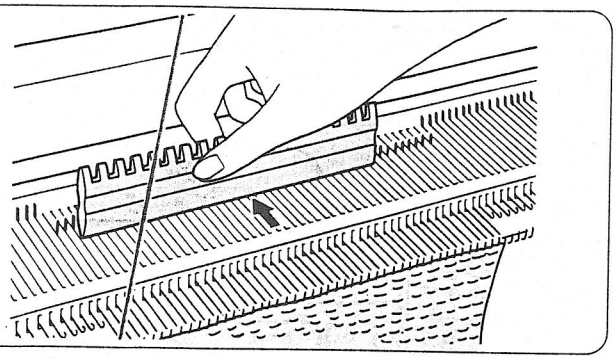
途中まで編まれている段をほどくため、編糸を編み方向へクシバの線と平行に引いて、編目を引きしぼります。

11



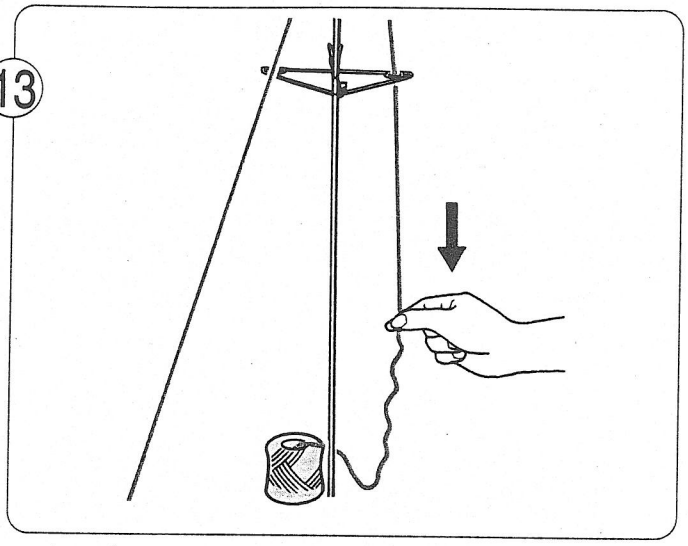
斜め上から前後方向に振りながら編針のフックからはずすようにしてほどきます。前の段の編目はフックにかかります。⑩・⑪の操作を何回かに分けて行います。

⑫



編地をほどいたあと、編目がすべてフックにかかっているかどうか確認してください。その後、模様板を使ってすべての編針をB位置にそろえます。

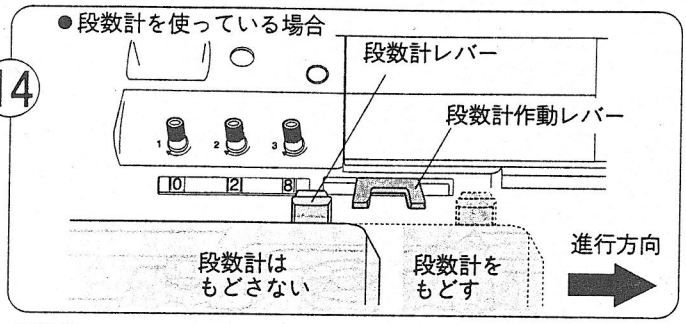
⑬



ほどいた糸のたるみをなくすため、糸取装置の後ろから編糸を引き下げます。

♣編地を何段かほどく場合には⑩～⑫を繰り返して行ってください。

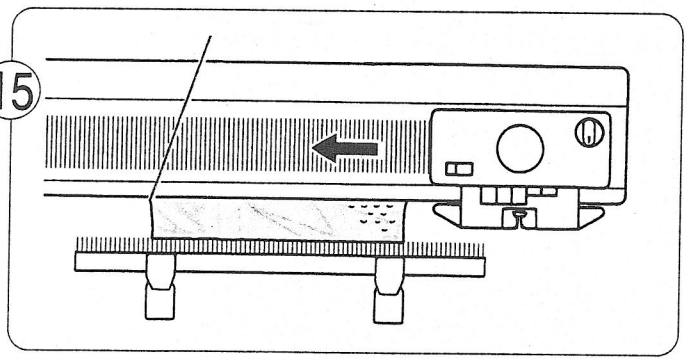
⑭



段数計やニットリーダーを使用している場合には、ほどいた段数だけもどします。

〔途中まで編んだ段で段数計やニットリーダーが送られていない場合には、その段を含めてもどす必要はありません。〕

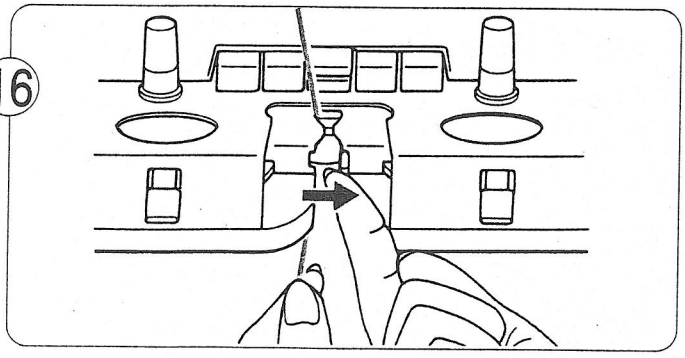
⑮



もしKキャリジが編糸の端と反対側にあったら、次の(1)～(5)の方法でKキャリジを編糸がある側へカラ送りしてください。

(1)編針がB位置にそろっているか確認します。
(2)カムボタン〈すべり左右〉を押します。
(3)段数計やニットリーダーを使用している場合、Kキャリジの段数計レバーとリーダーレバーを上げます。
(4)Kキャリジを反対側へ動かします。
(5)Kキャリジを編糸がある側に動かしたあと、ボタンもどしレバーを右に押して、カムボタンをもとにもどします。

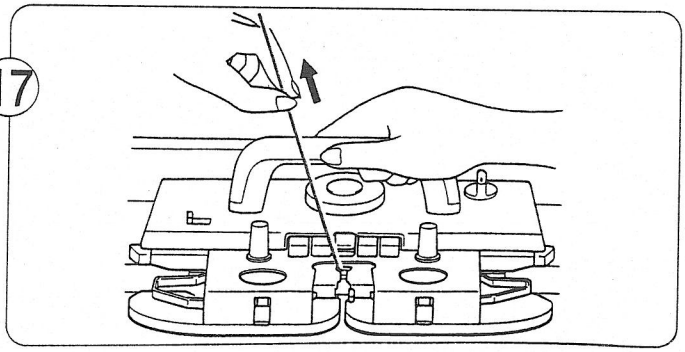
⑯



編糸を糸口Aへ入れ、糸口レバーを閉じます。

♣段数計またはニットリーダーを使用している場合には、段数計レバーまたはリーダーレバーを下げます。

⑰



編糸のたるみをなくすよう、左手で糸をかるく引いて、Kキャリジを操作します。

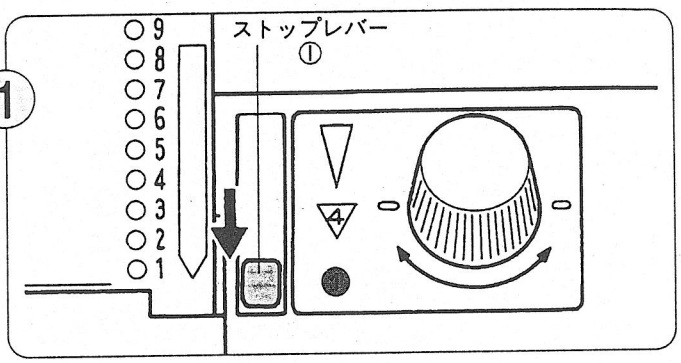
2 編地をほどきたい場合

66ページの⑩～⑰をします。

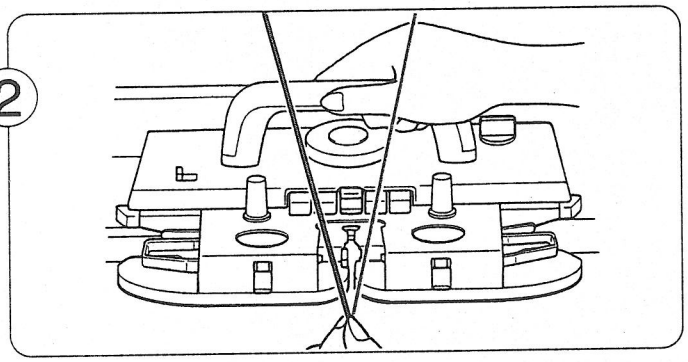
編みまちがえたときの直し方 模様編（同時編込模様・タック模様・すべり目模様・スレッド模様・編込レース模様・添え糸タック模様）

1. 編んでいる途中でKキャリジが動かなくなったら

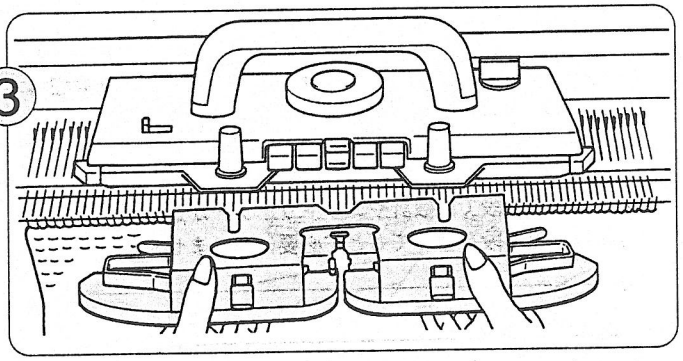
●無理に動かさず、Kキャリジをミゾ板からはずして編み直します。



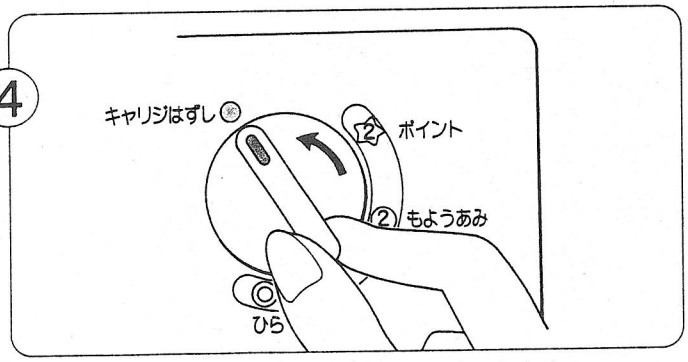
①
ストップレバーを〈●〉にします。



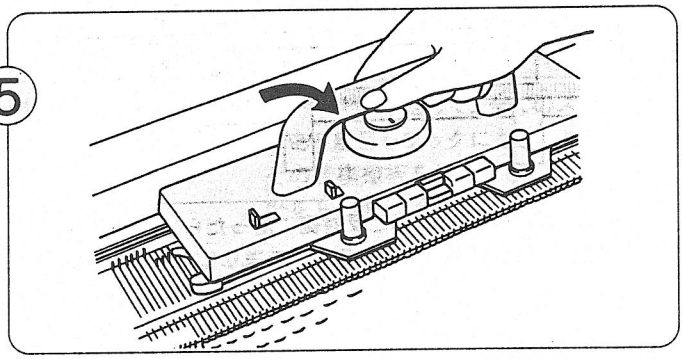
②
糸口から編糸をはずします。



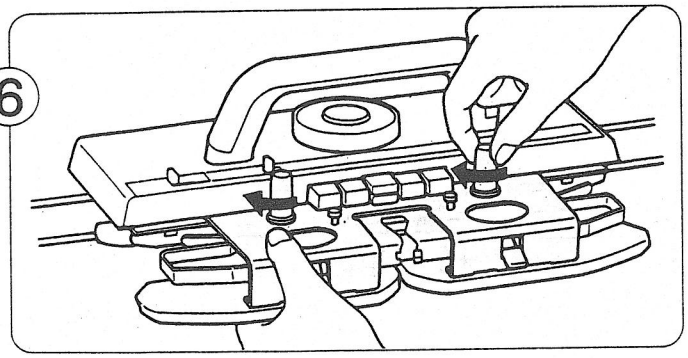
③
Kキャリジの編地押えツマミをゆるめ、編地押えをはずします。



④
選針切替ツマミを〈キャリジはずし〉にセットします。

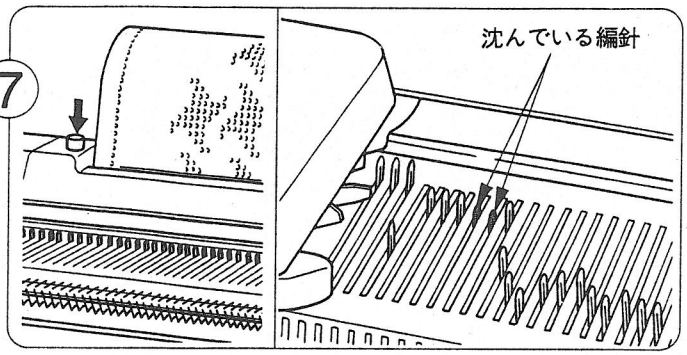


⑤
Kキャリジを手前に持ち上げてはずします。選針切替ツマミを、〈ひらあみ〉に合わせ補助レールの上に置きます。



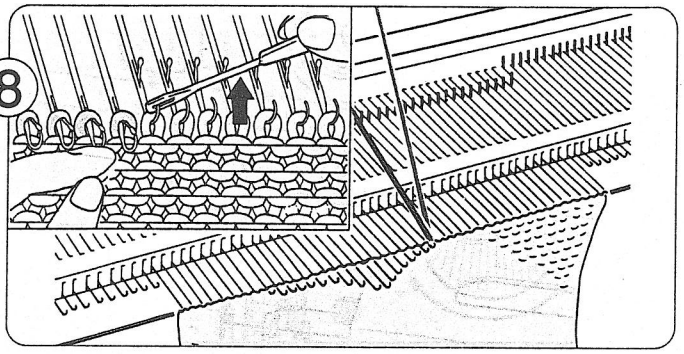
⑥
Kキャリジに編地押えを取り付けます。

⑦



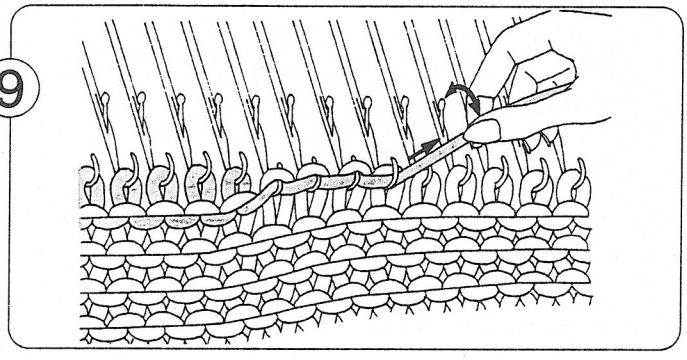
もし、編針が沈んだままになっているときには、カード送りボタンを押すと自動的に浮き上がります。

⑧



編針のステムの上にある編目をフックにもどし、Kキャリジをはずしたあとの乱れている編針を直します。(66ページ⑨の(1)〜(5)参照)

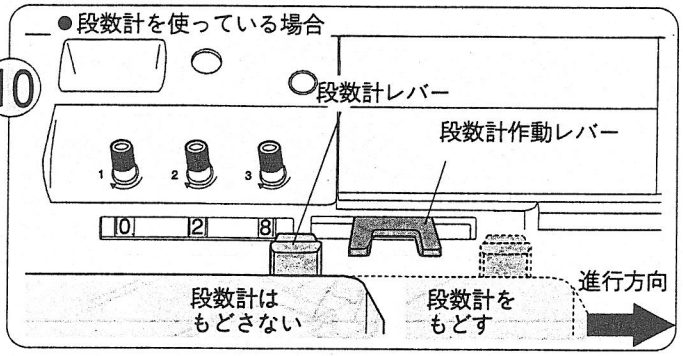
⑨



途中まで編まれている段をほどきます。(66ページ⑩〜⑬参照)

♣数段ほどく必要のある場合には、何段ほどいたか覚えておいてください。

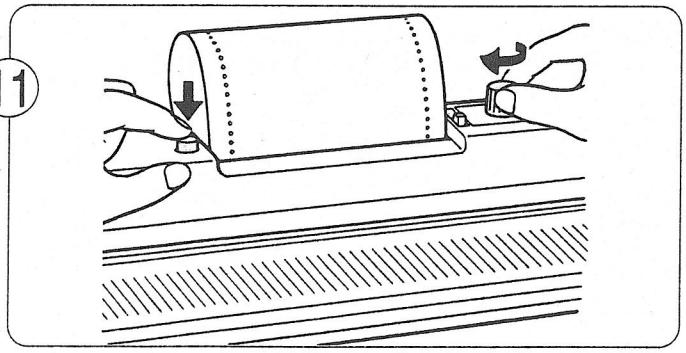
⑩



段数計やニットリーダーを使用している場合は、ほどいた段数だけもどします。

♣途中まで編んだ段で、段数計やニットリーダーが送られていない場合は、その段を含めてもどす必要はありません。

⑪



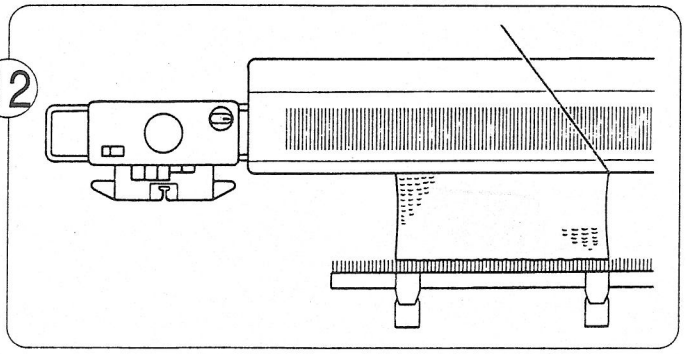
編地をほどいた段数だけパンチカードをもどします。

♣間欠送り模様のときは右表のようにもどします。

●間欠送り模様のときのパンチカードをもどす段数早見表

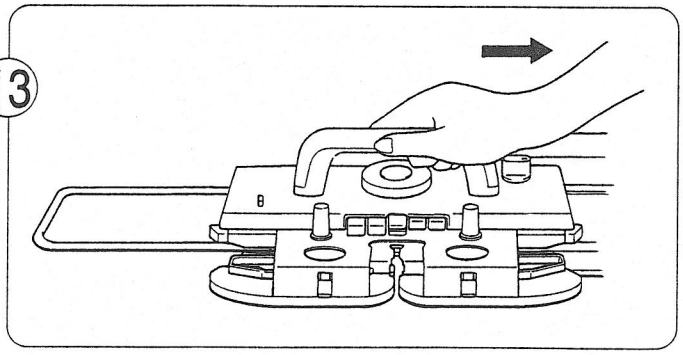
編地をほどいた段数	パンチカードをもどす段数	
	編糸が左側にある場合	編糸が右側にある場合
1	0	1
2	1	1
3	1	2
4	2	2
5	2	3
6	3	3
7	3	4
…	…	…

⑫



もし、Kキャリジが編糸の端と同じ側にあったら、67ページ⑮の(1)〜(5)を参照して、Kキャリジを編糸と反対側の補助レールの上に置きます。編まないで模様編の選針を行うためにカムボタンの〈すべり左右〉を押し、選針切替ツマミを模様に合わせて〈もようあみ②か ② 〉にセットします。

⑬

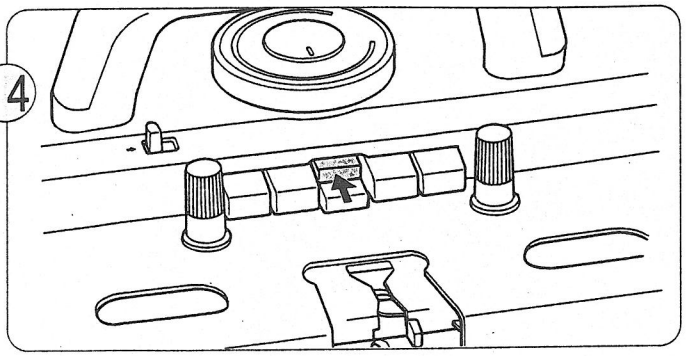


Kキャリジを編糸のある側へ動かし選針します。

このとき糸口には編糸は入れません。

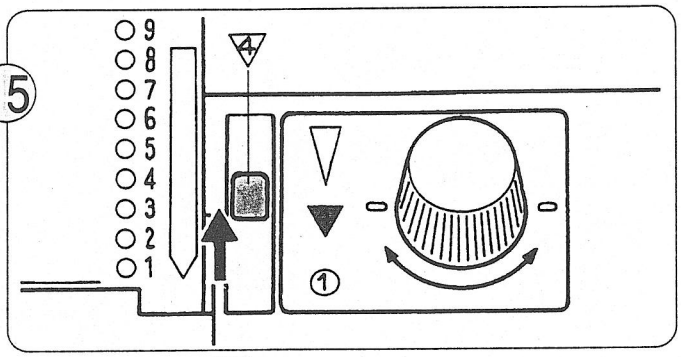
♣段数計やニットリーダーを使用している場合は、段数計レバーやリーダーレバーを上げて操作してください。

⑭



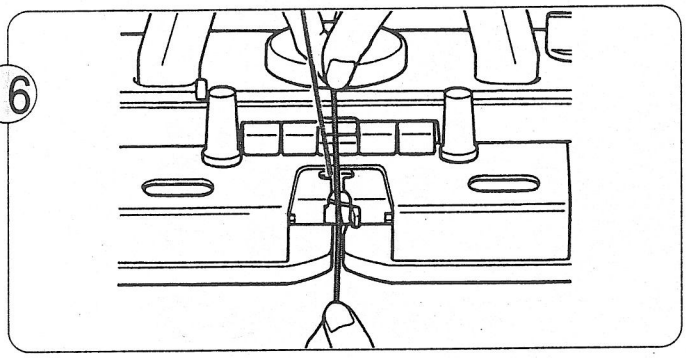
編針が選針されたら、模様編に合わせてカムボタンを押します。

⑮



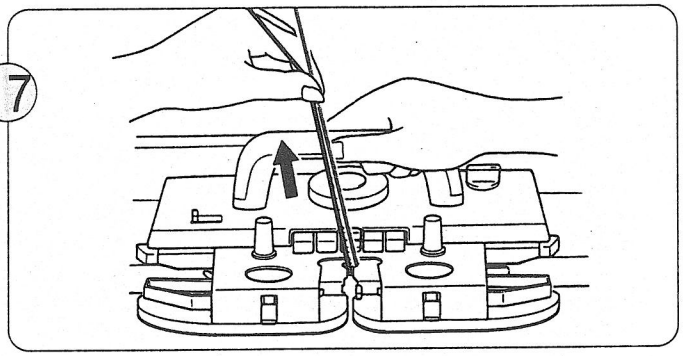
ストップレバーを〈▼〉にします。
♣間欠送り模様のときは〈▽〉にします。

⑯



糸口に編糸を入れます。
♣配色糸、スレッド糸、添え糸を使用している場合は、忘れないようにしてください。

⑰



編糸がたるまないように左手で編糸をかるく引いて模様編を続けます。
♣段数計やニットリーダーを使用している場合は、段数計レバーやリーダーレバーを作動位置に下げてください。

編地をほどきたい場合（糸を編んでいてキャリッジが手前にあるとき）

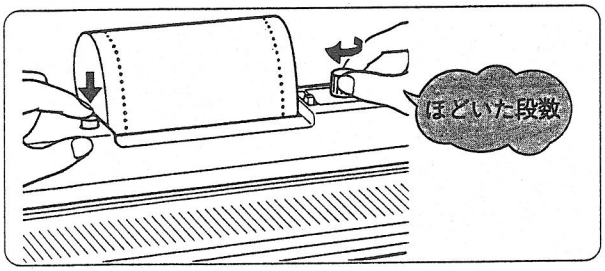
① Kキャリジを動かさないで、ストップレバーを〈●〉にします。

② 指示マークを見て、パンチカードが送られているかどうかを確認します。
・指示マークが次の段のKキャリジの進行方向を示していたら、パンチカードは送られています。
・間欠送り模様を編んでいるとき、Kキャリジが編地の左側にあるときには、指示マークが次の段のKキャリジの進行方向〈◁▶〉を示していても、パンチカードは送られていません。

パンチカードが送られていないとき

③ 編地をほどきます。

④ 編地をほどいた段数だけパンチカードをもどします。
♣間欠送り模様のときは、69ページ⑪の右表のようにもどします。

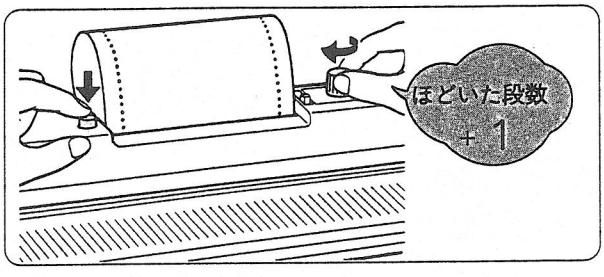


⑤ 69ページ⑫～⑰を行います。

パンチカードが送られているとき

③ 編地をほどきます。

④ 編地をほどいた段数に1段加えてパンチカードをもどします。
♣間欠送り模様のときは、69ページ⑪の右表の段数に1段加えてパンチカードをもどします。

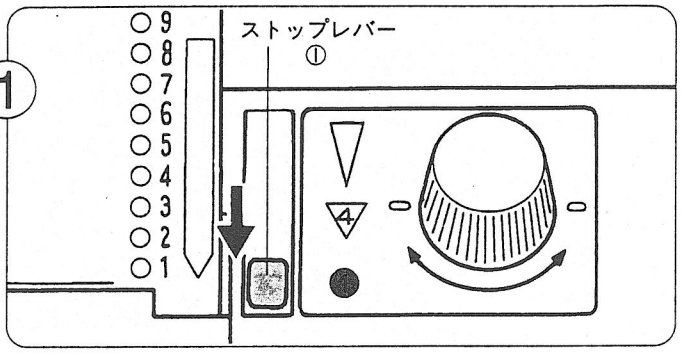


⑤ 69ページ⑫～⑰を行います。

編みまちがえたときの直し方(レース模様・タックレース模様)

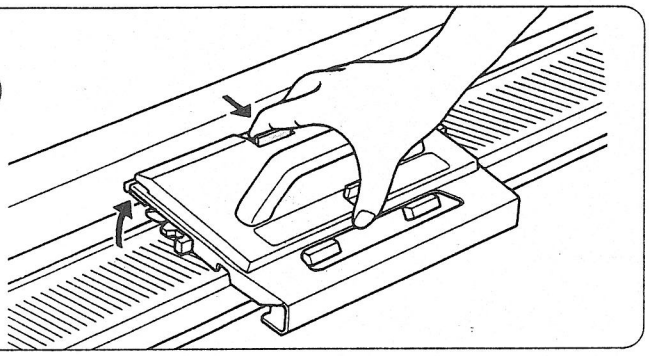
●無理に動かさず、Lキャリジをミゾ板からはずして編み直します。

1



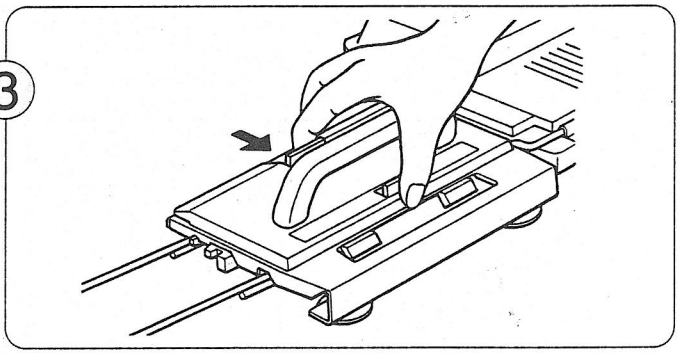
ストップレバーを〈●〉に合わせます。

2



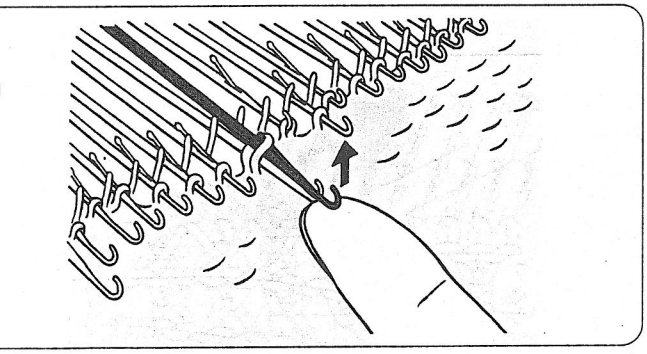
Lキャリジのはずしボタンを手前に引き、向こう側を持ち上げてはずします。編針が引っかかっているときは、よく見て無理のないようにはずしてください。

3



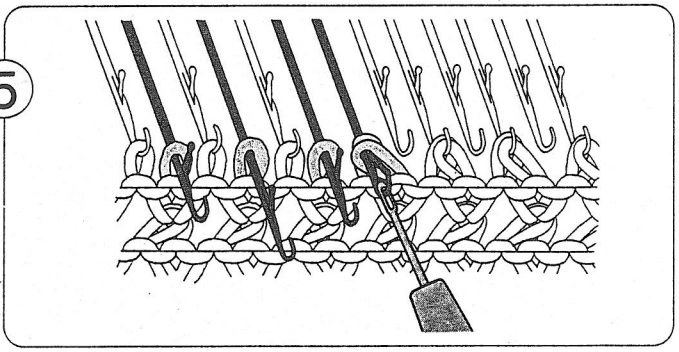
はずしボタンを押して、Lキャリジを左側の補助レールの上に正しく置きます。

4



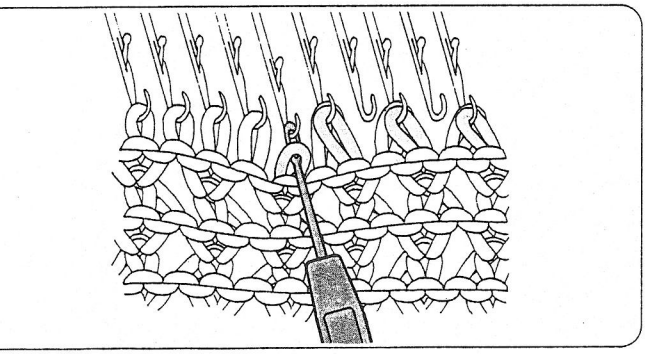
2本重なっている編針があったら、針先を指で持ち上げてはずします。

5



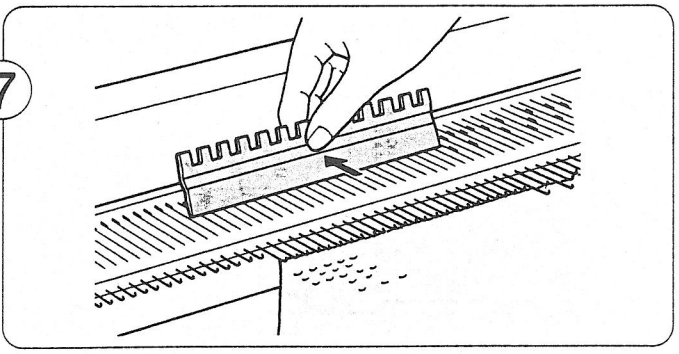
ベラの向こう側にある編目をウツシを使ってフックにもどします。

6



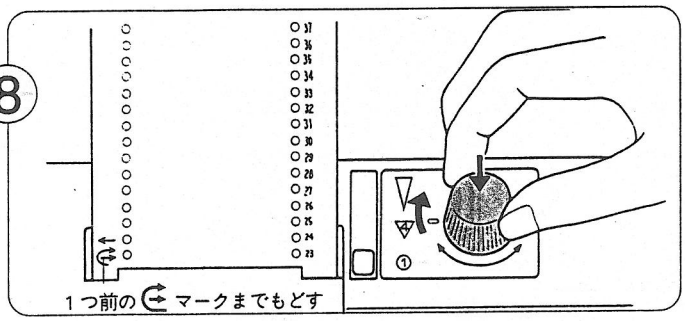
ウツシを使って移った編目をもとの針にもどし、平編の状態にもどします。

7



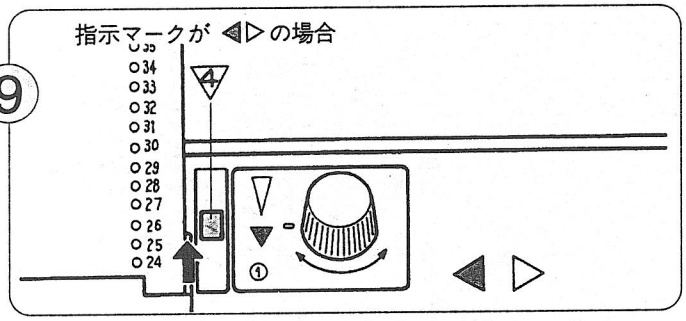
乱れているすべての編針を、B位置にそろえます。

⑧



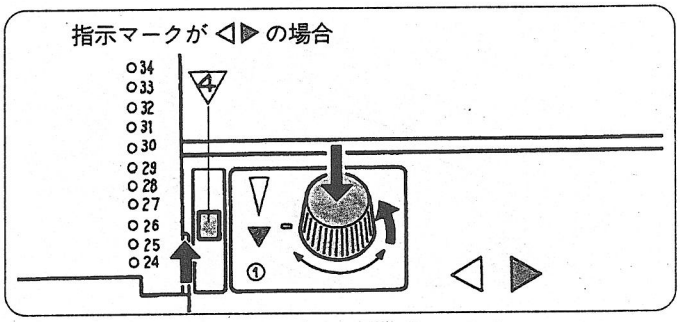
カード送りツマミを時計回り方向に回し、パンチカードを１つ前の マークまでもどします。

⑨



指示マークが ◀▷ の場合

ストップレバーを〈▼〉に合わせ、パンチカードの矢印に従ってＬキャリジから動かし、編み続けます。

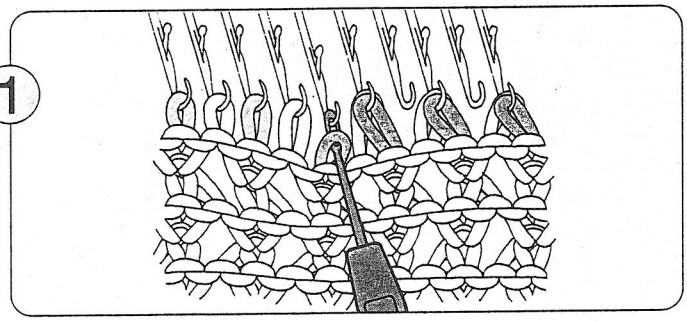


指示マークが ◁▶ の場合

カード送りツマミでパンチカードを１段送り、ストップレバーを〈▼〉に合わせます。Ｌキャリジを右に動かしパンチカードの矢印に従って編み続けます。

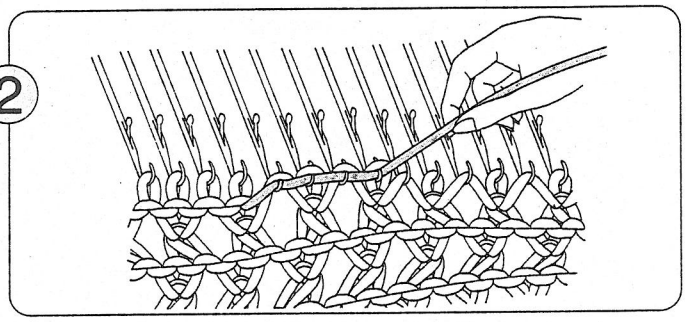
2. 編地をほどきたい場合

①



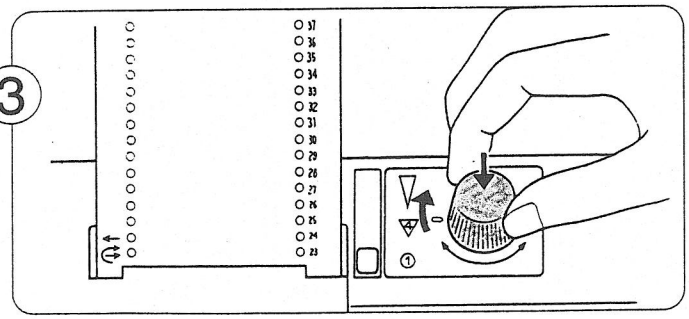
ストップレバーを〈●〉に合わせます。
ウツシを使って移った編目をもとの編針にもどし、平編の状態にしてＢ位置にそろえます。

②



平編の部分（２段）をほどきます。
♣段数計やニットリーダーを使用している場合はほどいた段数だけもどします。

③



パンチカードを１つ前の マークまでもどします。

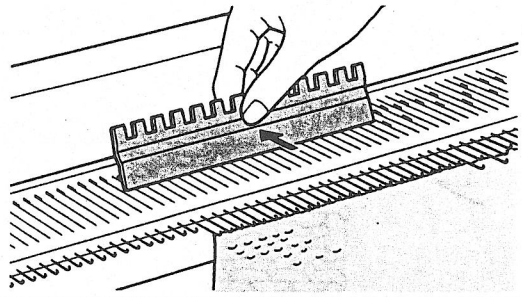
④ ①～③を繰り返して、移された編目を、平編の状態にもどしながら、正しく編めている位置までほどいていきます。

⑤ Ｋキャリジで平編（２段）を編んでから、上記１－⑨を行います。

Kキャリジをカラ送りするには

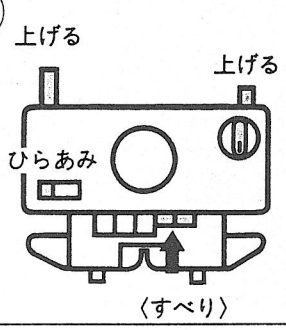
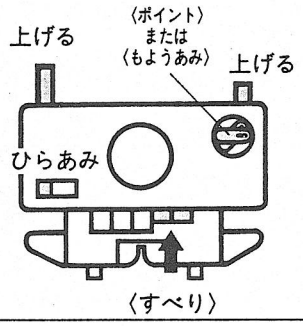
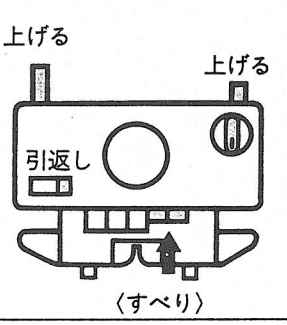
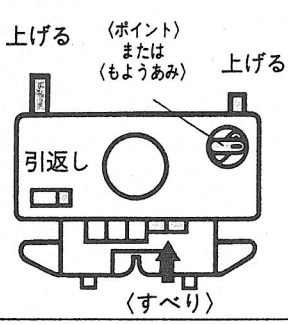
● Kキャリジをミゾ板に取り付けたまま、編まずに移動することができます。

1



編目がベラの向う側にある場合はフックにもどしてから、E位置以外の編針をB位置へもどします。

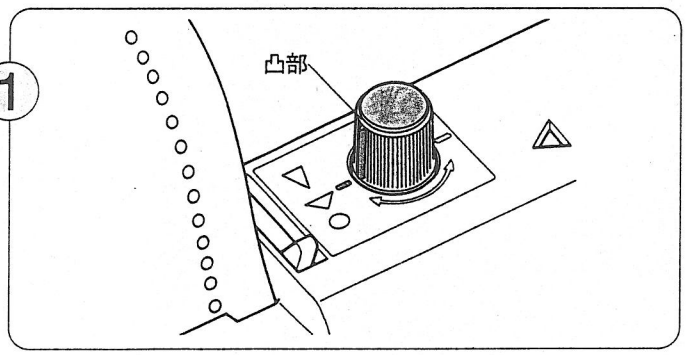
2

●編針がすべてB位置にあるとき	●選針しながらカラ送りするとき	●編針がB位置とE位置にあるとき	●編針がB位置とE位置にあって、選針しながらカラ送りするとき
			
上げる 上げる ひらあみ 〈すべり〉	上げる 〈ポイント〉 または 〈もようあみ〉 上げる ひらあみ 〈すべり〉	上げる 上げる 引返し 〈すべり〉	上げる 〈ポイント〉 または 〈もようあみ〉 上げる 引返し 〈すべり〉

それぞれの場合によってKキャリジをセットし、Kキャリジを動かしてカラ送りします。

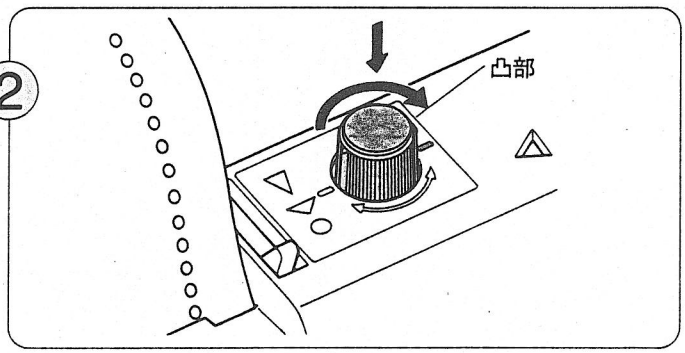
正しく選針されているかどうか確認したいときには

1



カード送りツマミを押さずに回し、凸部を表示板の印に合わせます。

2

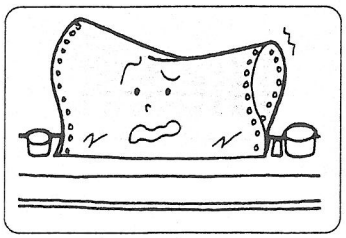


送りツマミをいっぱいに押し下げ、時計回り方向に180°回して、反対側の印に合わせるとカードは7段もどり、現在編んでいる段の模様穴がカード差込口に現われます。

編針がまちがって選針されていた場合

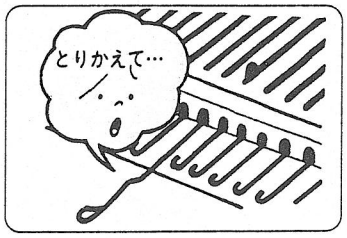
次のような原因が考えられます。

●パンチカードが正しく入っていないとき



カードが斜めに入っていたら、まっすぐに入れ直します。

●編針が曲がっているとき



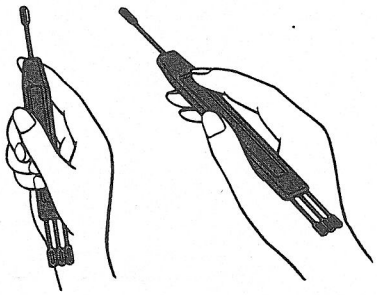
まちがって選針されている編針をE位置まで出し、曲がっていたら取り替えます。
(86ページ参照)

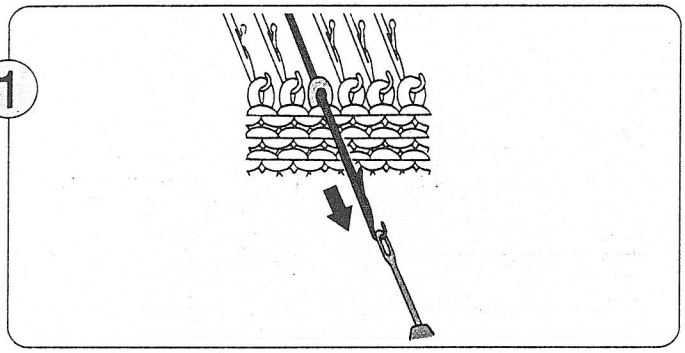
ウツシの使い方（編目の移し方）

●ウツシは増し目、減らし目、移し目などに使います。
●ここでは移し目の方法で説明します。

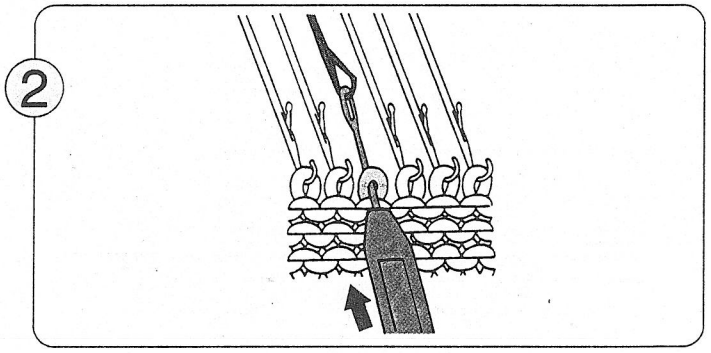
■ウツシの持ち方

2つの持ち方があります。自分で使いよいと思われる方法で行ってください。

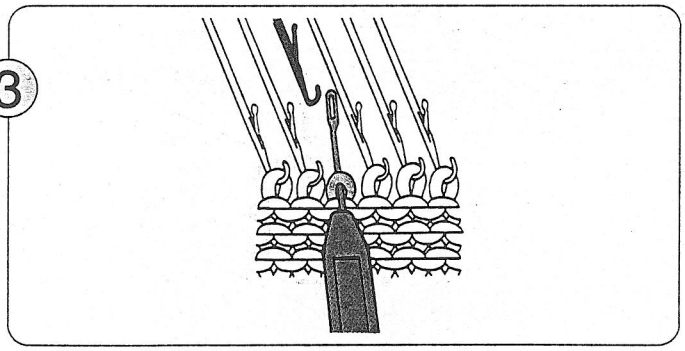




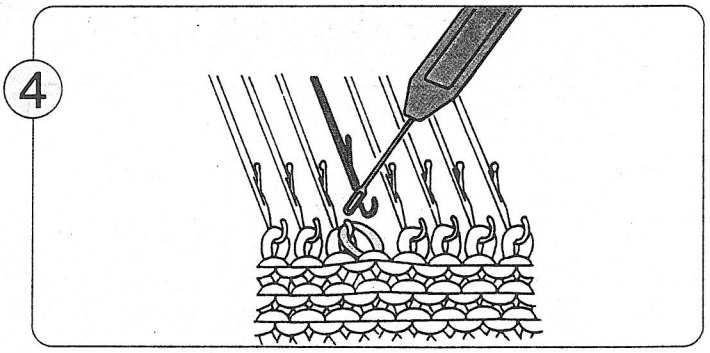
編針のフックにウツシの穴をかけ、手前に引き出して編目をベラの向こうに移します。



逆に押すとベラが閉じ、編目はウツシに移ります。



フックからウツシの穴をはずし、移したいとなりの編針のフックにウツシの穴をかけます。



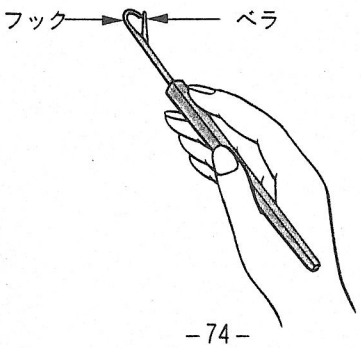
ウツシの手前側を少し持ち上げて、編目をフックにすべり込ませてからウツシをはずします。

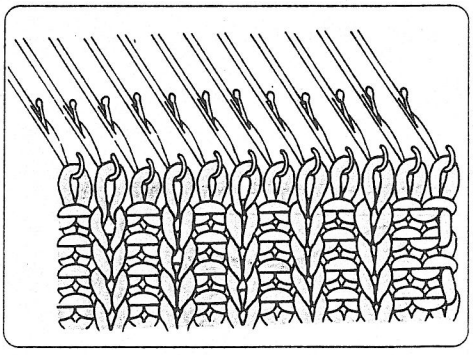
タッピの使い方（ゴム編）

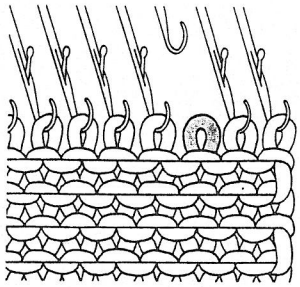
●タッピはゴム編や、編目がおちたときなどに使います。
●ここでは1目ゴム編の編み方で説明します。

■タッピの持ち方

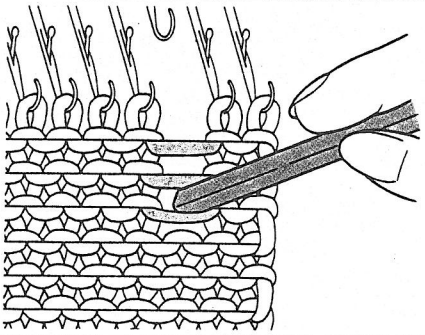
鉛筆を持つようにして持ち、ベラを上にします。



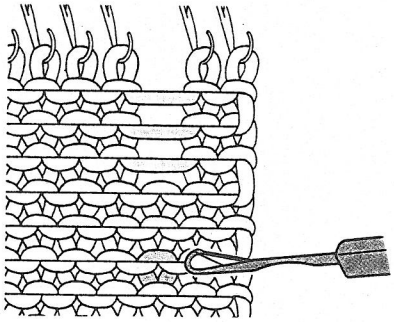


① 

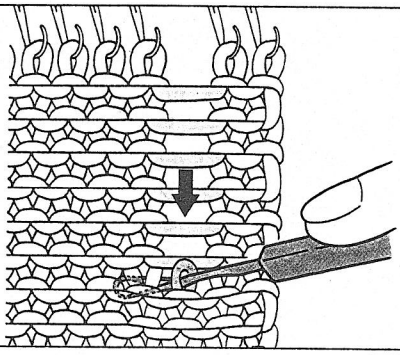
右端から３本目の編針を、E位置に出してからA位置に押してもどして、編目をフックから落とします。

② 

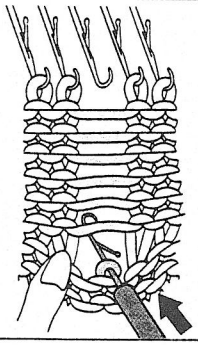
タッピの柄を使用し、おとした編目のすぐ下を押して編地をほどきます。

③ 

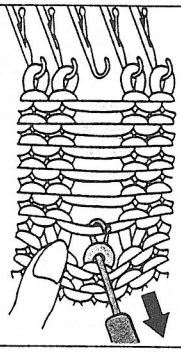
ゴム編に返そうとしている位置より２～３段上までほどき、ゴム編を始める編目にタッピの先を差し込みます。

④ 

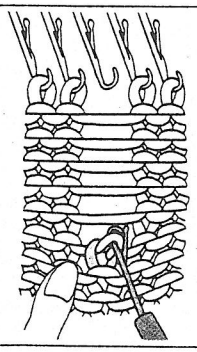
編目に差し込んだタッピを少し強く押し下げれば、ほどき残した２～３段がほどけます。

⑤ 

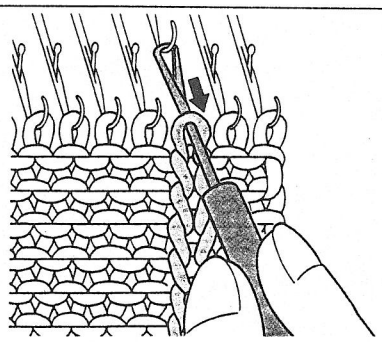
編地を左手で下に引っぱって、しっかり持ちます。タッピを編地の向こう側へ押し込み、編目をタッピのベラより越えさせます。

⑥ 

はしご状にほどかれた最も下の段の編糸をタッピのフックでつかみ、タッピを手前へ引きます。

⑦ 

タッピを引くことによってタッピでつかんだ編糸は、タッピの上にあった編目をくぐり、新しい表目を作ります。

⑧ 

⑤～⑦の操作を繰り返し、上まで表に返して最後の編目を編針に移します。編針を１本おきに同じようにして、表目に返していきます。

♣編地の両端は返さないでおきます。

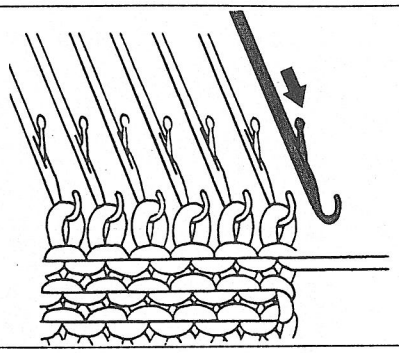
編目の増し方（増し目）

● 1目増す場合

1針を1目ずつ出す増し目

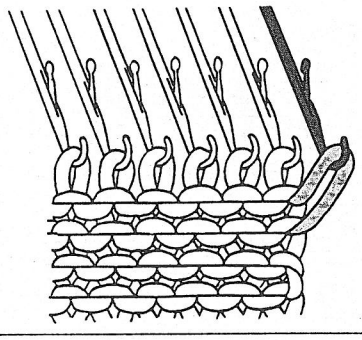
簡単に早く増し目ができます。ミシン縫製で仕上げをする場合に適しています。
この方法は、Kキャリジのある側で行います。

1



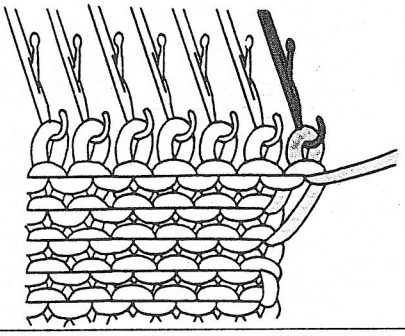
Kキャリジ側で編地のとなりの編針を1本、B位置に出します。

2



Kキャリジを操作して1段編みます。B位置に出した編針に編糸がかかります。

3

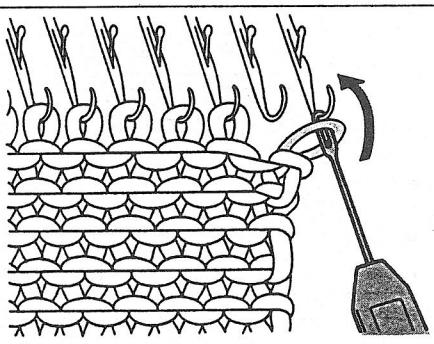


Kキャリジをもう1段操作します。1目の増し目ができました。

1目立てる増し目

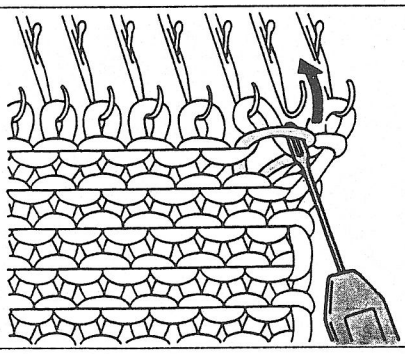
手ではぐ場合に適しています。この方法はKキャリジのある側、ない側、両側で行うことができます。

1



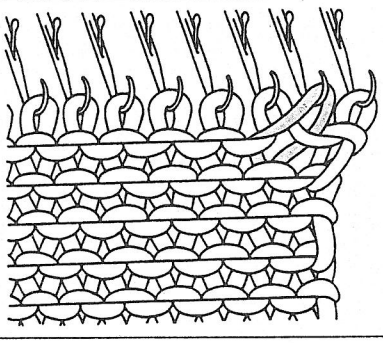
端の1目をウツシに取り、1目外側の編針(増す針)に移します。

2



端から2目めの編目の、1段下の編目をウツシで引き上げ、となりの編針にかけます。

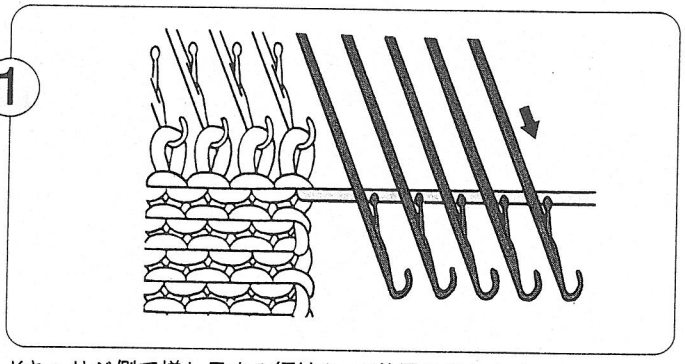
3



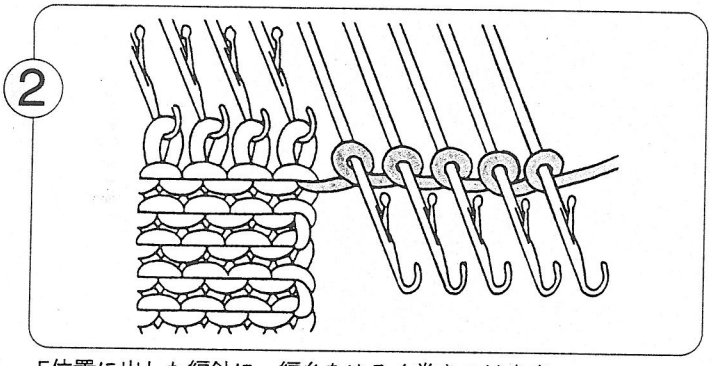
増し目が終わったら、Kキャリジを操作して編み続けます。

● 2目以上増す場合

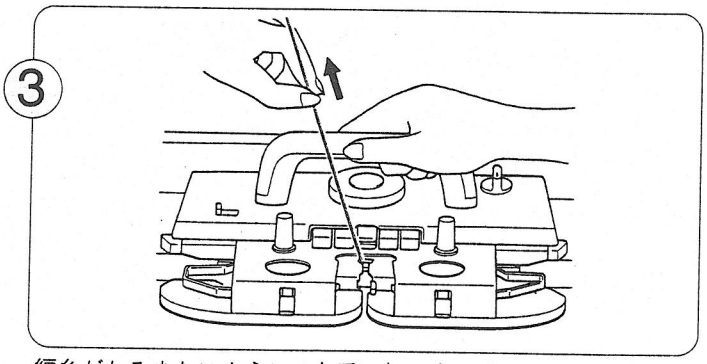
この方法は、Kキャリジのある側で行います。



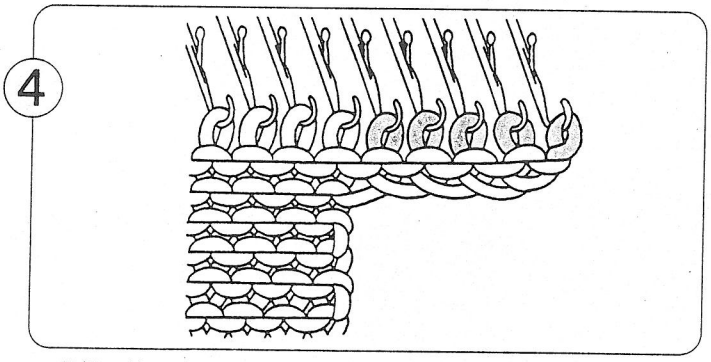
Kキャリジ側で増し目する編針を、E位置に出します。



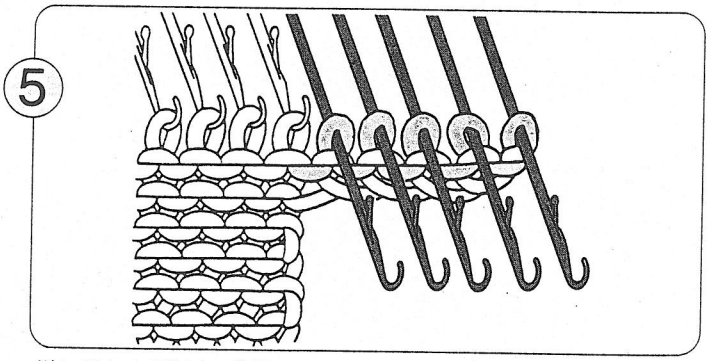
E位置に出した編針に、編糸をゆるく巻きつけます。



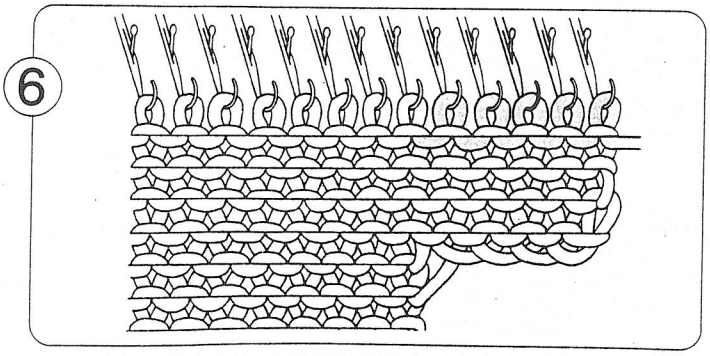
編糸がたるまないように、左手で軽く糸を引きながら1段編みます。



1段編み終わった状態です。



増し目した編針をE位置に出し、次の段を編みます。



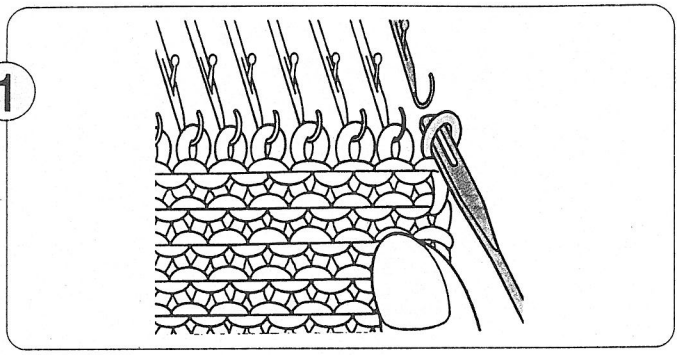
3～4段は、増し目した編針をE位置に出しながら編みます。

編目の減らし方（減らし目）

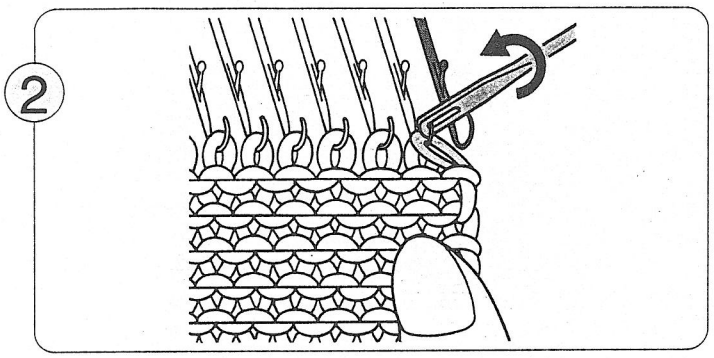
● 1目減らす場合

端で1目減らす減らし目

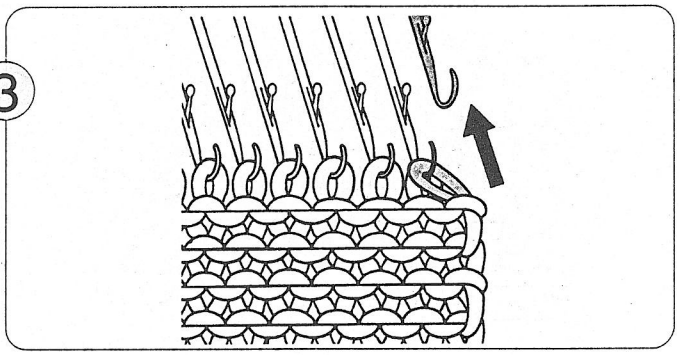
簡単に早く減らし目ができます。ミシン縫製で仕上げをする場合に適しています。



端目をウツシに取ります。



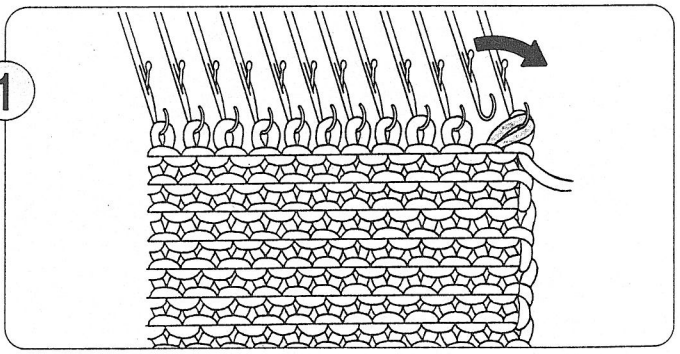
ウツシに取った編目を、1目内側の編針に移します。



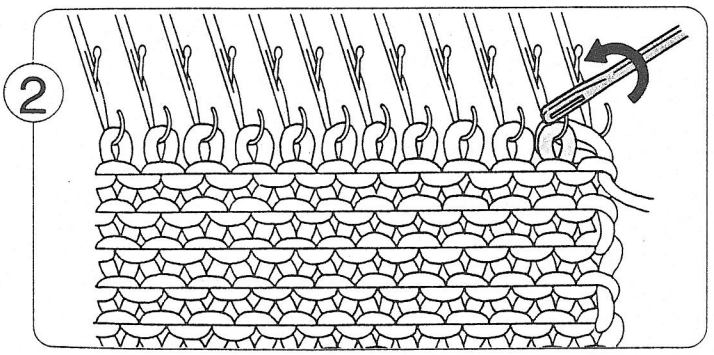
減らし目した編針を、A位置（編まない位置）にもどします。

1目立てる減らし目

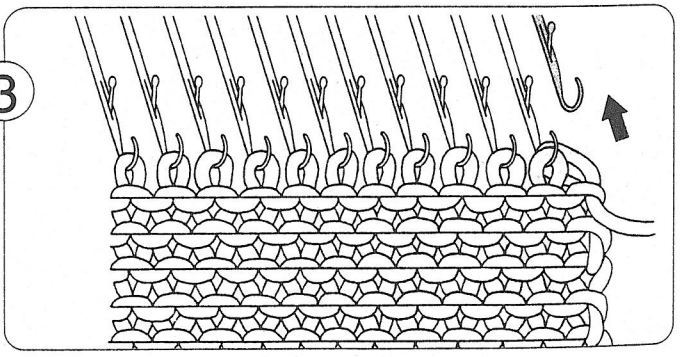
手ではぐ場合に適しています。



端から2本目の編針の編目を、端の編目に重ねます。



①で重なった2目を、2本目の編針に一度に移します。

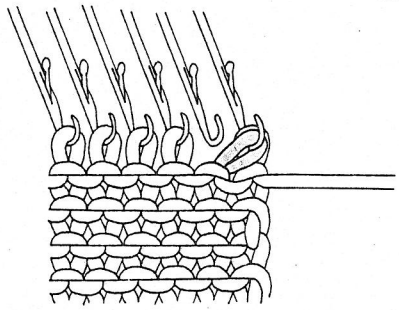


減らし目した編針を、A位置（編まない位置）にもどします。

● ２目以上減らす場合

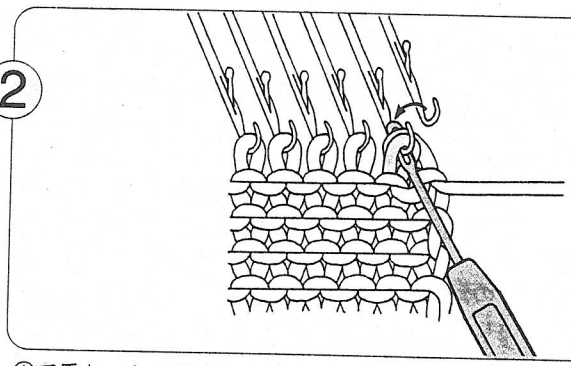
この方法は、Kキャリジのある側で行います。

①



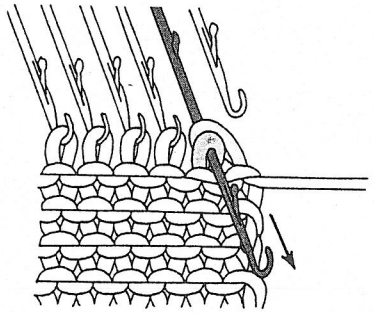
端から２本目の編針の編目を、端の編目に重ねます。

②



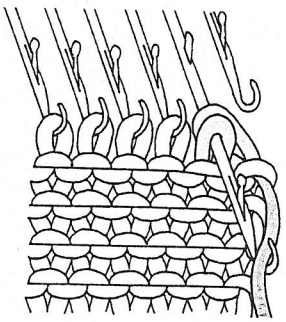
①で重なった２目を、２本目の編針に一度に移します。

③



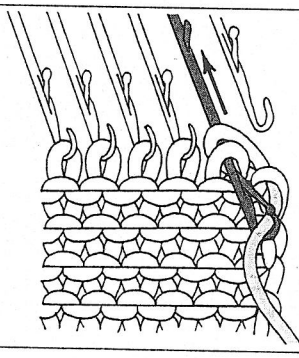
編目２目が重なっている編針を、E位置に出します。
編目はベラのうしろに移ります。

④



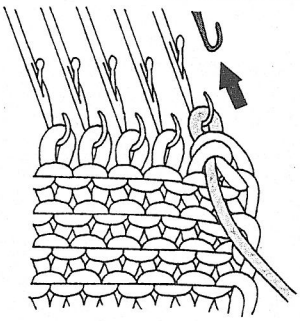
E位置に出した編針のフックに、Kキャリジに渡っている編糸を入れます。

⑤



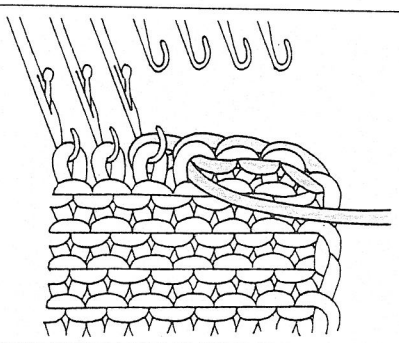
指で編針をB位置に押しもどします。

⑥



減らし目した端の編針を、A位置(編まない位置)にもどします。

⑦



①～⑥までの操作を繰り返しながら、必要な目数になるまで減らし目を行います。

ご注意

- 減らし目をするときに、編目がきつくならないように注意してください。
- 減らし目の終わりは、編糸で編まないで①と②だけ行います。編針には２目かかっています。

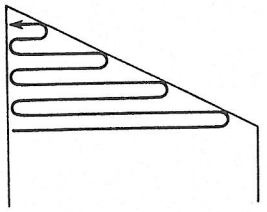
引返しによる編目の増し方・減らし方（引返し編）

編目を編針にかけたまま、増し目・減らし目をする方法です。

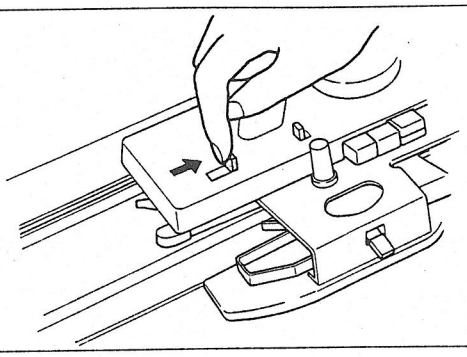
1. 平編・添え糸編・模様編（同時編込模様・タック模様・すべり目模様・スレッド模様 編込レース模様・添え糸タック模様）

編む部分を減らしてゆく場合

- 編針のE位置を利用して休める編針を少しずつ増していきます。
- 肩さがりなどの傾斜した編地を編むときに使います。

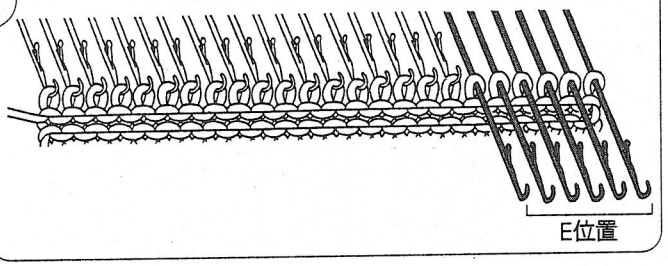


①



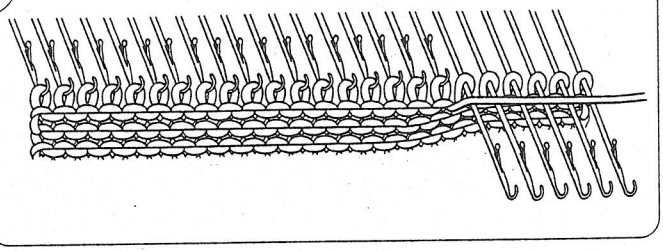
引返しレバーを〈引返し〉にセットします。カムボタン・選針切替ツマミは、編む模様の状態に合わせておきます。

②



Kキャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。

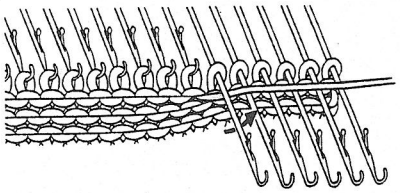
③



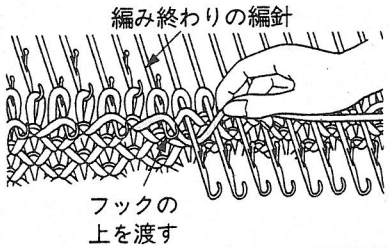
1段編みます。B位置（模様編の場合はB位置とD位置）の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。

④

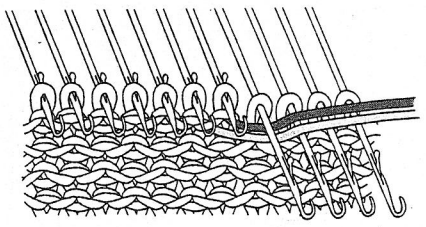
平編の場合



タック模様で編み終わりの編針が選針されている場合

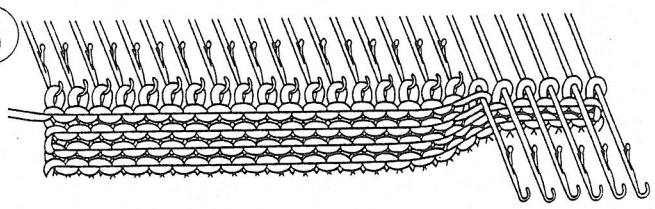


スレッド模様・同時編込模様・編込レース模様の場合



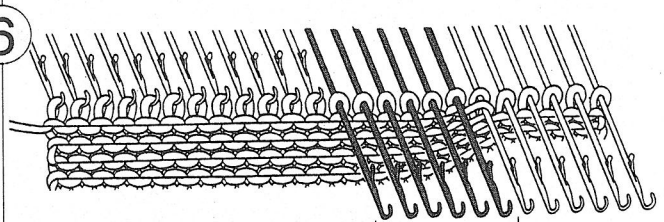
編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下から、編糸をくぐらせます。

⑤



編糸を軽く上に引っぱりながら1段編みます。編糸がかかります。

⑥

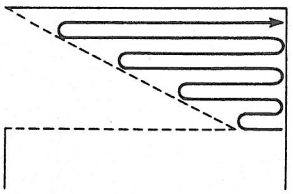


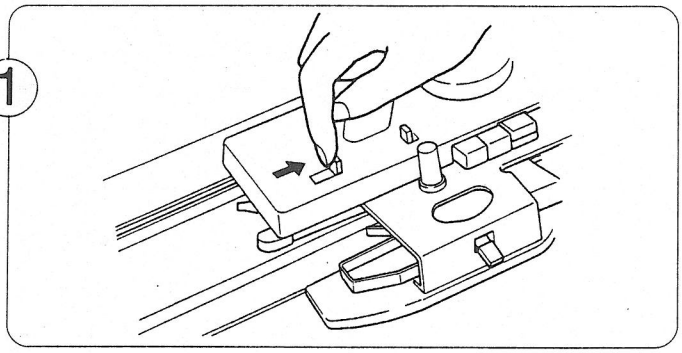
次に、休める編針をE位置に出し、③～⑤を繰り返し編み進みます。

♣引返し編が終わったら、引返しレバーを〈ひらあみ〉にもどします。

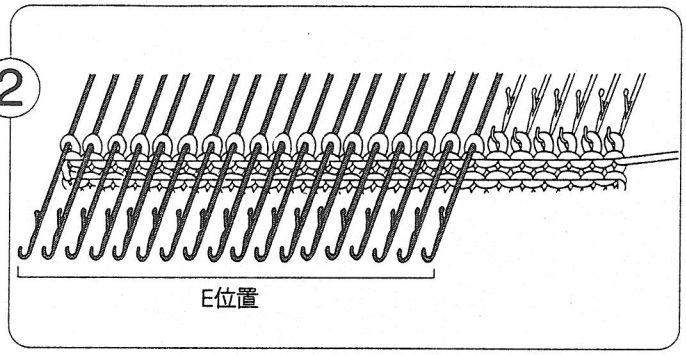
減し部分を編むとき

- 最初に編針をたくさん休めておき、編む部分を少しずつ増していきます。
- スカートのすそなどの傾斜した部分を編むときに使います。

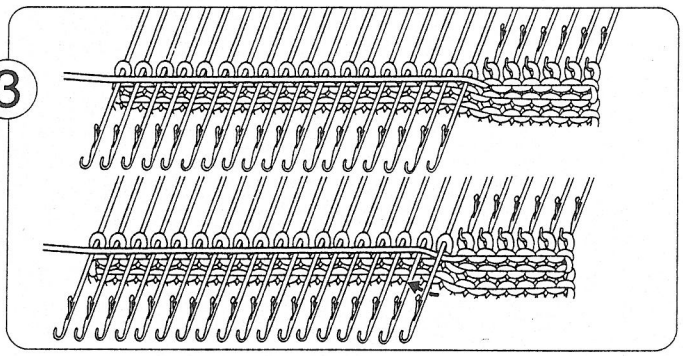




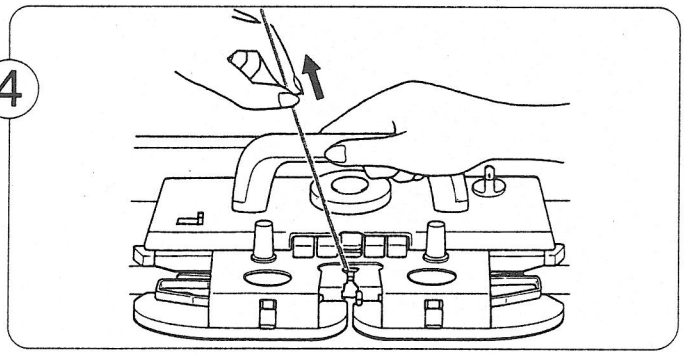
引返しレバーを〈引返し〉にセットします。カムボタン・選針切替ツマミは、編む模様の状態に合わせておきます。



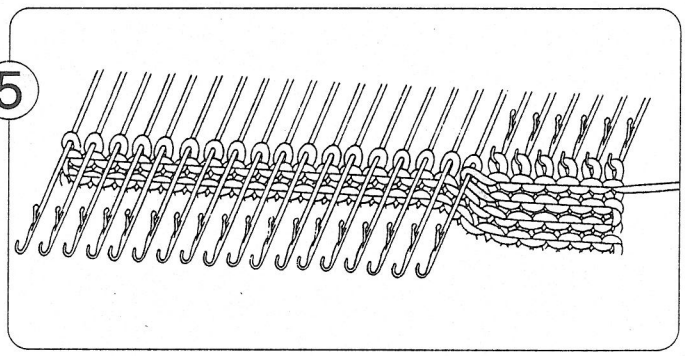
Kキャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。



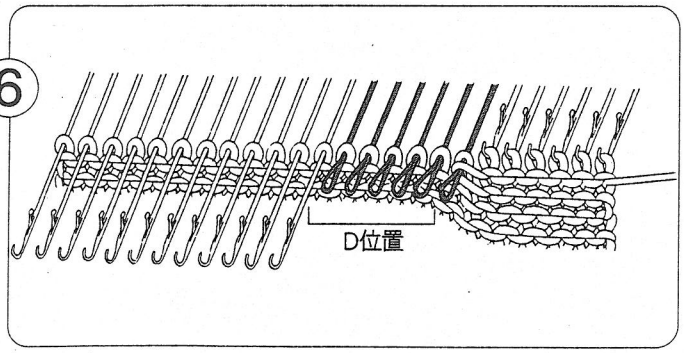
1段編みます。B位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。
編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下から、編糸をくぐらせます。（模様編のときは80ページ④参照）



編糸を軽く上に引っぱりながら1段編みます。

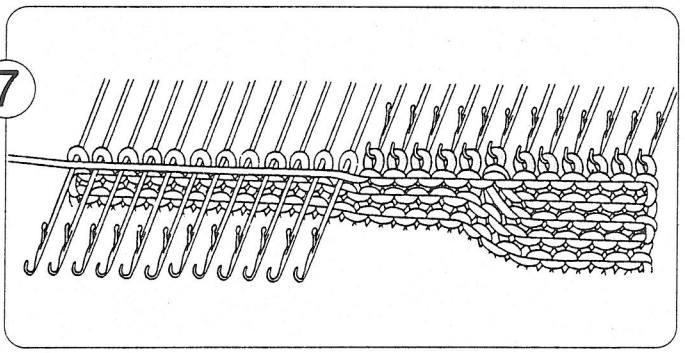


糸がかかります。



次に、編む部分の編針をD位置にもどします。

♣模様編の場合、編めている部分の選針状態をよく見て、D位置の編針のうちB位置にもどる編針の編目を、ウツシを使ってフックの中にもどし、B位置に下げます。



Kキャリジを移動すると、D位置にもどした編針まで編めますから、③～⑥を繰り返し編みます。

♣引返し編が終わったら、引返しレバーを〈ひらあみ〉にもどします。

引返しによる編目の増し方・減らし方（引返し編）

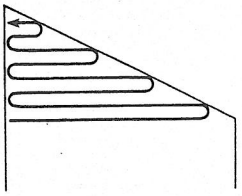
2. レース模様・タックレース模様

引返し編を行う側によって、操作の手順が異なります。

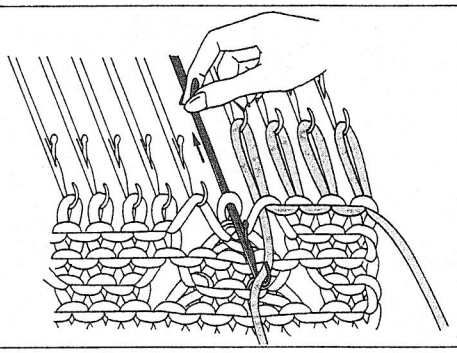
編む部分を減らしてゆく場合

●右側で引返し編を行う場合

Lキャリジを操作し、
マークまできたら
Kキャリジで左へ1段編んでから引返し編を行います。

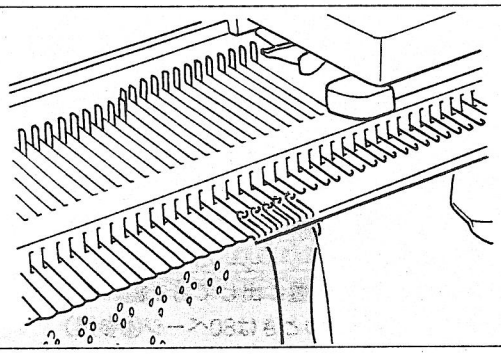


①



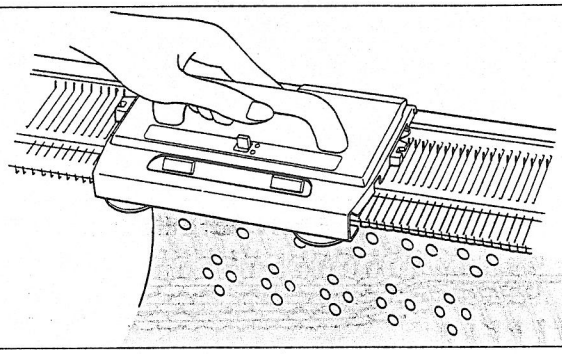
Kキャリジの反対側の休める部分の編目を、別糸に1目ずつ手で編み移しながら編針をA位置に下げます。

②



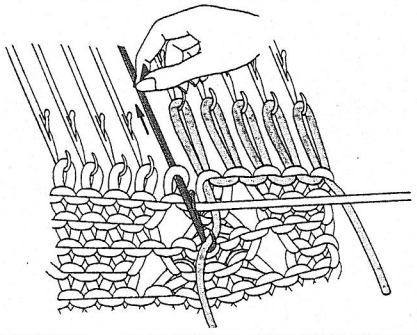
Kキャリジで1段編みます。

③



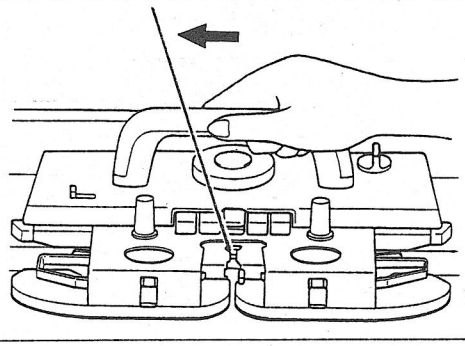
パンチカードに従って、次の マークまでLキャリジを動かします。

④



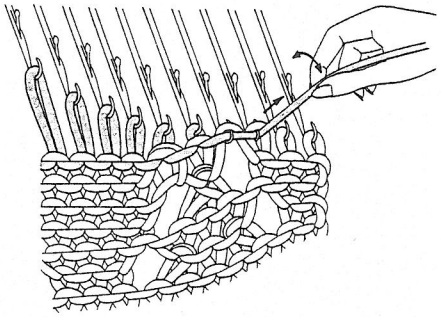
Kキャリジ側のB位置の端目1目を別糸に移し、A位置に下げます。

⑤



Kキャリジで1段編みます。

⑥

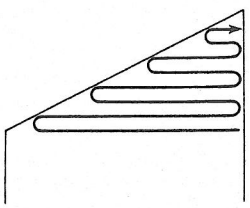


①～⑤を繰り返します。

♣引返し編が終わったら、A位置に休めておいた部分は別糸をほどき、B位置にもどします。

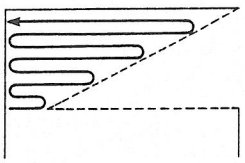
●左側で引返し編を行う場合

Lキャリジを操作し、
マークまできたら
①→②→④→⑤→③→⑥
の順で編みます。



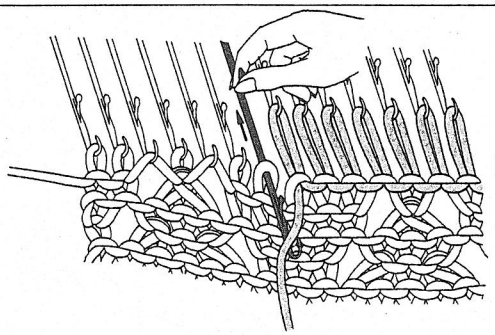
編む部分を増してゆく場合

●右側で引返し編を行う場合



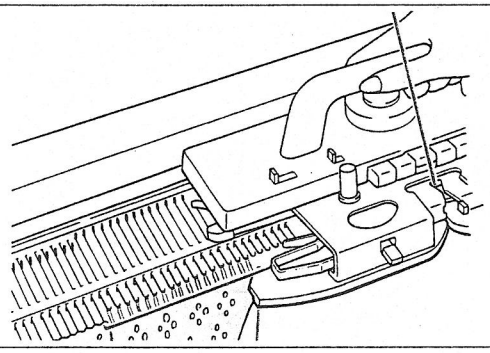
Lキャリジを操作し、
⇇ マークまできたら
Kキャリジで左へ1段編んでから引返し編を行います。

①



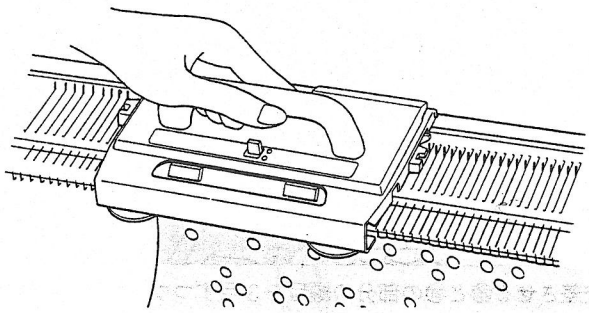
Kキャリジの反対側の休める部分の編目を、別糸に1目ずつ手で編み移しながら編針をA位置に下げます。

②



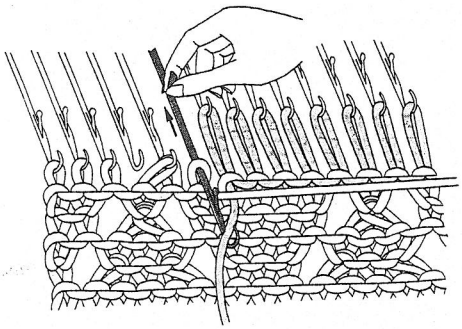
Kキャリジで1段編みます。

③



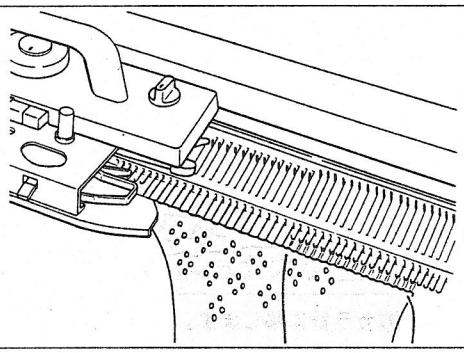
パンチカードに従って、次の ⇇マークまでLキャリジを動かします。

④



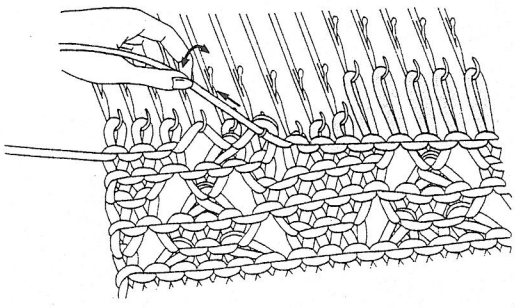
Kキャリジ側のB位置の端目1段を別糸に移し、A位置に下げます。

⑤



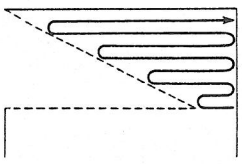
Kキャリジで1段編みます。

⑥



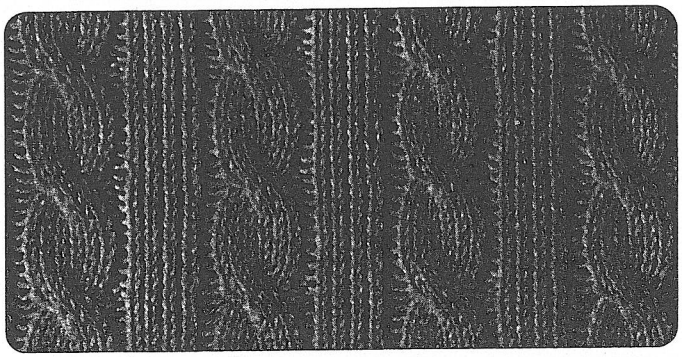
次に編む部分の編目は、別糸をほどきB位置にそろえて1段編みます。
③～⑥を繰り返します。

●左側で引返し編を行う場合



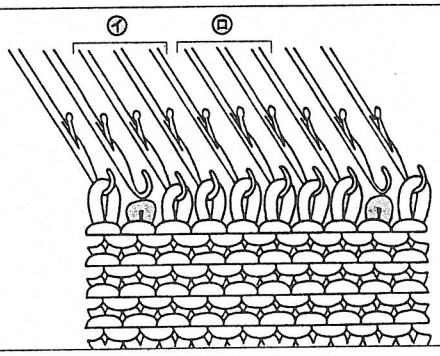
Lキャリジを操作し、
⇇ マークまできたら
①→②→④→⑤→③→⑥
の順で編みます。

なわ編（交差模様）



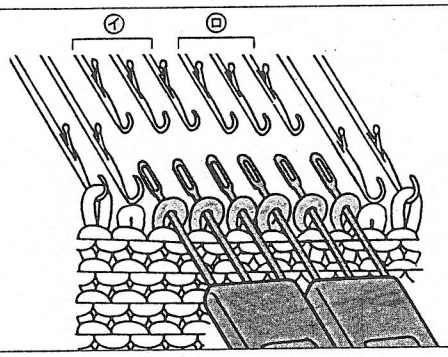
●編目を交差させて模様を作ります。
●ここではウツシの１×３・２×３の３本針側を利用します。

1



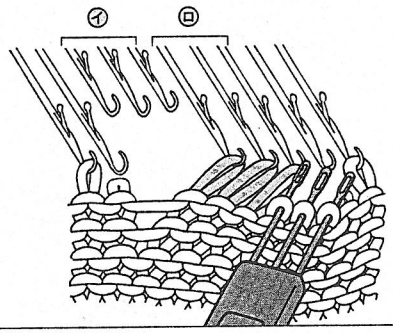
平編を10段編み、交差させる編目（㋑・㋺）の両どなりの編目を、１本ずつ編針からはずします。

2



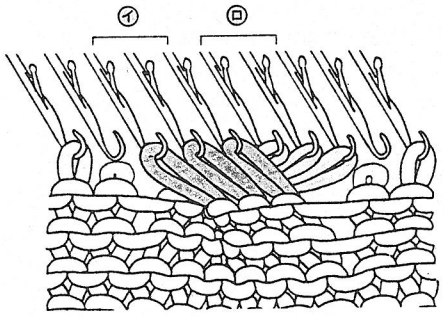
交差させる㋑と㋺の部分の編目を３目ずつウツシに取ります。

3



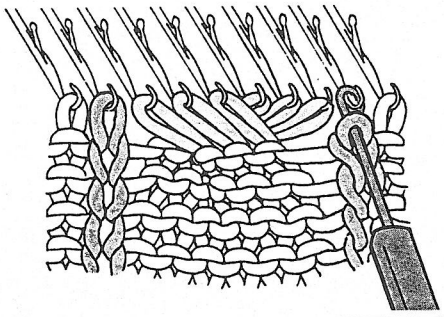
㋑の編目を㋺のカラ針に移します。

4



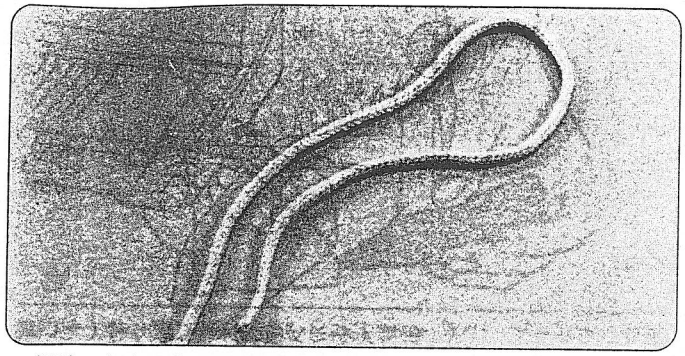
㋺の編目を㋑のカラ針に移します。

5

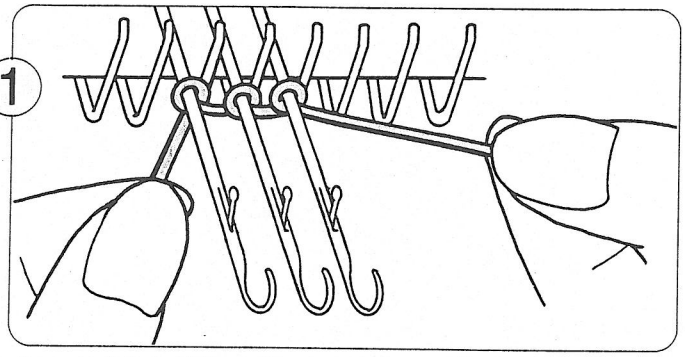


交差させた編目の両端の編目を、10段下からタッピを使って表目に直します。①～⑤を繰り返してなわ編を編みます。

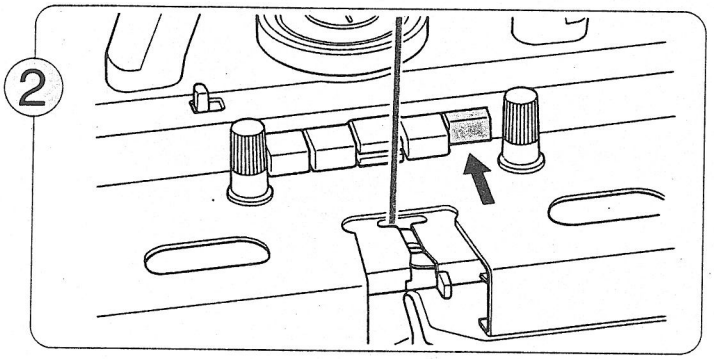
ひも編



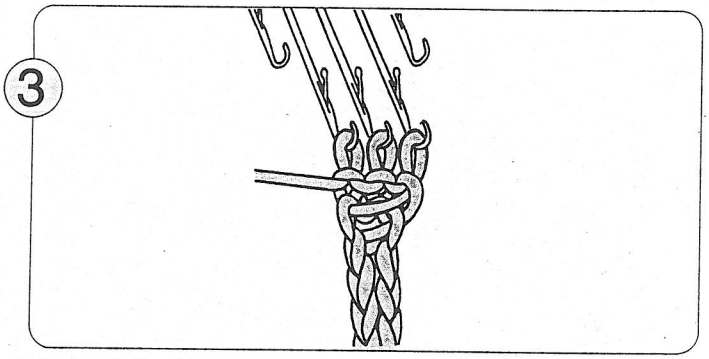
●編地の左右の編目がつながり、丸くひも状に編み上がります。編目をきれいにするため、編目ダイヤルを標準より１目盛り小さく合わせます。



Kキャリジをミゾ板の右端におきます。ミゾ板中央の編針３～４本をE位置に出し、編糸を巻き付けて作り目します。



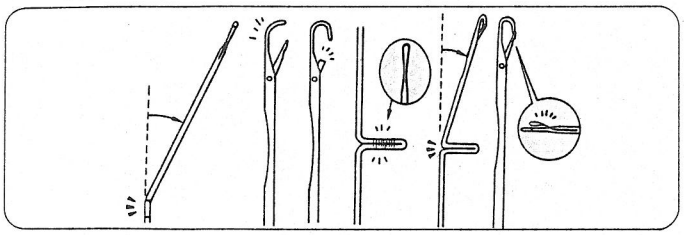
糸口Aに編糸を通し、カムボタン〈すべり右〉を押します。

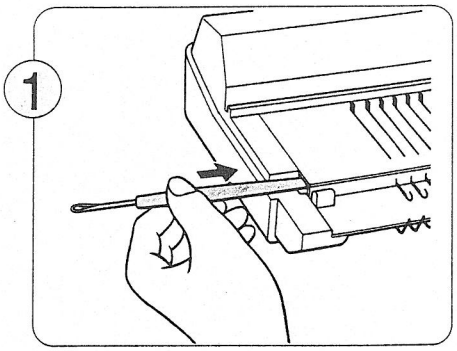


左手で糸端を持ち、かるく下に引きながらKキャリジを左右に操作します。

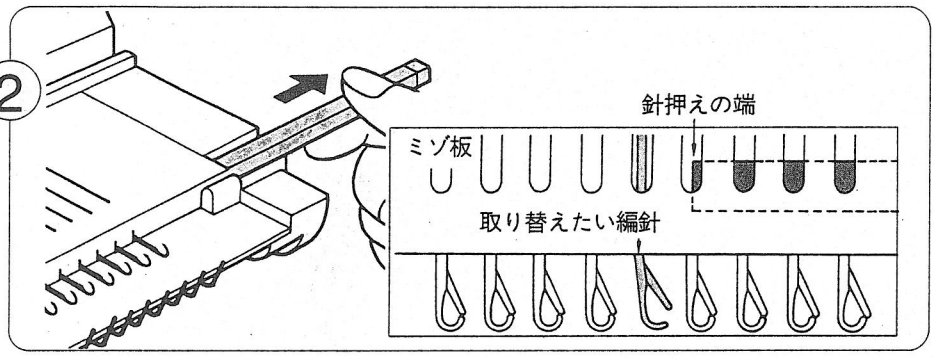
編針の取り替え方

●編針が曲がっていたり、折れたり、また傷が付いていたりすると、さまざまなトラブルの原因となります。こんなときは、次の順序で編針を替えてください。

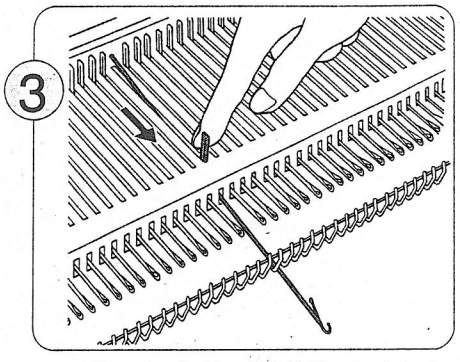




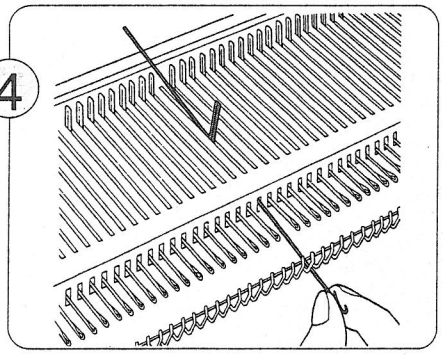
針押えをミゾ板の片端（取り替えたい編針に近い側）から、タッピの柄を使ってミゾ板の中へ押し込みます。



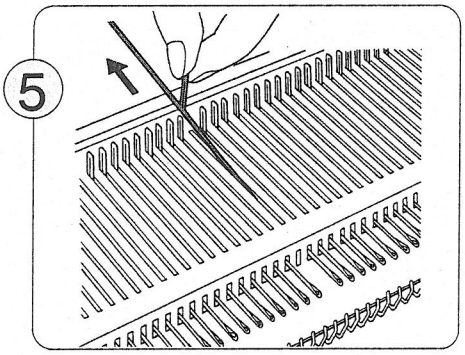
反対側に出た針押えを、押し込んだ側の針押えの端が取り替えたい編針を通りすぎるところまで引き抜きます。



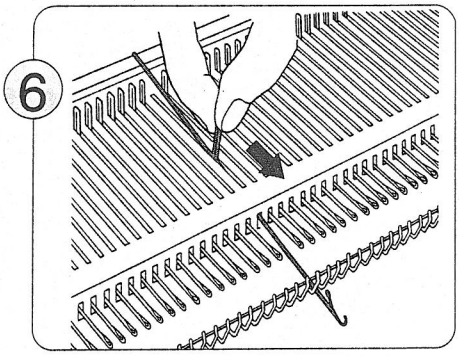
取り替えたい編針を、E 位置まで出します。



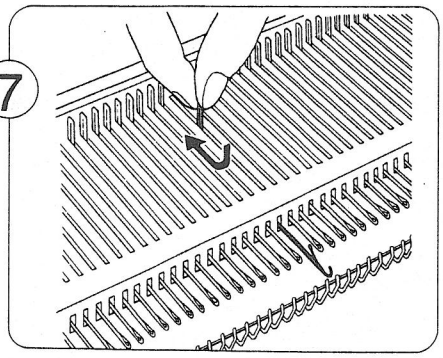
E 位置に出した編針のフック部分を押し下げます。シャンク部分がミゾ板上に出ます。



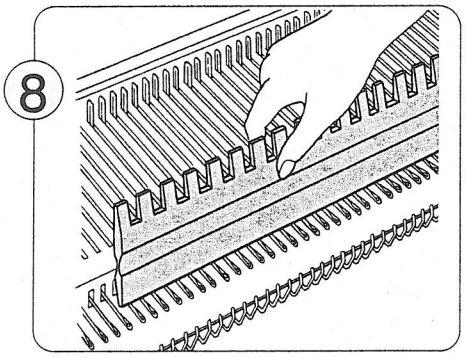
シャンク部分、またはバット部分を指でつまみ上げるようにして、向こう側に引き抜きます。



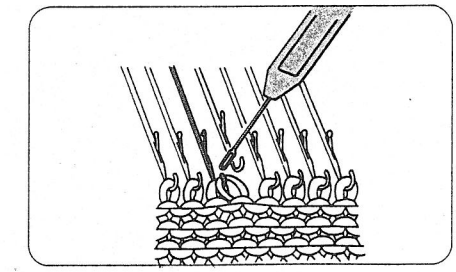
編針のベラを開いて、フック部分からミゾ板の中に入れ、そのまま E 位置まで差し込みます。



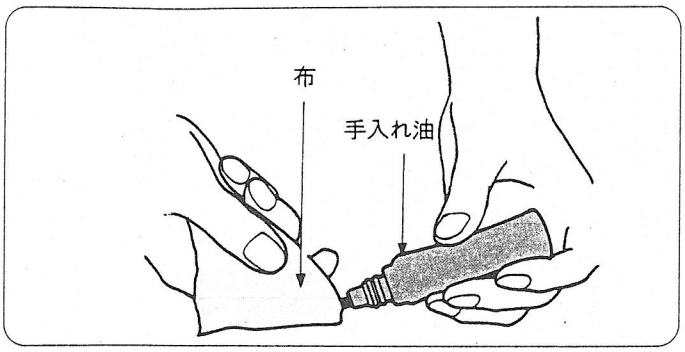
バット頭部を指で押し下げ、そのまま A 位置か、B 位置までもどします。



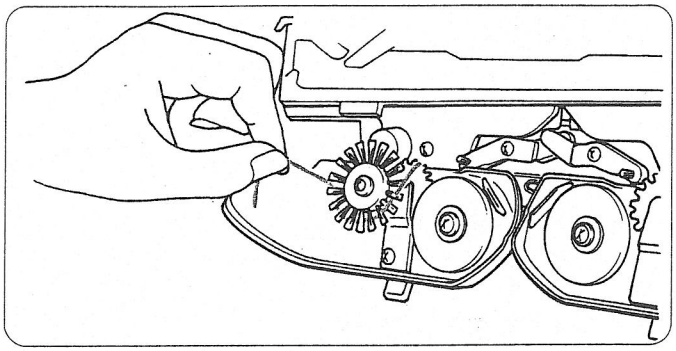
フック部分が浮き上がっている編針を模様板を使って押し付け、針押えを押し込みます。



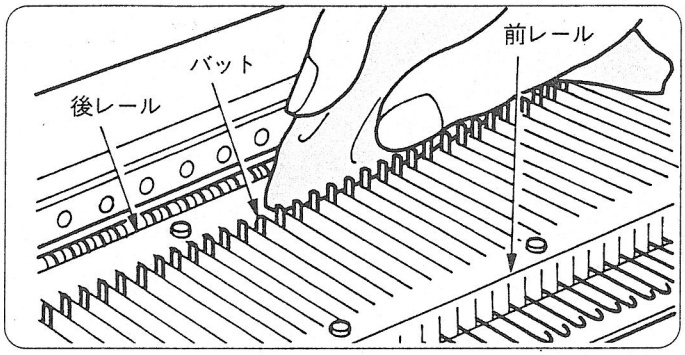
♣編地がかかっている場合には、そのまま編針を取り替えると編目がおちてしまいますので、ウツシを使ってとなりの編針に編目を移しておきます。編針の取り替えが終わったらもとにもどします。



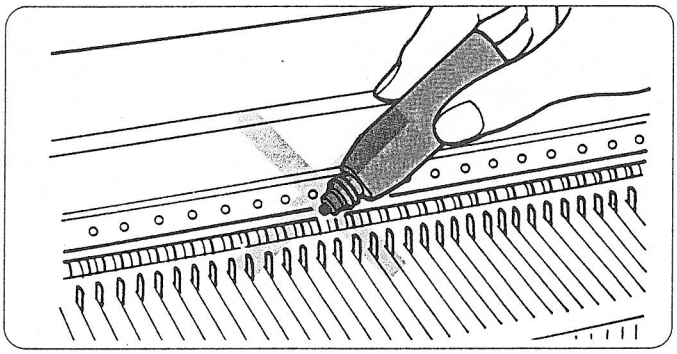
金属部分は付属の手入れ油をしみ込ませた布で、プラスチック部分は中性洗剤などをしみ込ませた布でふいてください。



Ｋキャリジ･Ｌキャリジを本体からはずし、手バケや布で、よくほこりやゴミを取り除いてください。

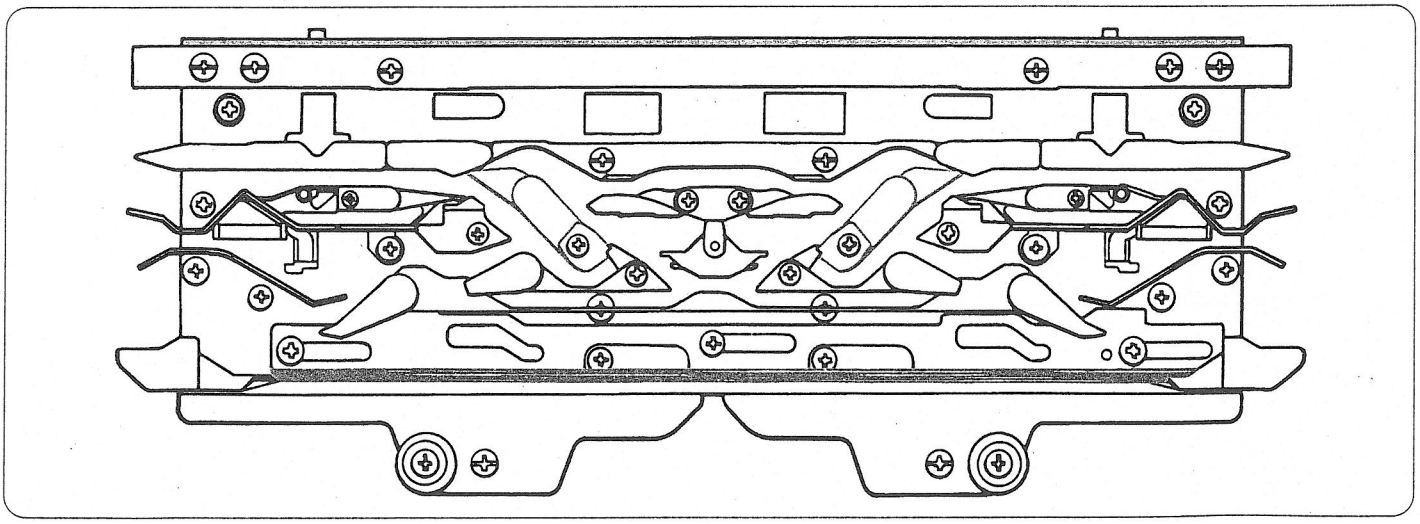


ミゾ板の部分は、編針をＢ位置にそろえ、後レール・前レール・編針のバットを、付属の手入れ油をしみ込ませた布でふきます。



編機に直接注油しないでください。故障の原因となります。

シンナー、アルコール、ベンジンなどを使用しないでください。



Ｋキャリジの裏側は上図の ── 部分に沿って、手入れ油をしみ込ませた布でふきます。
Ｋキャリジの操作が重いときもふいてください。

♣編機を長く保存しておいて再び使用するときは、油をしみ込ませた布でよくふき取り、古い毛糸で20～30段平編を編んでからご使用ください。古い油が取れ、作品をよごしません。

アフターサービスについて

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください。) それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
- 当社はこの編機の補修用性能部品を、生産打切り後5年保有しています。
  ・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の《お客様相談室》へお問い合わせください。

お客様相談室

北海道事業所	〒060 札幌市中央区南三条西3−2−2	TEL：(011)261−6631
東北事業所	〒980 仙台市青葉区一番町2−3−10	TEL：(022)227−8877
東京事業所	〒104 東京都中央区京橋3−3−8	TEL：(03)3281−4204
中部事業所	〒467 名古屋市瑞穂区塩入町11−5	TEL：(052)824−3193
関西事業所	〒542 大阪市中央区南船場3−12−22	TEL：(06) 252−1797
中四国事業所	〒730 広島市中区胡町4−28	TEL：(082)240−3762
九州事業所	〒812 福岡市博多区博多駅前2−3−12	TEL：(092)431−6566
本社 お客様相談室	〒467 名古屋市瑞穂区苗代町15−1	TEL：(052)824−3125

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の《お客様相談室》へご連絡ください。

♣上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ブラザー工業株式会社
名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467
TEL：(052)824-2511(代表)

取扱店

411-894
491894-001
9012⑤